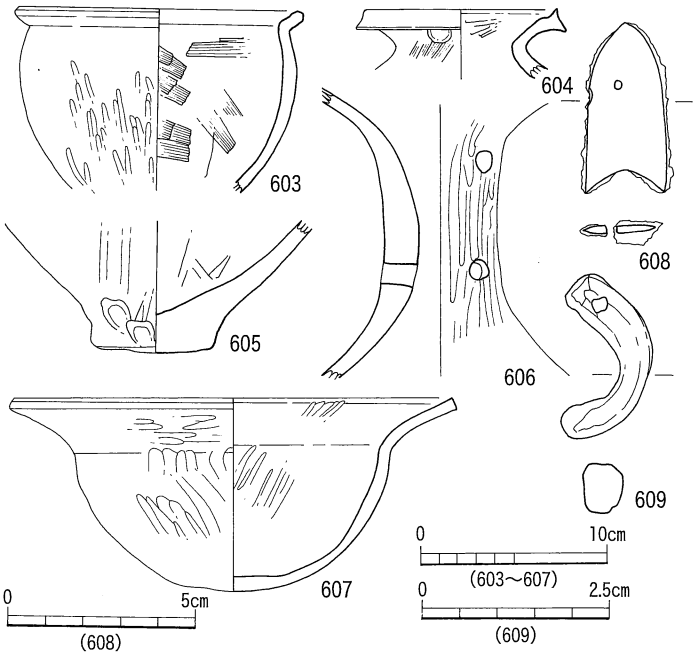
遺物：590～595は甕である。590は，頸部で明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態Ａ類をもち，口唇部形態は舌状の口唇部形態Ｃ類をもつ。最大径を胴部上位でもち，底部にかけて急激に窄まる形態を呈し，鉢との中間的な土器といえる。591・592は緩やかに「く」字状に屈曲する口縁部形態Ｂ類をもつ。593は短い口縁部に明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態Ａ類をもつ。また，頸部下に斜位の刻目文を施す貼付突帯を有する。595は胴部片である。やや大形の台形状の貼付突帯文を有する。596・599は壺である。596は頸部に連続刺突文を施す三角状貼付突帯を有する。597～598・600は鉢である。600は頸部で一度屈曲する胴部形態Ｂ類の口縁部をもつ鉢ＩＢ類で，内外面にミガキを施す。597は頸部で一度屈曲した後に緩やかに外反する口縁部をもつ鉢ＩＢ類である。601は緑色頁岩製の磨製石鏃である。本遺跡出土磨製石鏃の約半数が切っ先部分の欠損が確認されているが，他の例同様この603も切っ先部分が欠損している。602は凝灰岩製の凹石である。表裏面２面の中央部に著しい敲打痕の密集が確認される。

56号竪穴住居跡（ＳＡ56・第99図・第101図－603～609）

遺構：Ｂ－２群東側，Ｊ23グリッドの東側，ＳＡ54に切られる形で検出された。大部分がＳＡ54に攪乱されているため不明な点は多いが，北辺が残存長３ｍを測り，３ｍ以上の規模だと推測できる。また，北辺は弧状に曲がり，平面形態は方形や長方形ではない，不整楕円形や不整方形などの不整形が考えられる。遺物は北壁際に604を除く５点が集中して出土した。

遺物：603は鉢である。頸部で明瞭に「く」字状に屈曲する胴部形態Ｂ類をもつ。604・605は壺である。604は口唇部を拡張して二重口縁壺のような形状を呈する。606は器台である。607と重なって出土した。２段の円形透かしが施してある。両端が欠損しており全形が不明であるが，上下対象のようである。607は鉢である。緩やかにＳ字状を呈する胴部形で，平底の底部をもつ。608は鉄鏃である。平面形態は三角形鏃凹基式である。鏃身部に１孔がある。これは通常中心線を対照に２孔穿たれるものであるが，608は１孔の反対側に穿孔は軟Ｘ線写真撮影等も行ったが確認できなかった。平面形態においての類似例は，熊本県嘉島町の二子塚遺跡（弥生時代後期中～終末期）・兵庫県養久山遺跡32号墓（弥生時代中期末）出土の鉄鏃等が挙げられる。609は土製勾玉である。一端に穿孔が施してあり，断面方形に近い形を呈する。各面との境は面取りを行っており，全体的に研磨を施している。



第101図　56号竪穴住居跡（ＳＡ56）出土遺物図（１／４・１／２・１／１）

89号竪穴住居跡（ＳＡ89・第99図）

遺構：Ｂ－２群西部，Ｉ23グリッドの北東部，ＳＣ18を切り，ＳＣ19に切られる形で検出された。遺構の南西側大部分は後世の造成によって削平されているが，東辺から考えて，約３ｍ以上の規模が推測される。平面形態は不明であるが，残存形態から考えて，方形もしくは長方形の各辺が外側に膨らんだ形態であると推測される。遺物は出土しなかった。

２号土坑（ＳＣ２・第99図）

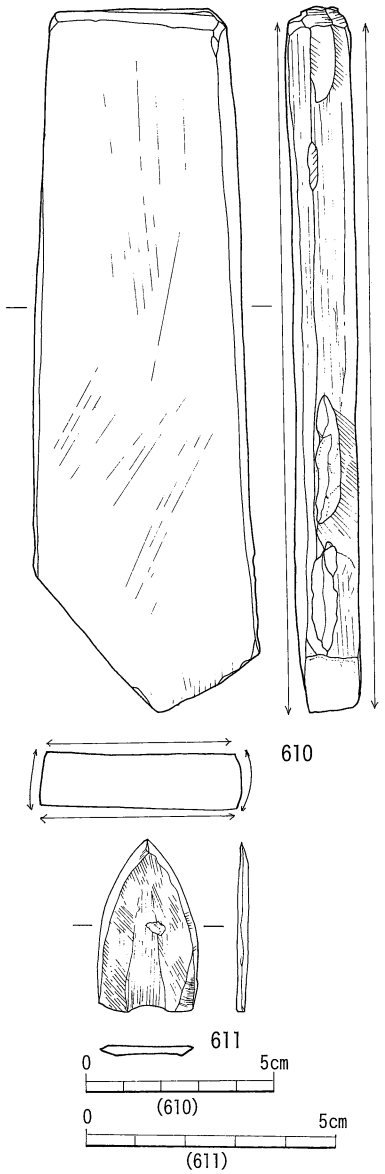
遺構：Ｂ－２群西側，23ラインとＪラインの交点付近，ＳＣ17とＳＣ18を切る形で検出された。長軸約２ｍ・短軸約1.3ｍの隅丸方形を呈する。ＳＣ17・18や周囲の竪穴住居跡と若干主軸を違えており別系譜の遺構であろうが，ＳＣ19と似た主軸をもち，また，ＳＣ１（第104図）などとは主軸・規模に類似点が多く，同じ系譜だと考えられる。遺物は出土しなかった。

９号土坑（ＳＣ９・第99図・第102図－610～611）

遺構：Ｂ－２群西側，Ｊ23グリッド西部，ＳＡ51・52を切る形で検出された。北西隅部のみの検出で，遺構の規模・形状は不明である。しかし，北西隅が直角になっており，方形もしくは長方形の形状と考えられる。遺物は北壁周辺から比較的密集した形で出土し，竪穴住居跡の可能性がある。

遺物：610は砥石である。やや大きめの板状砥石のＩＢ類である。砥面は，面積の広い表裏面２面のみならず，両側面にもあり，４面全てで確認される。砥面の研磨痕は，光沢のｃ種研磨痕が主であるが，所々に縦と斜方向の線状のａ種研磨痕が確認される。611は磨製石鏃である。欠損部分はなく完形である。両側縁を研磨し，鋭い刃部を作出している。

このほか，図化していないが，甕３個体分・壺３個体分・鉢１個体分・器台１個体分の破片が出土した。



第102図　９号土坑（ＳＣ９）出土遺物図（１／２・２／３）

17号土坑（ＳＣ17・第99図）

遺構：Ｂ－２群西側，Ｊ23グリッド北西部，ＳＣ18を切り，ＳＣ２に切られる形で検出された。長軸1.55ｍ・短軸1.35ｍの方形に近い長方形を呈する。深さは検出面から約20㎝である。ＳＣ18と規模は違うが，主軸がほぼ同じであり，近い時期に構築されたと考えられる。遺物は図化していないが甕の口縁部片１点・壺の口縁部片１点・高坏の口縁部片１点が出土した。

18号土坑（ＳＣ18・第99図）

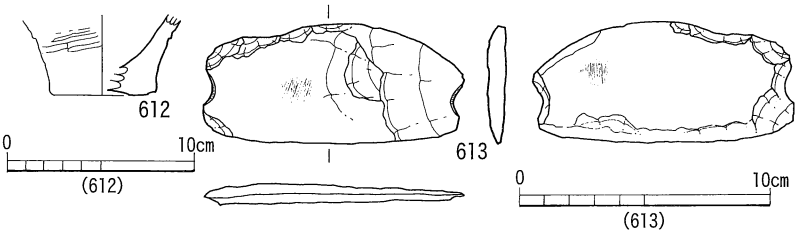
遺構：Ｂ－２群西側，Ｊ23グリッド北西部，ＳＡ89と切り合い，ＳＣ17とＳＣ２に切られる形で検出された。220×240cmの隅丸方形を呈する。規模は異なるがＳＣ17と主軸をほぼ同じくし，関連が考えられる。遺物は壺の底部が１点出土した。

19号土坑（ＳＣ19・第99図）

遺構：Ｂ－２群の西側，Ｉ23グリッド北東部，ＳＡ87を切る形で検出された。形状・規模ともに不明であるが，一部検出された北辺が直線的でＳＣ２と平行することから，一辺120cm以上の方形のような形状を呈すると考えられる。遺物は出土しなかった。

57号竪穴住居跡（ＳＡ57・第104図・第103図－612～613）

遺構：Ｂ－２群最西部，Ｉ22グリッドの東部，ＳＡ58に切られる形で検出された。平面形態は，西側が半分程後世の造成によって削平されているが，北辺と東辺がほぼ直交していることから，方形もしくは長方形に近いものであったと考えられる。遺物は遺構全体から出土したが，細片が多かった。



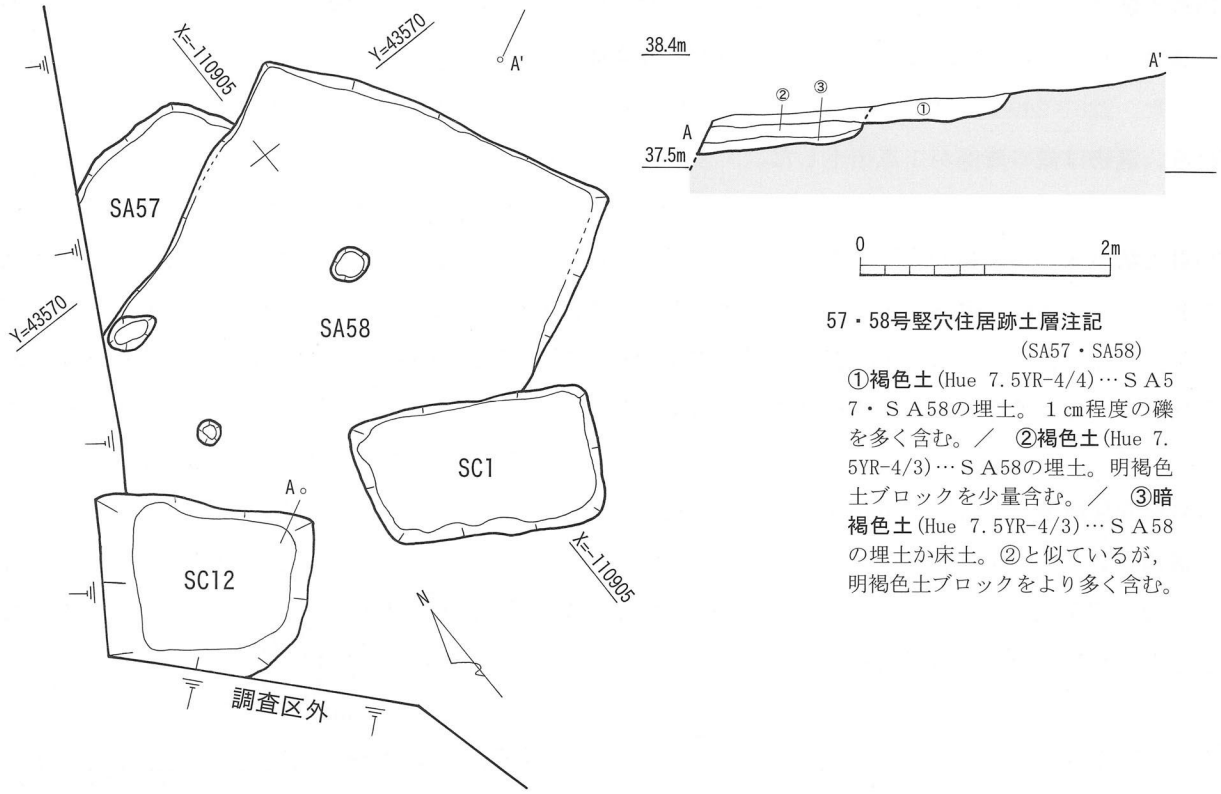
第103図　57号竪穴住居跡（ＳＡ57）出土遺物図　（１／４・１／３）

遺物：612は甕の口縁部で，端部の張り出さない平底の底部形態Ｅ類である。613は頁岩製の石庖丁である。抉りをもち，背部は弧状，刃部は直線状のⅡＡ類「抉り・弧背直刃型」である。

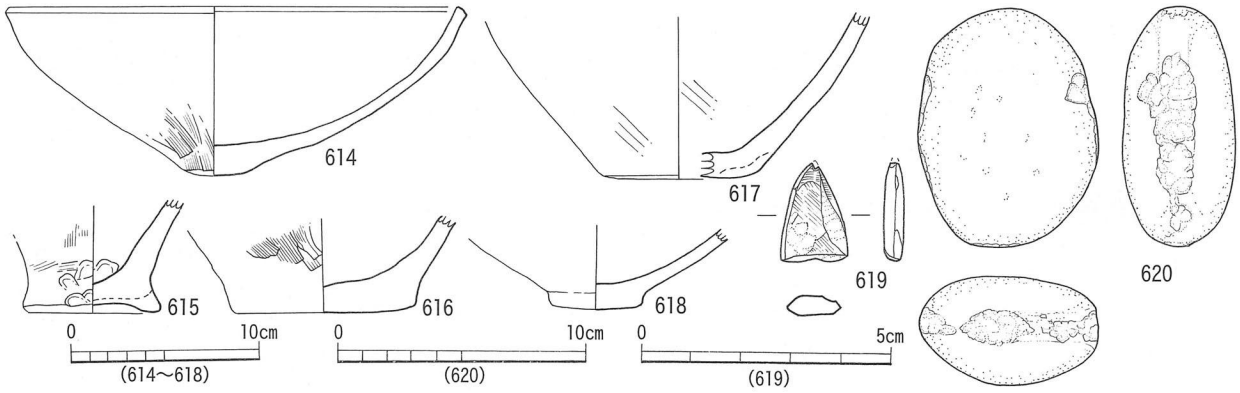
58号竪穴住居跡（ＳＡ58・第104図・第105図－614～620）

遺構：Ｂ－２群最西部，Ｊ22グリッドの西部，ＳＡ57を切る形で検出された。平面形態は，西側が傾斜によって消失しているが，東辺と北辺・南片がほぼ直交していることから一辺約３ｍ前後の方形もしくは長方形を呈すると考えられる。傾斜上面にあるため，遺構全体の上面が削平され，深さ10cm程しか残っていない。しかし，遺構面がよく残っている北側では比較的多くの遺物が出土した。

遺物：614は鉢である。レンズ状の底部に内湾しながら立ち上がる胴部をもつ鉢ＩＣ類である。615は甕の底部である。指ナデによって端部が張り出した上底の底部形態Ｂ類である。616・617は壺の底部である。616はわずかに端部の張り出した，617は張り出しのない平底の底部形態Ｂ類である。618は円盤状平底をもつ壺か鉢の底部である。619は頁岩製の磨製石鏃である。本遺跡出土磨製石鏃のほとんどが全長３～４cm主体であることに対して1.9cmと小さい。さらに平面形態も他と若干異なり，平基の三角形で打製石鏃のようなプロポーションである。620は砂岩製の敲石である。両側縁に敲打痕が認められる。



第104図　57・58号竪穴住居跡（ＳＡ57・58）・１・12号土坑（ＳＣ１・12）図（１／60）



第105図　58号竪穴住居跡（ＳＡ58）出土遺物図（１／４・２／３・１／３）

１号土坑（ＳＣ１・第104図）

遺構：Ｂ－２群西側，Ｉ22グリッドの南東部，ＳＡ58を切る形で検出された。長軸約1.9m・短軸約1.1m・深さ約0.5mの隅丸方形を呈する。ＳＣ２とは主軸・規模に類似点が多く，同じ系譜と考えられる。遺物は出土しなかった。

12号土坑（ＳＣ12・第104図）

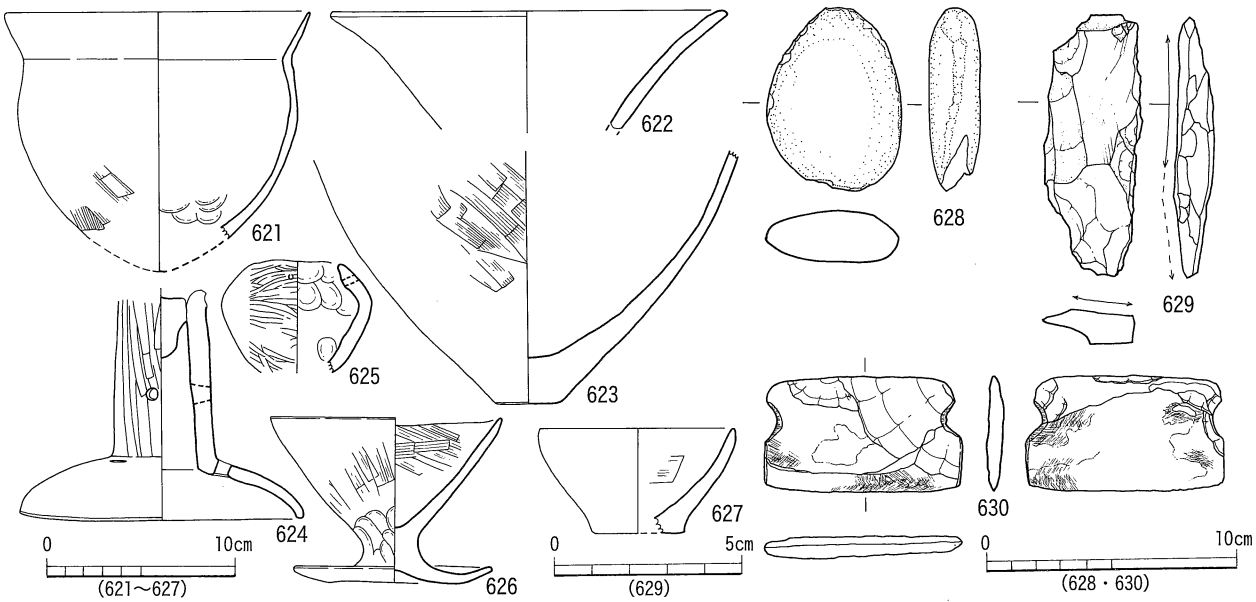
遺構：Ｂ－２群西端，Ｉ22グリッドの南東部で検出された。一部北東側が調査区域外にあたるため全形が把握できなかったが，およそ長軸1.7m・短軸1.3m・深さ0.8mの隅丸方形を呈する。遺物は出土しなかった。

③Ｂ－３群…Ｂ群の中でも最西部，Ｘ軸は21～22・Ｙ軸はＪ～Ｋライン内に位置する。ＳＡ22・23・24の竪穴住居跡３軒とＳＣ８・20の土坑２基から成る。

22号竪穴住居跡（ＳＡ22・第108図・第106図－621～630）

遺構：Ｂ－３群南部，Ｊ21グリッドの東部，中央部をＳＣ８に切られる形で検出された。傾斜面によって南東側が消失しており遺構全体の形状が不明である。一部残存している直交する北辺と東辺から考えると，一辺５ｍ以上の方形をなし，本遺跡中では大型の部類に入る。

遺物：621は甕である。舌状に薄く尖る口唇部形態Ｃ類，頸部が明瞭に屈曲する口縁部形態Ａ類，球形胴で上部に最大径をもつ胴部形態Ａ類，丸底の底部をもつ。622～623は壺である。622は大きく開く口縁部形態Ｂ類，623は平底の底部をもつ。624は高坏の脚部であり，内湾しながら立ち上がる裾部とエンタシス状に近い直立気味の脚柱部をもつ。625は手捏土器の壺である。626は鉢であるが，鉢ＩＣ類に皿状の底部が付属する特殊な形態である。628は砂岩製の敲石であり，周縁に著しい敲打痕が認められる。629は頁岩製の砥石であり，Ⅱ類の不定剥片砥石の範疇に入る。本来はＩＢ類の板状砥石であったと考えられる。630は頁岩製石庖丁である。抉りをもつ直背直刃のⅡＣ類である。

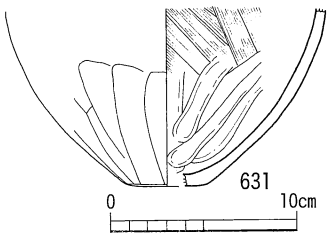


第106図　22号竪穴住居跡（ＳＡ22）出土遺物図（１／４・１／２・１／３）

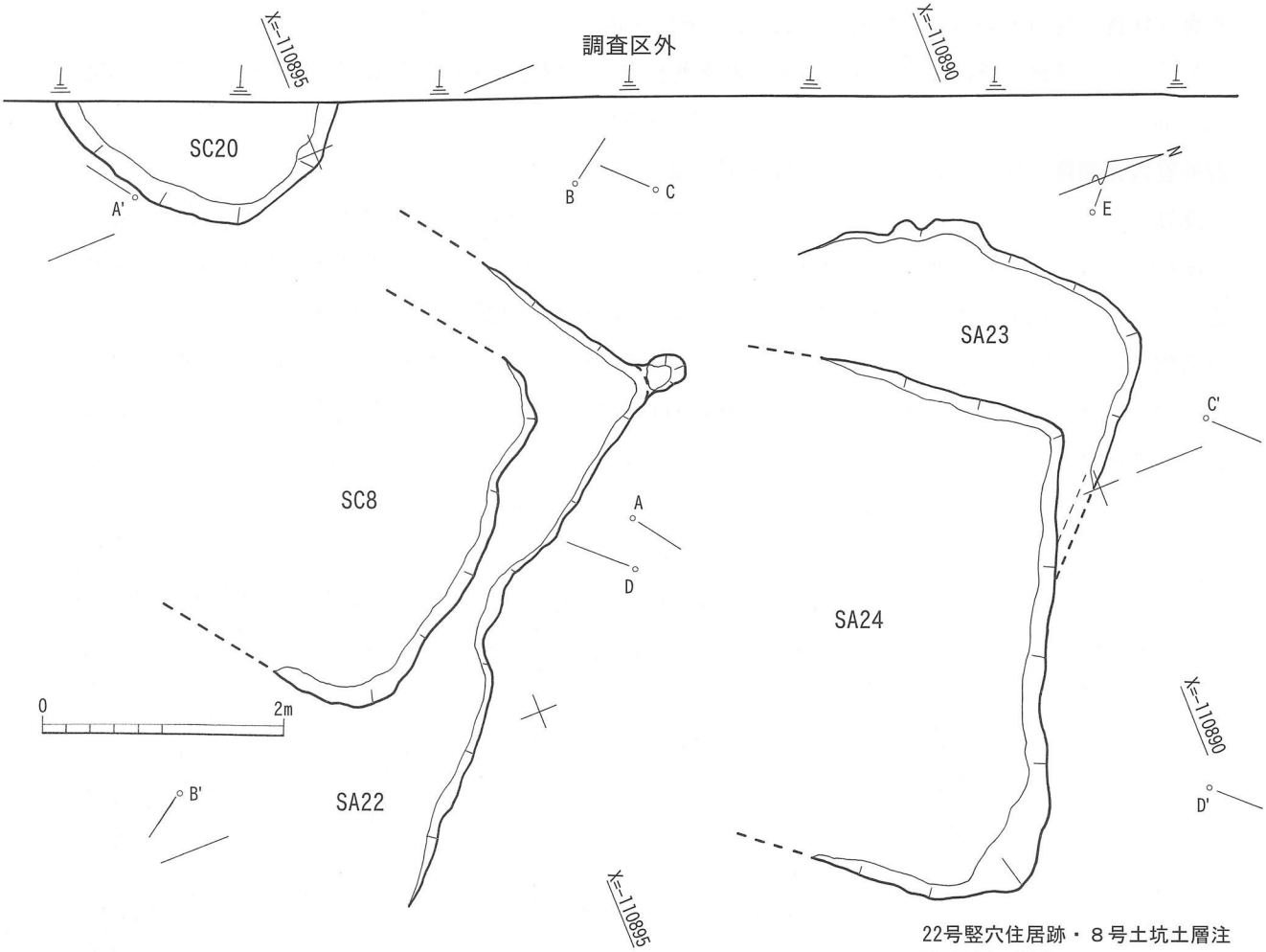
23号竪穴住居跡（ＳＡ23・第108図・第107図－631）

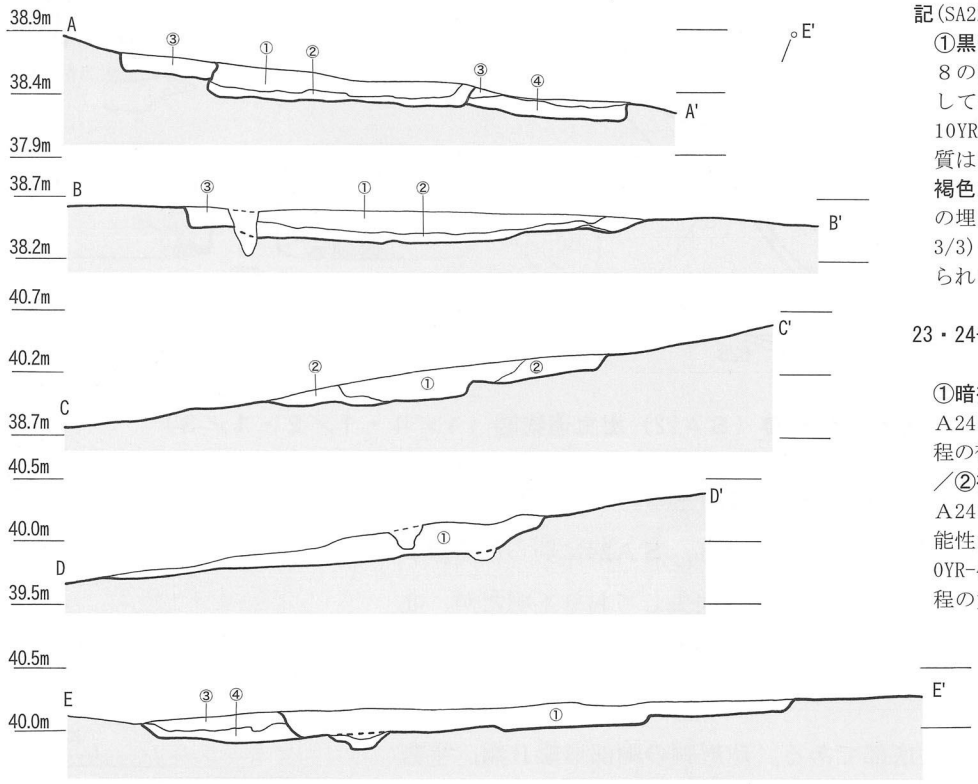
遺構：Ｂ－３群北部，Ｊ21グリッドの北部，ＳＡ24に切られる形で検出された。平面形態は，遺構の大部分が消失しており不明だが，北辺と東辺の残存状況から，一辺３ｍ以上の方形もしくは長方形と考えられる。

遺物：631は壺の胴部～底部である。球形胴の胴部形態Ｂ類，平底の底部形態Ｂ類をもち，外面は工具ナデ，内面は指ナデとハケ目で調整を行っている。



第107図　23号竪穴住居跡（ＳＡ23）出土遺物図（1/4）





22号竪穴住居跡・８号土坑土層注記(SA22・SC8)

①黒色土(Hue 10YR-2/1)…ＳＣ８の埋土。しまりなくボロボロしている。／**②暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＣ８の埋土。土質はかたくしまっている。／**③褐色土**(Hue 10YR-4/4)…ＳＡ22の埋土。**④暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…基本層序の第Ⅳ層と考えられる。

23・24号竪穴住居跡土層注記(SA23・SA24)

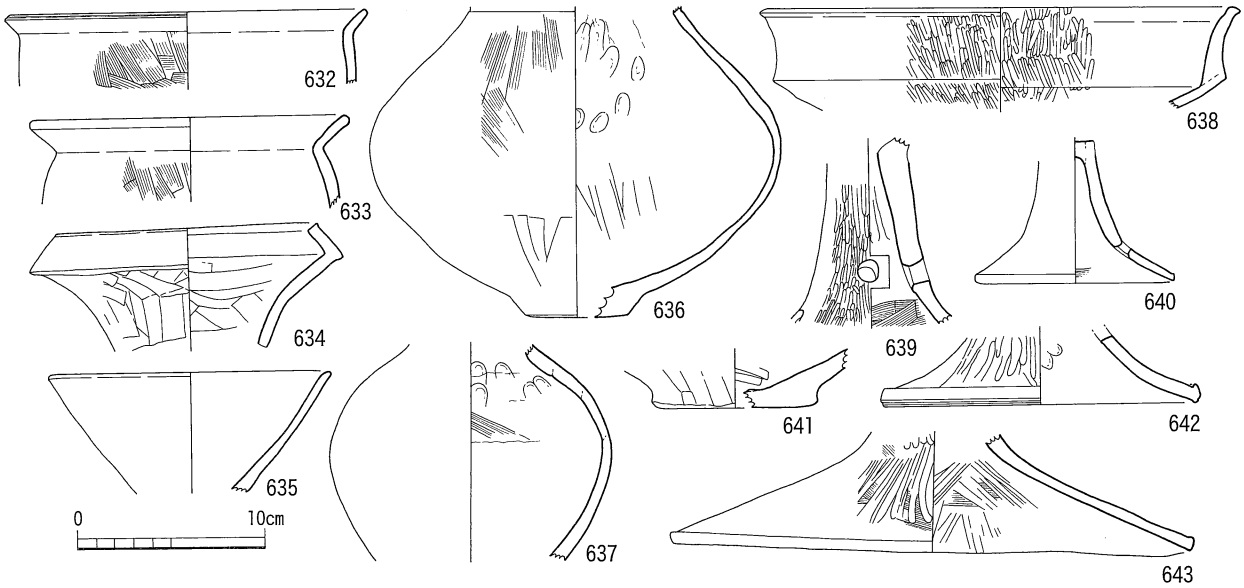
①暗褐色土(Hue 10YR-3/4)…ＳＡ24の埋土。一部床土か。１cm程の褐色土粒のブロックを含む。／**②褐色土**(Hue 10YR-4/4)…ＳＡ24の埋土。床土が流出した可能性がある。／**③褐色土**(Hue 10YR-4/4)…ＳＡ23の埋土。１mm程の黄褐色土粒を含む。／**④暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…ＳＡ23の埋土か床土。１cm程の褐色土粒のブロックを含む。

第108図　22・23・24号竪穴住居跡（ＳＡ22・23・24）８・20号土坑（ＳＣ８・20）図（１／60）

24号竪穴住居跡（ＳＡ24・第108図・第109図－632～643）

遺構：Ｂ－３群北部，Ｊ21グリッドとK21グリッドの北側境界付近，ＳＡ23を切る形で検出された。傾斜面によって南側が消失しているが，北側は比較的残存状況がよい。平面形態は一辺約4.1mの方形もしくは長方形を呈する。

遺物：632～633は甕である。632は短い口縁部が緩やかに「く」字状に屈曲する口縁部形態Ｂ類，633は明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態Ａ類をもつ。634は二次口縁部に櫛描波状文を施す口縁部形態Ａ類である。636は寸胴形の偏球胴をもち，平底の底部形態Ｂ類をもつ。638～640は高坏である。638は坏部で，一度屈曲した後に直立気味に立ち上がる坏部形態Ａ類をもつ。639は細長い脚柱部とラッパ状に開く裾部をもつ脚部形態Ａ類で，640は短い脚柱部とラッパ状に開く脚部形態Ｂ類をもつ。642・643は器台である。



第109図　24号竪穴住居跡（ＳＡ24）出土遺物図（１／４）

８号土坑（ＳＣ８・第108図）

遺構：Ｂ－３群南側，Ｊ21グリッド中央部，ＳＡ22を切る形で検出された。傾斜面によって南東側が消失しており遺構全体の形状が不明であるが，およそ長軸約3.2m・短軸約２m以上の方形か長方形を呈すると考えられる。遺物は中心部と考えられる周辺から集中して出土した。土坑と判断して調査にあたったが，竪穴住居跡の可能性もある。

遺物：図化は行っていないが，甕３個体分，壺２個体分，高坏１個体分の破片が出土した。

20号土坑（ＳＣ20・第108図）

遺構：Ｂ－３群南側，Ｊ21グリッド中央部で検出された。遺構の半分は調査区域外であり，１／２の検出であった。正確な平面形態は不明であるが，およそ長軸約2.3m・短軸約１mの楕円形と推測される。遺物は出土しなかった。

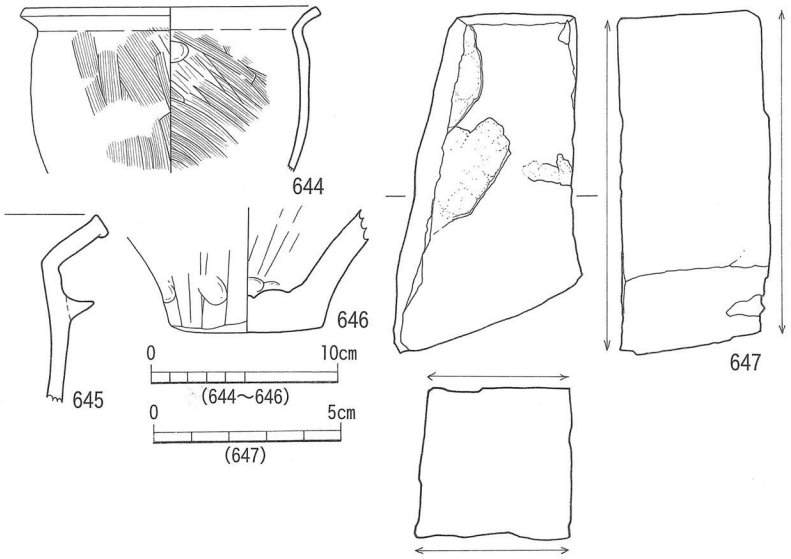
（３）Ｃ群

Ａ群・Ｂ群から離れて存在する竪穴住居跡。ＳＡ27の１軒のみである。群を成さないが，どちらの群にも属さないので一群として扱う。

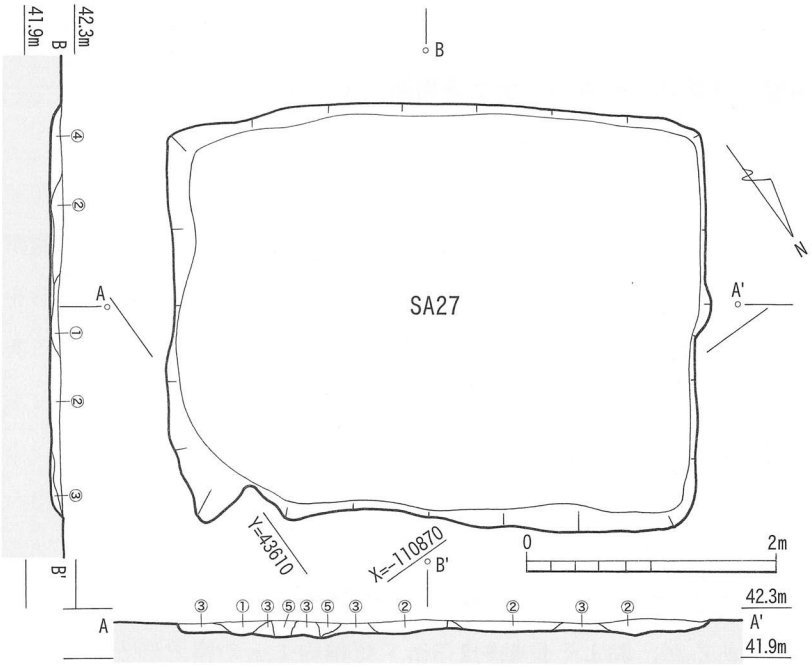
27号竪穴住居跡（ＳＡ27・第111図・第110図－644～647）

遺構：Ｂ－３群北部，19ラインとＮラインの交点付近で検出された。上部が削平され，平面形態は，長軸約4.3m・短軸約3.3mの長方形である。床面付近のみの検出であったが，遺物は床面付近全体から多く出土した。

遺物：644～645は甕である。644は平坦状の口唇部形態Ｂ類，短く明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態Ａ類，長形胴で上部に最大径がある胴部形態Ａ類をもつ甕Ｉ類である。645は平坦状の口唇部形態Ｂ類，短く明瞭に「く」字状に屈曲する口縁部形態Ａ類をもち，胴部上部に三角状の貼付突帯を有する甕Ｉ類である。646は壺の底部で，平底で外反しながら立ち上がる。647は凝灰岩製の砥石で表裏面２面の砥面に光沢のある研磨痕をもつ。



第110図　27号竪穴住居跡（ＳＡ27）出土遺物図（１／４・１／２）



27号竪穴住居跡土層注記(SA27)
①暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡埋土。径1cm以下の褐色ブロックや径３mm以下の炭化粒を含む。／ **②暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡埋土。径1mm程度の褐色土ブロックを多量に含む。／ **③暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡床埋土。径1mm程度の褐色土ブロックをわずかに含み，色調は若干暗い。／ **④褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…住居跡床埋土。径1mm程度の褐色と黒色土ブロックをわずかに含む。／ **⑤黒褐色土**(Hue 7.5YR-5/2)…後世の攪乱土。

第111図　27号竪穴住居跡（ＳＡ27）出土遺物図（１／60）

（２）Ｃ区の調査（第34図・第112図）

Ｃ区は南ブロック北西隅部に位置し，Ｘ軸は13～16ライン，Ｙ軸はＭ～Ｏライン内の400㎡の調査区である。

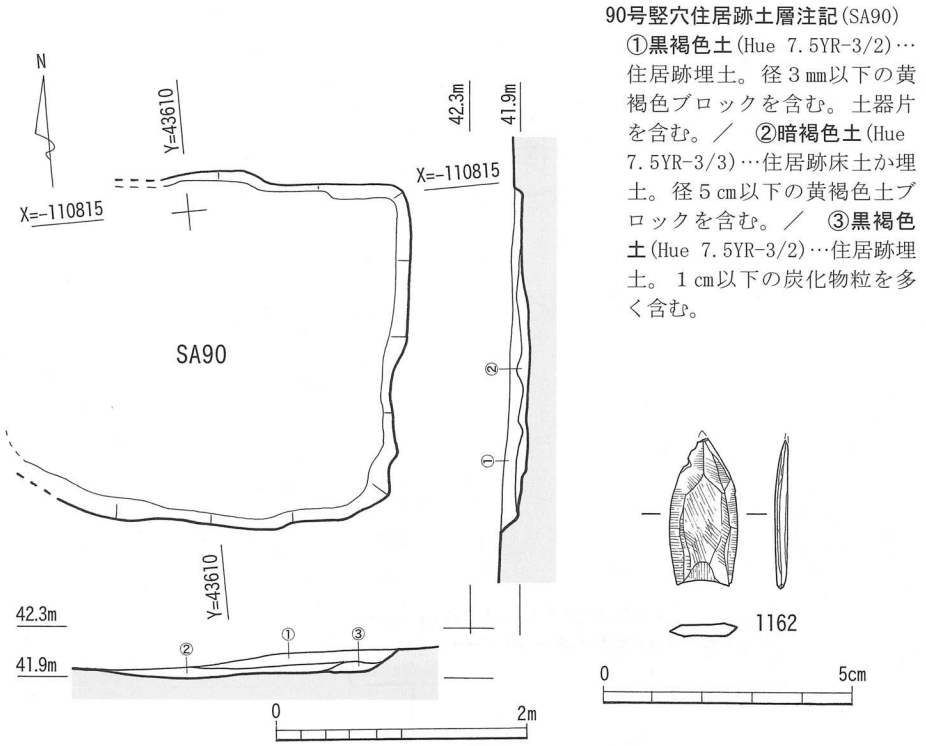
調査は１次調査の最後（平成12年度）に実施した。調査前の状況は，Ａ区同様果樹園であり，Ａ区のＯ17グリッドを頂部とする緩やかな傾斜地であり，北側に向かって緩やかに下る。調査は始めに果樹園の耕作土及び造成土の除去を行ったが，Ａ区に比べて造成土が約1.5ｍと厚く堆積しており，重機にて作業を行った。耕作土と造成土の除去の結果，調査区全面に第Ⅳ層以下が残っていた。

検出された遺構は竪穴住居跡１軒（ＳＡ90）であり，出土した遺物から竪穴住居跡は弥生時代に帰属すると考えられる。

竪穴住居跡の遺構計測値は第２表に掲載している。

90号竪穴住居跡（ＳＡ90・第112図）

遺構：Ｃ区北東隅，M13グリッドとＮ13グリッドの境界付近で検出された。傾斜面によって西側が消失しているが，東側は比較的残存状況がよい。平面形態は東辺（現存長276cm）と北辺（現存長226cm以上）・南片（現存長317cm以上）がほぼ直交していることから一辺約３ｍ前後の長方形と考えられる。検出された遺構の深さは約20cmであり，遺物は磨製石鏃１点（1162）と弥生土器の細片が数点出土したのみである。



90号竪穴住居跡土層注記(SA90)
①黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…住居跡埋土。径３mm以下の黄褐色ブロックを含む。土器片を含む。／ **②暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡床土か埋土。径５cm以下の黄褐色土ブロックを含む。／ **③黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…住居跡埋土。１cm以下の炭化物粒を多く含む。

第112図　90号竪穴住居跡（ＳＡ90）図（１／60）及び出土遺物図（２／３）

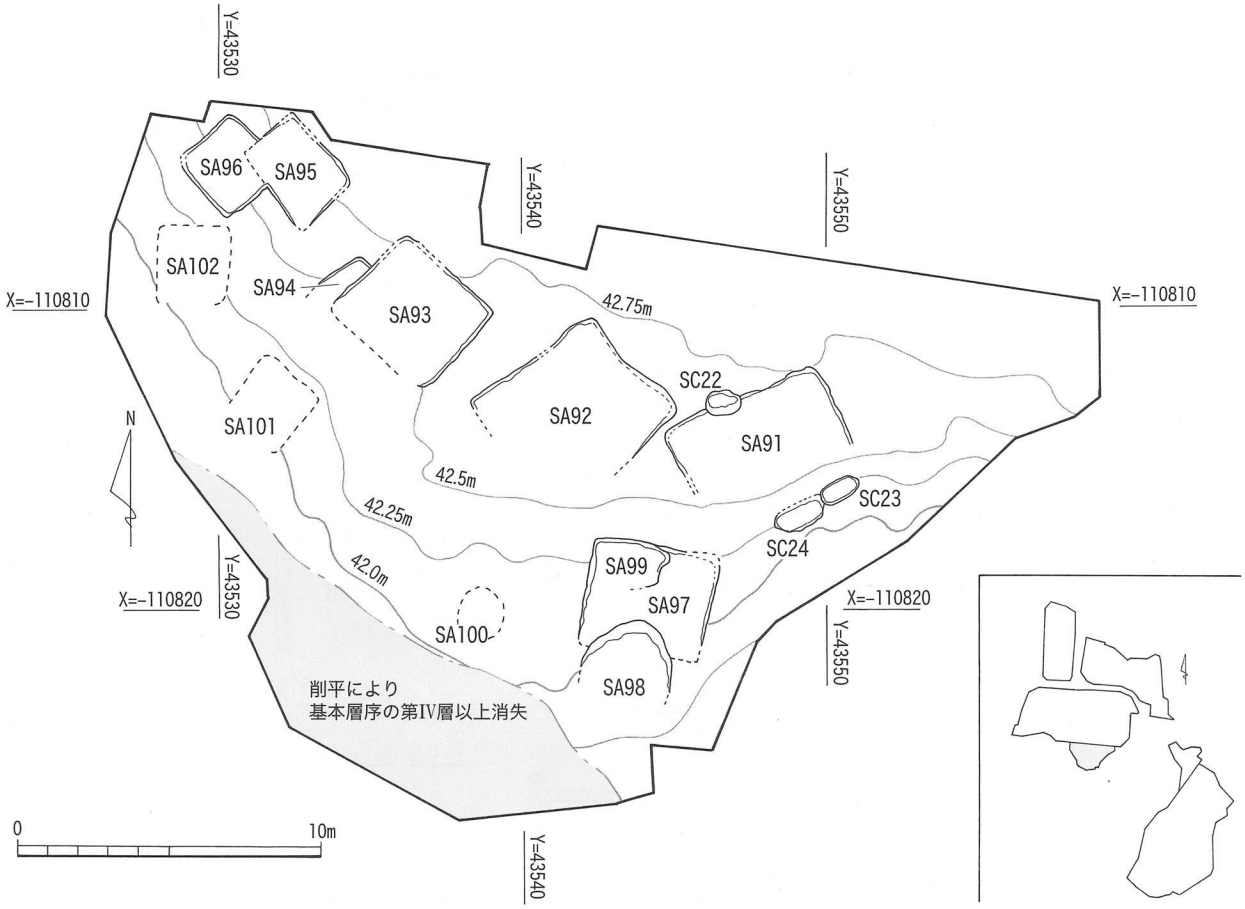
（３）　Ｂ区の調査（第113図～第135図）

Ｂ区は北ブロック南端に位置し，Ｆ13・Ｇ13区を中心とする450㎡の調査区である。隣接するＤ区とは北辺で接地する。１次調査において調査した。調査時の調査区地形は，平面が半円形で，北端中央部（Ｇ13グリッド点付近）を最高点とするなだらかな傾斜面を形成していた。検出された遺構は，竪穴住居跡12軒（ＳＡ91～ＳＡ102）と土坑３基（ＳＣ22～ＳＣ24）で，出土した遺物からいずれも弥生時代に帰属するものと考えられる。

以下に検出された遺構と遺物について若干の説明をくわえる。なお，竪穴住居跡の計測値は第２表に，遺物の観察表・計測表は第４表～第32表に掲載している。

■竪穴住居跡（ＳＡ91～ＳＡ102）

Ｂ区全体で12軒検出された。住居跡は主軸と斜面が直交するように配置され，大きく上段グループ（ＳＡ91～96）と下段グループ（ＳＡ97～102）に分けることができる。住居は，一辺５ｍクラス（ＳＡ91・92）から2.5ｍクラス（ＳＡ95・96）までと規模にばらつきがあるが，円形のＳＡ98を除いて全て方形プランを呈し形態が共通する。ほとんどの住居跡同士が重複しないが，土器型式に大きな差違は認められず，同時期もしくは近い時期の住居跡群と考えることができる。また，隣接するＤ区南端の住居跡群（ＳＡ103～115）と連続する一つの住居跡群を形成する。

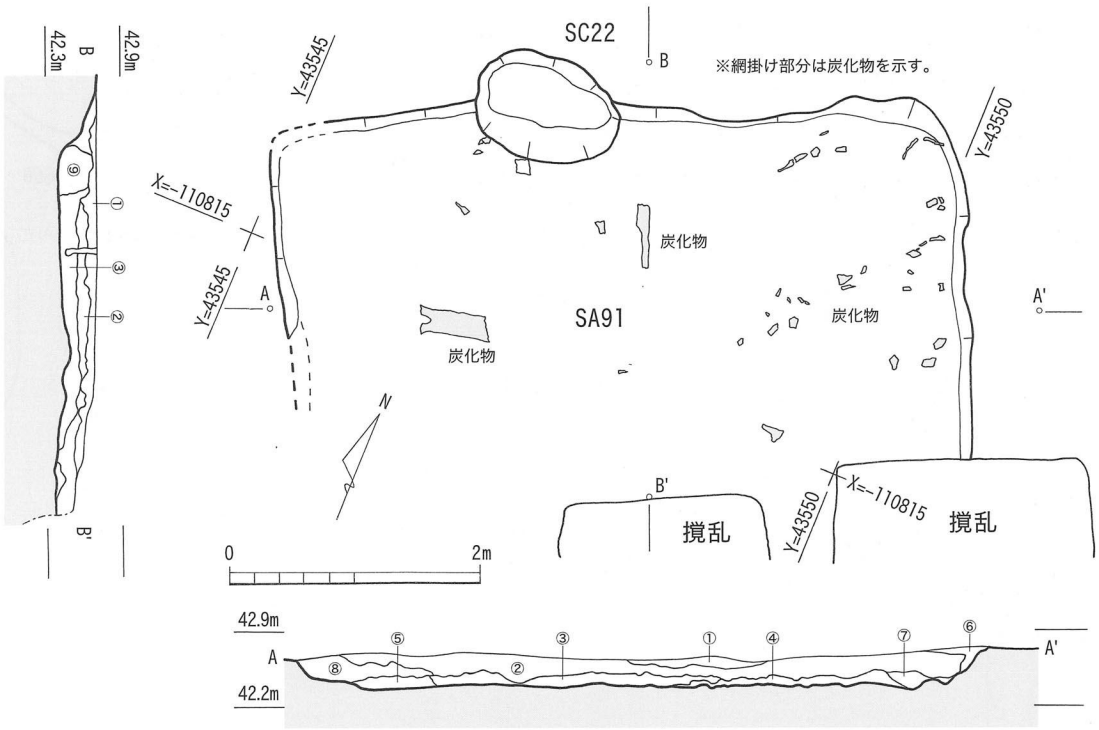


第113図　Ｂ区地形図及び遺構配置図（１／250）

91号竪穴住居跡（ＳＡ91・第114図・第115図－648～660）

遺構：Ｂ区東側から検出された。土坑に切られているが，単独で存在する。ＳＡ92とＳＡ93とは上段グループで等間隔に配置され，規模も５ｍクラスと共通点が多くあり，同時期住居跡の可能性がある。住居跡北側から中央部にかけて放射状に散乱する炭化物の集中が確認された。炭化物は，中には長さ60cmあまりの板状のものもあり，数量と大きさから考えて焼失住居の可能性がある。

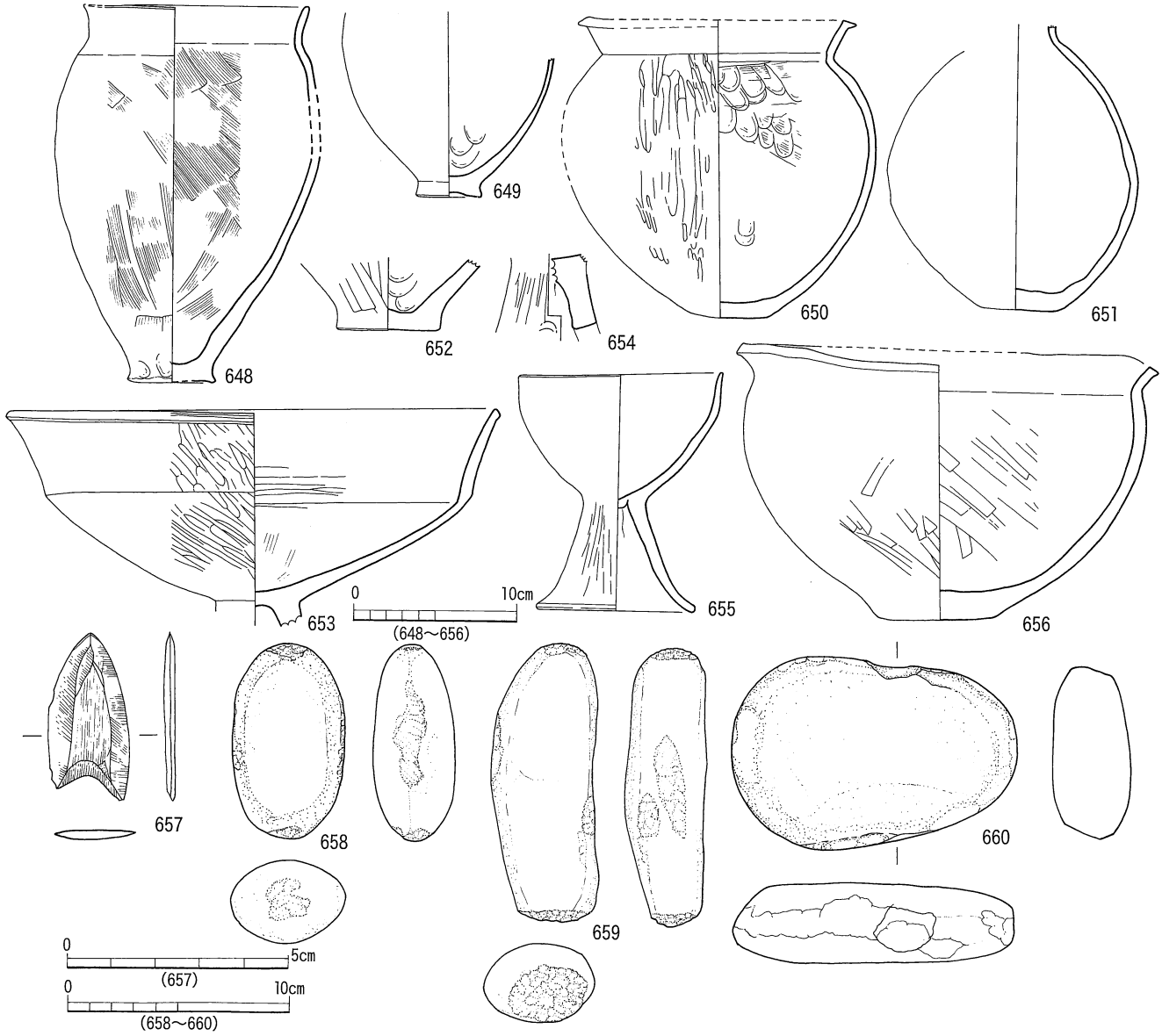
遺物：648～649は甕である。648は甕Ⅱ類の底部に甕Ⅲ類の口縁部を，649は甕Ⅱ類の底部をもつ。650～652は壺である。653～655は高坏である。653は高坏Ⅱ類の坏部をもつ。656は鉢Ⅰ類である。657は磨製石鏃である。658・659は敲石である。長辺の両端部に敲打痕が，側縁中央部に磨痕が認められる。敲きと磨りの両方をおこなっていたようである。660は横長礫の側縁中央部を打ち欠いた石錘である。



91号竪穴住居跡土層注記（SA91）

①褐色土(Hue 10YR-4/6)…住居跡埋土。土質はやわらかく粘性がある。下部には炭化物を多く含む。／ **②灰黄褐色土**(Hue 10YR-3/2) …住居跡埋土。基本層序の第Ⅳ層の暗褐色土と第Ⅴ層の黄褐色土ブロックを多く含む。／ **③黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…住居跡埋土。炭化材を含み，焼土らしき暗赤褐色土塊を多く含む。／ **④暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…住居跡埋土。10cm程の炭化材を多量に含む。／ **⑤黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…住居跡埋土。④層同様，10cm程の炭化材を多量に含む。／ **⑥黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…土質は柔らかく，後世の攪乱土と考えられる。／ **⑦黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…住居跡埋土。⑥層と似ているが，炭化材を多量に含む。／ **⑧褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…住居跡埋土。②層と似ているが，ブロック土を含まない。／ **⑨褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…炭化物を含む。赤化しており，焼土と考えられる。

第114図　91号竪穴住居跡（ＳＡ91）図（１／60）



第115図　91号竪穴住居跡（ＳＡ91）出土遺物図（１／４・２／３・１／３）

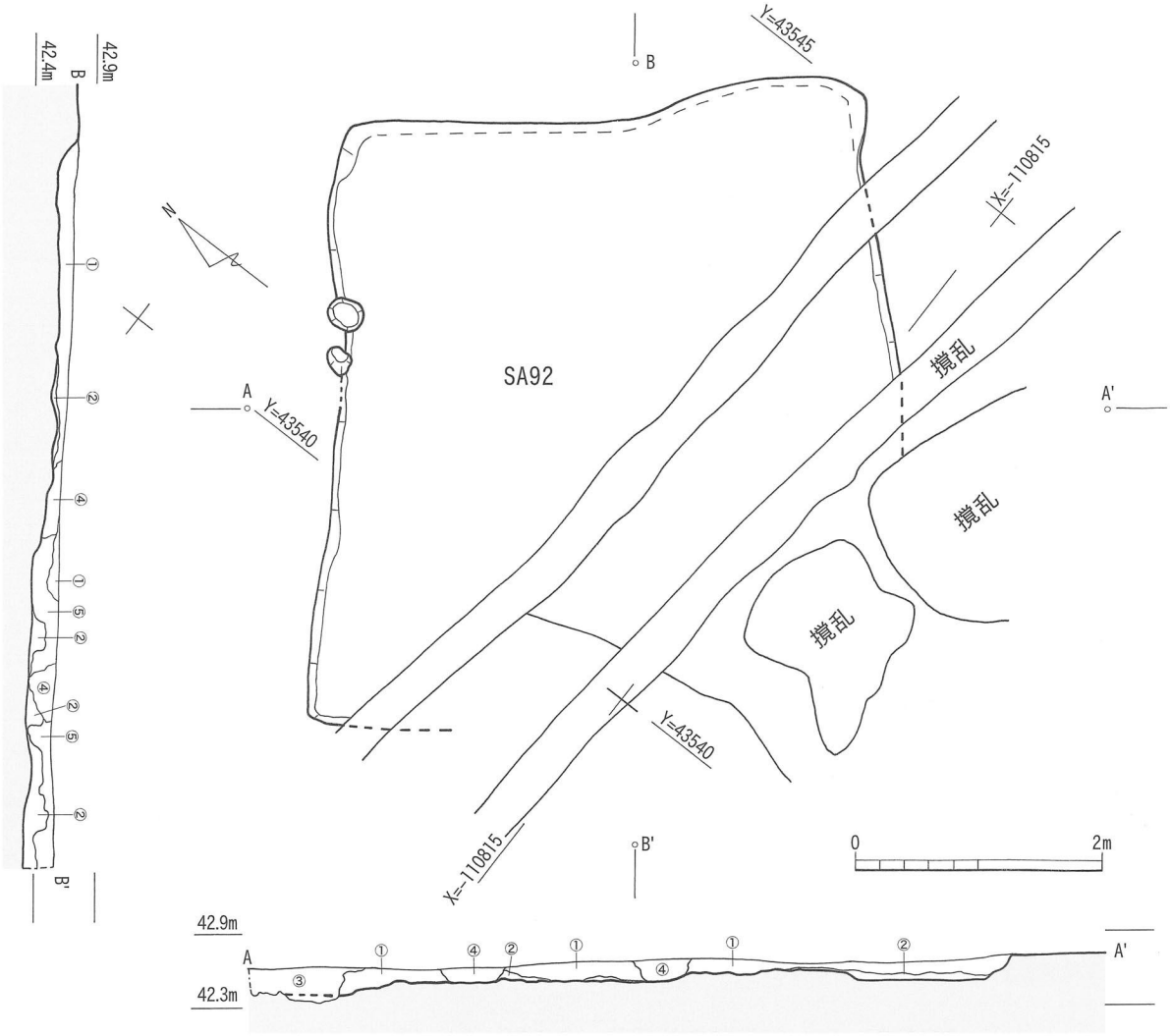
92号竪穴住居跡（ＳＡ92・第116図）

遺構：Ｂ区中央部から検出された。後世の攪乱により北隅が消失していたが，他住居跡との切り合いがなく，平面形はほぼ完形であった。しかし，上面は削平により消失しており床面付近のみの検出であった。平面形態は１辺約4.5ｍの方形を呈する。

遺物：上部削平のため細片のみの出土であり，遺構に伴うと判断できうる遺物は出土しなかった。

93号竪穴住居跡（ＳＡ93・第117図・第118図・第119図－661～669）

遺構：Ｂ区北西部から検出された。斜面により南西側が消失しているが，ほぼ完形である。平面形態は１辺約４ｍの方形を呈する。北東隅に径80cm程の焼土と炭化物が，その隣に高坏（664）が検出された。また，南辺付近から砥石（669）と甕（662）が重なるように出土した。



92号竪穴住居跡土層注記(SA92)

①暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡埋土。土器片と炭化物を含む。／ ②褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…住居跡の床土。土器片や炭化物を含まない。／ ③褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…土質は脆く，後世の撹乱土と考えられる。／ ④褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…後世の撹乱土。／ ⑤暗オリーブ褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…住居跡埋土。①層に似ているが，色調が少し異なる。

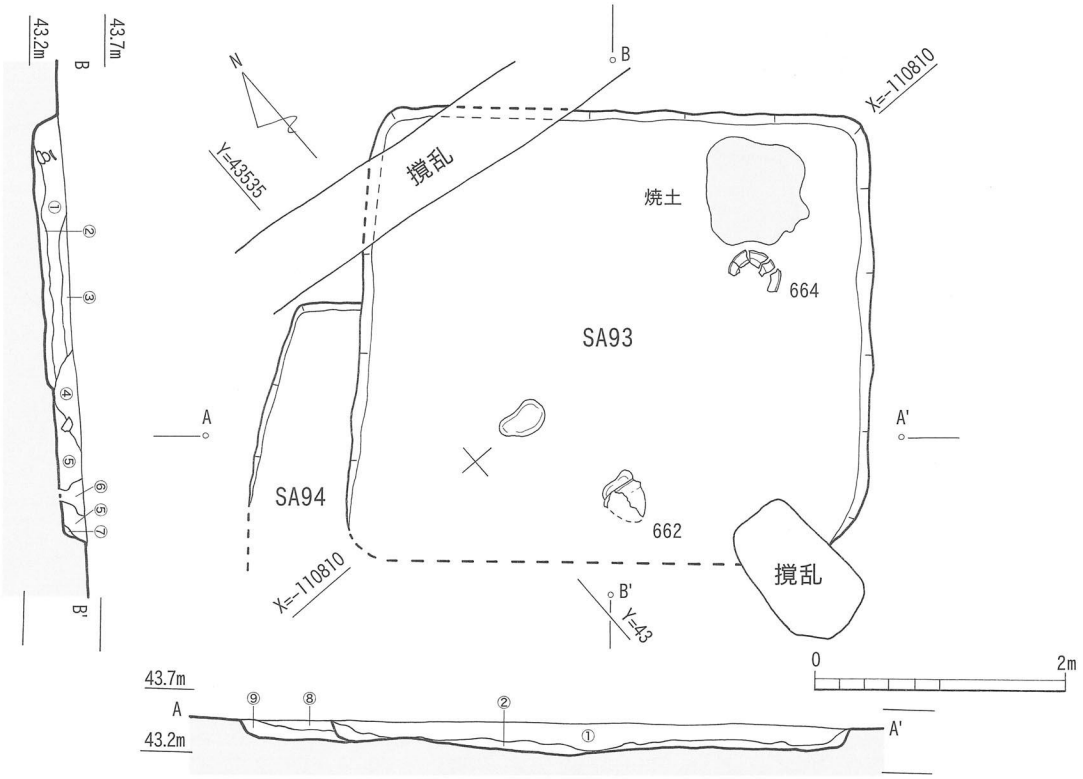
第116図　92号竪穴住居跡（ＳＡ92）図（１／60）

遺物：661・663は甕である。661の口縁部は甕Ⅱ類と甕Ⅲ類の中間形態である。662は壺の胴部から底部である。664は高坏Ⅱ類の坏部である。665・666は鉢Ⅱ類である・667・668は砥石である。667は定形剥片を利用した砥石ＩＢ類であるが，表面が剥離している。669は自然礫を利用した砥石Ⅱ類である。全面に砥面が確認されるだけでなく，一部敲打痕が残り，台石としての機能ももっていたと考えられる。668は半分が欠損しているが，側縁の抉りと穿孔の両方をもつ弧背弧刃タイプの石庖丁である。

94号竪穴住居跡（ＳＡ94・第117図）

遺構：ＳＡ93に切られた形で，Ｂ区北西部から北隅方向のみ（約1.6㎡）検出された。一部のみの検出であるが，北隅の形状から考えて，平面形態は方形か長方形であったと考えられる。

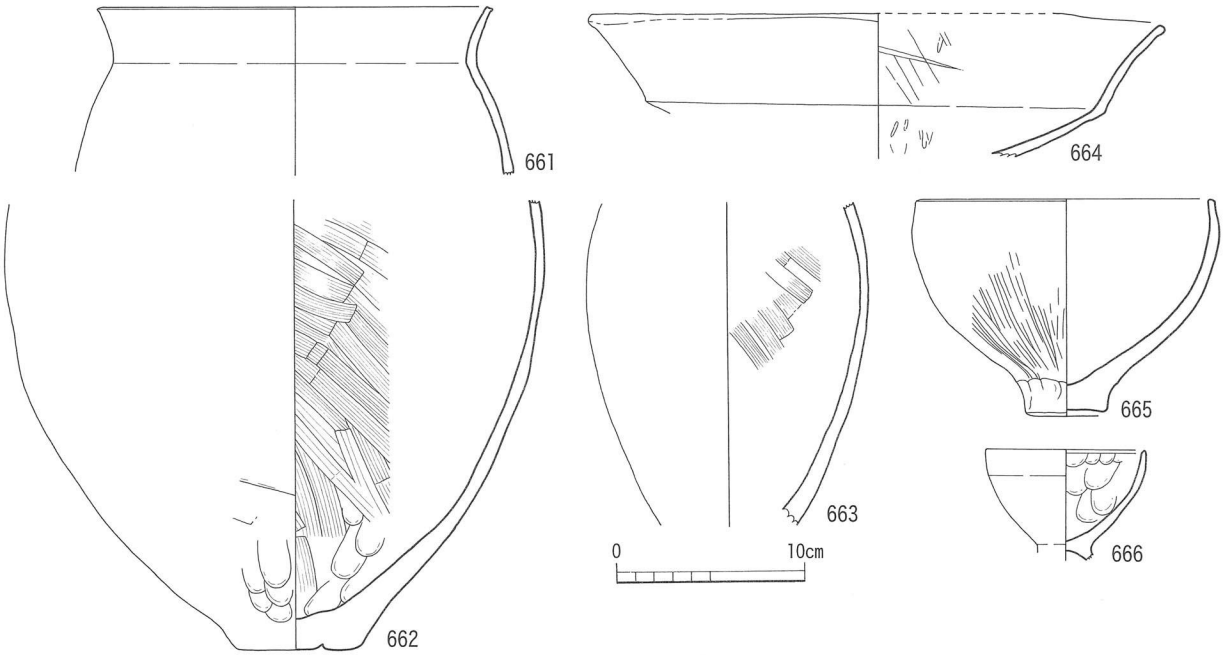
遺物：流入土から細片の土器片のみ出土した。



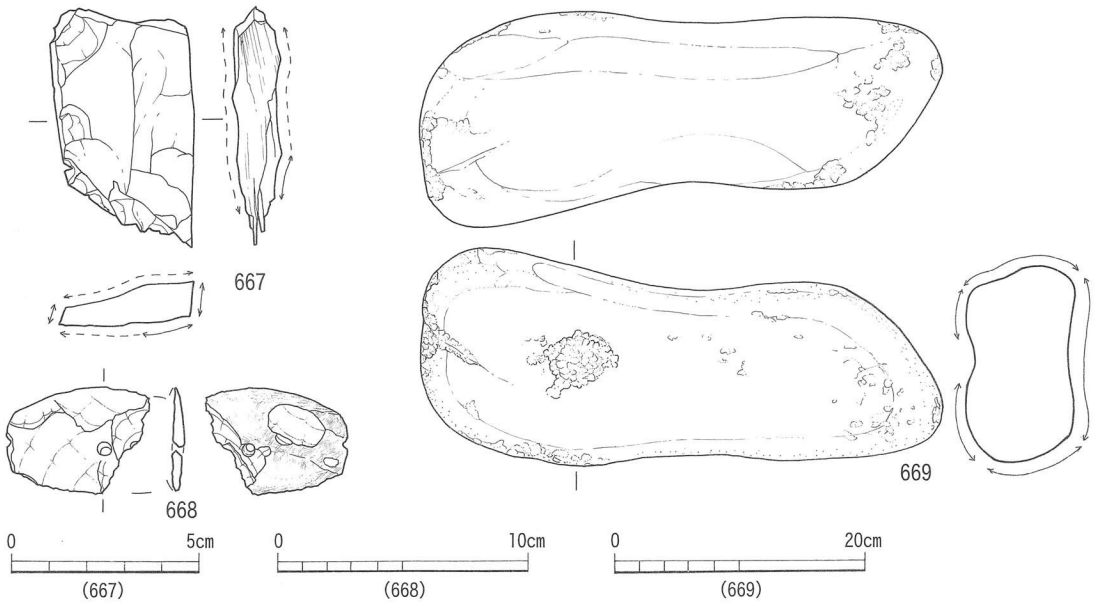
93・94号竪穴住居跡土層注記(SA93・94)

①暗褐色土(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＡ93の住居跡埋土。１～３㎜程の炭化物を多く含む。土器片を多く含む。／ **②褐色土**(Hue 7.5YR-4/4) …ＳＡ93の住居跡埋土か床土。土器片をわずかに含む。／ **③黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…ＳＡ93住居跡埋土。土器片をわずかに含む。／ **④黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…後世の撹乱土。／ **⑤暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…住居跡埋土。炭化細粒や土器片を含む。③層と似ているが，黒色土のブロックを多く含む。／ **⑥暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ93の住居跡埋土か床土。②層と似ている。土器片をわずかに含む。／ **⑦黒褐色土**(Hue 7.5YR-1/2)…ＳＡ93住居跡埋土。含有物をあまり含まない。／ **⑧黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…ＳＡ94の住居跡埋土。土質は⑨層に似ている。／ **⑨暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＡ94の住居跡埋土。炭化物をわずかに含む。

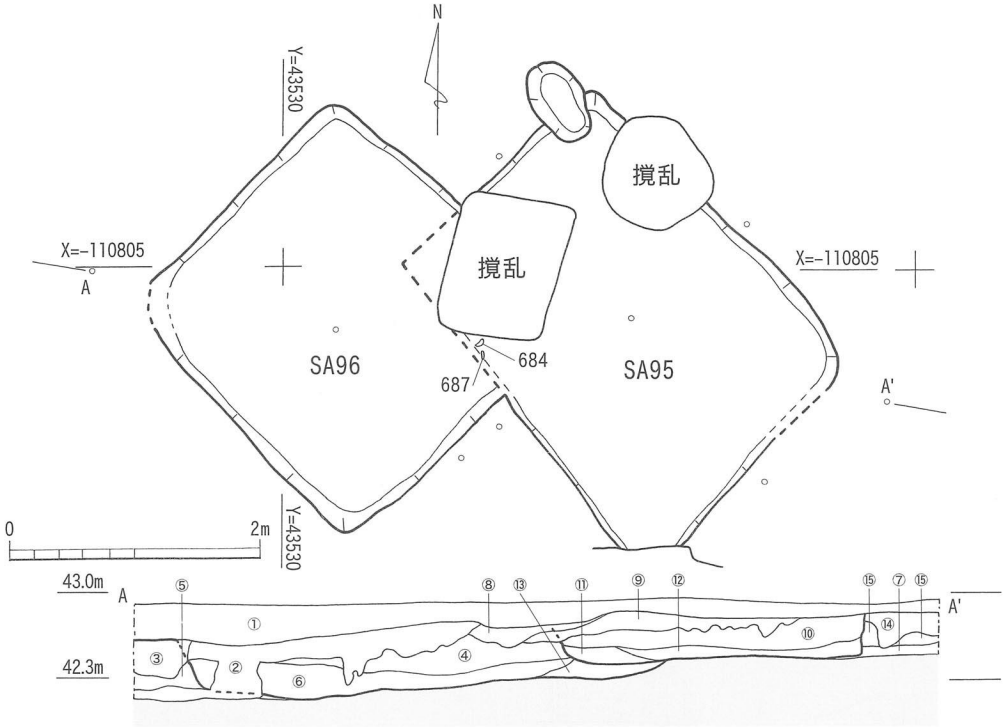
第117図　93・94号竪穴住居跡（ＳＡ93・94）図（１／60）



第118図　93号竪穴住居跡（ＳＡ93）出土遺物図①（１／４）



第119図　93号竪穴住居跡（ＳＡ93）出土遺物図②（１／２・１／３・１／６）



95・96号竪穴住居跡土層注記(SA95・96)
①**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/1)…後世の撹乱土。黄褐色と黒色土ブロックを多く含む。／②**黒色土**(Hue 5YR-2/1)…径１mm程の黄橙褐色粒を含む。基本層序の第Ⅱ層だと考えられる。／ ③**黒色土**(Hue 7.5YR-2/1)…後世の撹乱土。黄褐色と黒色土ブロックを多く含む。／④**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＡ96の埋土。土器片を含む。／ ⑤**黄褐色土**(Hue 7.5YR-5/6)…基本層序の第。Ｖ層と考えられる。／⑥**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＡ96の埋土。土器片・石器を含む。銅鏡片もこの層より出土。／ ⑦**褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…基本層序の第Ｖ層と第Ⅵ層の漸移的層だと考えられる。／ ⑧**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…後世の撹乱土。黄褐色と黒色土ブロックをわずかに含む。／ ⑨**黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…径１mm程の橙褐色土粒を多量に含む。下部に土器片を含む。／ ⑩**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…ＳＡ95の埋土。土器片をわずかに含む。／ ⑪**褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ95の埋土（初期流入土）。土器片は含まれない。／ ⑫**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ95の埋土。完形に近い弥生土器片を含む。／ ⑬**褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ96の埋土（初期流入土）。土器片は含まれない。／ ⑭**黒褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…１cm程の黄褐色土ブロックを含む。／ ⑮**黄褐色土**(Hue 7.5YR-5/6)…基本層序の第Ｖ層と考えられる。

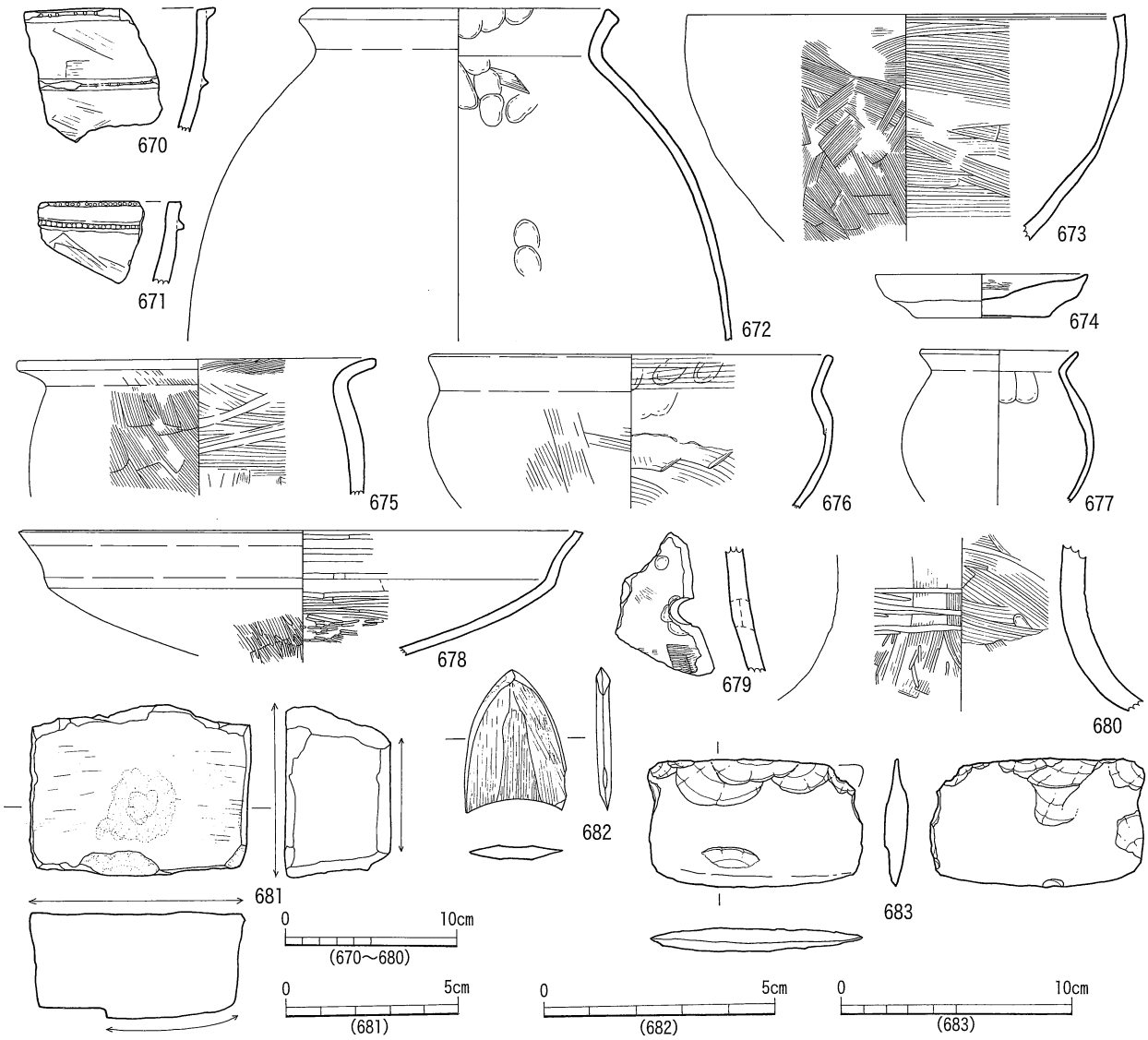
第120図　95・96号竪穴住居跡（ＳＡ95・96）図（１／60）

95号竪穴住居跡（ＳＡ95・第120図・第121図－670～683）

遺構：Ｂ区北西隅，ＳＡ96を切る形で検出された。後世の撹乱に切られているが，ほぼ完形で，226cm×309cmの長方形を呈する。Ｂ区では上段グループに属するが，ＳＡ96同様１辺2.5～３ｍとほかの３

軒（ＳＡ91～93）と比べて平面規模が小さい。住居中央部では径35cm程の焼土の集中がみられ，その東側周辺と北側隅に遺物が集中する。特に砥石（681）と石庖丁（683）は焼土から20cm程度の近い場所から出土した。

遺物：670・671は口縁部下に１条の貼付突帯をもつ下城系の甕の口縁部である。672は「く」字状に曲がった口縁をもつ壺である。673は鉢（ⅡＢ類）である。674は実測図だけでは中世の土師器皿にも見えるが，弥生土器の皿の一種と考えられる。675・676は甕である。677は小型甕である。678は高坏の坏部である。外反しながら立ち上がる坏部形態Ｂ類の特徴をもちながら，屈曲が若干あまい。680は器台の柱部である。穿孔は見られないが，縦方向のハケ目の後に雑であるが横走する凹線文を施す瀬戸内系の器台である。681は直方体の定形砥石で，表面積の広い２面に砥面がある。また砥面の１面の中央部には敲打痕が認められ，敲石もしくは台石としても使用されていたと考えられる。682は両端に抉りをもつ直背直刃タイプⅡＣ類の石庖丁である。

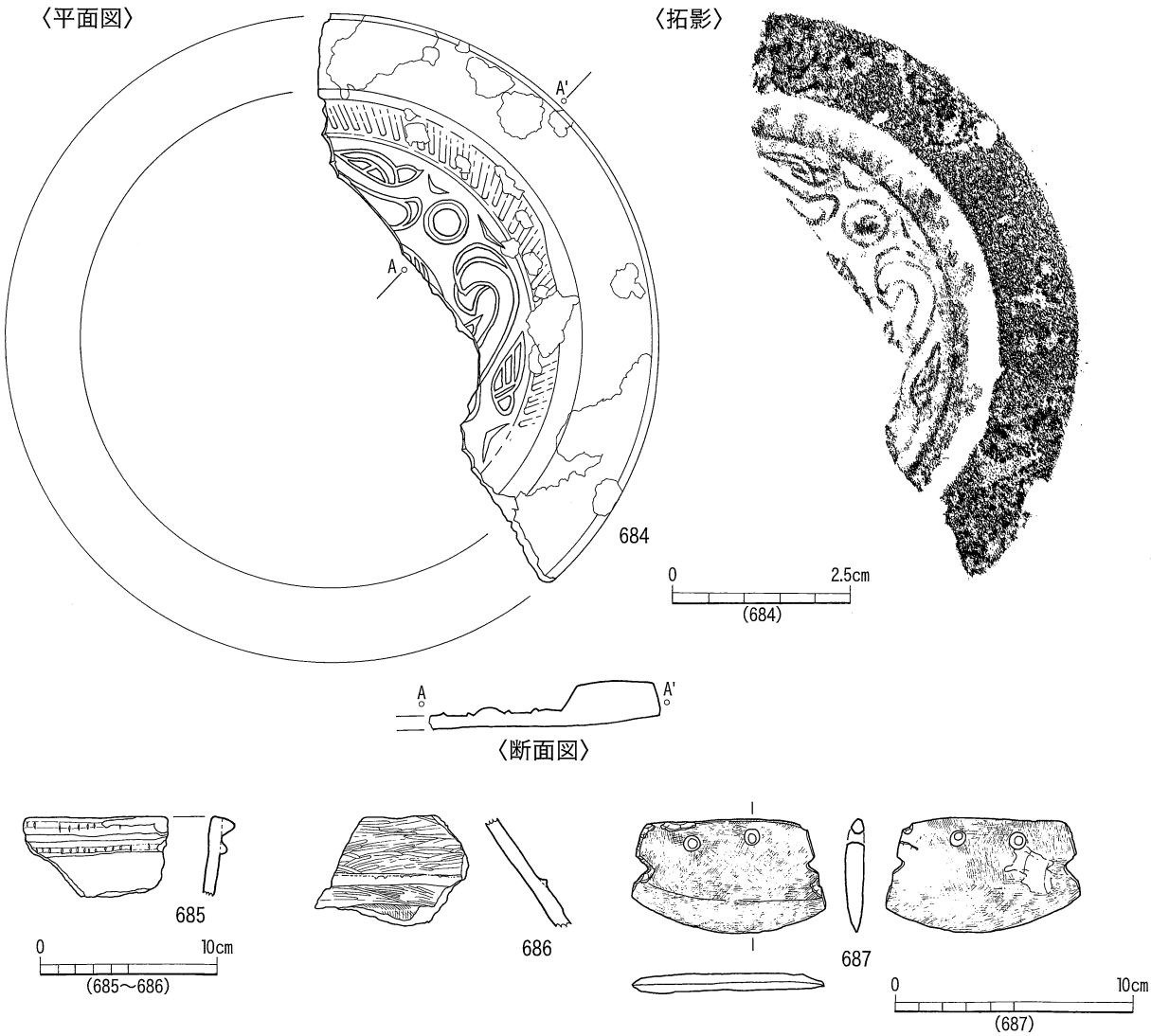


第121図　95号竪穴住居跡（ＳＡ95）出土遺物図（１／４・１／２・２／３・１／３）

96号竪穴住居跡（ＳＡ96・第120図・第122図－684～687）

遺構：Ｂ区北西隅に位置し，ＳＡ95に南東隅を切られる形で検出された。規模は248cm×265cmの方形に近い形を呈する。切り合い関係によりＳＡ96→ＳＡ95の前後関係が成り立つが，ＳＡ95とは主軸をほぼ等しくし，この２軒が非常に近しい関係があることが推測される。遺物は北隅を中心に出土したが，土器の細片が多かった。出土した遺物の中で注目すべきは，銅鏡片（684）と石庖丁（687）である。この２点は住居跡検出前のトレンチ掘り下げ時に出土したものであるが，遺物の集中部と離れた東側の⑥層中から並ぶように出土した。土器類の残存状態が芳しくない住居跡で，完形の石庖丁と銅鏡片が出土したことは今後検討の余地を残す。

遺物：684は銅鏡片である。詳しくは次段に述べる。685は甕の口縁部である。口唇部１条と口唇部下１条の貼付突帯に縦位の刻文をもつ下城系土器である。埋土の④層出土で，遺構に伴わないと考えられる。686は壺の肩部であり，１条の縦位の刻文をもつ貼付突帯を施す。687は両端抉りと２か所の穿孔をもつ直背曲刃タイプのⅢＢ類の石庖丁である。



第122図　96号竪穴住居跡（ＳＡ96）出土遺物図（１／１・１／４・１／３）

■**銅鏡片**（第122図－684）

Ｂ区北側96号竪穴住居跡（ＳＡ96）床直上から石庖丁１点（第122図－687）と並ぶように銅鏡片１点が出土した。状態は，径１～10㎜の斑点状の緑錆がいくつも確認されるが，比較的良好である。鋳上がりは良く，色調は少し緑がかった黒色（Hue 5GY 2/1）である。完形の１／３程度残存しており，現存する大きさは長さ8.6㎝・幅3.3㎝・厚さ0.5㎝で（いずれも最大値），重量は59.6ｇである。推定復元径は9.2㎝である。鏡の文様帯部分は，厚さ0.15～0.2㎝で，細線表現による逆Ｓ字状の龍を描いた雲気文と小鳥と考えられる文様が，径0.7㎝の円座乳を挟む形で同心円状に描かれている。文様帯の周縁は，幅1.1㎝・厚さ0.5㎝で，断面が平坦形を呈し無文である。この文様帯から考えて，前漢鏡の一種である虺龍文（きりゅうもん）鏡と考えられる。また，割れた断面と文様帯の櫛歯文の一部分には若干の磨滅が確認できる。このことから，割れた後にも鏡を保持し続けていたことが推察でき，破鏡の一種と考えられる。

97号竪穴住居跡（ＳＡ97・第123図・第124図・第125図－688～699）

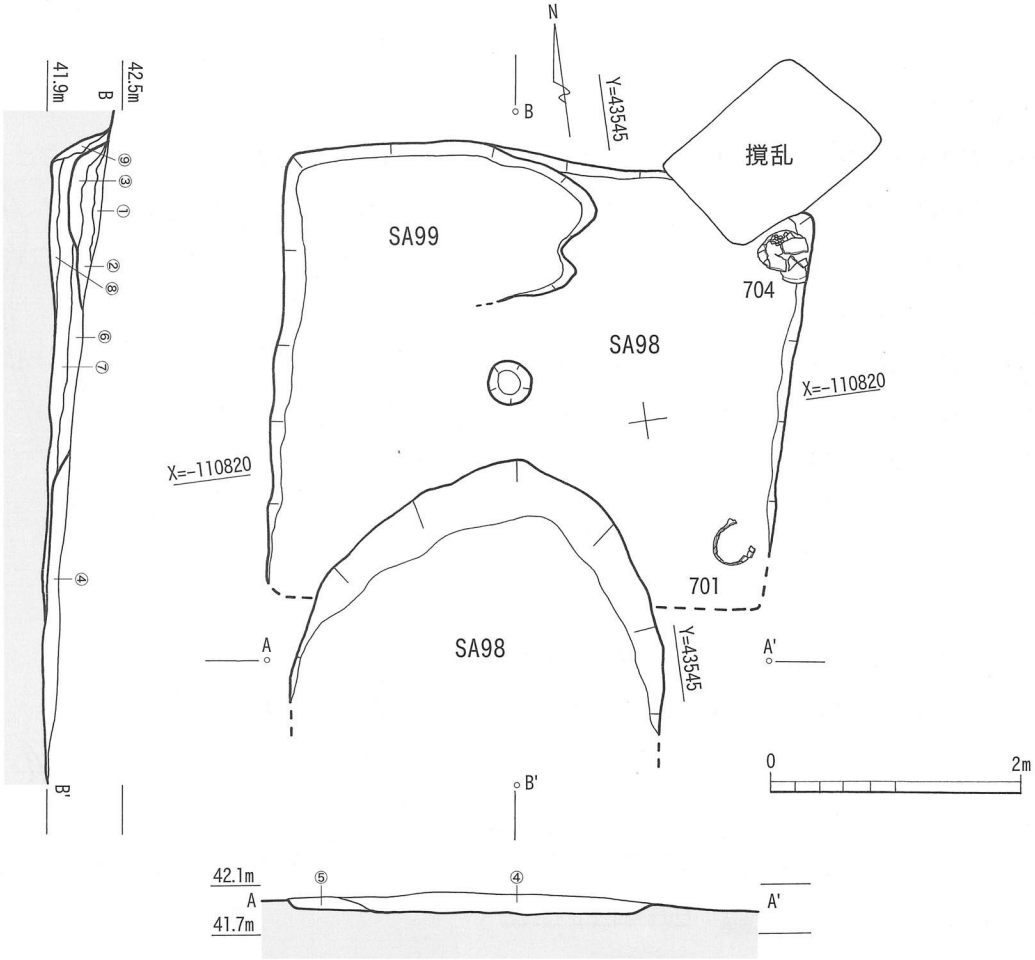
遺構：Ｂ区南東側に位置し，ＳＡ98・後世の攪乱に切られる形で検出された。斜面上に立地しているので南端部分が消失しているが，１辺3.5～４ｍの方形に近い平面形を呈する。中央部に径30㎝のピットが１基存在し柱穴とも推察できるが，他にピットがないこと，調査段階で住居跡に伴うピットかどうかが判断できなかったことから柱穴であるとの判断には至らなかった。遺物は調査区西側を中心に出土したが，完形に近い甕（688）と鉢（694）は他の遺物と若干離れた住居跡の北東と南東のコーナー部から出土している。

遺物：688～690は甕である。688は甕Ⅱ類と甕Ⅲ類の中間タイプで，689は緩く「く」字状に曲がる口縁部とやや上げ底で張り出す底部の甕Ⅱ類である。690は明瞭に「く」字状に曲がる口縁部と凹面にくぼむ口唇部より甕Ⅰ類と考えられる。691は櫛描波状文をもつ壺の口縁部である。692・693・695は小型壺である。694は平底の底部を持つ鉢ⅡＡ類である。696は高坏の脚部であり，脚部形態Ａ類かＢ類である。697・698は鉢である。697はＣ類の底部をもつ鉢ⅡＢ類，698は鉢ⅠＣ類である。699は埋土中出土の石庖丁で，両端に抉りをもつ直背直刃タイプのⅡＣ類である。

98号竪穴住居跡（ＳＡ98・第123図・第126図－700～704）

遺構：Ｂ区南東側に位置し，ＳＡ97の南辺を切る形で検出された。ＳＡ97同様傾斜面に立地しているので南端部分が消失しており，住居跡平面形態の全容は，検出状況から判断して縦長の長楕円形だと考えられる。しかし，下那珂遺跡の当期の竪穴住居を概観した場合，平面形態のほとんどが方形・長方形であり，円形・楕円形は皆無である。また，遺物の出土状況をみても，数個の完形に近い土器が１カ所に集められ，あたかも廃棄されたかのような印象をうける。これらのことより，ＳＡ98は竪穴住居跡ではなく廃棄土坑などの土坑である可能性をも示唆しておく。

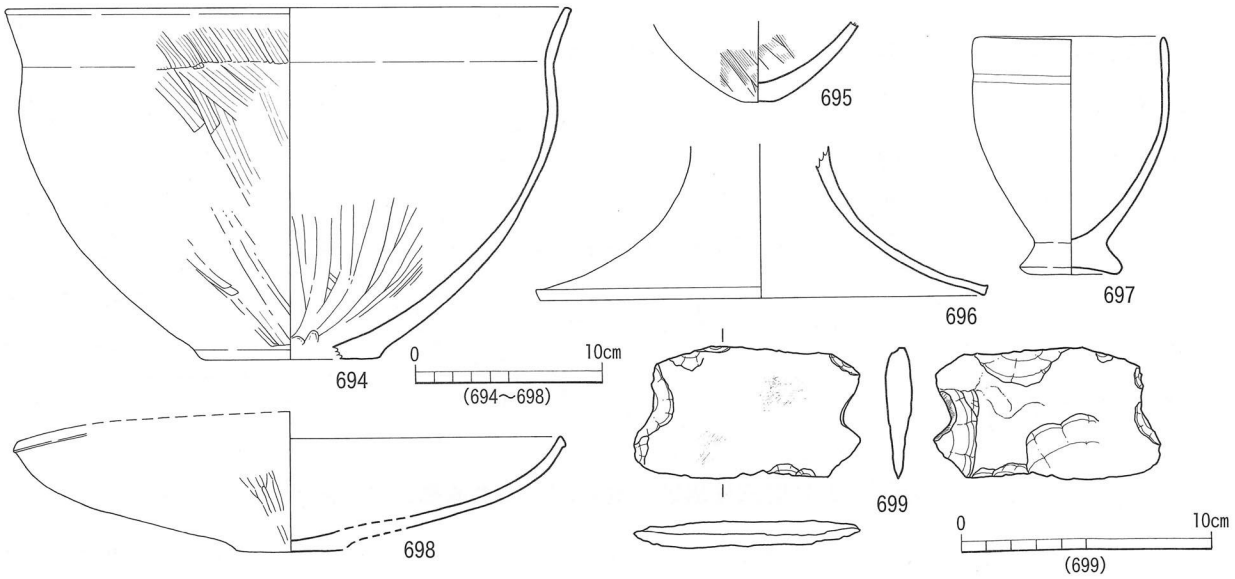
遺物：700・701・704は甕である。700は緩やかにＳ字を描きながら上方に薄く延びる口縁部形態Ｃ類をもつ。701は底部形態Ｂ類の特徴より甕Ⅱ類とも考えられるが，円盤状に比厚したプロポーションは甕Ⅲ類に相当するとも考えられる。704は，700同様の緩やかにＳ字に曲がる口縁部と，尖底状平底の底部から甕Ⅲ類に相当する。702は高台脚付き鉢である。703は高坏の坏部である。坏の中位で明瞭な屈曲をもたず緩やかなＳ字を描く坏部形態Ｃ類をもつ。また坏上半部に細線による分割文様が施されている。



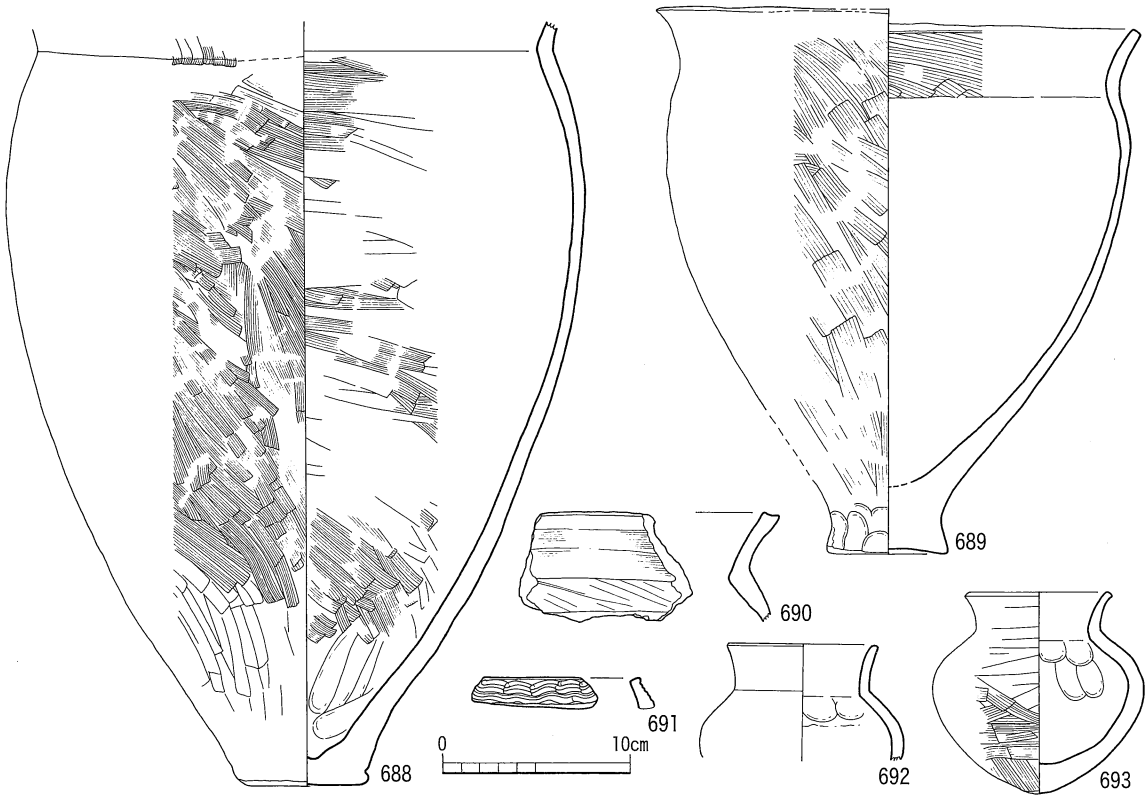
97・98号竪穴住居跡土層注記(SA97・SA98)

①黒褐色土(Hue 7.5Y-2/2)…土坑の埋土。／ ②黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…土坑の埋土。径１～３㎜程の褐色と橙色土粒を含む。５㎜以下の炭化物細粒を含む。／ ③褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…土坑の埋土。径１～３㎜程の褐色と橙色土粒を含む。５㎜以下の炭化物細粒を含む。／ ④黒褐色土(Hue 7.5YR-2/2)…ＳＡ98の埋土。径１～３㎜程の褐色と橙色土粒を含む。／ ⑤明褐色土(Hue 7.5YR-5/6)…ＳＡ98の埋土（初期流入土）。黄褐色軽石と粘質土が細互層状に堆積している。／ ⑥暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ97の埋土。２～３㎜程の炭化物細粒を多量に含む。／ ⑦黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…ＳＡ97の埋土。２～３㎜程の炭化物細粒を多量に含む。／ ⑧褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ97の床土。炭化粒と焼土をわずかに含む。／ ⑨明褐色土(Hue 7.5YR-5/6)…⑤層と似ている。ＳＡ97の埋土（初期流入土）。黄褐色軽石と粘質土が細互層状に堆積している。

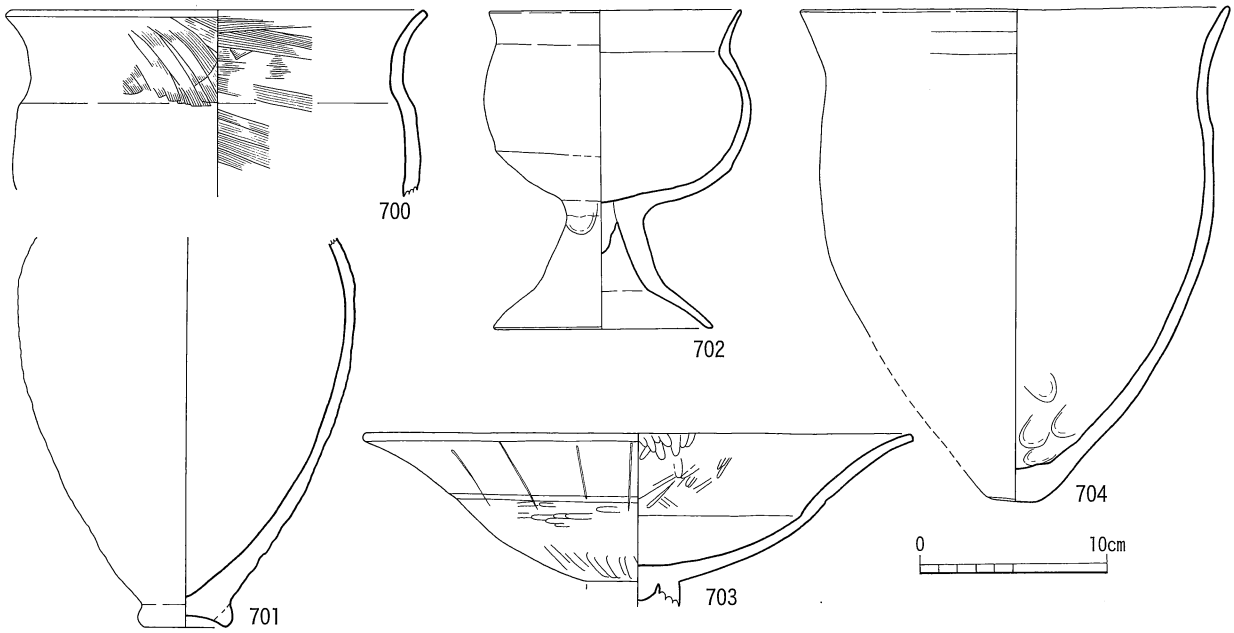
第123図　97・98・99号竪穴住居跡（ＳＡ97・98・99）図（１／60）



第124図　97号竪穴住居跡（ＳＡ97）出土遺物図①（１／４・１／３）



第125図　97号竪穴住居跡（ＳＡ97）出土遺物図②（１／４）

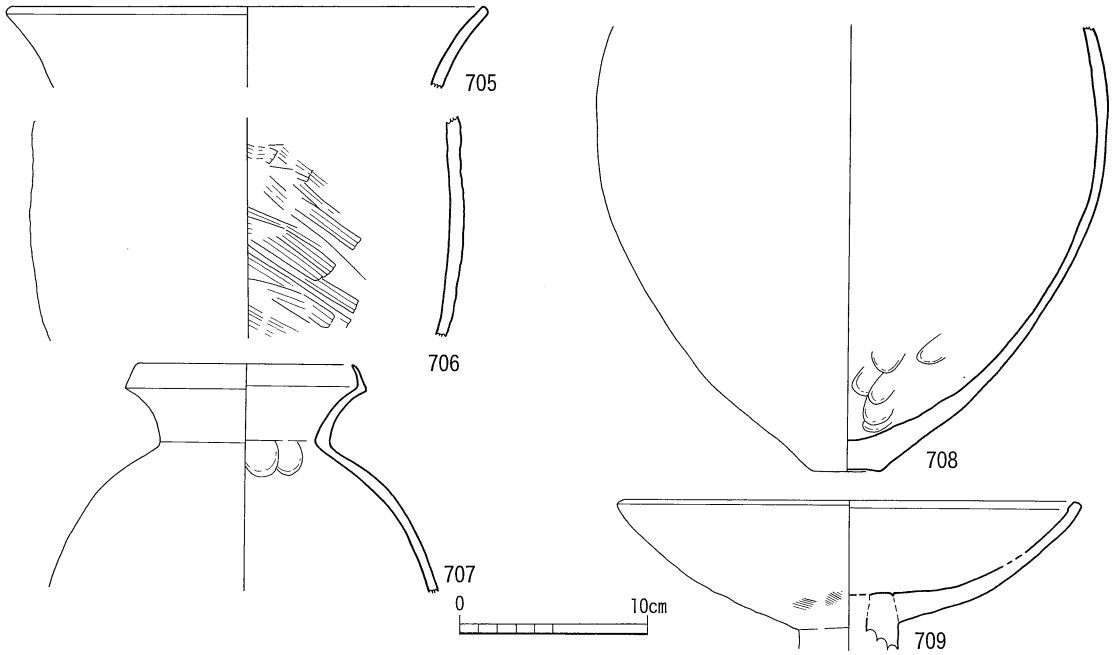


第126図　98号竪穴住居跡（ＳＡ98）出土遺物図（１／４）

99号竪穴住居跡（ＳＡ99・第123図・第127図－705～709）

遺構：Ｂ区南東側に位置し，ＳＡ98を切る形で検出された。平面形態は不定形で，規模も不明であり，住居跡との断定も難しい。遺物は２か所に集中して出土し，廃棄されたような印象をうける。このことよりＳＡ99は，ＳＡ98同様土坑の可能性がある。

遺物：705・706は甕である。いずれも外面に平行タタキを施し，705は口縁部形態Ｃ類をもつ。このことから705・706は甕Ⅲ類と考えられる。707・708は壺である。707は二重口縁をもつタイプで，口縁部に押引き状の櫛描波状文を施す。709は屈曲点をもたない坏部形態Ｃ類をもつ，高坏Ⅲ類と考えられる。

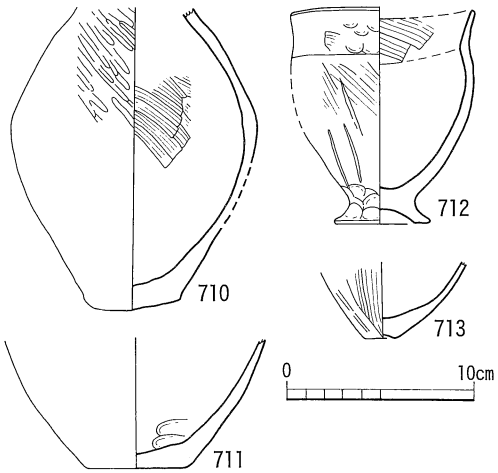


第127図　99号竪穴住居跡（ＳＡ99）出土遺物図（１／４）

100号竪穴住居跡（ＳＡ100・第128図－710～713）

遺構：ＳＡ101・102同様，調査時の不手際で個別遺構図が存在しないため，部分的な記録のみである。Ｂ区南側，ＳＡ92の南側で検出された。主軸は傾斜に直交する形でほぼ南北方向である。平面形態は，南側が傾斜のため消失しているが，円形か楕円形と考えられる。ＳＡ98において土坑の可能性を示唆したように，ＳＡ100も土坑の可能性が大いに考えられる。

遺物：710・711・713は壺である。710は小型ながら長胴壺の類で，徳利のような形を呈する。712は脚台状底部をもつ鉢ⅡＢ類である。



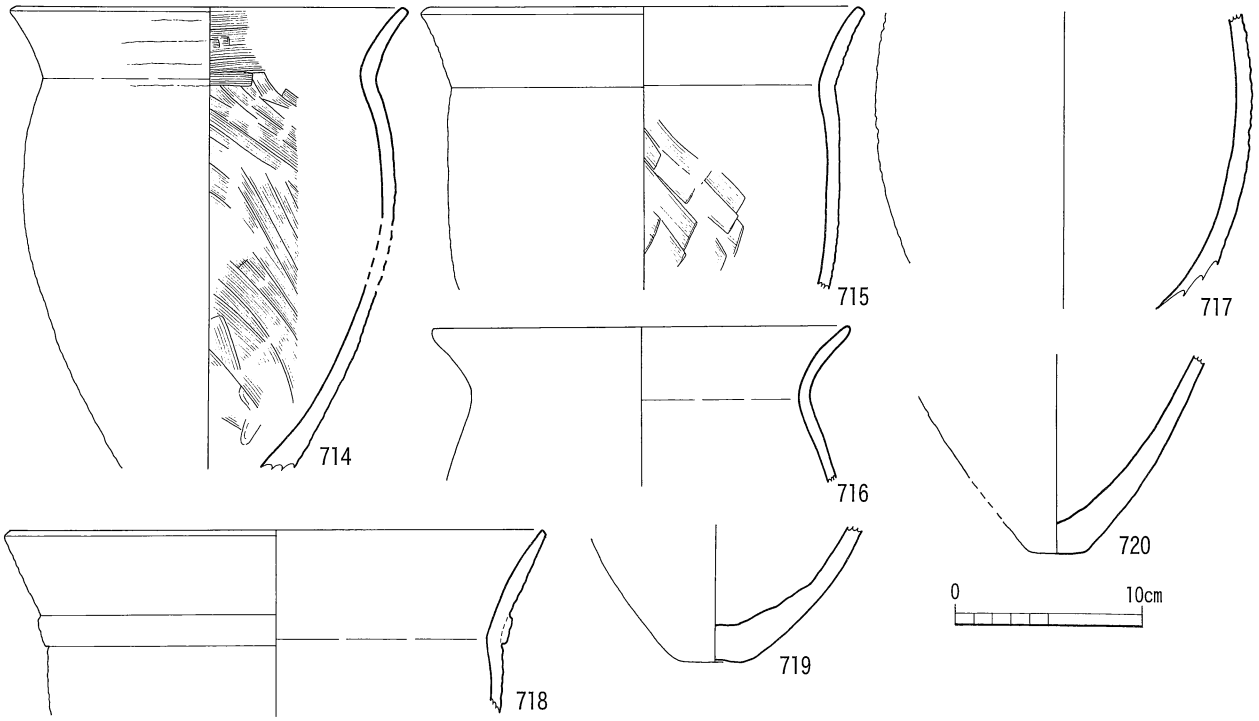
第128図　100号竪穴住居跡（ＳＡ100）出土遺物図（１／４）

101号竪穴住居跡（ＳＡ101・第129図－714～720）

遺構：ＳＡ100・102同様，調査時の不手際で個別遺構図が存在しないため，部分的な記録のみである。Ｂ区北西側，ＳＡ93・94の南側で検出された。平面形態は方形であり，一辺約２ｍ四方の方形である。主軸はＢ区の他の住居跡同様，斜面に直交する。ＳＡ101・102の周辺には暗褐色土（基本層序の第Ⅳ層）が

厚く堆積し，多くの土器・石器類が検出され，この２軒以外の住居跡の存在が推察される。これらの多くが住居跡に伴うものであると考えられるが，どれがどの住居跡に伴うものであるか判断が難しく，ＳＡ101の床面直上で検出した遺物のみを遺構出土遺物として判断した。

遺物：714～718は甕である。718は頸部に格子状の刻みをもつ貼付突帯をもつ。714～718はいずれも外面に平行タタキが認められる。714～716・718は口縁部形態Ｃ類をもつ。このことから714～718は甕Ⅲ類と考えられる。719・720は甕か壺の底部である。

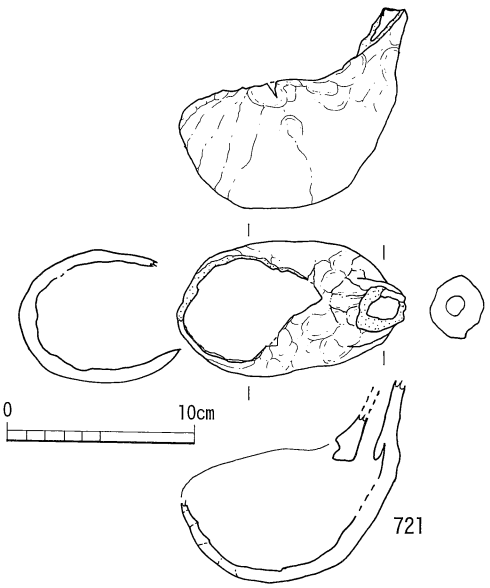


第129図　101号竪穴住居跡（ＳＡ101）出土遺物図（１／４）

102号竪穴住居跡（ＳＡ102・第130図－721）

遺構：ＳＡ100・101同様，調査時の不手際で個別遺構図が存在しないため，部分的な記録のみである。Ｂ区北西側，ＳＡ96の南側で検出された。平面形態は方形であり，一辺約2.5ｍ四方の方形である。他の住居跡は傾斜に直交する主軸をもつが，この住居跡は南北に沿った主軸をもつという点で他と異なる。

遺物：住居跡に伴うと判断できる遺物はほとんどなく，杓子状土器（721）の１点のみが出土した。本遺跡において杓子状土器の柄部は多く出土しているが，受部が付属した状態の出土はこの１点のみである。他の柄部は人の親指大の大きさで工具ナデによる器面調整をしているが，比してこの柄部は細く，指ナデによる器面調整を行っている。しかも柄部と受部が中空の状態で繋がっており，現代の急須のような構造になっている。この土器は杓子状というよりは注口土器としての機能が考えられる。

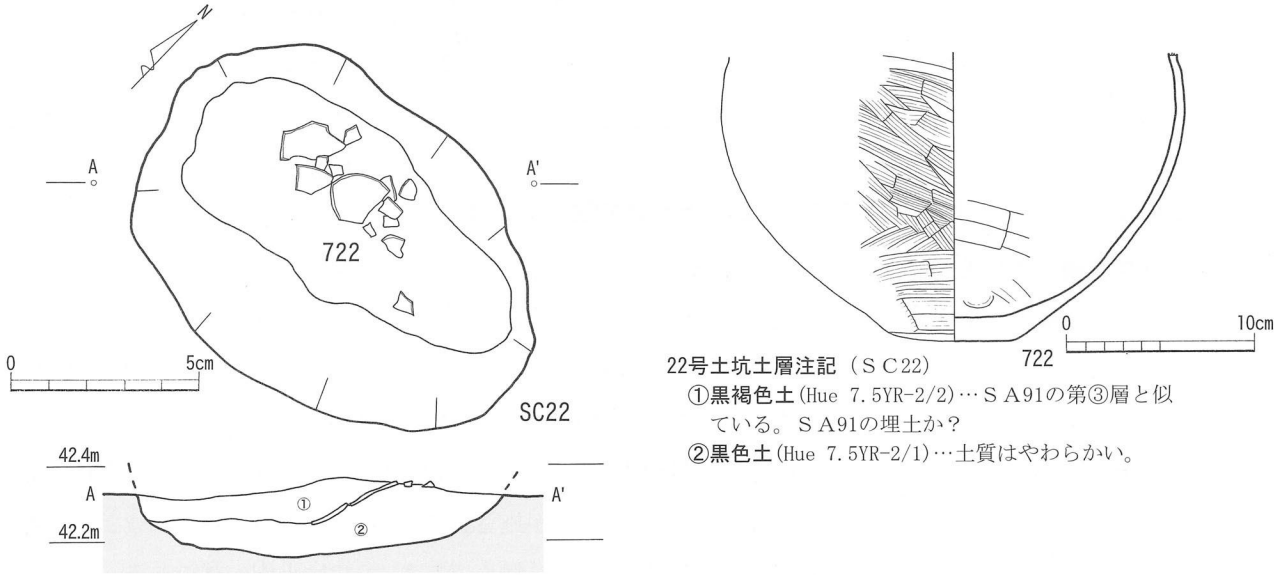


第130図　102号竪穴住居跡（ＳＡ102）出土遺物図（１／４）

22号土坑（ＳＣ22・第131図・第131図－722）

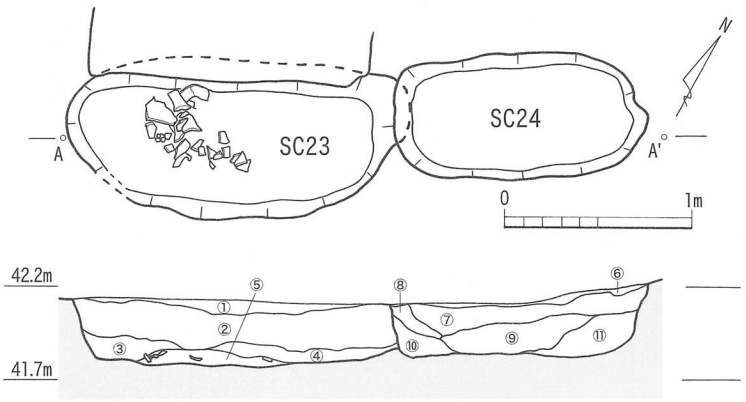
遺構：Ｂ区東側，ＳＡ91の北辺を切る形で検出された。長径約118cm×短径約82cmの楕円形である。検出時の深さは約20cmであるが，ＳＡ91検出作業中，遺構上面が削平された形で検出されたので，正確な深さは不明である。埋土を観察すると，遺物は第②層の黒褐色土層から検出されている。黒褐色土はＳＡ91の第③層（埋土）とよく似ており，ＳＣ22はＳＡ91に切られた状態であると判断できる。

遺物：壺の底部が出土した。底部形態Ｂ類の平底の壺で，表面全体に横と斜方向のハケ目を施している。出土状況からＳＣ22の遺物というよりもＳＡ91の遺物である可能性が高い。



22号土坑土層注記（ＳＣ22）
①**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/2)…ＳＡ91の第③層と似ている。ＳＡ91の埋土か？
②**黒色土**(Hue 7.5YR-2/1)…土質はやわらかい。

第131図　22号土坑（ＳＣ22）図（１／20）及び出土遺物図（１／４）



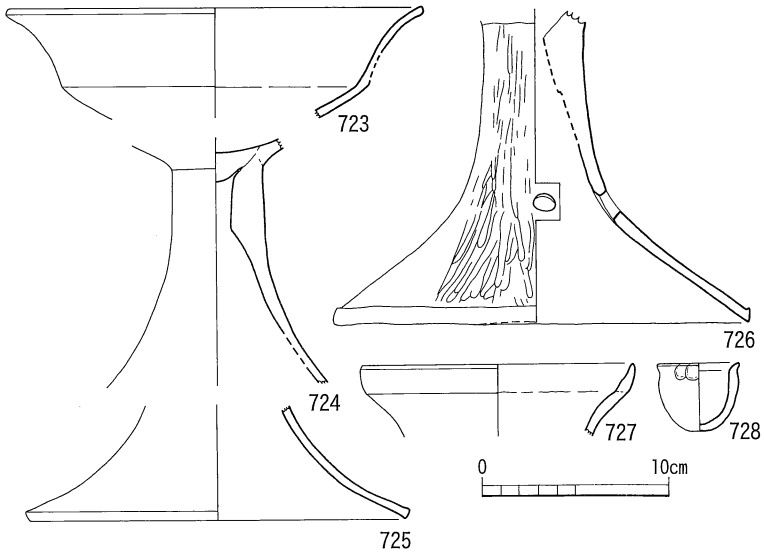
23・24号土坑土層注記（ＳＣ23・24）
①**暗灰黄色土**（Hue 2.5Y-5/2）…ＳＣ23の埋土。基本層序の第Ⅳ層と似ているが，少しやわらかく，色調は灰色がかっている。／②**暗褐色土**（Hue 10YR-3/4）…ＳＣ23の埋土。基本層序の第Ⅳ層の土と似ている。／③**褐色土**（Hue 7.5YR-4/4）…ＳＣ23の埋土。土質はやわらかい。④**褐色土**（Hue 7.5YR-4/4）…第③層と同じ。ＳＣ23の埋土。⑤**暗黄褐色土**（Hue 2.5YR-6/6）…ＳＣ23の埋土。土器片を多く含む層。⑥**暗灰黄色土**（Hue 2.5Y-5/2）…ＳＣ24の埋土。第①層と同じ。⑦**褐色土**（Hue 10YR-4/6）…ＳＣ24の埋土。⑧**にぶい黄褐色**（Hue 10YR-5/4）…ＳＣ24の埋土。⑨**にぶい黄褐色**（Hue 10YR-4/3）…ＳＣ24の埋土。⑩**褐色土**（Hue 10YR-4/4）…ＳＣ24の埋土。炭化物らしき黒色粒が多く確認された。⑪**褐色土**（Hue 10YR-4/4）…第⑩層と同じ。ＳＣ24の埋土。

第132図　23・24号土坑（ＳＣ23・24）図（１／40）

23・24号土坑（ＳＣ23・24・第132図・第133図－723～728）

遺構：Ｂ区東側，ＳＡ91の南側でＳＣ24の東辺がＳＣ23の西辺をわずかに切る形で検出された。２つの土坑は，後世の攪乱により一部破壊されていたが床面近くはほぼ残存していた。ＳＣ23は長軸約180cm×短軸約80cmの長楕円形，ＳＣ24は長軸約130cm×短軸約70cmの長楕円形である。２つの土坑は主軸をほぼ同じくし，横並びで配置されており，計画的な配置が想定される。ＳＣ23の中央部よりやや西で遺物の集中が見られた。

遺物：ＳＣ23からは４点の遺物が出土した。723～726は高坏である。723～725は同一個体である。粉々になった状態で出土したので，完形に復元できなかったが，完形



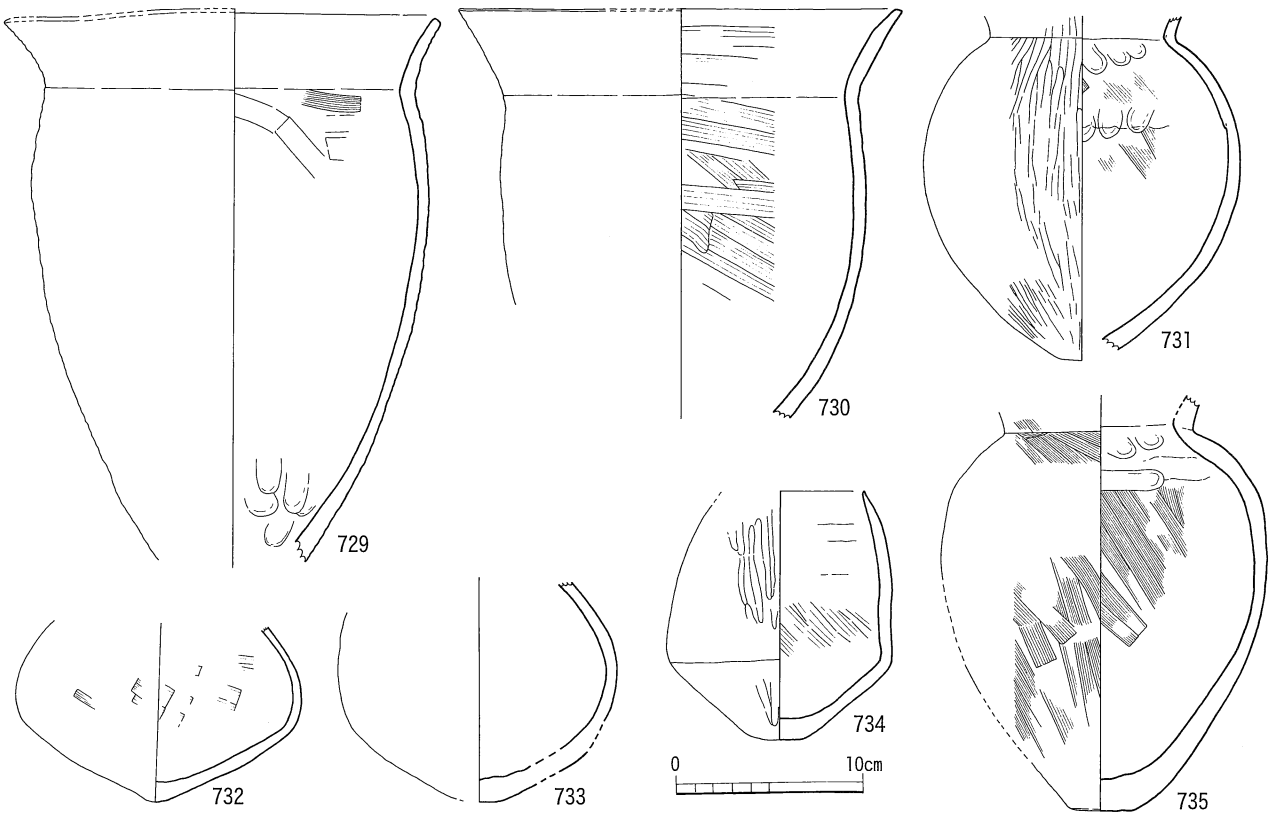
第133図　23・24号土坑（ＳＣ23・24）出土遺物図（１／４）

の状態であったと考えられる。坏部形態Ｂ類・脚部形態Ａ類で高坏Ⅱ類になると考えられる。726は高坏の脚部である。脚部Ａ類と考えられる。２つの高坏は723～725の個体が黒色，726の個体が赤彩された赤色で，あたかも赤と黒のコントラストを狙ったかのような印象をうける。727は壺の口縁部である。一度頸部で屈曲し立ち上がる形態をとる。728は手捏土器である。

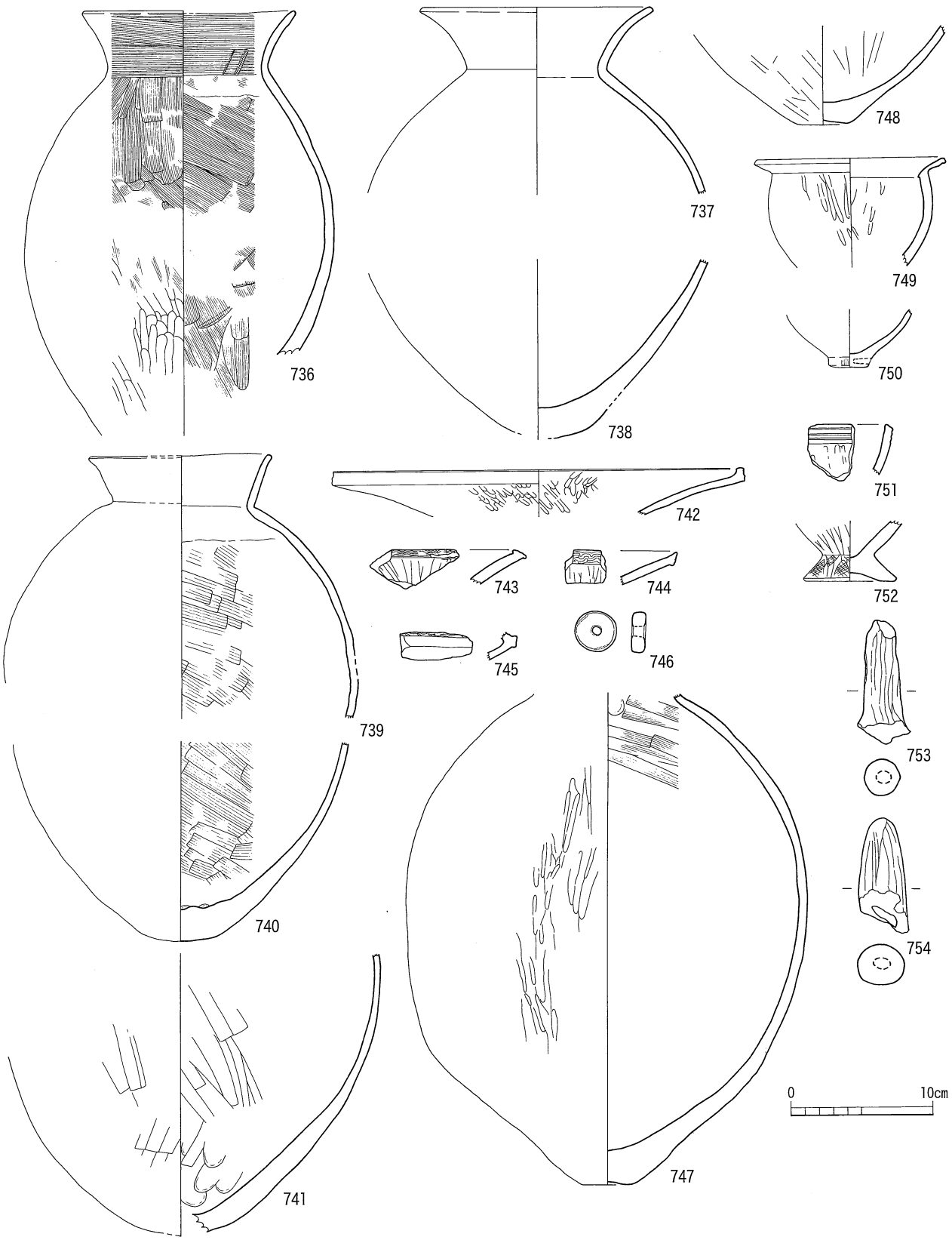
Ｂ区包含層出土の土器（第134図－729～754）

Ｂ区の遺構内出土以外の土器を一括して扱う。

729～730は甕である。729・730ともに口縁部形態Ｃ類で，表面に平行タタキをもつ。甕Ⅲ類である。731～741・743～745・747・748は壺である。736～740は形態より壺Ⅱ類と考えられる。そのうち737と738，739と740は同一個体である。734は頸部のない無頸壺である。743・744は櫛描波状文をもつ壺Ⅰ類の口縁部である。742は器台の受部である。内外面に丁寧なミガキが施されている。745は壺の口縁部または算盤玉のような形状をもつ壺の胴部と考えられる。746は土製の紡錘車である。749は小型の甕である。小型ではあ



第134図　Ｂ区包含層出土遺物図①（１／４）



第135図　B区包含層出土遺物図②（1／4）

るが，形態は甕Ⅰ類に似ている。750は小型の壺である。底部1/3程穿孔を施してある。751はおそらく鉢ⅡB類だと考えられる。内湾しながら立ち上がる口縁部に３条の横走する沈線が施されている。752は脚台付きの鉢であり，鉢Ⅱ類だと考えられる。特筆すべきは，脚部に線刻による三角形の幾何学文が描かれている。753・754は杓子状土器の柄部である。表面全体に工具ナデを施している。

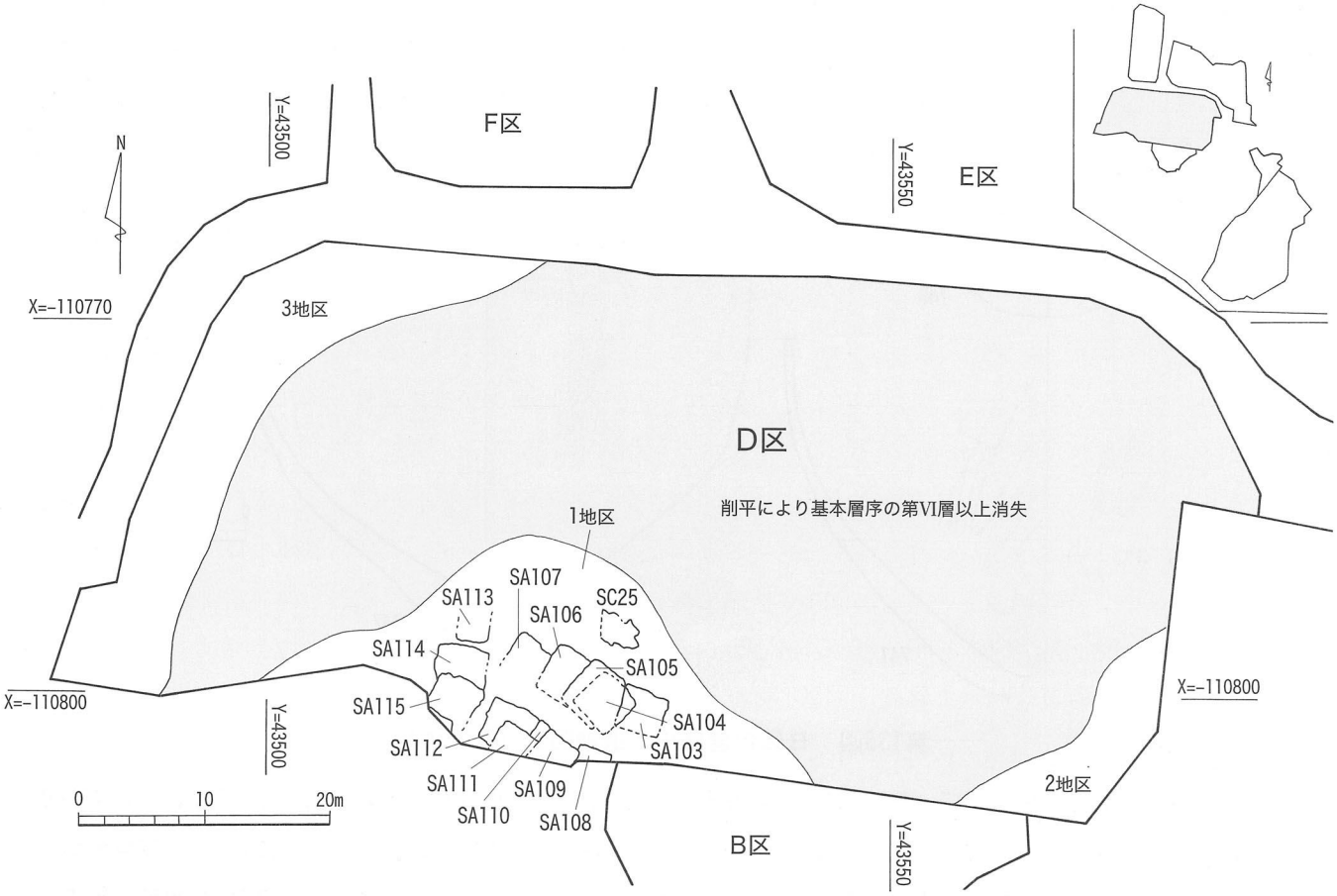
（４）　Ｄ区の調査（第136図～第157図）

Ｄ区は北ブロック中位に位置し，Ｘ軸は８～12ラインを，Ｙ軸はＡ～Ｉラインを包含する3,200㎡の調査区である。Ｂ区とは東半の南辺，Ｅ区とは東半分の北辺，Ｆ区とは西半分の北辺で接地する。

調査は２次調査において実施した。調査前の状況は，東側にコンクリート基礎のハウス２棟と果樹（ミカン）園，西側に畑地が広がっており，ほぼ水平であった。ハウス部分のコンクリート基礎及び果樹園と畑地の耕作土を重機により除去したところ，調査区域の大半は削平され，アワオコシスコリア層とイワオコシスコリア層（基本層序の第Ⅷ層・第Ⅸ層）が面的な広がりをみせていた。辛うじてＢ区と接する南端部と西端部に基本層序の第Ⅳ層以上の包含層が確認された。さらに西側南端は後世の造成土が多量に補填されており，この場所がかつて谷地形であったことが確認された。こうした状況を考えると，Ｄ区は，Ｂ区南部を突端部とする入り組んだ丘陵地であったと推定できる。

検出された遺構は，竪穴住居跡13軒（ＳＡ103～ＳＡ115）・土坑１基（ＳＣ25）・炉穴１基で，出土した遺物から竪穴住居跡と土坑は弥生時代，炉穴は縄文時代に帰属するものだと考えられる。

以下に検出された遺構と遺物について若干の説明をくわえる。竪穴住居跡の計測値は第１表～第３表に，遺物の観察表・計測表は第４表～第32表に掲載している。なお，縄文時代に帰属すると考えられる炉穴は後述「第６節　旧石器時代～縄文時代の調査」に掲載している。



第136図　下那珂遺跡Ｄ区地形図及び遺構配置図〈１／600〉

■竪穴住居跡（ＳＡ103～ＳＡ115）

Ｄ区全体で13軒検出された。いずれもＤ区南辺中央部付近に集中する。Ｂ区同様，ほとんどが主軸と斜面が直交するように配置され，大きくＡ群（ＳＡ103～107）・Ｂ群（ＳＡ108～112）・Ｃ群（ＳＡ113～115）の３群に分けることができる。特にＡ群は，Ｂ区上段グループ（ＳＡ91～96）と連続する住居跡群を形成する可能性がある。また，Ａ・Ｂ両群はそれぞれの群内住居跡が互いに大きく主軸を変えることなく，等高線に沿いながら帯状に重複しあっており，短期間に移動しながら住居を建て替えていったと考えられる。因みに，Ａ群はＳＡ107→106→105→104・ＳＡ103→104（ＳＡ103とＳＡ105の順番は不明）の順番となり，Ｂ群はＳＡ112→110→111→109・ＳＡ108→109（ＳＡ108とＳＡ111の順番は不明）の順番となる。Ｃ群はＳＡ113が独立しており，ＳＡ114→115となる。

住居の規模は切り合いにより全体像が把握できないものが多いが，一辺3.5mから4.2mぐらいに集中する傾向がある。平面形態は方形のものが多いが，緩やかな斜面上に建てられているので，斜面下部は流失しているものが多い。柱穴は他の住居跡群同様，ほとんど確認されなかった。

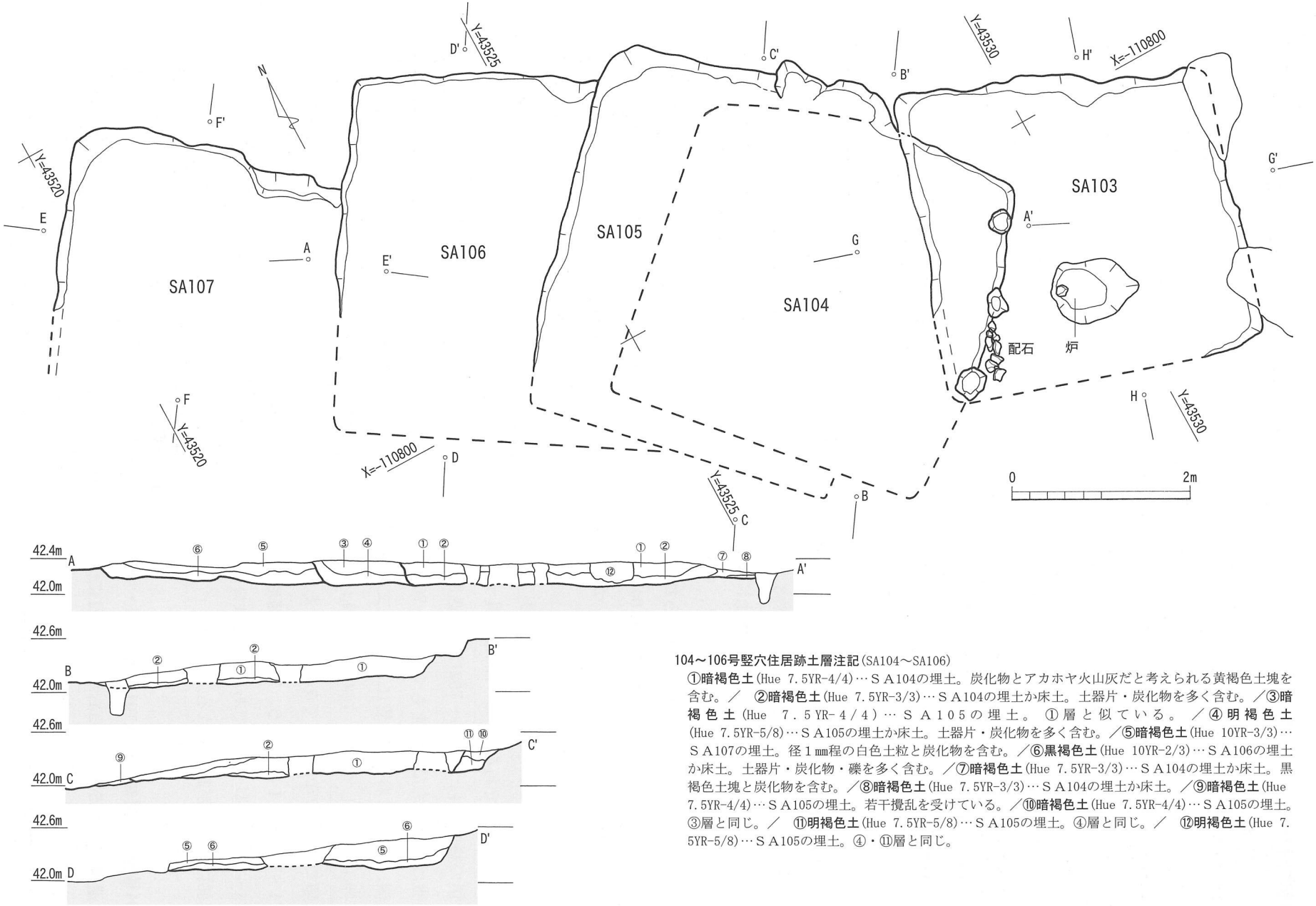
103号竪穴住居跡（ＳＡ103・第137図・第138・第139図－755～783）

遺構：Ａ群の西端で検出された。約3.5m四方の方形で，中央よりやや南側に径約70～90cm・深さ約20cmの土坑が確認された。土坑は埋土に多量の炭化物を含んでいた。さらに土坑埋土は住居跡埋土と考えられる第②層（第138図）下にあり，竪穴住居跡構築以降のものではない。このことから，この土坑は竪穴住居に伴う土坑であると考えられ，炭化物の存在などから炉などの用途に用いられていた土坑ではないかと推察できる。また，ＳＡ104との境界近くに拳大の円礫が８個程直線状に並んで検出された。この礫の意味するところはわからないが，ＳＡ103で用いられていた円礫がＳＡ104造営の折，端によせられたのではないかと推察される。

遺物：ほとんどが細片である。完形に近いもののうち，２点（771・774）は住居跡内土坑出土である。755～762は甕である。755～758は工具ナデやハケ目調整の口縁部であり，口唇部形態Ｂ類に口縁部形態Ｂ類の特徴をもつ。759～762は甕の底部であり，底部形態Ｄ類の特徴をもつ。このことから，ＳＡ103の甕は甕Ⅱ類的な要素をもつ。763～767は壺である。763・764は口縁部形態Ｂ類をもち，763は口縁部内側，764は口唇部に竹管による押圧文を施している。765は壺の頸部であり，斜位の刻目文と竹管による押圧文を施している。768・769は高坏である。768は坏部形態Ｂ類・769は脚部形態Ｂ類であり，高坏Ⅱ類である。770は細片であり不明であるが，おそらく器台の裾部と考えられる。771～774は鉢である。771～773は鉢Ⅰ類である。771は胴部形態Ｃ類・底部形態Ｂ類をもつ。774は小型の鉢ⅡＡ類である。775～780は小型土器片である。780は口縁部に８～９条の櫛描文をもつ。782・783は敲石であり，長軸端部に敲打痕が認められる。

104号竪穴住居跡（ＳＡ104・第137図・第140図・第141図－784～811）

遺構：Ａ群５軒のうち右から２番目に位置する。切り合い関係より，Ａ群の中では最も時期の新しい住居跡であることがわかる。平面形態は，西側がＳＡ105と一部混同し，南側が傾斜により流失しているが，およそ3.5m四方の方形を呈する。遺物は床面一面より出土しているが，北壁中央部付近から完形に近い甕(784)・壺(794・795)や石庖丁(810)・砥石(811)が集中して出土した。



104～106号竪穴住居跡土層注記(SA104～SA106)

①暗褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ104の埋土。炭化物とアカホヤ火山灰だと考えられる黄褐色土塊を含む。／ ②暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ104の埋土か床土。土器片・炭化物を多く含む。／③暗褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ105の埋土。①層と似ている。／④明褐色土(Hue 7.5YR-5/8)…ＳＡ105の埋土か床土。土器片・炭化物を多く含む。／⑤暗褐色土(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ107の埋土。径１mm程の白色土粒と炭化物を含む。／⑥黒褐色土(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ106の埋土か床土。土器片・炭化物・礫を多く含む。／⑦暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ104の埋土か床土。黒褐色土塊と炭化物を含む。／⑧暗褐色土(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ104の埋土か床土。／⑨暗褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ105の埋土。若干攪乱を受けている。／⑩暗褐色土(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ105の埋土。③層と同じ。／ ⑪明褐色土(Hue 7.5YR-5/8)…ＳＡ105の埋土。④層と同じ。／ ⑫明褐色土(Hue 7.5YR-5/8)…ＳＡ105の埋土。④・⑪層と同じ。

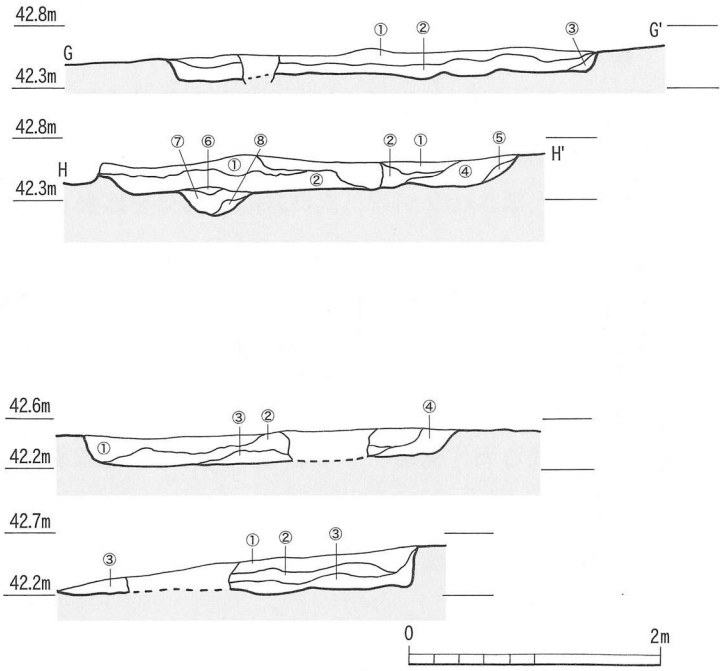
第137図　103・104・105・106・107号竪穴住居跡（ＳＡ103・104・105・106・107）図（１／60）

103号竪穴住居跡土層注記(SA103)

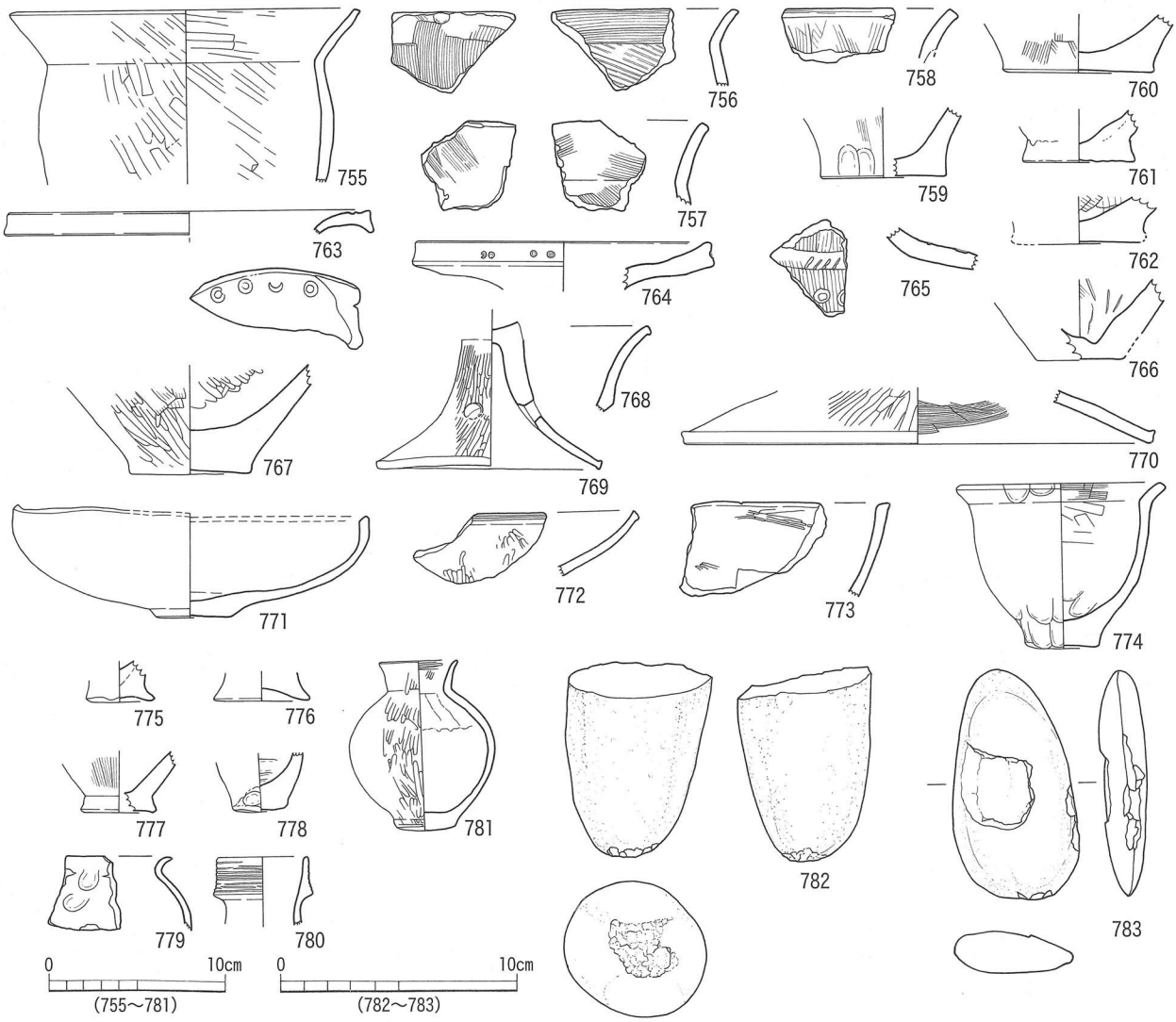
①**黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/1)…住居跡埋土。土質はやわらかい。／②**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…住居跡埋土。径1㎜程の明黄褐色土粒を含む。土器片と炭化物を多く含む。／③**褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…住居跡埋土。炭化物を少量含む。／④**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…住居跡埋土。土質は③層に似ているが，色調が少し暗い。／⑤**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…住居跡埋土。土質はかたくしまっている。／⑥**黒褐色土**(Hue 7.5YR-2/3)…住居跡の埋土か炉の埋土。炭化物を多く含む。／ ⑦**黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…炉の埋土。炭化物を多量に含み，焼土だと考えられる明褐色土も多く含む。／⑧**黒色土**(Hue 2.5YR-2/1)…炉の埋土。⑦層同様，明褐色土と炭化物を多量に含む

107号竪穴住居跡土層注記(SA107)

①**褐色土**(Hue 10YR-4/4)…住居跡埋土。径1㎜程の白色土粒を含む。炭化物を少量含む。／②**暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…住居跡埋土。径1㎜程の明黄褐色土粒を含む。土器片を含む。／③**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/4)…住居跡埋土。②層と似ているが，明黄褐色土粒がより多い。／④**黒褐色土**(Hue 2.5YR-2/2)…住居跡埋土。明黄褐色土粒を多く含む。／⑤**褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…後世の攪乱土。



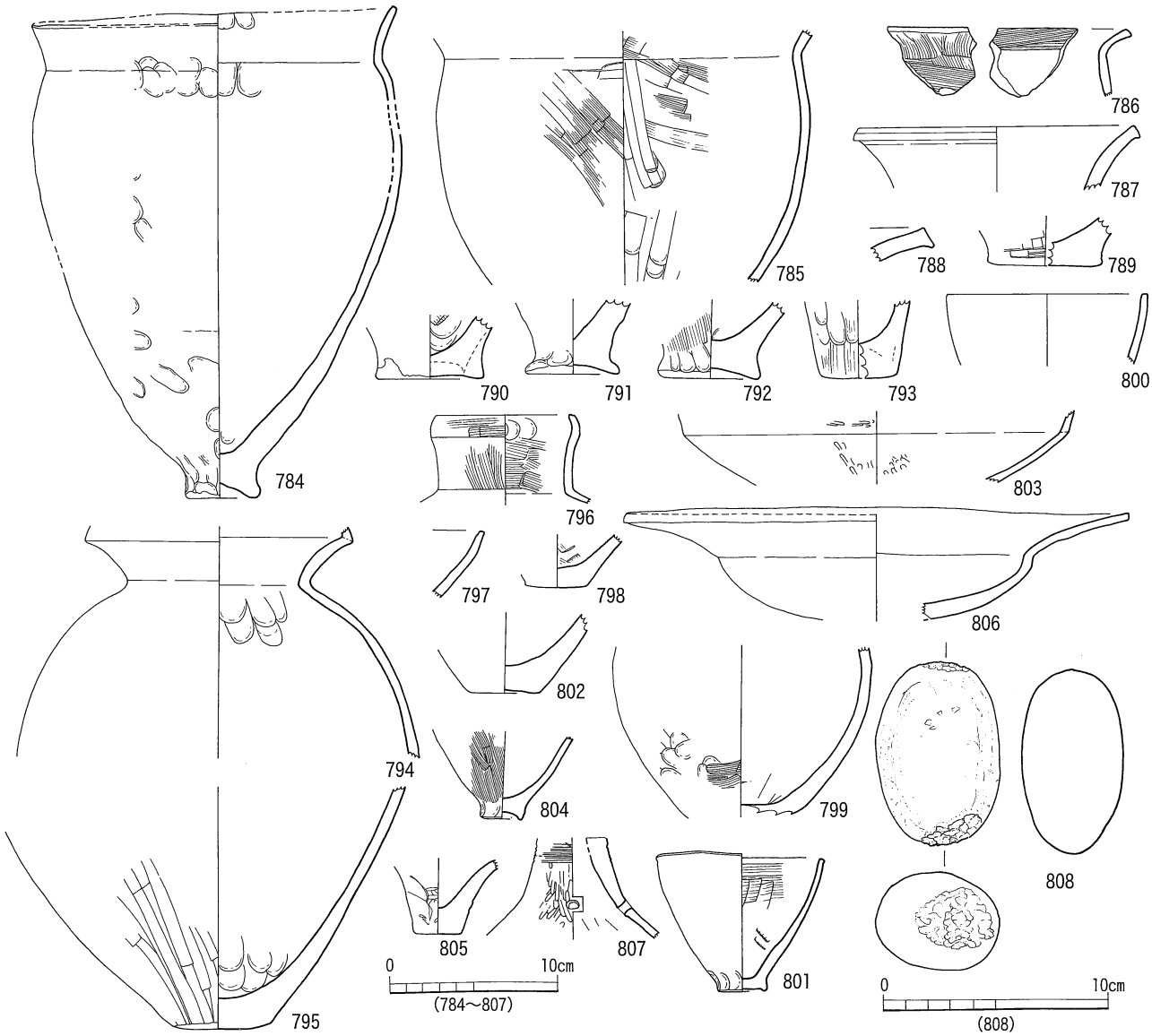
第138図　103・107号竪穴住居跡（ＳＡ103・107）土層断面図（１／60）



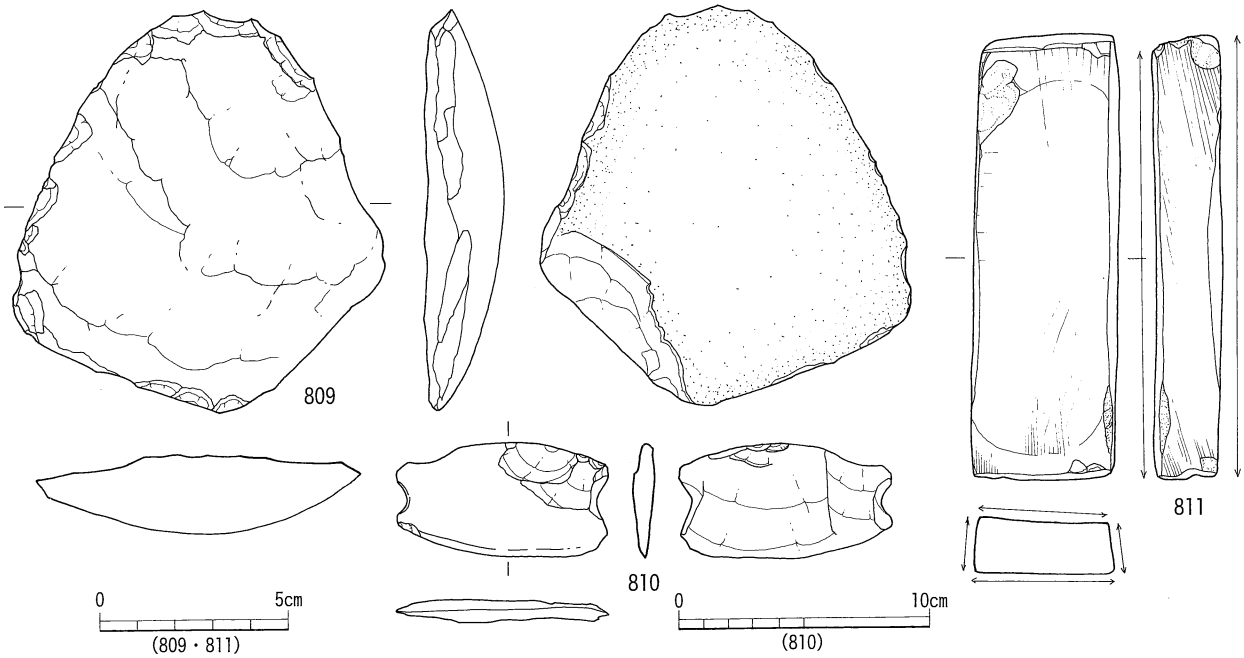
第139図　103号竪穴住居跡（ＳＡ103）出土遺物図（１／４・１／３）

遺物：784～786・790～792は甕である。784は口縁部形態Ｂ類に底部形態Ｂ類をもち，甕Ⅱ類と考えられる。791～792は底部であり，底部形態はＢ類で，指ナデによる調整が行われている。794～799は壺である。794・795は同一個体で二重口縁をもつ壺Ⅰ類である。796は壺の口縁部で，短頸壺の口縁部をわずかに内傾させながら二次口縁的な部分を拡張している。800～801・806は鉢である。801は小型の鉢ⅡＢ類である。806はＳ字胴部を特徴とする鉢ⅠＡ類である。803・807は高坏である。803は高坏Ⅱ類の坏部である。 807は器面調整にミガキを施し，脚柱部に横走する数条の櫛描文をもつ脚部である。文様・調整方法から，瀬戸内地域との関連が考えられる。

808は敲石である。長径の両端部に敲打痕が認められる。809は蛤形剥片石器である。円礫から剥いだ自然面の残る剥片を用いるⅠ類で，周縁に微細な剥離を施すことによって刃部を作出している。810はⅡＤ類（両端に抉りをもつ弧背弧刃）の石庖丁である。811は砥石ⅠＢ類（定型化した板状砥石）であり，表面中央部の緩やかな窪みや表裏面と側面端部の擦痕が確認できる。



第140図　104号竪穴住居跡（ＳＡ104）出土遺物図①（１／４・１／３）

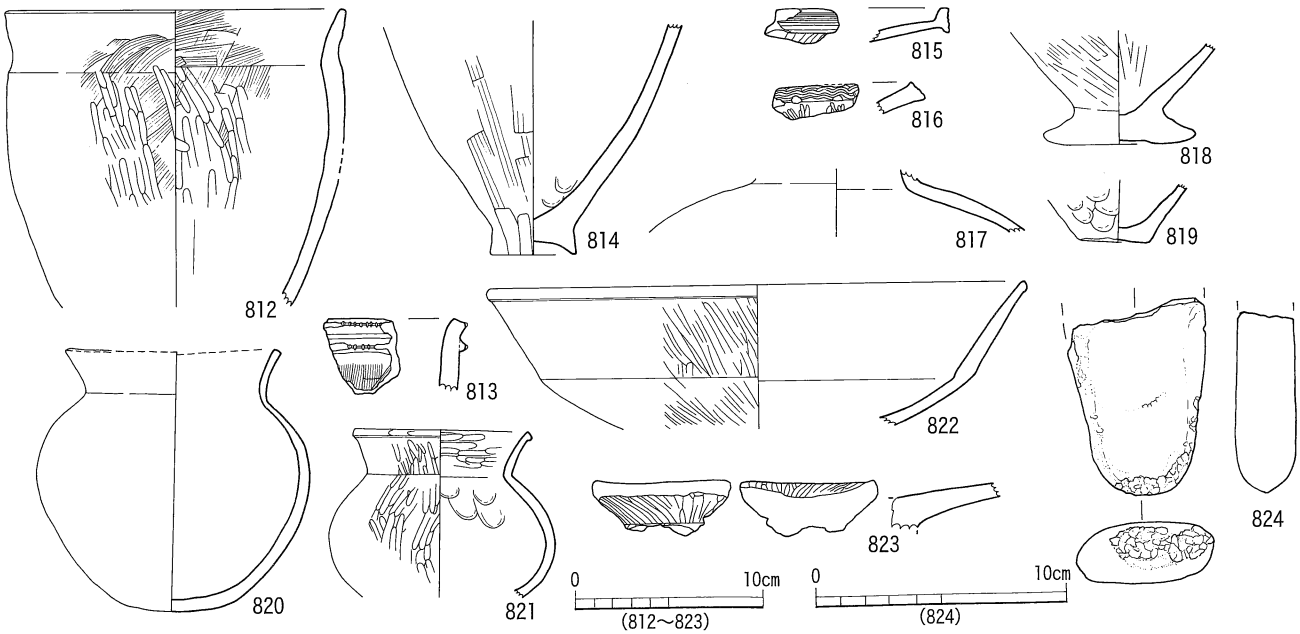


第141図　104号竪穴住居跡（ＳＡ104）出土遺物図②（１／２・１／３）

105号竪穴住居跡（ＳＡ105・第137図・第142図－812～824）

遺構：Ａ群５軒のうち中央部に位置する。ＳＡ106を切り，ＳＡ104に切られている形で検出された。遺構は，全体的に大きくＳＡ104に切られ，南側が傾斜により流失しているため全体の約１／３程度しか残存していない。平面形態は断面及び西辺から考えて，およそ4.2m×3.5mの若干南北に長い方形である。

遺物：812～814は甕である。812は短い口縁部に内外面にミガキを施す。813は口唇部と口縁部下に２条の縦位の刻目付き貼付突帯文をもつ下城系の口縁部である。815～817・820～821は壺である。815・816は大きく開く口縁部形態Ｂ類で，815が口唇部に凹線文をもち，816が口唇部に櫛描波状文をもつ。820・821は緩やかに口縁部が曲がる小型壺である。外面にミガキを施す。822・823は高坏である。822は明瞭に屈曲しながら外反する高坏Ⅱ類の坏部である。824は敲石である。楕円形礫の長径端部に敲打痕が認められる。

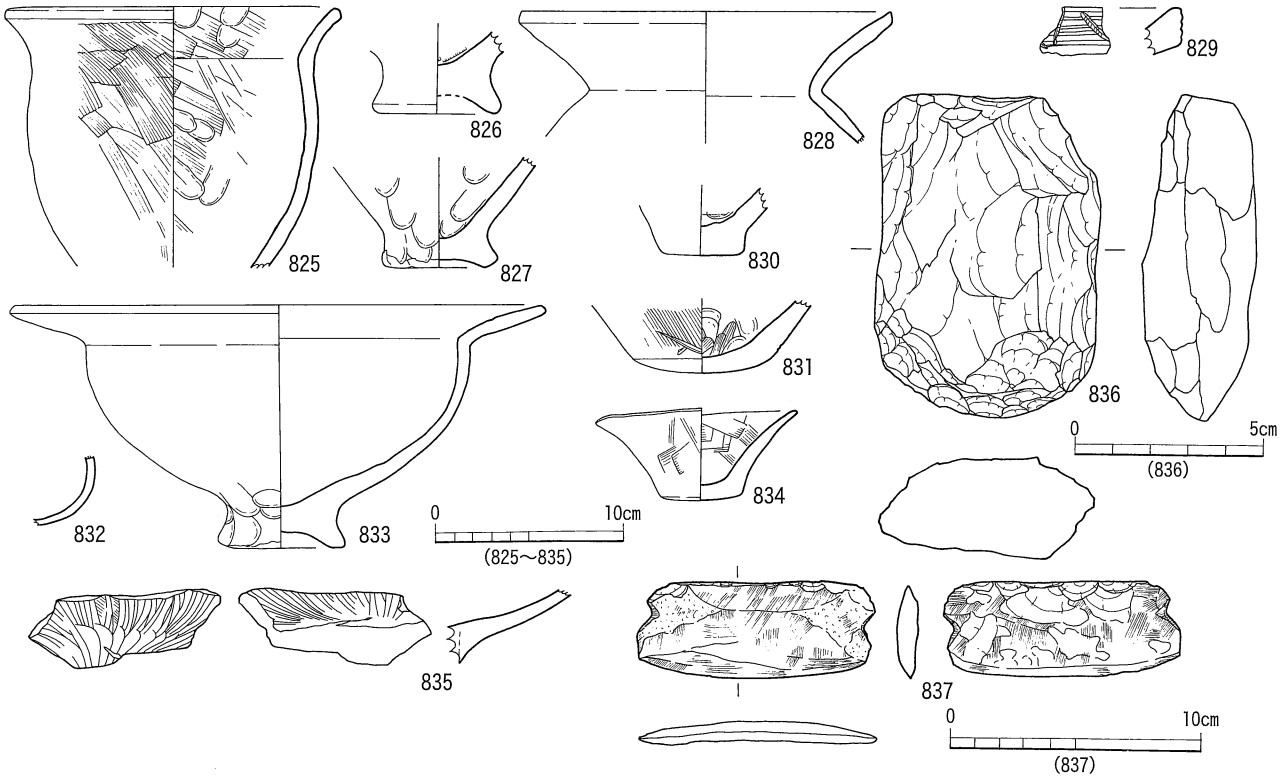


第142図　105号竪穴住居跡（ＳＡ105）出土遺物図（１／４・１／３）

106号竪穴住居跡（ＳＡ106・第137図・第143図－825～837）

遺構：Ａ群５軒のうち西から２番目に位置する。ＳＡ107を切り，ＳＡ105に切られている形で検出された。ＳＡ105に切られ，南側が傾斜により流失しているため全体の約１／２程度の残存状況である。平面形態は断面及び北辺と西辺から考えて，およそ一辺4.1mの方形と推察される。遺物は北西隅を中心とする数か所に固まって出土した。

遺物：825・826は小型甕である。827～830は壺である。828は頸部で「く」字状に曲がり大きく開く壺Ⅱ類の口縁部～頸部である。829は口唇部に凹線文上に斜位の押圧文を施す口縁部である。832～834は鉢である。833は大きく開く口縁部と脚台状底部をもつ鉢ＩＡ類である。834は外反しながら開く口縁部と平底の底部をもつ小型鉢である。形状からみて蓋の可能性もある。835は高坏の坏下部である。836はホルンフェルス製の打製石斧である。刃部付近に細かな剥離を施している。837はⅡＣ類（両端に抉りをもつ直背直刃）の石庖丁である。

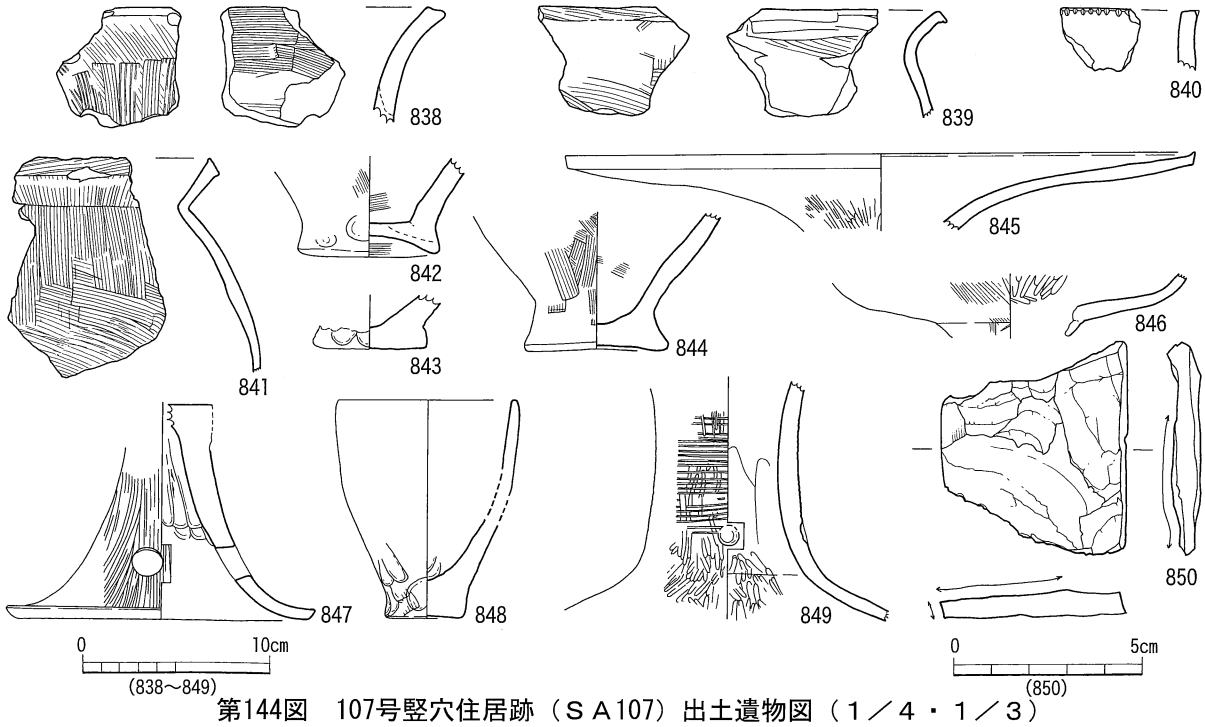


第143図　106号竪穴住居跡（ＳＡ106）出土遺物図（１／４・１／２・１／３）

107号竪穴住居跡（ＳＡ107・第137図・第138図・第144図－838～850）

遺構：Ａ群５軒のうち西端に位置する。ＳＡ106に切られ，Ａ群の中では最も古い住居跡と考えられる。南端の流失が著しく遺構の半分近くが残存しない。さらに中央部に木根による攪乱が数か所ある。残存している規模は北辺約3.1m×西辺約２mである。北辺と西辺は直交しており，方形または長方形の平面形態が推察できる。しかし，他の住居跡と異なり，北辺は直線状ではなく東側でクランク状に曲がる。このことは，ＳＡ107に別の竪穴住居跡や土坑などもう一つの別な遺構があったこと，北辺に入口施設などの構造物があったことを示す可能性があるが，ＳＡ２やＳＡ67のような平面形態である可能性もある。

遺物：838～840は甕である。838は口唇部断面が凹面状に窪む口唇部形態Ａ類の口縁部である。839は口唇部断面が平坦状である口唇部形態Ｂ類の口縁部である。838・839ともに内外面に工具ナデを施す。840は口唇部に縦位の刻文をもつ口縁部である。841～844は壺である。841は短く「く」字状に曲がる壺Ⅲ類の口縁部である。外面に工具ナデを施す。842は上底の底部である。846・847は高坏である。847は短いが，細身の受部から大きく「八」字状に開く脚部形態Ｂ類である。845・849は器台である。845は細身の柱部から急激に開く形状である。849は柱部に凹線文と円形透かしが施され，備讃瀬戸地域との類似性が認められる。848は直立気味に立ち上がる小型の深鉢（鉢ⅡＢ類）である。850は砥石ⅠＢ類（定型板状砥石）が剥離・欠損したものであり，表面１面のみに研磨痕が認められる。



第144図　107号竪穴住居跡（ＳＡ107）出土遺物図（１／４・１／３）

108号竪穴住居跡（ＳＡ108・第145図）

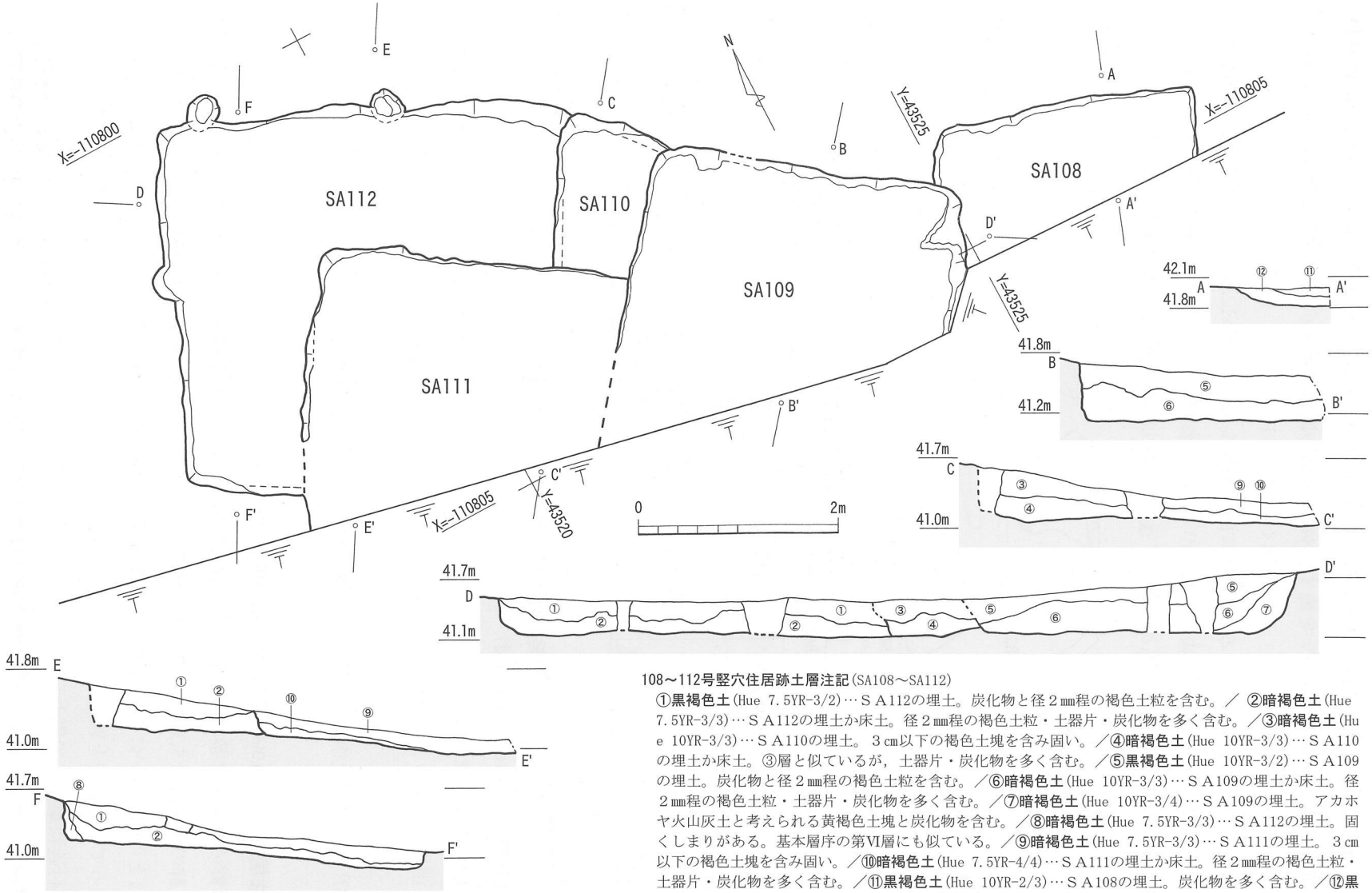
遺構：Ｂ群の東端に位置する。ＳＡ109に西辺を切られている形で検出された。南半分は造成工事の掘削により消失しており，遺構の半分以上が残存しない。残存する北辺は約2.6ｍであり，小型の住居跡である。

遺物：細片のみが埋土中から出土し，遺構に伴うと判断できる遺物がなかった。

109号竪穴住居跡（ＳＡ109・第145図・第146図－851～863）

遺構：Ｂ群の東から２番目に位置する。ＳＡ108の西辺・ＳＡ110東部・ＳＡ111東部を切る形で検出された。Ｂ群の中では最も新しい住居跡だと考えられる。南半分は造成工事の掘削によって消失し，西辺はＳＡ111との切り合いによって攪乱されており，遺構の約１／３が消失している。北辺は3.9ｍあり，部分的に残っている東辺と西辺は北辺に対して直交し，方形か長方形の平面形態が推定できる。遺物は北壁中央部付近に集中して出土した。

遺物：851～853は甕である。851は内外面に横方向のミガキを施す小型甕であり，頸部に１条の貼付突帯をもつ。852は緩やかに「く」字状に曲がる口縁形態Ｃ類の口縁部であり，胴部に平行タタキを施



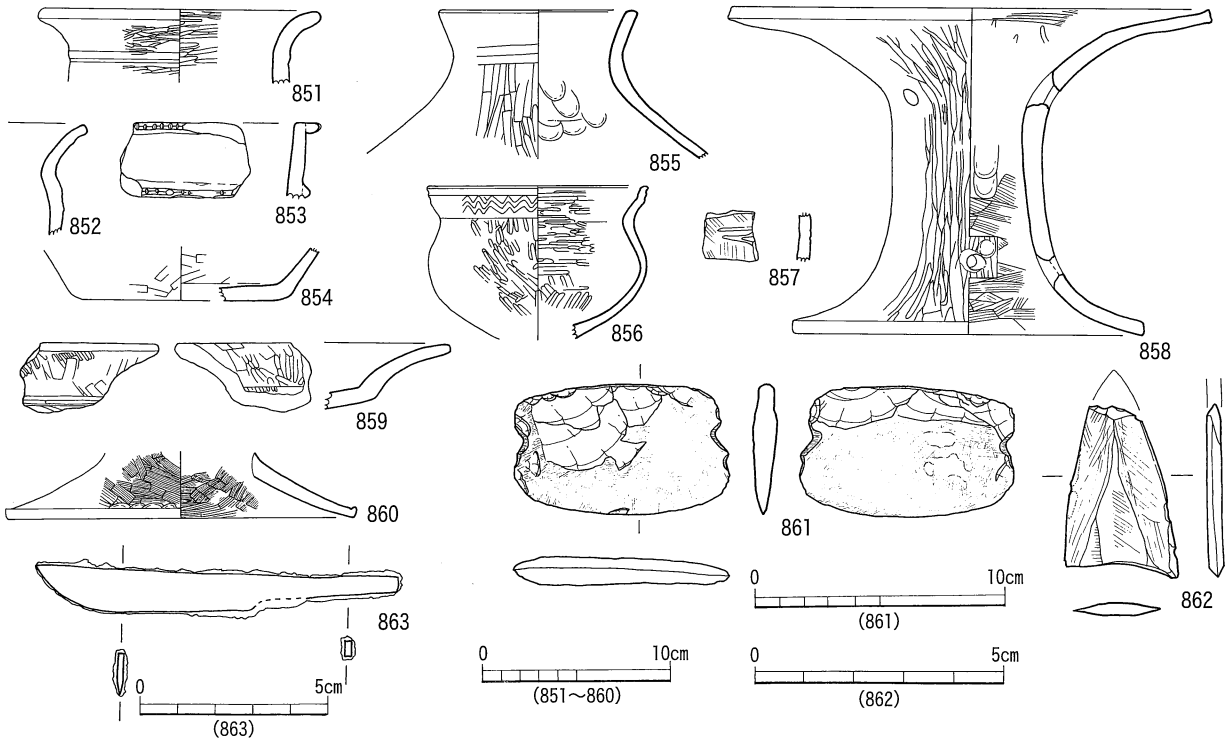
108～112号竪穴住居跡土層注記(SA108～SA112)

①**黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…ＳＡ112の埋土。炭化物と径２㎜程の褐色土粒を含む。／②**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ112の埋土か床土。径２㎜程の褐色土粒・土器片・炭化物を多く含む。／③**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ110の埋土。３㎝以下の褐色土塊を含み固い。／④**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ110の埋土か床土。③層と似ているが，土器片・炭化物を多く含む。／⑤**黒褐色土**(Hue 10YR-3/2)…ＳＡ109の埋土。炭化物と径２㎜程の褐色土粒を含む。／⑥**暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…ＳＡ109の埋土か床土。径２㎜程の褐色土粒・土器片・炭化物を多く含む。／⑦**暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…ＳＡ109の埋土。アカホヤ火山灰土と考えられる黄褐色土塊と炭化物を含む。／⑧**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ112の埋土。固くしまりがある。基本層序の第Ⅵ層にも似ている。／⑨**暗褐色土**(Hue 7.5YR-3/3)…ＳＡ111の埋土。３㎝以下の褐色土塊を含み固い。／⑩**暗褐色土**(Hue 7.5YR-4/4)…ＳＡ111の埋土か床土。径２㎜程の褐色土粒・土器片・炭化物を多く含む。／⑪**黒褐色土**(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ108の埋土。炭化物を多く含む。／⑫**黒褐色土**(Hue 10YR-2/2)…ＳＡ108の埋土。⑪層と似ているが，径１㎝褐色土粒を含む。

第145図　108・109・110・111・112号竪穴住居跡（ＳＡ108・109・110・111・112）図（１／60）

す。854～855・857は壺である。857は不定方向のハケ目調整の上に沈線文を施している。細片であり，全体の沈線文様は不明である。858は器台である。受部の方が裾部より広い寸胴形である。859～860は高坏である。859は一度明瞭に屈曲し外反しながら立ち上がる坏部形態Ｂ類の口縁部である。861はⅡＤ類（両端に抉りをもつ弧背弧刃）の石庖丁である。862は磨製石鏃である。他の磨製石鏃の例に多い（本遺跡では約50％）ように切っ先部分が欠損している。

863は刀子である。全長9.6cm（うち刃部長6.0cm・茎長3.6cm）・厚さ0.4cm，片刃で斜め関の形状をもつ。断面形は刃部楔形，茎部隅丸方形を呈する。弥生時代において，刀子は主に北部九州を中心とする西日本の弥生時代後期から終末期にかけての墓や住居跡から出土することが多く，武器や工具としての用途が考えられている。本遺跡出土刀子はこの１点のみであるが，弥生時代後期から終末期頃の竪穴住居跡出土という全国的な通例に沿う出土例となった。

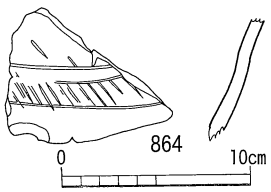


第146図　109号竪穴住居跡（ＳＡ109）出土遺物図（１／４・１／３・２／３・１／２）

110号竪穴住居跡（ＳＡ110・第145図・第147図－864）

遺構：Ｂ群の中位に位置する。ＳＡ109・ＳＡ111・ＳＡ112に大部分を切られており，北西隅部のみの検出であった。北辺と西辺が直交することから方形か長方形の平面形態が推察されるが，規模等は不明である。

遺物：細片が数点のみが埋土中から出土し，遺構に伴うと判断できうる遺物は少なかった。864は，甕か鉢の頸部付近の細片である。表面にヘラ描きによる横方向と斜方向の組合せ文様が施されている。

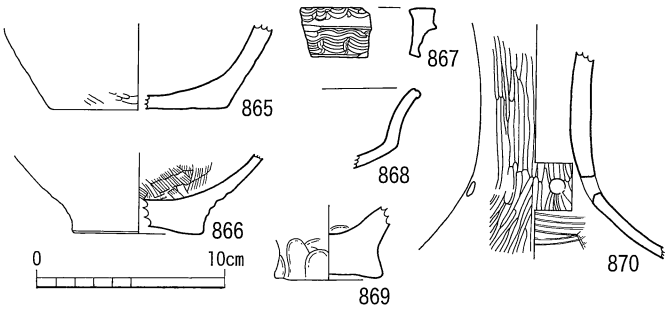


第147図　110号竪穴住居跡（ＳＡ110）出土遺物図（１／４）

111号竪穴住居跡（ＳＡ111・第145図・第148図－865～870）

遺構：Ｂ群の西側に位置する。南半が造成により消失し，東辺がＳＡ109に切られ，ＳＡ110とＳＡ112を切る形で検出された。残存する規模は，辺長約3.1ｍの北辺と辺長約2.8ｍの西辺が直交することから，一辺３ｍ以上の方形または長方形の平面形態を呈するものと推測できる。

遺物：865～867は壺である。865は底部形態Ｂ類，866は底部形態Ａ類とＢ類の中間的要素をもつ。867は口縁部であり，櫛描波状文を施す。868は高坏である。一度明瞭に屈曲し外反しながら立ち上がる坏部形態Ｂ類の特徴をもつ。869は外面に指ナデを施した底部形態Ｂ類の甕の底部である。870は器台である。縦方向の丁寧なミガキを施しており，円形透かしをもつ。

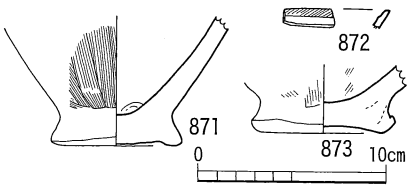


第148図　111号竪穴住居跡（ＳＡ111）出土遺物図（１／４）

112号竪穴住居跡（ＳＡ112・第145図・第149図－871～873）

遺構：Ｂ群の西端に位置する。ＳＡ110とＳＡ111に東部を約１／３切られた状態で検出された。Ｂ群の中では最も古い住居跡の可能性がある。規模は東西約4.0ｍ・南北約3.6ｍで，平面形態は方形に近い長方形である。壁面に柱穴が３基程認められたが，３基とも包含層中から掘り込まれており，後の時期のものであろうと判断した。

遺物：871～873は壺である。871・873は縦方向のハケ目の器面調整に上げ底気味の底部形態をもつ。872は細片で詳細が不明であるが，内面の口唇部付近を若干窪ませ，斜方向のハケ目を施す土器である。小型鉢もしくは小型甕の口縁部と考えられる。



第149図　112号竪穴住居跡（ＳＡ112）出土遺物図（１／４）

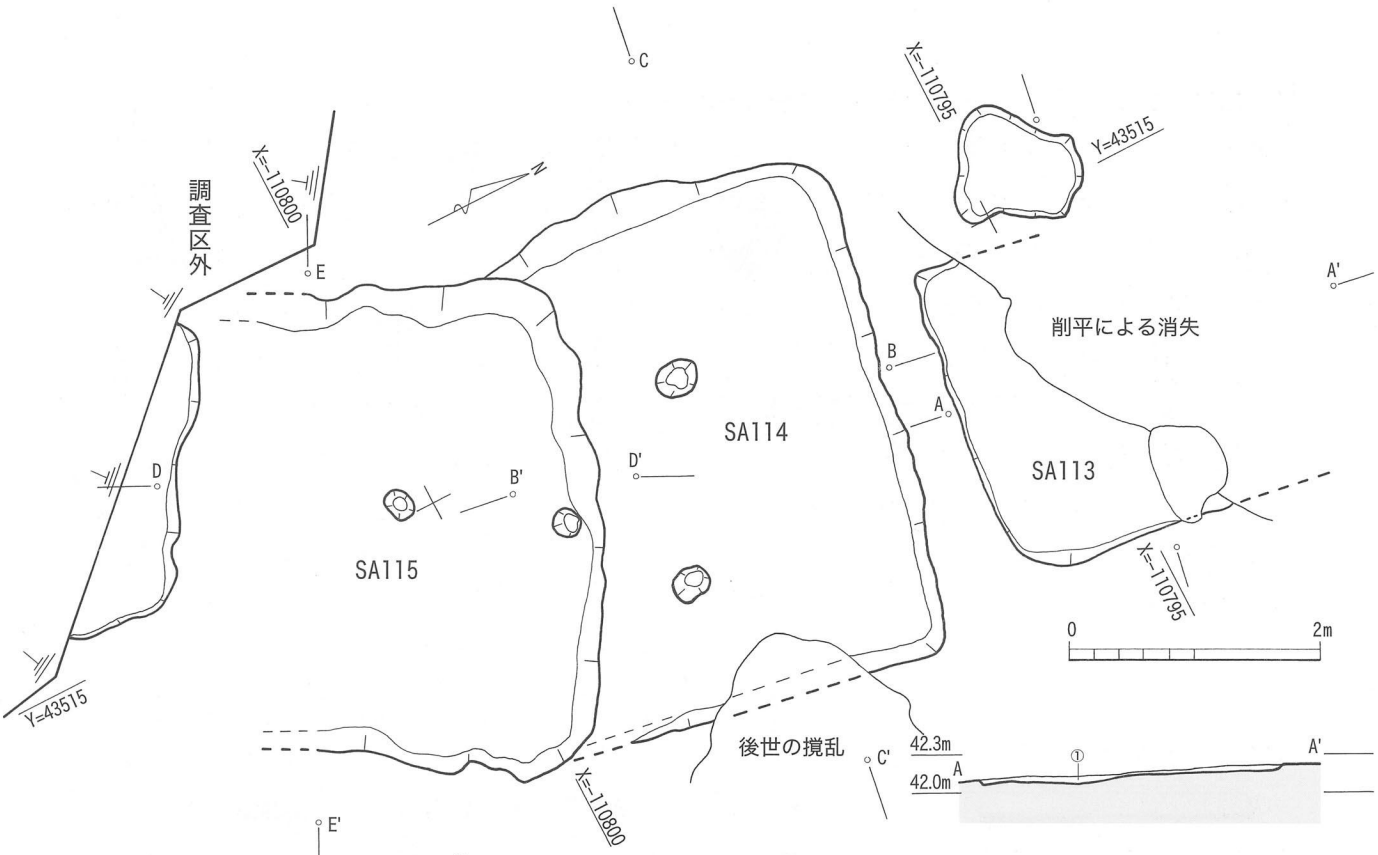
113号竪穴住居跡（ＳＡ113・第150図）

遺構：Ｃ群の北側，床面付近のみの検出である。他住居跡との切り合いはなく，独立している。北半分は後世の攪乱及び削平のため，遺構面が消失している。辺長2.6ｍの南辺が残り，一辺2.6ｍ程度の小型の方形もしくは長方形の平面形態が推測される。この住居跡の床面は，傾斜の低い南半に床面が残ることから，水平ではなくやや南に傾斜していたと考えられる。主軸はN-6°-Eとおよそ南北方向である。

遺物：細片が数点のみが埋土中から出土し，遺構に伴うと判断できうる遺物がなかった。

114号竪穴住居跡（ＳＡ114・第150図・第151図・第152図－874～905）

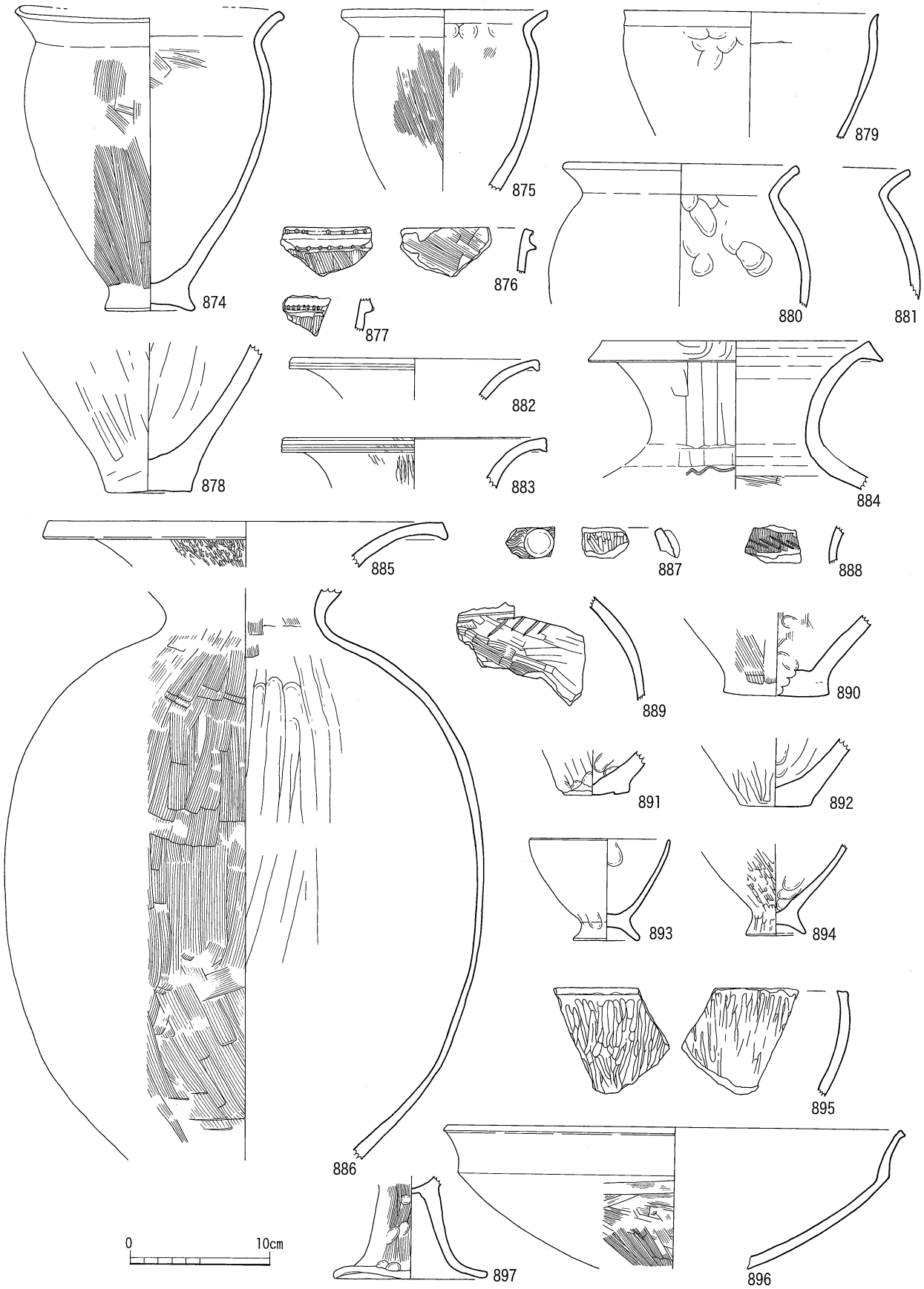
遺構：Ｃ群の中央部に位置する。ＳＡ115に南半部を切られ，１／２程度残存している。辺長約4.1ｍの北辺と西辺・東辺がそれぞれ直交することから一辺４ｍ前後の方形か長方形の平面形態が推測される。主軸はN-7°-EとＳＡ113とほぼ同じく南北方向である。床面で２基の柱穴らしきピットが確認されたが，ＳＡ111同様，包含層中から掘り込まれており，後の時期のものと考えられる。遺物は北壁近く，特に北東隅部付近に集中している。



113号竪穴住居跡土層注記(SA113)
①暗褐色土(Hue 10YR-3/3)…竪穴住居跡の埋土。炭化物を含む。
114号竪穴住居跡土層注記(SA114)
①黒褐色土(Hue 7.5YR-3/2)…竪穴住居跡の埋土。土質はやわらかく，炭化物を多く含む。／**②暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…竪穴住居跡の埋土。黄褐色土粒と少量の炭化物を含む。／**③暗褐色土**(Hue 10YR-3/3)…竪穴住居跡の埋土。土器片3を多く含む。／**④暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…竪穴住居跡の埋土か床土。黄褐色土塊を多く含む。／**⑤黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…①層と似ており，同一とも考えられるが。土質はやわらかく含有物が少ない。／**⑥黒色土**(Hue2.5YR-2/1)…後世の撹乱土。／**⑦黒色土**(Hue 10YR-3/1)…竪穴状遺構の埋土。基本層序の第Ⅱ層にも似ている。／**⑧暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…竪穴状遺構の埋土。⑦層に比べ硬くしまり黄褐色土塊を多く含む。／ **⑨黒色土**(Hue 2.5YR-2/1)…後世の撹乱土。
115号竪穴住居跡土層注記(SA115)
①暗褐色土(Hue 10YR-3/3)…竪穴住居跡の埋土。黄褐色土塊を多く含む。／**②暗褐色土**(Hue 10YR-3/3…竪穴住居跡の埋土。①層と似ているが，炭化物を多く含む。／**③にぶい黄褐色土**(Hue 10YR-5/4)…竪穴住居跡の埋土か床土。粘性があり固くしまっている。／**④黒褐色土**(Hue 7.5YR-3/2)…後世のピットによる撹乱土。

第150図　113・114・115号竪穴住居跡（ＳＡ113・114・115）図（１／60）

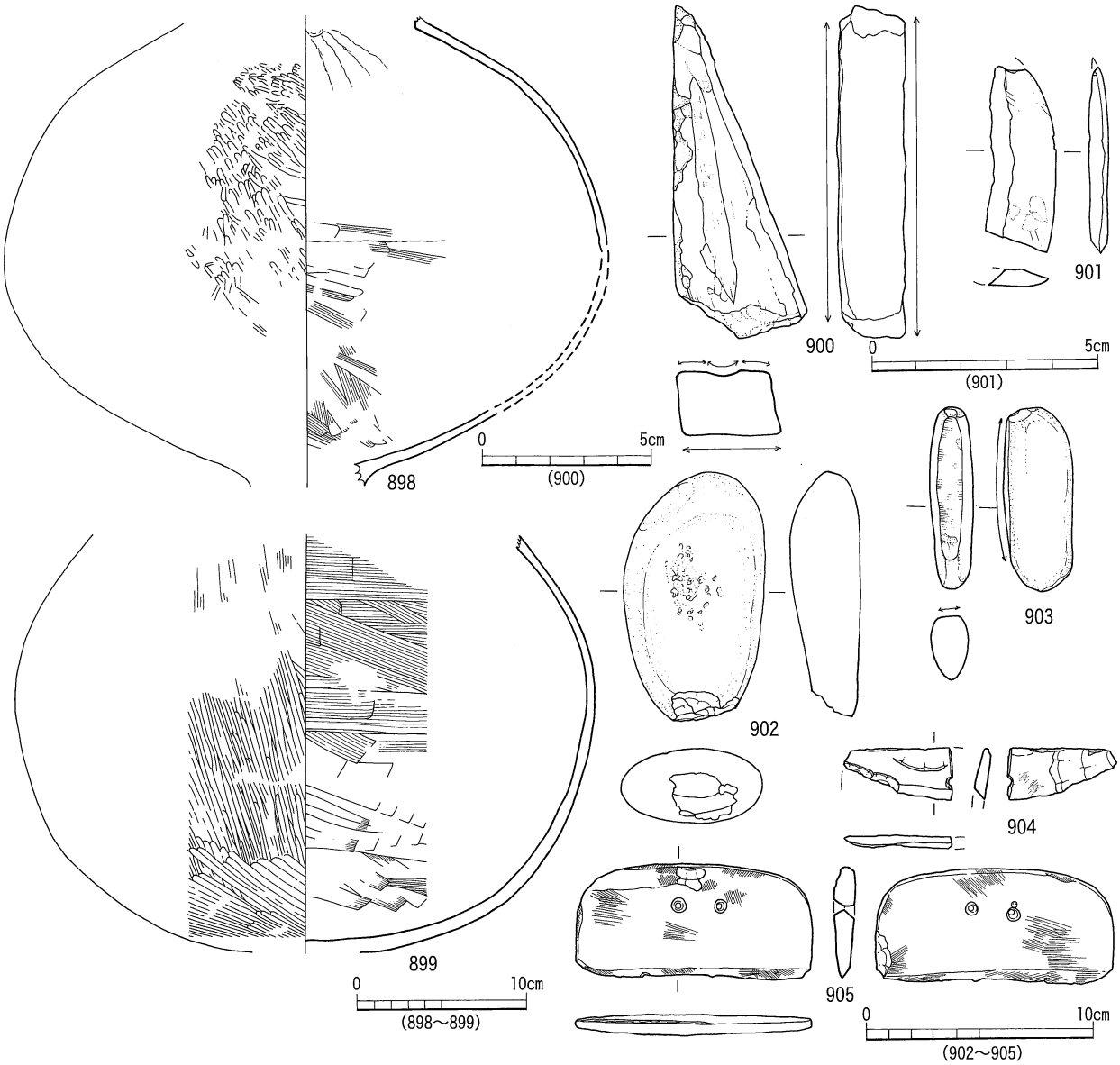
遺物：874～878は甕である。874は口唇部形態Ｂ類・口縁部形態Ｂ類・底部形態Ｂ類の特徴をもつ甕Ⅱ類である。875は874より小形であるが，口縁部から底部付近までのプロポーションが似ており，874と同じく甕Ⅱ類である。876・877は口唇部下や口縁部に縦位の刻文をもつ貼付突帯を有し，下城式系の甕の口縁部である。878は底部形態Ｅ類である。879は口唇部を尖らせわずかに外反させるが，基本的に内湾しながら立ち上がる口縁部形態Ｃ類の鉢である。880～892は壺である。880・881は緩やかに外反す



第151図　114号竪穴住居跡（ＳＡ114）出土遺物図①（１／４）

る口縁部形態D類をもつ壺Ⅳ類である。882・883は口縁部であり，口縁部下方に若干拡張し口縁端部に凹線文を施す。884は若干拡張した口縁部をもち，頸部には崩れた櫛描波状文を施す。器面調整はミガキでなく，縦方向の工具ナデを施す。885は壺の口縁部か器台の受部である。886は長胴形の胴部形態A類をもつ。口縁部は欠損しているが，口縁部形態B類のような大きく開くタイプと考えられる。887はわずかに内湾しながら立ち上がる二次口縁部分であり，櫛描波状文の上に円形浮文が施されている。888は頸部，889は胴部である。両方ともにヘラ状工具による斜位の刻文がある。893～895は鉢である。893は口縁部形態C類・底部形態A類をもつ小型の鉢ⅡB類である。895は口縁部形態C類で，内外面にミガキを施す。896・897は高坏である。896は坏部形態B類の坏部である。897は短いながら裾部が大きく開く脚部である。898・899は大形の壺の胴部である。898は底部が欠損しているが，脚台付きの底部形態A類かレンズ状の底部形態C類と考えられる。899は丸底の底部形態D類である。

900は砂岩製の砥石である。平面三角形，側断面長方形を呈する。表裏面にc種研磨痕が認められる。注目すべきは，表面中央部に研磨痕をもつ樋状の窪み（長さ6.5cm・幅0.5cm）がある。本遺跡出土の他



第152図　114号竪穴住居跡（ＳＡ114）出土遺物図②（１／４・１／２・２／３・１／３）

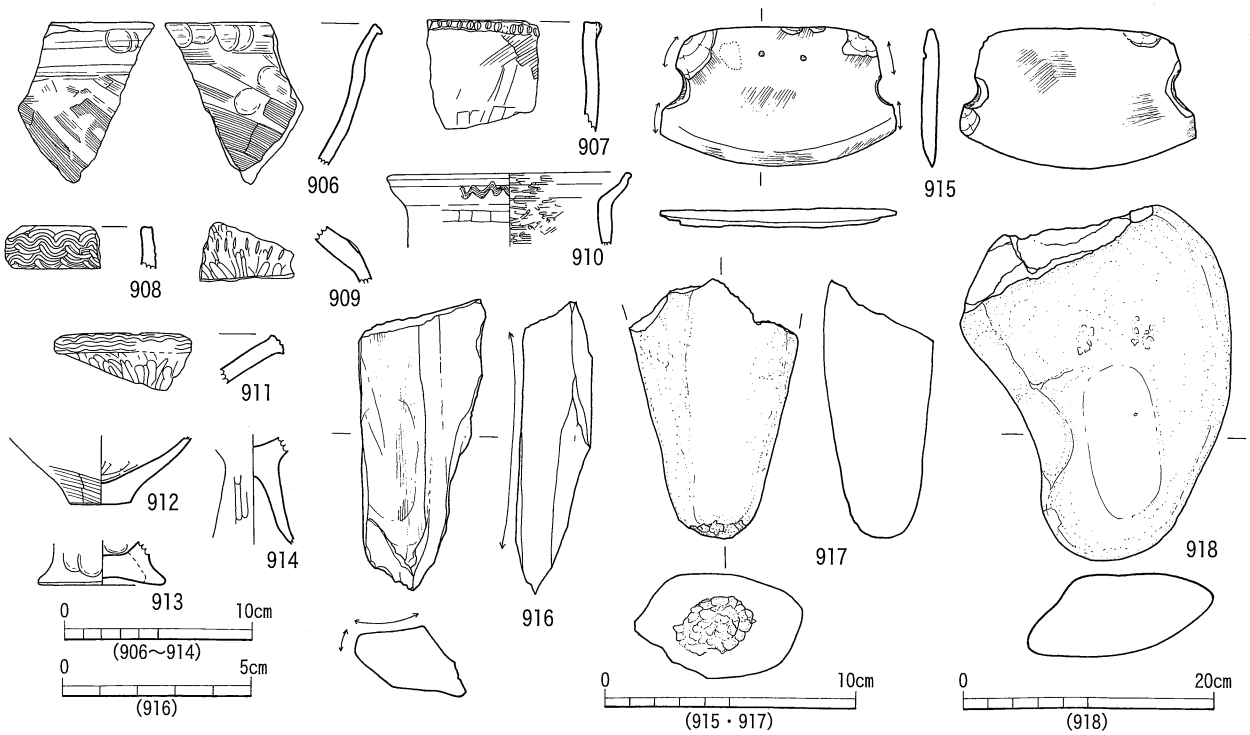
の砥石にはそうした樋状の研磨痕が認められず，特殊な研磨に用いた可能性がある。901は磨製石鏃であり，半分が欠損している。902は砂岩製の敲石であり，表面中央部に敲打痕が認められる。長軸端部には大きく打ち欠いた痕跡があるが，敲打痕とは認められない。903は砂岩製の磨石であり，左側面に磨痕が認められる。904は石庖丁の欠損品である。直線状の背部と曲線状の刃部との距離が短く，何度も刃部を研ぎ直した可能性がある。905は石庖丁ＩＡ類（穿孔・弧背直刃型）である。

115号竪穴住居跡（ＳＡ115・第150図・第153図－906～918）

遺構：Ｃ群の南端に位置し，ＳＡ114の南半部を切る形で検出された。南半は造成及び竪穴状遺構によって消失し，１／２程度残存している。辺長約４ｍの北辺から一辺４ｍ程度の規模が想定できるが，西辺・東辺がそれぞれ北辺に直交せず，若干平行四辺形気味を呈する。主軸はN-23°-EとＳＡ113・ＳＡ114と少し方向を異にする。

遺物：906・907・910は甕である。906は口唇部に三角状の貼付突帯をつけている。907は直立気味に立ち上がる口縁部で，口縁部下に縦位の刻文をもつ貼付突帯を有する。910は一度頸部で大きく「く」字状に屈曲した後に若干内湾しながら立ち上がる口縁部をもつ小型甕である。口縁部に山形に近い櫛描波状文を施す。908・909・911・912は壺である。909は器面調整がミガキで，縦位の刻文をもつ肩部である。912は小型壺の底部である。913はおそらくコップ状鉢Ⅱ類の底部である。914は小型高坏の脚部である。

915は頁岩製ⅡＢ類（直背曲刃・抉り有り）の石庖丁である。抉りを両端にもちながら，未貫通の紐穴用穿孔をもつ。この未貫通の穿孔行為は製作途中で行ったものか，使用途中で行ったものなのか疑問が残る。916は頁岩製砥石で，表面一面のみに往復作業による凹面の研磨面が認められる。917は砂岩製の敲石で，長軸端部に敲打痕が認められる。918は砂岩製石皿で，表面中央部に敲打痕と長軸12.5cm程度の楕円形の磨痕が認められる。



第153図　115号竪穴住居跡（ＳＡ115）出土遺物図（１／４・１／２・/１／３・１／６）

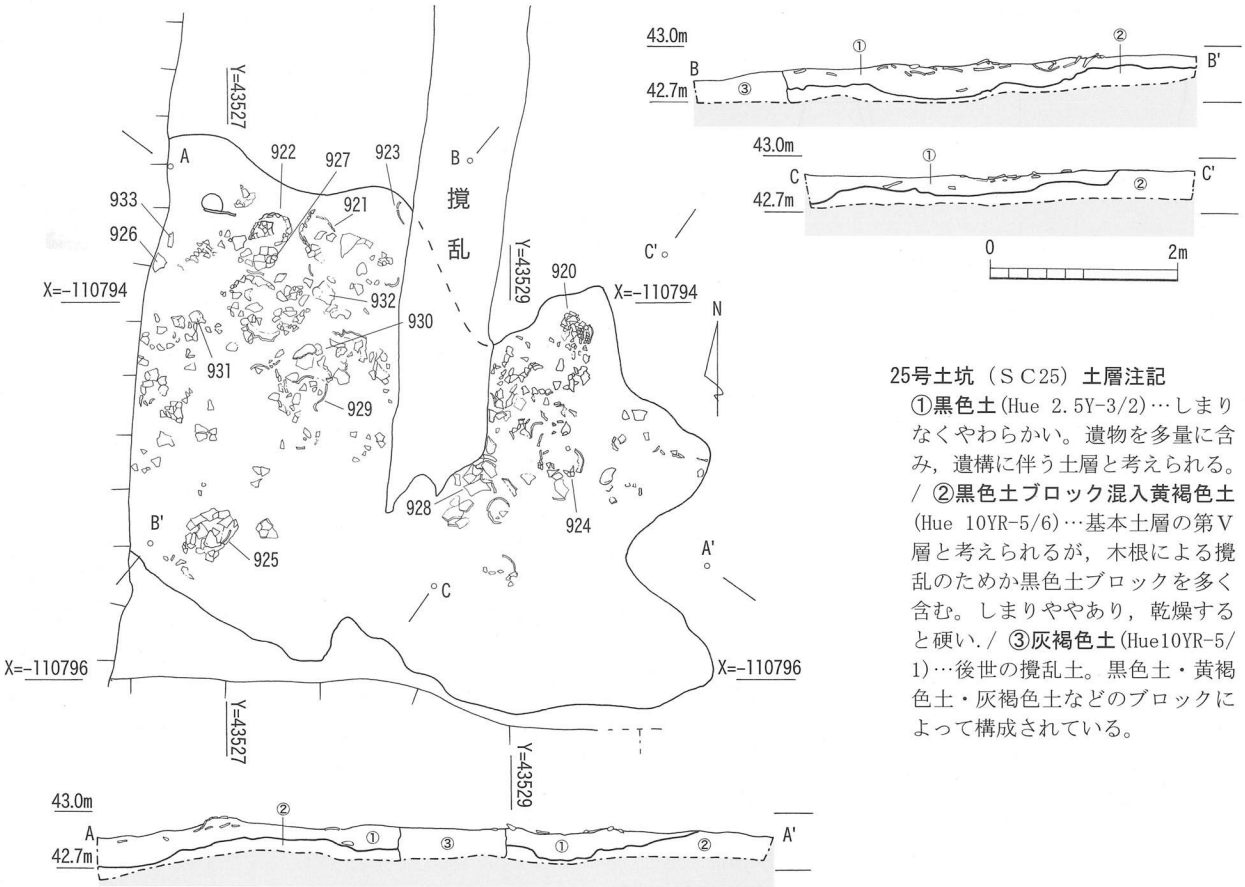
■土坑（ＳＣ25）

Ｄ区で１基のみ検出された。Ｄ区南辺中央部付近の住居跡群の北側に位置する。

25号土坑（ＳＣ25・第154図・第155図－919～933）

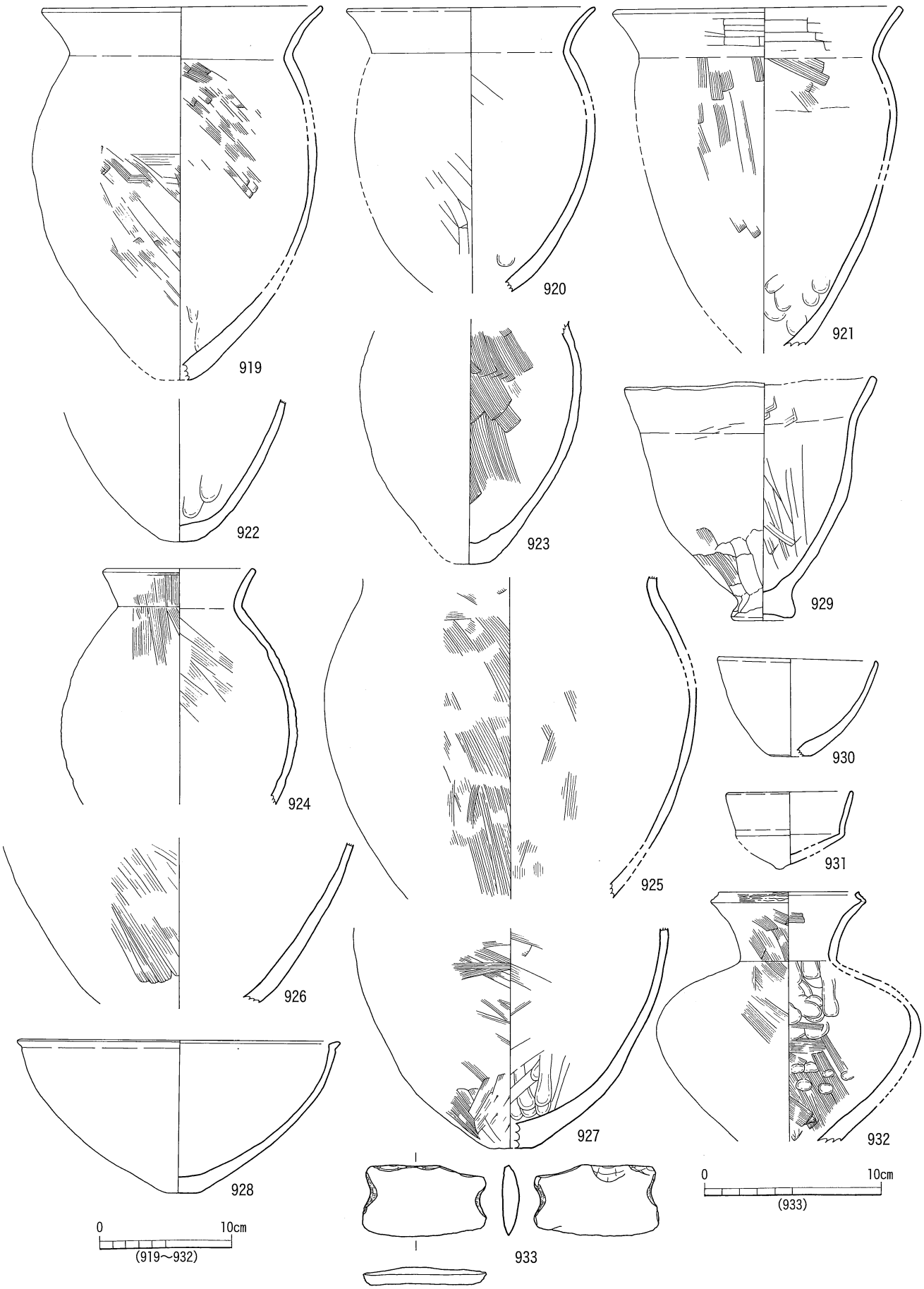
遺構：Ｄ区南辺中央部付近，住居跡Ａ群（ＳＡ103～107）の北側に位置する。調査前まで植樹されていた場所で，攪乱されていた。樹木や耕作土を除去したところ，現地表下20～30cm程のところから多量の弥生土器片を含む黒色土の広がりが検出された。黒色土の広がりは，西側の一部が消失しているが，長軸約3.8m・短軸約2.4m・最深部約20cmの不定形を呈する。出土土器類は北側に集中し，完形に近い甕・壺・鉢がいずれも遺構床面ではなく，床面約10～20cm上から出土した。規模や遺物出土状況から考えて，竪穴住居跡の床面付近の可能性があるが，検出された高低差約10cmの凸凹遺構面は住居跡床面とは判じ難く，土坑として扱う。土坑の性格としては，多量の土器出土状況から考えて，廃棄土坑の可能性を示唆しておきたい。

遺物：919～921は甕である。いずれもハケ目による胴部調整，口縁部形態Ｃ類・胴部形態Ｃ類であり，甕Ⅲ類と考えられる。922～927・932は壺である。922～925は長形胴の胴部形態Ａ類である。926は胴部下半のみであるが，胴部中位に最大径がくる形の胴部片である。932は二重口縁をもつ壺Ｉ類である。胴部形態は偏球形のＣ類である。928～931は鉢である。928は浅鉢タイプの鉢ＩＣ類であるが，口縁部は短く外反し，底部は平底である。929は上げ底で外反する口縁部形態Ｂ類の深鉢タイプ鉢ＩＢ類である。930は小型の鉢ＩＣ類である。931は尖底の底部から胴部下半で一度屈曲し，わずかに外反しながら立ち上がる特殊な形態である。蓋の可能性もある。933はⅡＣ類（抉りあり・直背直刃）の石庖丁である。



25号土坑（ＳＣ25）土層注記
①黒色土(Hue 2.5Y-3/2)…しまりなくやわらかい。遺物を多量に含み，遺構に伴う土層と考えられる。/ **②黒色土ブロック混入黄褐色土**(Hue 10YR-5/6)…基本土層の第Ⅴ層と考えられるが，木根による攪乱のためか黒色土ブロックを多く含む。しまりややあり，乾燥すると硬い。/ **③灰褐色土**(Hue10YR-5/1)…後世の攪乱土。黒色土・黄褐色土・灰褐色土などのブロックによって構成されている。

第154図　25号土坑（ＳＣ25）図（１／40）



第155図　25号土坑（ＳＣ25）出土遺物図（１／４・１／３）

Ｄ区包含層出土の土器（第156図・第157図－934～1002）

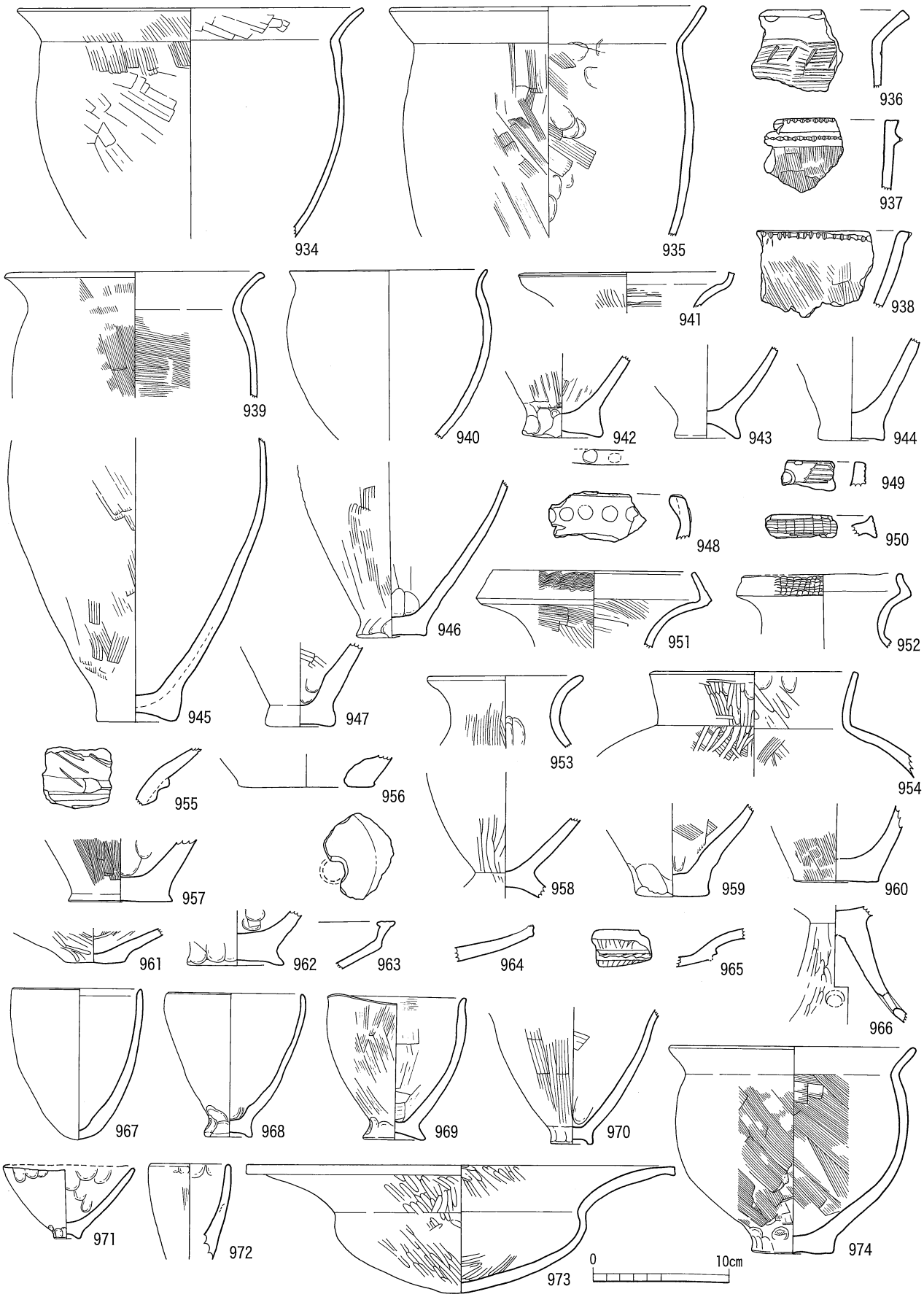
Ｄ区では，先述したが，大きく３か所で遺物が集中して出土した。これを１～３地点と名付け，地点別に述べる。

（１）１地点（第156図・第157図－934～988）

Ｄ区竪穴住居跡群が密集するD11・E11・F11・D12・E12・F12区である。934～947は甕である。（934・935・939は口縁部形態Ｂ類の口縁部である。934は工具ナデ，935・939はハケ目を施す。936は平面状の口唇部形態Ｂ類に口縁部形態Ａ類をもつ。外面には斜位の連続刻目文と斜方向のハケ目を施す。937・938は他の甕の口縁部のように頸部で屈曲しないタイプである。937は肥厚した口唇部と口縁部下に１条の三角状の貼付突帯上に連続刻目文を施す下城式系の口縁部である。938は肥厚した口唇部に連続刻目文を施す。940は口縁部を指で摘み上げたように小さく緩やかに外反させる比較的小型の甕である。942～947は底部である。942は指ナデによってわずかに端部が張り出した底部形態Ｂ類である。944・946は底部形態Ｅ類で，946は縦方向のハケ目と平行タタキの両方を施す。945は底部形態Ｃ類である。）948～962は壺である。948は内湾しながら立ち上がる二次口縁部の外面と口唇部に円形浮文を施す。949は直立しながら立ち上がる二次口縁部に三角形幾何学文と円形の竹管文を施す。950は上下方向に拡張した口縁部に押引き状の文様を施す。952は内傾しながら立ち上がる口縁部に950と同様の押引き状の文様を施す。953は口縁部形態Ｄ類の口縁部である。954は口縁部形態Ｅ類の短頸タイプの口縁部であり，外面にミガキを施す。955は大きく外反する口縁部で，１～２条の貼付突帯を施す。956は底部に穿孔をもつが，穿孔位置が中央部ではなく端部に寄っている。958は脚台状上底で底部形態Ａ類の底部である。963～966は高坏である。963は直立気味に口縁が立ち上がる坏部形態Ａ類の口縁部である。964は口縁部が欠損しているが，963同様，坏部形態Ａ類の口縁部であると考えられる。967～974は鉢である。967～970・972は深鉢で，鉢Ⅱ類である。967は丸底で内湾しながら立ち上がる口縁部をもつ鉢ⅡＢ類である。968・969は脚台状上底に直立もしくは内湾気味に立ち上がる口縁部をもつ。971・973は浅鉢で鉢Ⅰ類である。971はつまみによって持ち上げた底部に逆「ハ」字状に広がる口縁部をもつ。973は口縁部形態Ａ類・底部形態Ｄ類の鉢ⅠＡ類である。974は甕と鉢の中間形態のような鉢ⅡＢ類である。975～977は器台である。975は上下２段に透かしをもち，寸胴で器高の低いタイプである。978は蓋部である。鉢のようでもあるが，内面上部付近の調整が比較的粗雑なことから蓋として扱うこととした。979～986は小型土器である。979は短く外反する口縁部で，外面に縦方向のミガキを施す。986は底部である。底面端部に１か所穿孔が認められる。孔は径４㎜程度，中心部に向かって斜めに穿たれている。987は杓子状土器の柄部である。一面に縦方向のナデ調整が施されている。988は不明土製品である。現存長5.3cm・幅1.3cmの直方体に近い形状をなす。わずかにカーブを描き，何かの柄になるようにも見える。

（２）２地点（第157図－989～996）

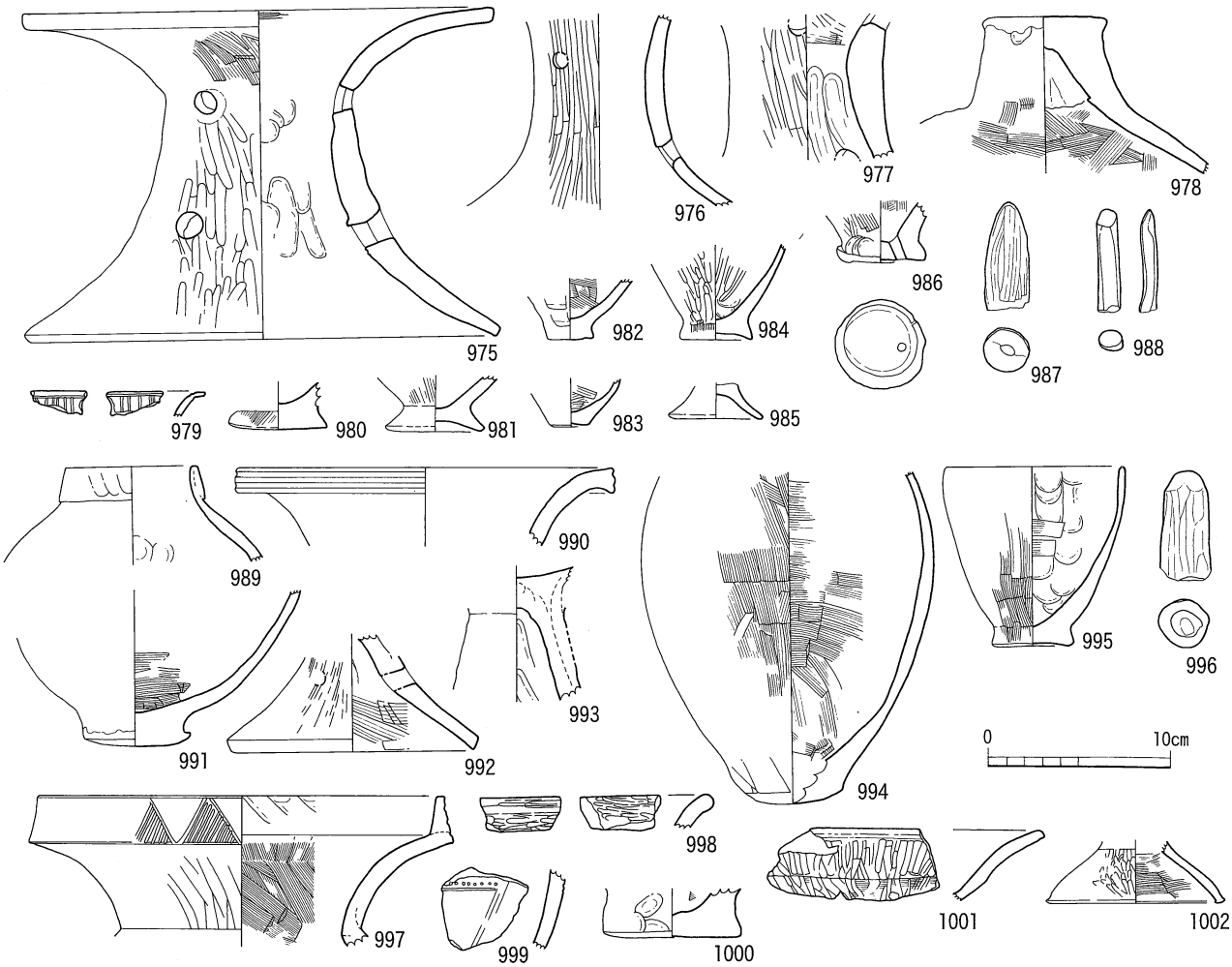
Ｄ区南東部，I11区に谷地形の跡が検出され，落ち際の緩斜面から土器が集中して出土した。989～991・994は壺である。989は端部を折り返すように肥厚させる口縁部形態Ｅ類の口縁部である。990は口唇部に凹線文を施す口縁部形態Ｂ類の口縁部である。991は円盤状の貼付状底部をもつ。994は長形胴をもつ胴部形態Ａ類とレンズ状の底部形態Ｃ類をもつ。992・993は高坏の脚部である。995は鉢であり，鉢ⅡＢ類である。996は杓子状土器の柄部である。



第156図　D区包含層出土遺物図①（1／4）

（３）３地点（第157図－997～1002）

Ｄ区西部，Ａ10・B8・B9・B10区で遺構は検出されなかったが，緩斜面にわずかに基本層序の第Ⅳ層以下が残っており，そこから土器が集中して出土した。997は壺である。二重口縁部に三角形の幾何学文を施す。998は甕の口縁部で，内外面に横方向のミガキを施す。999はおそらく鉢と考えられる。横と斜方向の沈線と列点文の組合せ文を施す。1001は高坏の坏部である。明瞭な屈曲点をもたない坏部形態Ｃ類をもつ坏部の口縁部である。1002は外面にミガキを施す蓋部と考えられる。



第157図　Ｄ区包含層出土遺物図②（１／４）

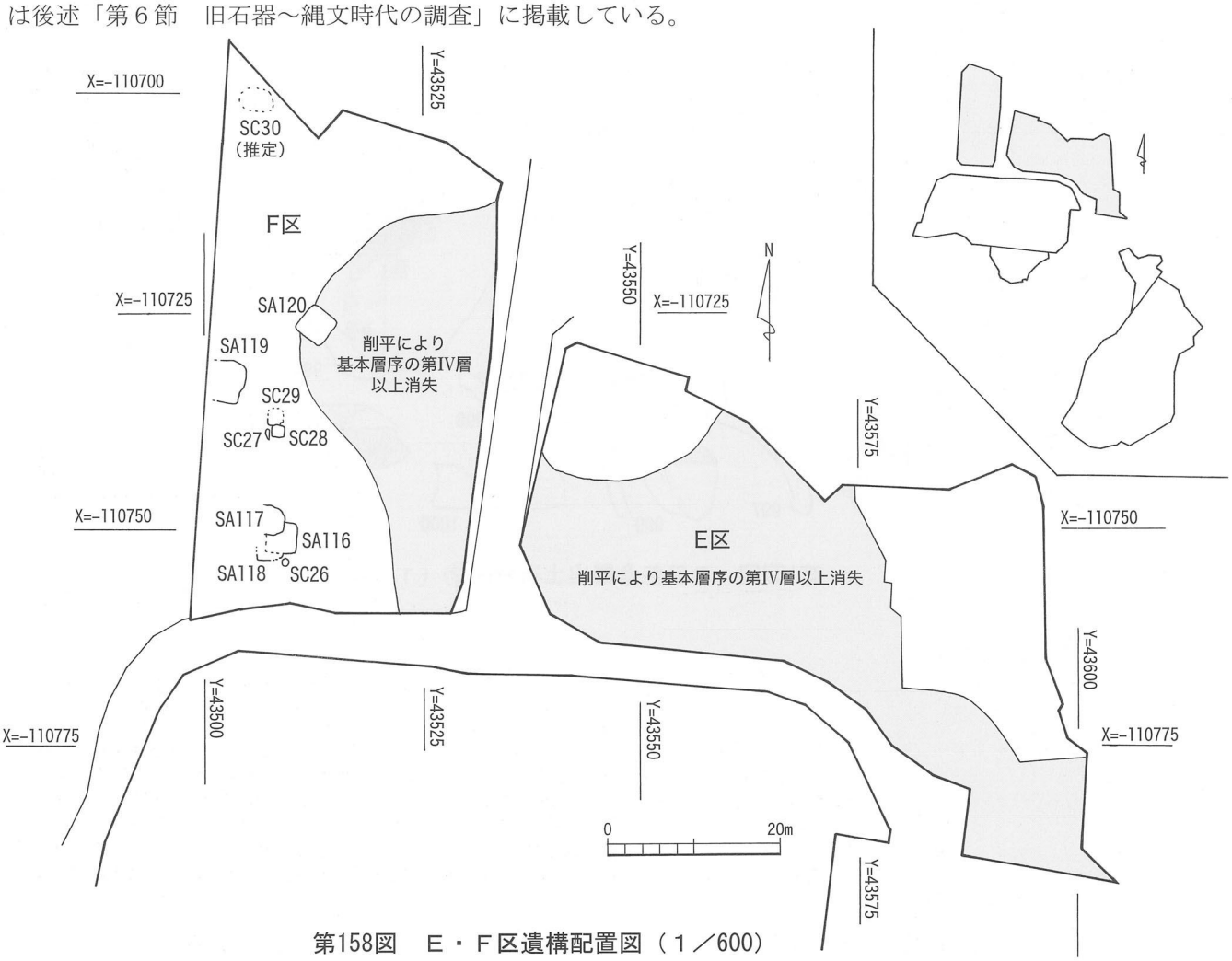
（５）　Ｅ・Ｆ区の調査（第158図～第172図）

Ｅ・Ｆ区は北ブロック北西側に位置し，Ｘ軸は２～11ラインを，Ｙ軸はＣ～Ｌラインを包含する3,450㎡の調査区である。Ｄ区とは南辺で接地する。

調査は２次調査において実施した。調査前の状況は，Ｆ区中央部にコンクリート基礎のハウス１棟，Ｅ区に管理棟と倉庫が各１棟，周辺に畑地が広がっており，地形はほぼ水平であった。建物部分のコンクリート基礎と畑地の耕作土を重機により除去したところ，調査区域の大半は削平され，アワオコシスコリア層とイワオコシスコリア層（基本層序の第Ⅷ層・第Ⅸ層）が面的な広がりをみせていた。辛うじてＥ区の北側と西側に基本層序の第Ⅳ層以上の包含層が確認された。こうした状況を考えると，Ｆ区は，Ｄ区同様，Ｂ区南部を突端部とする入り組んだ丘陵地であり，その丘陵部はＤ・Ｅ・Ｆ区の境界付近が頂部になると推定される。そして，Ｆ区西側は丘陵地の西斜面，Ｆ区北側はＢ・Ｄ区丘陵地の後背斜面と考えられる。

検出された遺構は，竪穴住居跡５軒（ＳＡ116～ＳＡ120）・土坑５基（ＳＣ26～30）・炉穴１基で，出土した遺物から竪穴住居跡と土坑は弥生時代，炉穴は縄文時代に帰属するものと考えられる。

以下に検出された遺構と遺物について若干の説明をくわえる。竪穴住居跡と土坑の計測値は第３表に，遺物の観察表・計測表は第４表～第32表に掲載している。なお，縄文時代に帰属すると考えられる炉穴は後述「第６節　旧石器～縄文時代の調査」に掲載している。



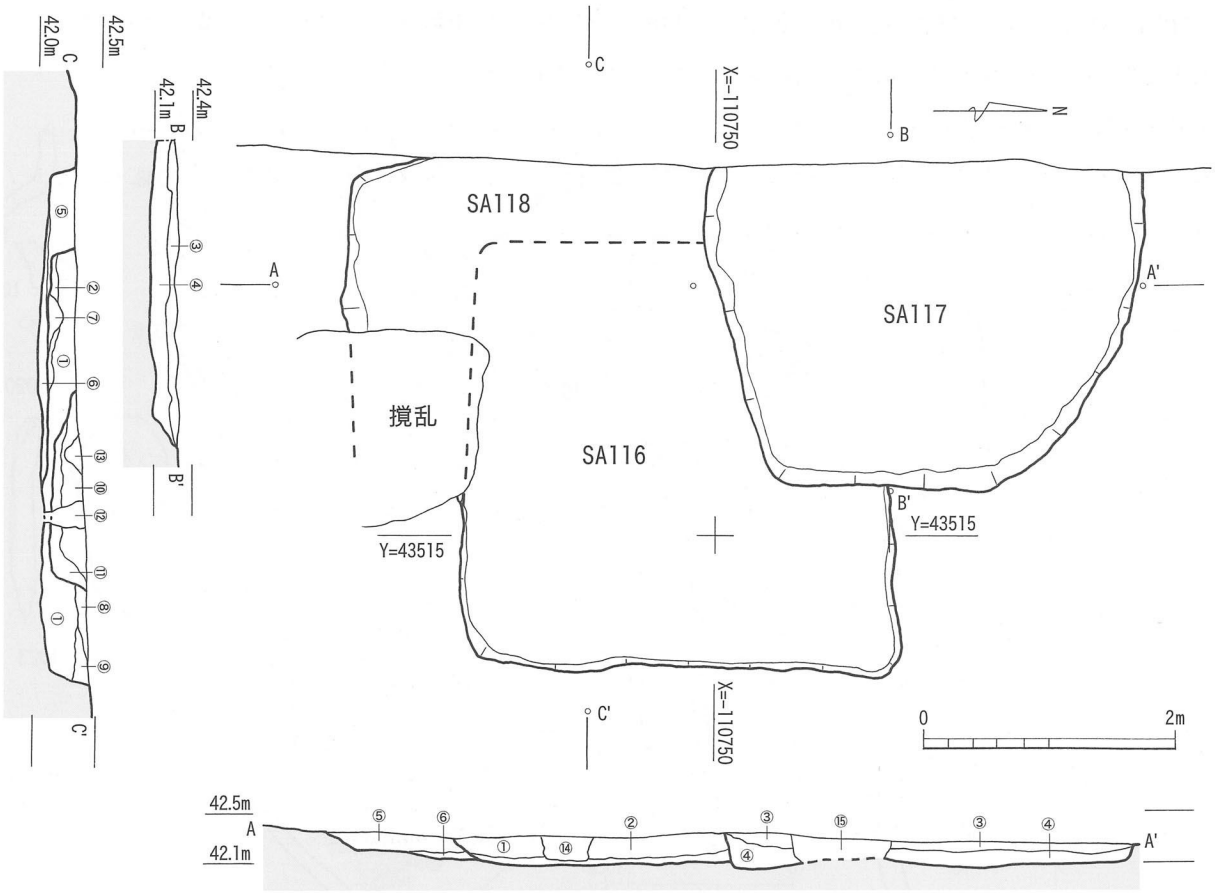
第158図　Ｅ・Ｆ区遺構配置図（１／600）

■竪穴住居跡（ＳＡ116～ＳＡ120）

Ｆ区全体で５軒検出された。いずれもＦ区南西部付近に集中する。他区の竪穴住居跡同様，ＳＡ120以外ＳＡ116～119は主軸と斜面が直交するように配置されている。ＳＡ119・ＳＡ120は独立しており，ＳＡ116～118は重なり合っており，ＳＡ118→ＳＡ116→ＳＡ117の順で切り合っていたと考えられる。住居の規模と平面形態は切り合いにより全体像が把握できないものが多く不明であるが，ＳＡ116とＳＡ120は一辺3.5m程度の方形，ＳＡ117は長径3.5m程度の不整形であるように全てが方形というわけではない。柱穴は他の住居跡群同様，確認されなかった。

116号竪穴住居跡（ＳＡ116・第159図・第160図－1003～1024）

遺構：Ｃ７グリッドで検出された。ＳＡ118を南西部で切り，北西部をＳＡ117によって切られており，遺構の西側が攪乱されている。辺長約3.5mの東辺に直交する北辺と南辺が残存しており，平面形態は方形と推定できる。主軸はほぼ南北方向のN-2°-Eである。

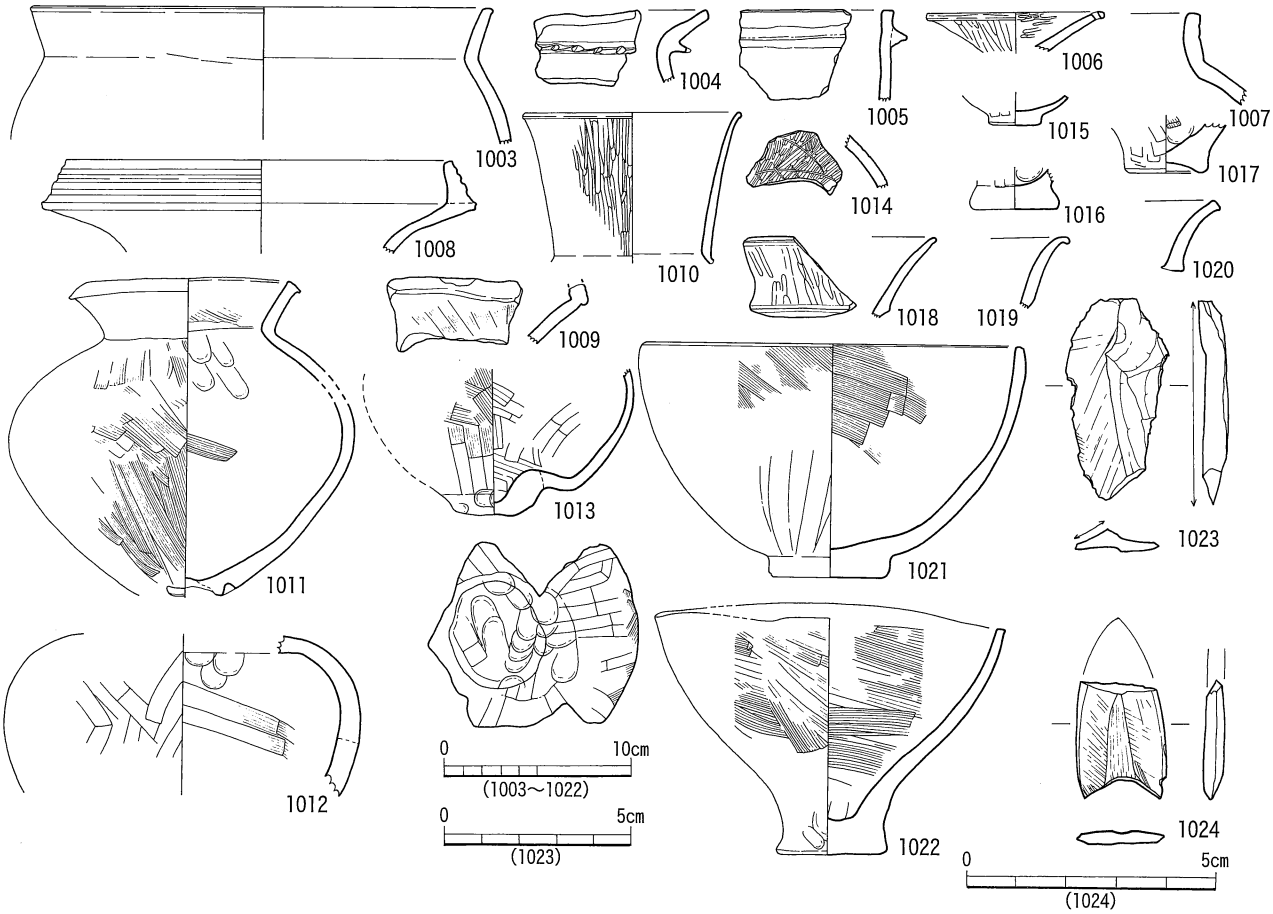


116～118号竪穴住居跡土層注記(SA116～118)

①**黒褐色土**(Hue 2.5Y-3/2)…ＳＡ116の埋土。下部にわずかに炭化物を含む。／②**オリーブ褐色土**(Hue 2.5Y-4/3)…ＳＡ116の埋土か床土。上部に土器片を含む。基本層序の第Ｖ層の土塊をわずかに含む。／③**黒褐色土**(Hue 10YR-2/3)…ＳＡ117の埋土。無色透明粒，炭化物と土器片を多く含む。／④**暗褐色土**(Hue 10YR-3/4)…ＳＡ117の埋土か床土。２～３㎜程の乳白色粒と炭化物を多量に含む。／⑤**オリーブ褐色土**(Hue 2.5Y-4/3)…ＳＡ118の埋土。土器片を多量に含む。／⑥**黄褐色土**(Hue 2.5Y-5/4)…ＳＡ118の埋土か床土。基本層序の第Ｖ層の土塊を多量に含む。／⑦**黒褐色土**(Hue 10YR-3/2)…土器片を含むが，土質はボコボコしており，木根などの攪乱と考えられる。／⑧**黒褐色土**(Hue 10YR-4/6)…ＳＡ116の埋土。下部に土器片を含む。／⑨**灰黄褐色土**(Hue 5Y-4/1)…ＳＡ116の埋土。上部に土器片を含む。／⑩**褐色**土(Hue 10YR-3/3)…わずかに炭化物を含む。別の遺構（土坑など）の可能性がある。／⑪**オリーブ褐色土**(Hue 2.5Y-4/4)…黄褐色土塊を含む。⑩層同様別の遺構（土坑など）の可能性がある。／⑫**黒褐色土**(Hue 10YR-4/6)…後世の攪乱土。木根痕跡の可能性がある。／⑬**黒褐色土**(Hue 10YR-4/6)…後世の攪乱土。

第159図　116・117・118号竪穴住居跡（ＳＡ116・117・118）図（１／60）

遺物：1003～1005は甕である。1003は明瞭に屈曲する頸部に平坦状の口唇部をもつ口縁部形態Ａ類である。1004は頸部で大きく屈曲しながら外反する口縁部で，頸部に斜位の刻目をもつ貼付突帯を施す。1005は直立気味に立ち上がる口縁部で，頸部に縦位の刻目をもつ貼付突帯を施す。1006～1014は壺である。1008は二次口縁部に凹線文を施す。1010は縦方向に丁寧なミガキを施した長頸壺の口縁部である。1011は小さく外反する口縁部形態Ｃ類に偏球形胴の胴部形態Ｃ類をもつ壺Ⅱ類である。1013は胴部～底部片であるが，底部が左右非対称で不整形に歪んでいる。意図的なものとは考えにくく，偶発的に発生したものと考えられる。1015は肩部であり，ミガキ調整の上にヘラ描きの幾何学文が施されている。1015～1017は小型土器片であり，1015は円盤貼付状平底の壺の底部で，1016は端部が外反する平底の甕または鉢の底部で，1017は上底の壺の底部である。1018～1020は高坏であり，いずれも一度明瞭に屈曲した後に外反しながら立ち上がる坏の口縁部である。1021・1022は鉢である。1021は現代のドンブリのように内湾しながら立ち上がる器形で，底部は円盤状平底をもつ。1022は緩やかなＳ字を描きながら外側に開く器形をもつ。鉢としているが，Ｄ区包含層出土978と形態が似ており，蓋の可能性もある。1023は砥石である。頁岩製で，表面１面のみに研磨面をもち，本遺跡分類のⅡ類（不定形剥片砥石）に該当する。1024は磨製石鏃である。頁岩製で，先端部が欠損している。



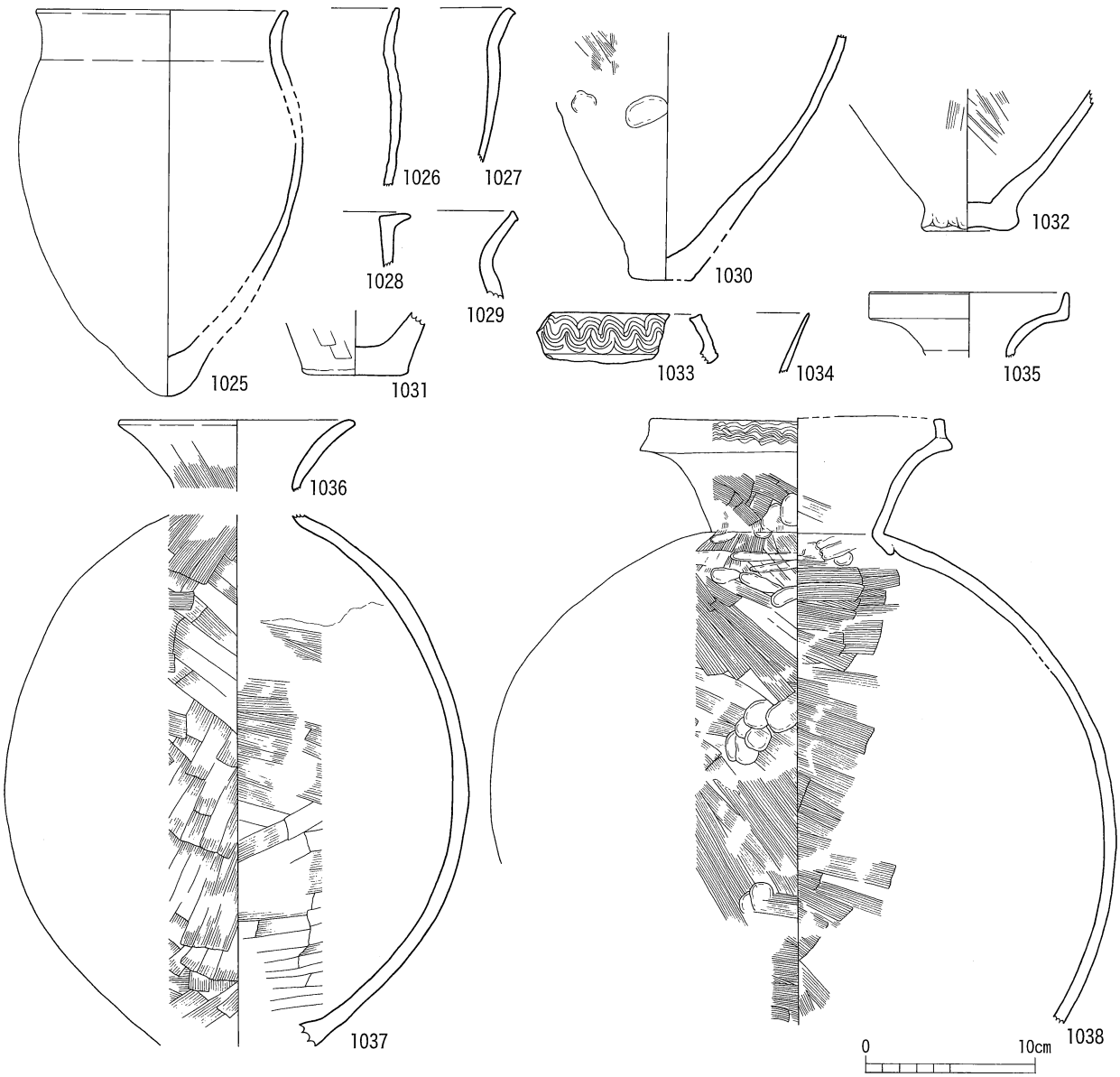
第160図　116号竪穴住居跡（ＳＡ116）出土遺物図（１／４・１／２・２／３）

117号竪穴住居跡（ＳＡ117・第159図・第161図・第162図－1025～1052）

遺構：南側でＳＡ116とＳＡ118を切る形で検出された。西側は後世の造成によって攪乱されており消失している。東辺は直線的になっている部分はあるが，残っている北・東・南辺は弧状を呈する。西側

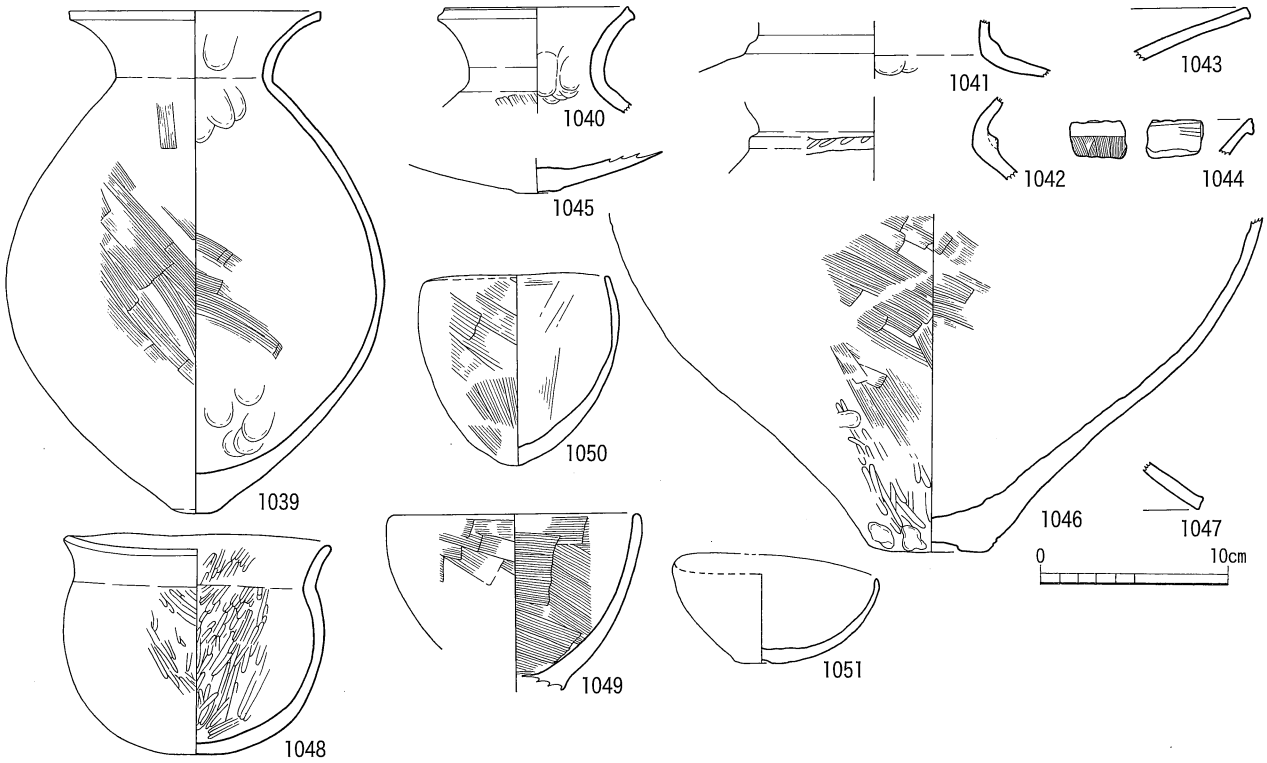
が検出できず平面形態は不明であるが，本遺跡の主流である方形や長方形でなく，最大径約3.5mの不定形だと推察される。遺物は遺構やや南寄りの中心部分に集中している。不整形の平面形態や遺物が中央付近に集中して出土していることから考えて，土坑の可能性も考えられるが，床面から直立気味に壁が立ち上がることから，竪穴住居跡と考えられる。

遺物：1025～1031は甕である。1025は，薄く尖る口唇部形態C類，緩やかにS字状に屈曲する口縁部形態C類，長胴で胴部上半に最大径がくる胴部形態C類，尖底の底部をもつ甕Ⅲ類である。1026・1027も口縁部形態C類をもつ。1028は逆L字状に開く口縁部である。1030は底部形態E類をもつ。1032～1046は壺である。1036・1037は同一個体であると考えられる。大きく外反する口縁部形態C類，長形胴の胴部形態A類をもつ壺Ⅱ類である。1038は二次口縁部に櫛描波状文を施す口縁部形態A類，球形胴の胴部形態B類をもつ壺Ⅰ類である。1033は内湾しながら立ち上がる二次口縁部であり，大きくうねる櫛描波状文を施す。1035は二重口縁の口縁部形態A類であるが，やや小型であり，直立気味に立ち上がる二次口縁部は無文である。1034は外側にわずかに開きながら伸びるやや小型壺の口縁部である。器壁は



第161図　117号竪穴住居跡（ＳＡ117）出土遺物図①（１／４）

薄く櫛描波状文が描かれている。1039は口縁部形態Ｂ類に長形胴の胴部形態Ａ類，レンズ状平底の底部形態Ｃ類をもつ壺Ｉ類である。1041・1042は頸部である。1041は頸部に貼付状突帯らしき膨らみが認められる。1042も1041同様，頸部に突帯をもつが，更に斜位の刻目をもつ。1044は下部に拡張した口唇部に凹線文が施されている。1047は小片ではあるが，おそらく高坏の坏部片である。1048～1052は鉢である。1048は頸部で屈曲する口縁部形態Ｂ類をもつ鉢ＩＢ類である。1049～1052は内湾しながら立ち上がる口縁部形態Ｃ類である。1050は底部が丸底で砲弾形を呈する鉢ＩＣ類である。



第162図　117号竪穴住居跡（ＳＡ117）出土遺物図②（１／４）

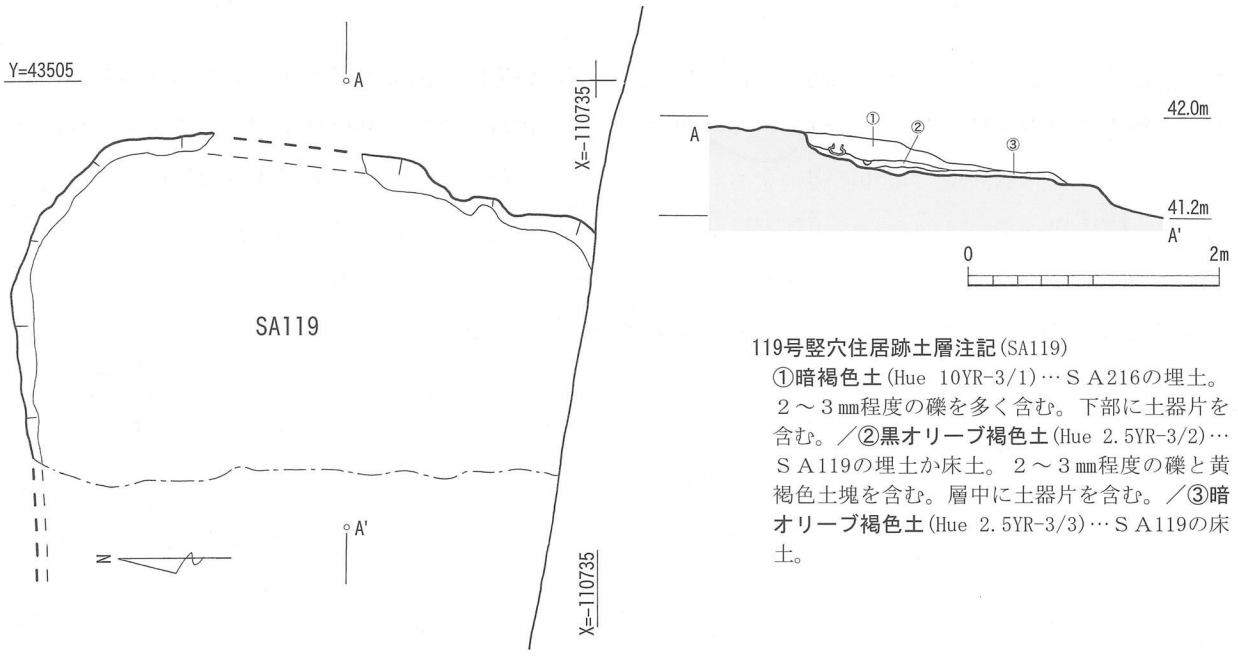
118号竪穴住居跡（ＳＡ118・第159図）

遺構：北側をＳＡ117に北東をＳＡ116に切られ，西側を後世の造成で，東側を後世の攪乱で消失した形で検出された。わずかに南西部が残る程度である。南西コーナーが残存しており，辛うじて方形もしくは長方形だと推測される以外は規模など不明な点が多い。

遺物：細片が数点のみが埋土中から出土し，遺構に伴うと判断できうる遺物はなかった。

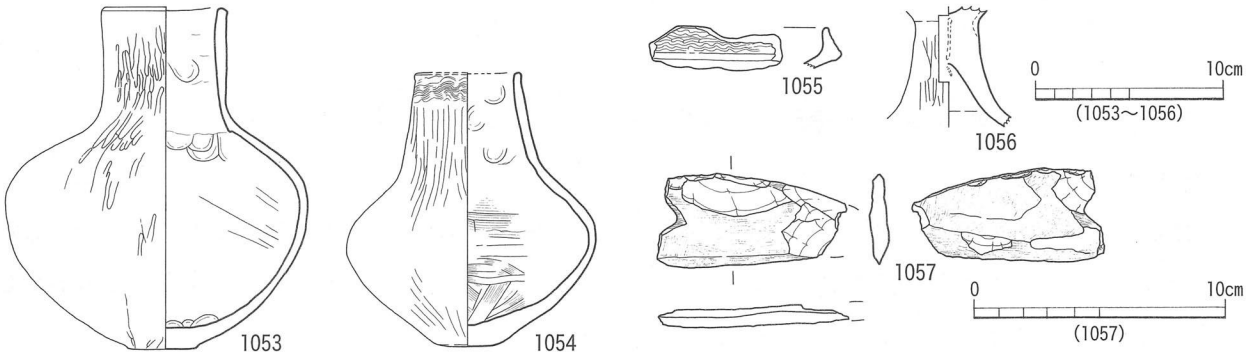
119号竪穴住居跡（ＳＡ119・第163図・第164図－1053～1057）

遺構：北Ｆ区中央部西側，Ｃ５グリッドに位置する。他の竪穴住居跡と重ならず独立しているが，西側は後世の造成，南側は攪乱によって消失しており，約１／２程度の残存状態である。平面形態は，辺長約4.5mの東辺と部分的に残っている北辺より，一辺4.5m程度の方形または長方形であると推測できる。ただし他の竪穴住居跡と違い，角張った方形ではなく，角が丸い隅丸方形状の平面形態である。検出面は比較的傾斜があるが，床面をほぼ水平に設けている。遺物は北壁近くと東壁近くで出土した。完形に近い壺２点（1053・1054）が出土するなど，残存状況は悪くはないと考えられるが，10～15cm程度の自然礫が多く含まれており，廃絶した住居跡にしては若干不自然な検出状況である。



第163図　119号竪穴住居跡（ＳＡ119）図（１／60）

遺物：1053～1055は壺である。1053は直立する短頸壺で，偏球胴の胴部形態Ｃ類，レンズ状平底の底部形態Ｃ類をもつ壺Ⅵ類である。器面調整はミガキを施す。1054も1053とほぼ同様の形態で，口縁がわずかに窄む。口縁上部に櫛描波状文を施す。３は口縁部形態Ａ類の二次口縁部であり，櫛描波状文を施す。1056は小型の高坏の脚部である。1057は頁岩製の石庖丁である。製作時の形態なのか，刃の研ぎ直しによるものかわからないが，右側縁に向かって細くなっていく平面形態をもつ。表面は剥離が多いが，赤化が認められる。原石によるものか，研磨時に鉄分などに反応したのか不明である。

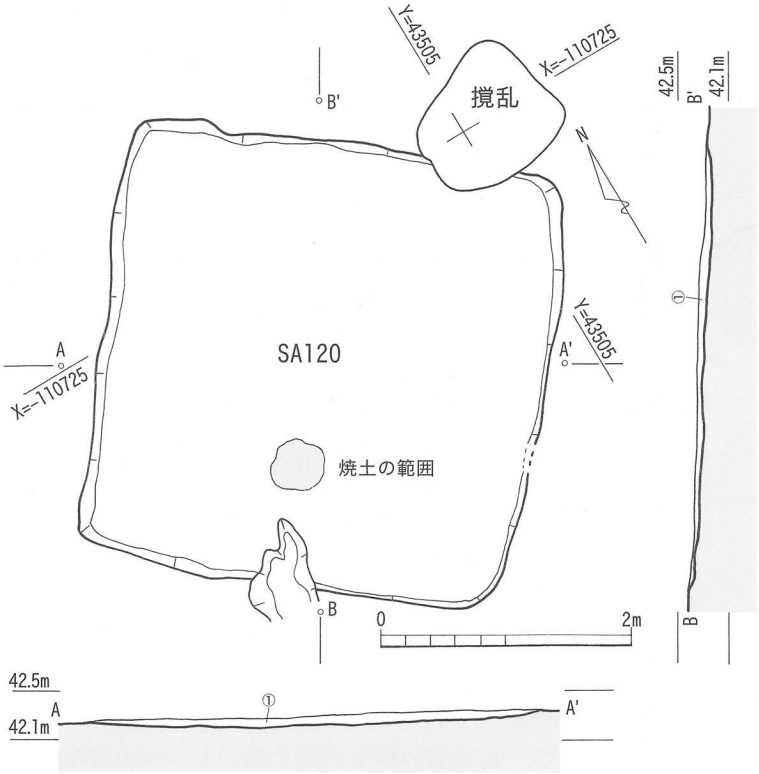


第164図　119号竪穴住居跡（ＳＡ119）出土遺物図（１／４・１／３）

120号竪穴住居跡（ＳＡ120・第165図・第166図－1058～1062）

遺構：Ｆ区中央付近，Ｄ４グリッドに位置する。先述したが，Ｆ区は北端と西端部を除いて，削平により基本層序第Ⅳ層以上の包含層が消失している。そうした場所の基本層序第Ⅵ層から多くの遺物を伴って検出された。平面形態は一辺約3.5ｍの方形を呈する。しかし，掘り下げを行ったところ，埋土は数㎝程度しか存在せず，遺構掘削面が検出された。このことから，この住居跡は，後世の削平によって床面付近だけが残った竪穴住居跡と考えられる。遺物は東側を中心に検出された。

遺物：1058は甕である。緩やかに「Ｓ」字状に屈曲する口縁部形態Ｃ類，胴部上半で最大径がくる長形胴の胴部形態Ｃ類をもつ甕Ⅲ類である。1059は短く緩やかに外反する口縁部形態Ｃ類，胴部中心に最



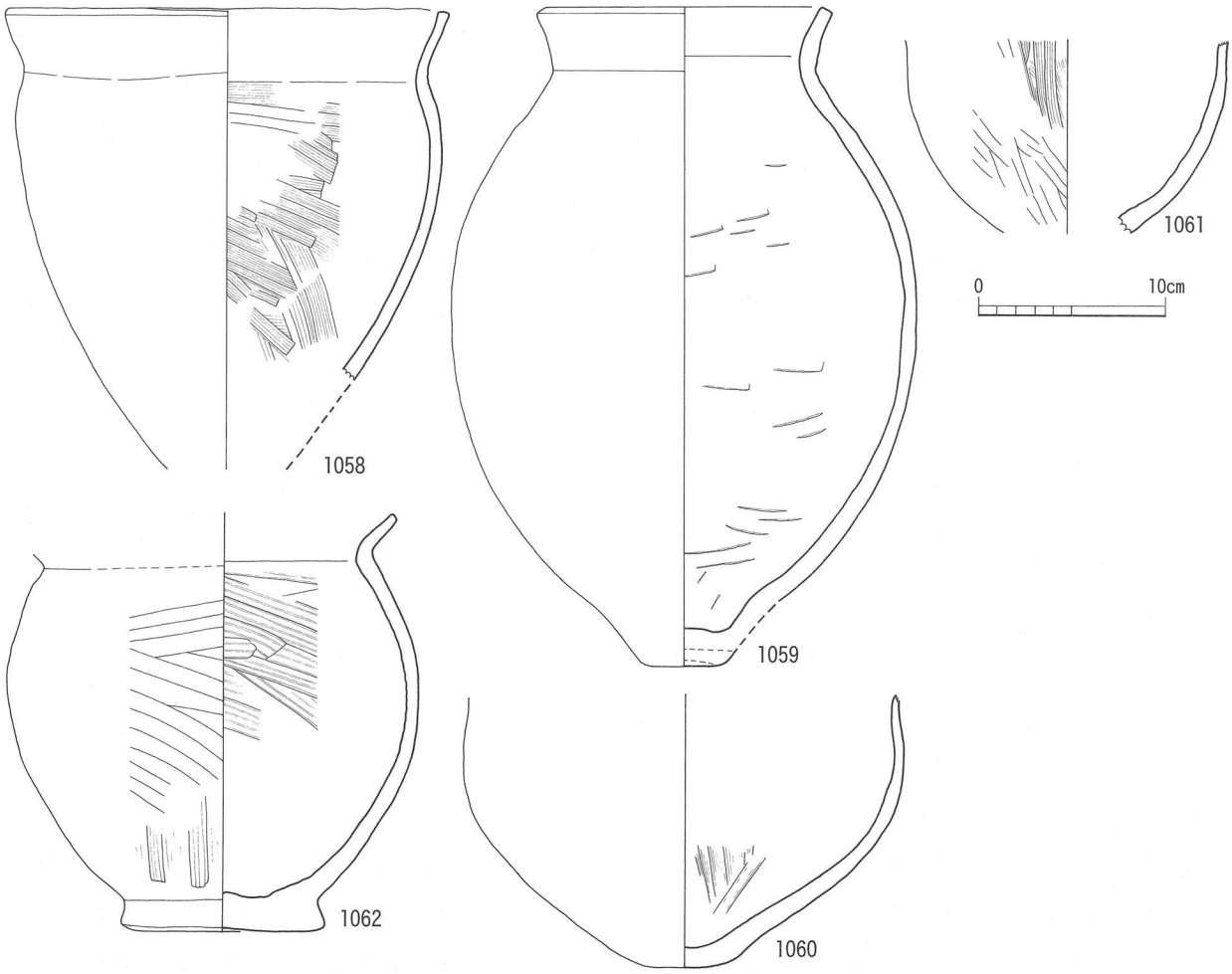
120号竪穴住居跡土層注記(SA120)
①褐色土(Hue 10YR-4/4)…周辺の土層（基本層序の第Ⅵ層）似ているが，わずかに色調が明るい。床面付近のみの検出と考えられる。

第165図　120号竪穴住居跡（ＳＡ120）図（１／60）

大径がくる長形胴の胴部形態Ａ類，平底の底部形態Ｄ類をもつ壺Ⅲ類である。1060は平底とレンズ状平底の中間形態での底部をもつ，胴部は下半しかないが，形態から考えて頸部で短く外反する鉢であろう。1061は鉢か壺の胴部である。1062は甕と鉢の中間形態のような土器である。短く外反する口縁，球形胴，円盤状平底をもち，器面調整には工具ナデを施す。

26号土坑（ＳＣ26・第167図－1063）

遺構：Ｆ区南西部，５Ｄグリッドで検出された。長径80cm・短径65cmの鶏卵形を呈する。深さは検出面から約10cmと浅めである。埋土は大きく２層に分かれ，層の境



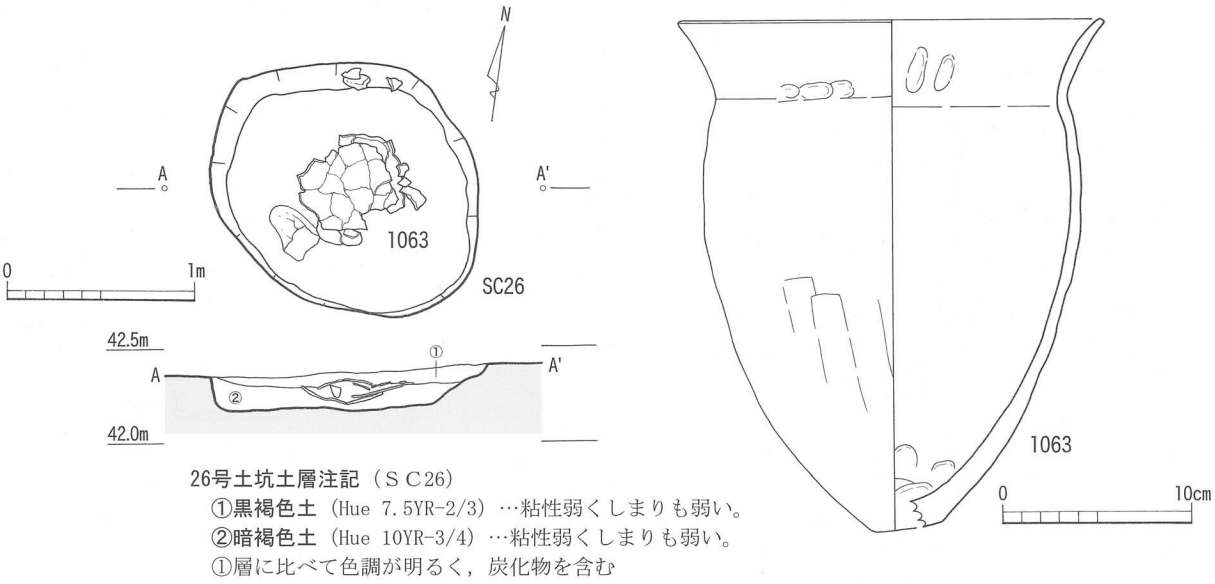
第166図　120号竪穴住居跡（ＳＡ120）出土遺物図（１／４）

界付近に完形に近い甕（1063）が潰れた状態で出土した。甕の割れた隙間には，炭化物を多く含む黒色土と焼けたような礫が１個検出された。この黒色土と割れた礫は，甕が割れる前に入っていたと考えられる。

遺物：甕が１点のみ出土した。薄くのびる口唇部形態Ｃ類，緩やかに「Ｓ」字状に屈曲する口縁部形態Ｃ類，長形胴で上部に最大径がくる胴部形態Ｃ類の特徴をもつことから，甕Ⅲ類だと考えられる。

27号土坑（ＳＣ27・第168図－1064～1070）

遺構：Ｆ区南西部，５Ｄグリッドで３基が集中した形で検出された。北側と西側が後世の攪乱で消失している。ＳＣ28の北辺がＳＣ29の南辺を切っている以外は個々が独立した状態である。ＳＣ27は西側が一部消失した形で検出された。長軸約110cm，短軸推定約80cmの涙滴形を呈する。深さ約10cmで，埋土はやわらかい黒色土である。遺物は中央部より鉢（1064）が１点出土した。



26号土坑土層注記（ＳＣ26）
①黒褐色土（Hue 7.5YR-2/3）…粘性弱くしまりも弱い。
②暗褐色土（Hue 10YR-3/4）…粘性弱くしまりも弱い。
①層に比べて色調が明るく，炭化物を含む

第167図　26号土坑（ＳＣ26）図（１／40）及び出土遺物図（１／４）

遺物：１点のみの出土である。1064は鉢である。口縁部が内湾しながら立ち上がる鉢ＩＣ類であるが，口縁端部がわずかに外反する。

28号土坑（ＳＣ28・第168図－1065）

遺構：ＳＣ28の平面形態は，北東側が一部攪乱によって消失しているが，一辺約180cmの方形である。深さは約10cmで，埋土はやわらかい黒色土である。遺構面は比較的水平であり，竪穴住居跡の可能性も考えられたが，埋土が短期間で埋まったような単一層であったので土坑と判断した。遺物は，東壁付近より甕の一部（1065），中央部付近より自然礫が３個集まった形で出土した。

遺物：1065は甕の胴部～底部である。ほぼ平底ではあるが，若干上底状で端部をわずかに張り出した底部形態Ｂ類とＤ類の中間的特徴をもつ。

29号土坑（ＳＣ29・第168図－1066～1070）

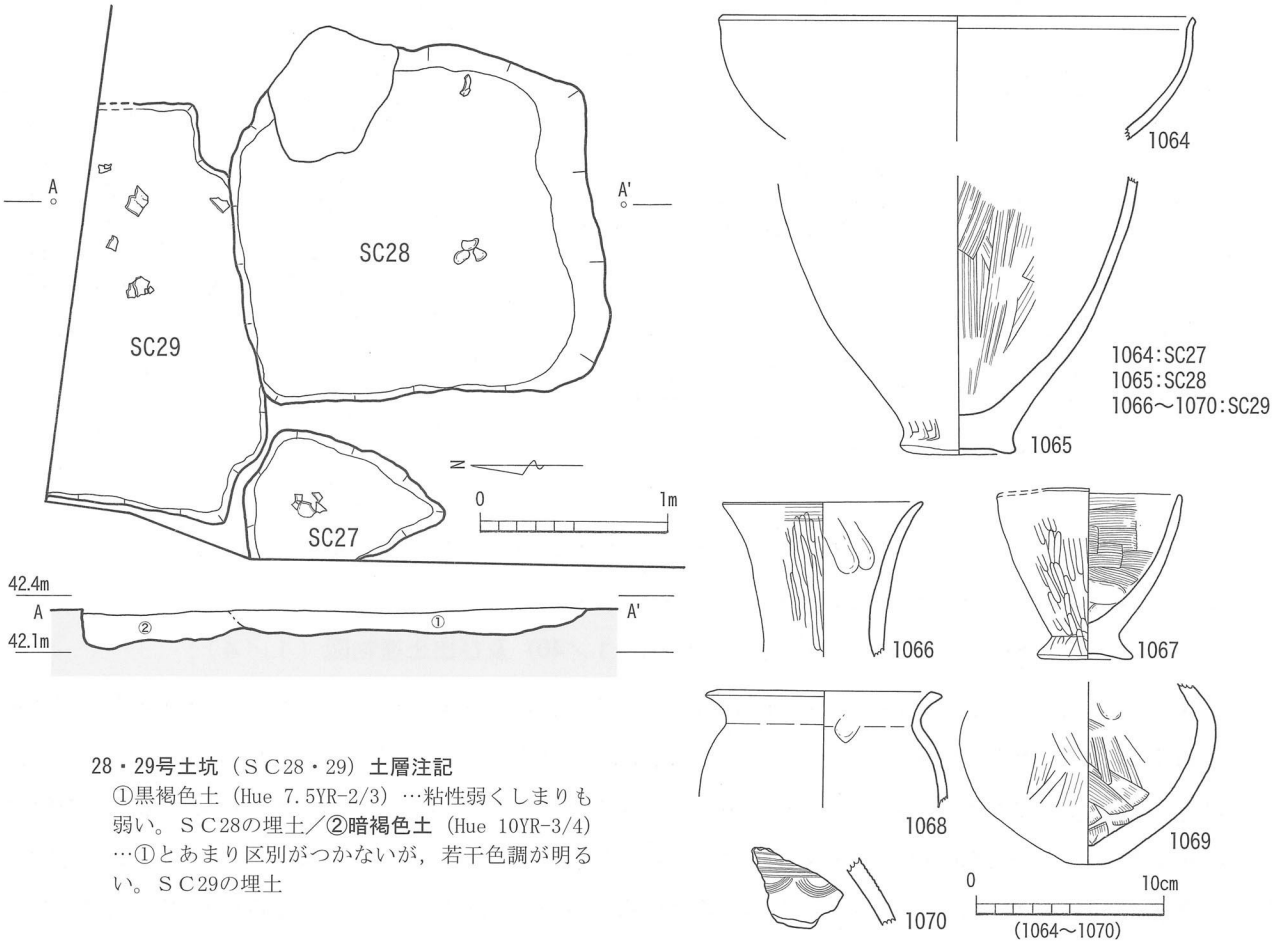
遺構：ＳＣ29は，南辺がＳＣ28によって，北側の大部分が後世の攪乱によって消失している。正確な規模と平面形態は不明であるが，東西長220cm，南北の現存長115cmと３基の土坑の中では一番大きい。ＳＣ29もＳＣ28同様，竪穴住居跡の可能性も考えられたが，同様の理由で土坑と判断した。遺物は南東

部分に散在した状態で出土した。

遺物：1066は長頸壺の口縁部で壺Ⅴ類である。1067は鉢ⅡＢ類で，上底気味で端部を摘み出した形態の底部をもつ。1068は短く外反する口縁部形態Ｃ類をもつ壺Ⅲ類である。1069は壺の胴部～底部である。偏球胴の胴部形態Ｃ類とレンズ状平底の底部形態Ｃ類の特徴をもつ。1070は壺の肩部である。沈線による重弧文が施されており，免田式壺の一種である。

30号土坑（ＳＣ30・第169図－1071～1078）

遺構：Ｆ区北西隅に位置する。調査時の不手際で図化できなかったが，長軸約４ｍ，短軸約2.5ｍ，アメーバー状の不定形を呈する。埋土は，平面形状がドーナツ状に２層に分かれ，中心部が黒灰色土で小さな土器片を多量に含み，周辺部が黒褐色土で形の判別できるような大きめの土器片が多く含まれる。



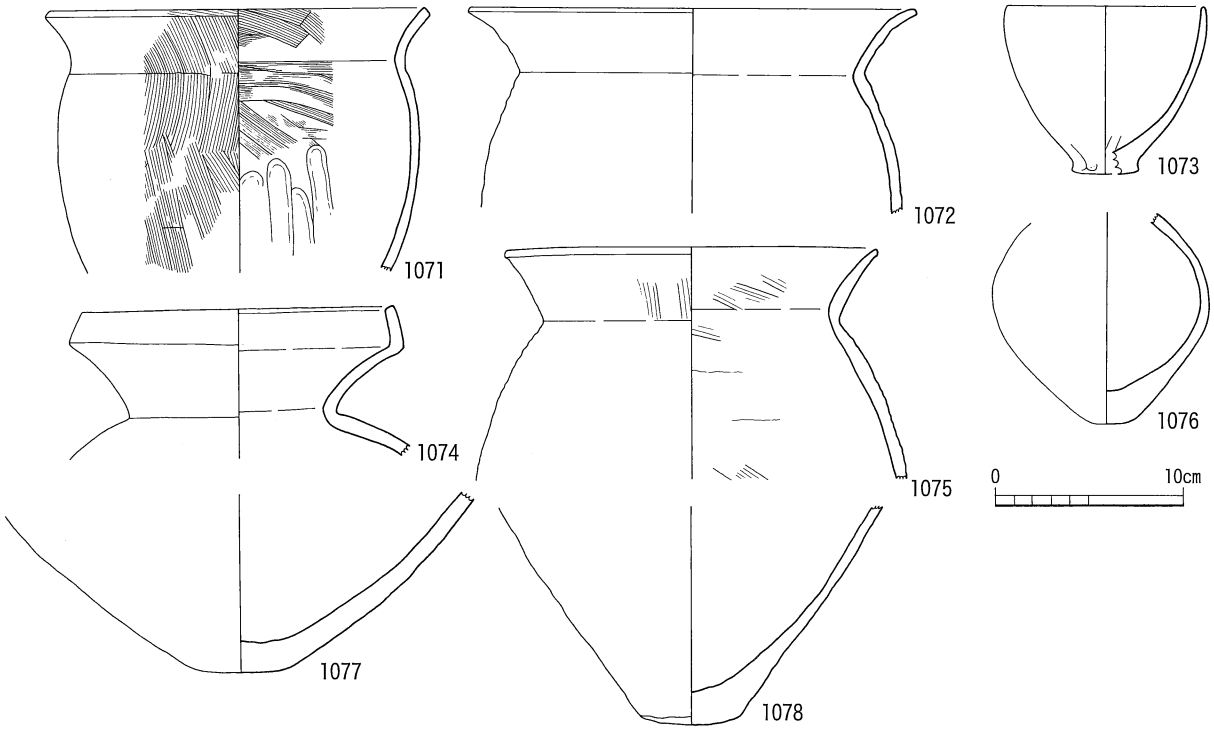
28・29号土坑（ＳＣ28・29）**土層注記**
①黒褐色土（Hue 7.5YR-2/3）…粘性弱くしまりも弱い。ＳＣ28の埋土／**②暗褐色土**（Hue 10YR-3/4）…①とあまり区別がつかないが，若干色調が明るい。ＳＣ29の埋土

第168図　27・28・29号土坑（ＳＣ27・28・29）図（１／40）及び出土遺物図（１／４）

遺構の性格については不明であるが，中央部の黒灰色は灰質土で被熱の可能性が大いに考えられる。ただし，遺構周辺の包含層は著しく攪乱され，果たして土器年代の示すような時期の遺構であるか疑問が残る。例えば畑地耕作時に出てきた土器類をゴミと一緒に焼却しようとした土坑など，後世の土坑である可能性が大きい。

遺物：1071～1072・1075・1079は甕である。1072・1075は上方に薄くのびる口縁部に器面調整に平行タタキを施す。甕Ⅲ類だと考えられる。1071は緩やかに「く」字状に屈曲しながら立ち上がる口縁部形態Ｂ類をもつ。器面調整は縦方向のハケ目である。1079は壺のように大きく広がる底部ではあるが，底

部形態E類の特徴をもつ甕の底部である。器面調整は平行タタキを施す。1074・1076・1078は壺である。1074はわずかに内湾しながら立ち上がる二次口縁部をもつ。二次口縁部には櫛描波状文を施す。1076は小型壺である。レンズ状の底部形態C類を特徴的にもつ。1078は大きく開きながら立ち上がる底部であり，平底の底部形態B類をもつ。1073は鉢である。内湾しながら立ち上がる鉢ⅡB類で，平底で端部をわずかに摘み出す底部形態をもつ。



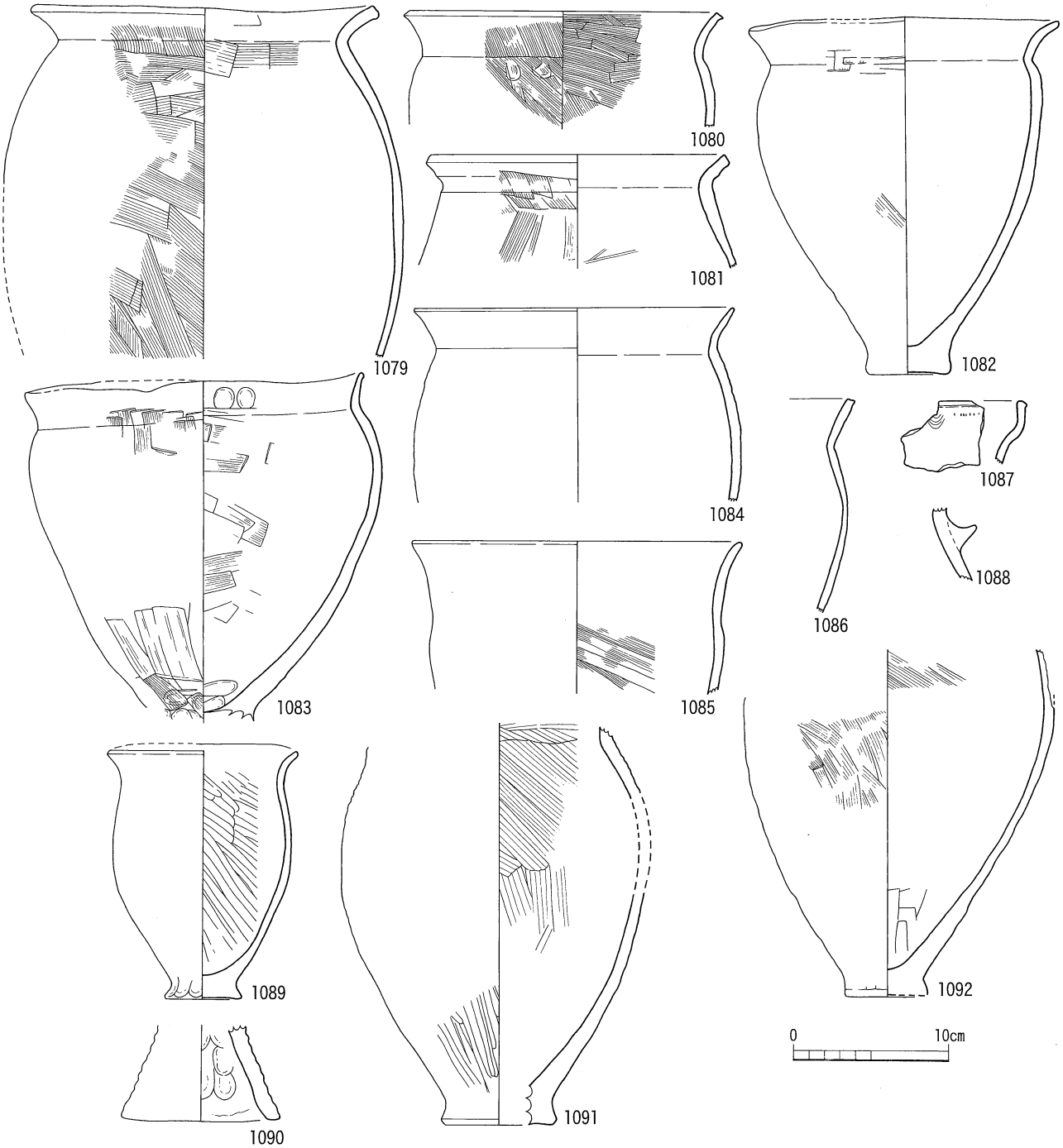
第169図　30号土坑（ＳＣ30）出土遺物図（１／４）

Ｆ区包含層出土の土器（第170図～第172図－1079～1140）

Ｆ区では，遺構外からの遺物が主に西側と北側の傾斜面に集中して出土した。ここでは一括して扱う。

1079～1092は甕である。1079・1081は，短く屈曲する口縁部をもつ甕Ⅰ類である。器面調整はハケ目を施す。1080は緩やかに屈曲する口縁部B類をもち，器面調整はハケ目を施す。1081は短く屈曲する口縁部A類をもつ甕Ⅰ類だと考えられる。1082は，胴部上半で最大径がくる胴部形態C類をもち，口縁部は短く外反する。1083は短い口縁部に，胴部上半で最大径がくる胴部形態C類をもつ。1084は長く緩やかに屈曲する口縁部形態C類をもち，外面には平行タタキを施す。1087は外反しながら直立気味に立ち上がる口縁部である。外面口縁部に櫛描波状文を施している。1088は断面形が角状に立ち上がる１条の突帯をもつ頸部片である。1089は小型の甕である。1090は器面調整に平行タタキを施す甕の脚台部分だと考えられる。1091・1092は胴部～底部である。いずれも長形胴タイプではあるが，最大径の場所が若干違う。脚部形態は，ともに張り出しをもつ平底のD類である。1091は底部付近に縦方向のミガキを施す。

1093～1104は壺である。1093は口縁部が大きく開くタイプの壺Ⅱ類の直口口縁壺である。口唇部は凹面状にくぼみ，球形胴に平底をもつ。1094は壺Ⅰ類の二重口縁壺の二次口縁部であり，櫛描波状文の上に円形浮文を装飾する。1095は口縁部形態B類をもち，その口唇部に櫛描波状文を施し，その上に縦位の貼付突帯文を施す。1096・1097は二次口縁部に凹線文をもつ壺Ⅰ類の口縁部である。1099は壺Ⅴ類の



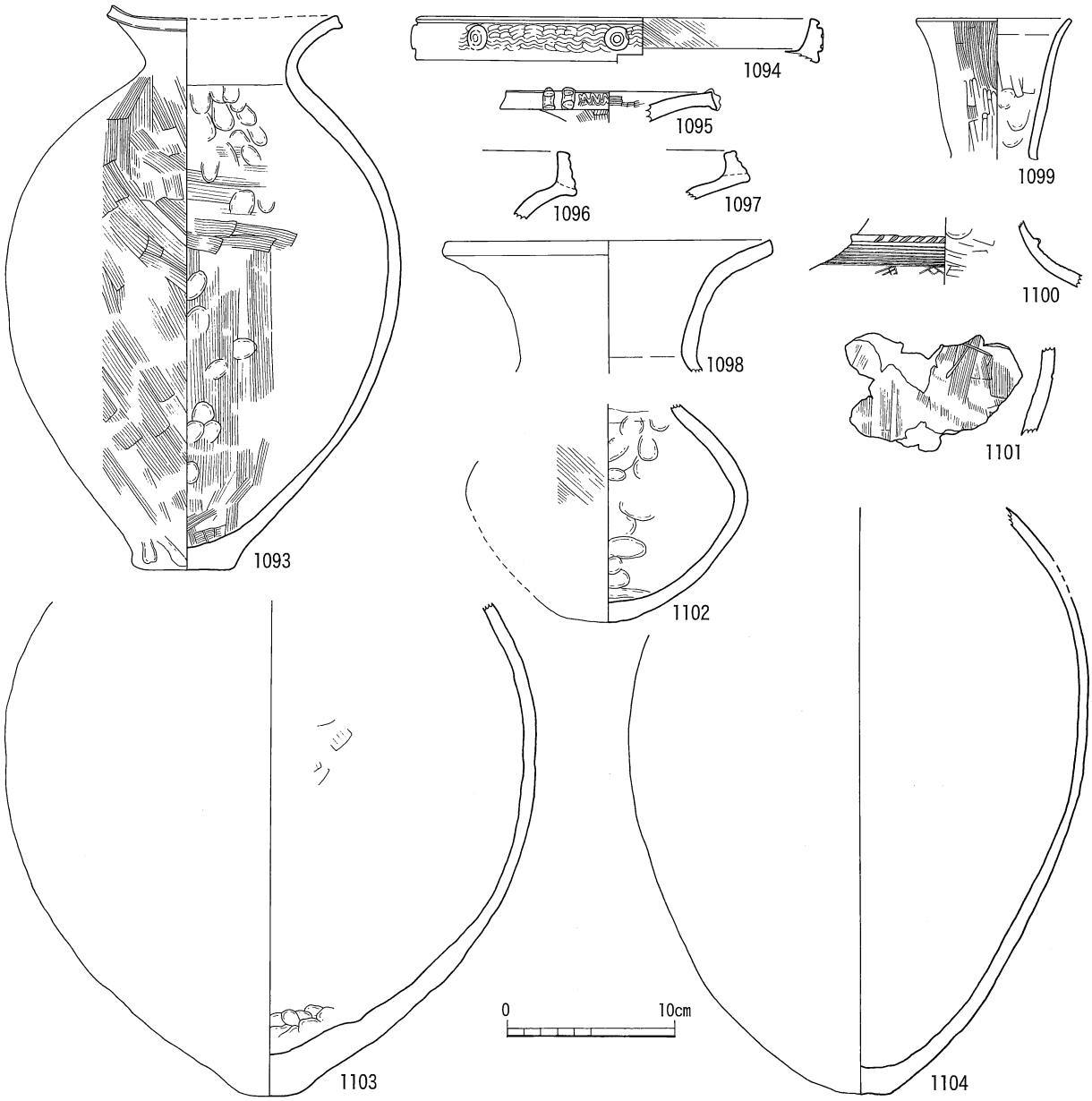
第170図　Ｆ区包含層出土遺物図①（１／４）

長頸壺である。1100は壺の肩部であり，斜位の刻文をもつ貼付突帯・横走する数条の沈線文・三角形を基調とする幾何学文を施す。1101は壺の胴部か頸部であり，縦方向のハケ目が全体に施されているが，その上側に「×」のようなヘラ書き文らしきものが認められる。1102・1103・1104は胴部であり，1102は球形胴であるが，わずかに最大径部が「く」字状に曲がっている。1103は球形の胴部形態Ｂ類の胴部に尖底気味の底部をもつ。1103は長形の胴部形態Ａ類の胴部に平底気味の底部をもつ。

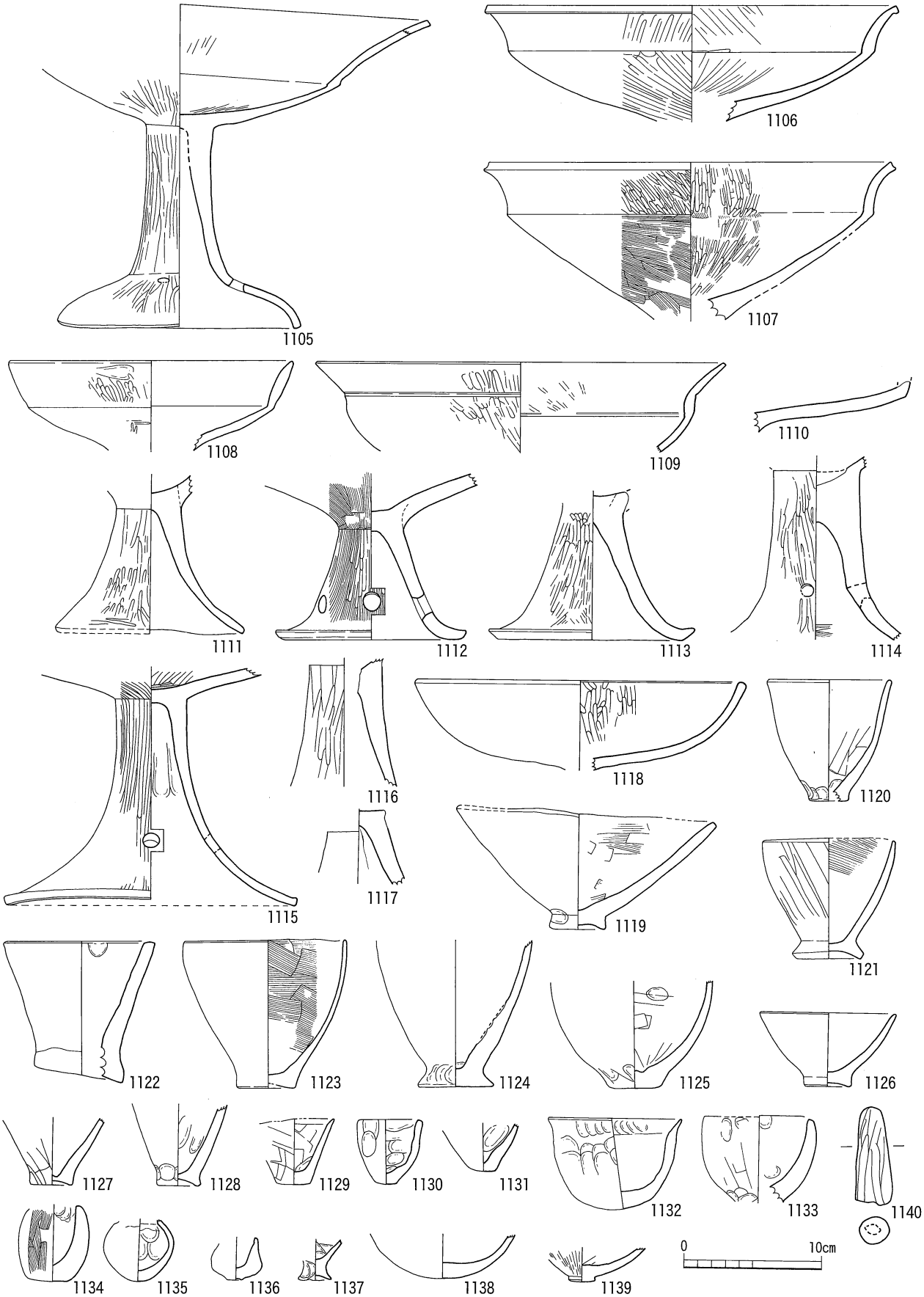
1105～1117は高坏である。1105は緩やかに屈曲しながら立ち上がる坏部Ｃ類と内湾しながら脚注部に繋がる裾部をもつ高坏Ⅲ類である。1106・1107は坏部形態Ｂ類の坏部である。1108・1109は同一個体だと考えられる。坏部はＢ類のようであるが，口縁部が外反ではなく直立気味に立ち上がっている。脚部

は短くラッパ状に開くＢ類である。1113は坏部の一部と脚部である。円形透かしをもち，長脚で細長くラッパ状に開くＡ類の脚部をもつ。

1117～1126は鉢である。そのうち1117～1119・1126は深鉢（Ⅰ類）・1120～1125は浅鉢（Ⅱ類）である。1117は胴部でＳ字状に屈曲する胴部形態Ａ類をもつ鉢ⅠＡ類である。1118は内湾しながら立ち上がる胴部形態Ｃ類をもつ鉢ⅠＣ類である。底部は欠損しているが，貼付円盤状平底を呈すると考えられる。1119は直線的に開くタイプである。1120・1121・1123・1124はわずかに内湾しながら立ち上がる鉢ⅡＢ類である。底部は1124の平底を除いて，1120・1121・1123は上底である。1122は直線的に外側に開く鉢である。1125は平底の底部に内湾しながら立ち上がる胴部をもち，小型壺の可能性もある。1127～1139は小型土器である。1138・1139は小型壺の可能性がある。1140は杓子状土器の柄部である，



第171図　Ｆ区包含層出土遺物図②（１／４）



第172図　Ｆ区包含層出土遺物図③（１／４）

（６）その他の遺物（第173図－1142～1145）

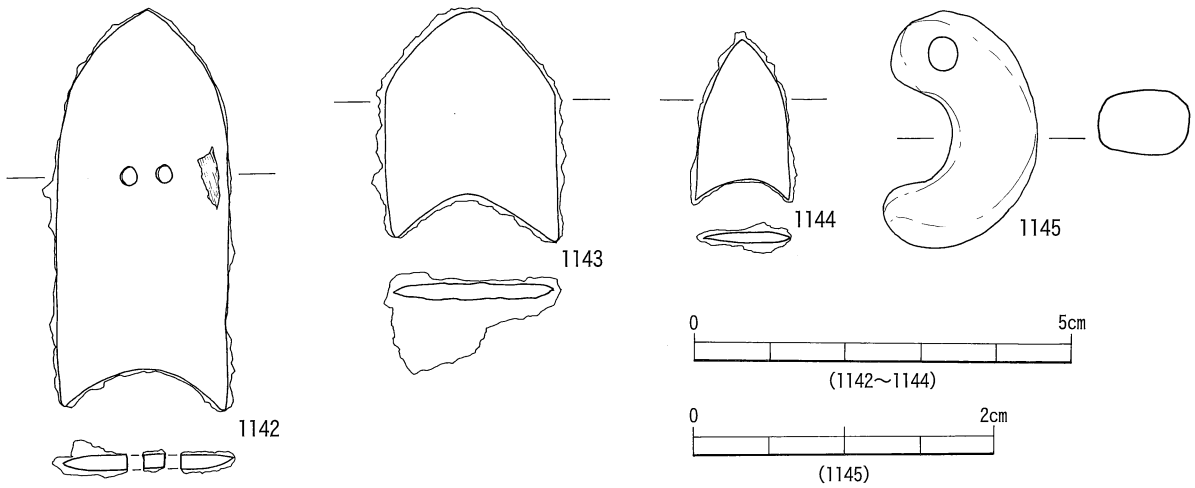
遺構外出土の土器・石器以外の遺物として，鉄器と石製装飾品が出土した。

■鉄器（第173図－1142～1144）

下那珂遺跡では全部で６点の鉄器が出土した。うち５点が鉄鏃で，残り１点は刀子である。鉄鏃の１点（ＳＡ56－608）と刀子１点（ＳＡ109－863）が遺構出土であり，他はこの４点の鉄鏃（1142～1144）である。３点とも平面形態が異なるが，いずれも無茎の三角形鏃の範疇に入る。1142は比較的鏃身の長いタイプで最大長5.5cmである。鏃身部上半に２つの穿孔が施してある。大きさは若干異なるが，平面形態は弥生時代後期終末頃に時期比定されている福岡県小郡市三沢栗原遺跡29号住居跡出土鉄鏃（小郡市教育委員会1986『三沢栗原遺跡Ｖ』）と似ている。1143は五角形の一辺が窪んだような形態を呈する。1144は全長2.1cmと小形である。平面形態は砲弾形を呈し，基部が弧状に窪む。

■石製装飾品（第173図－1145）

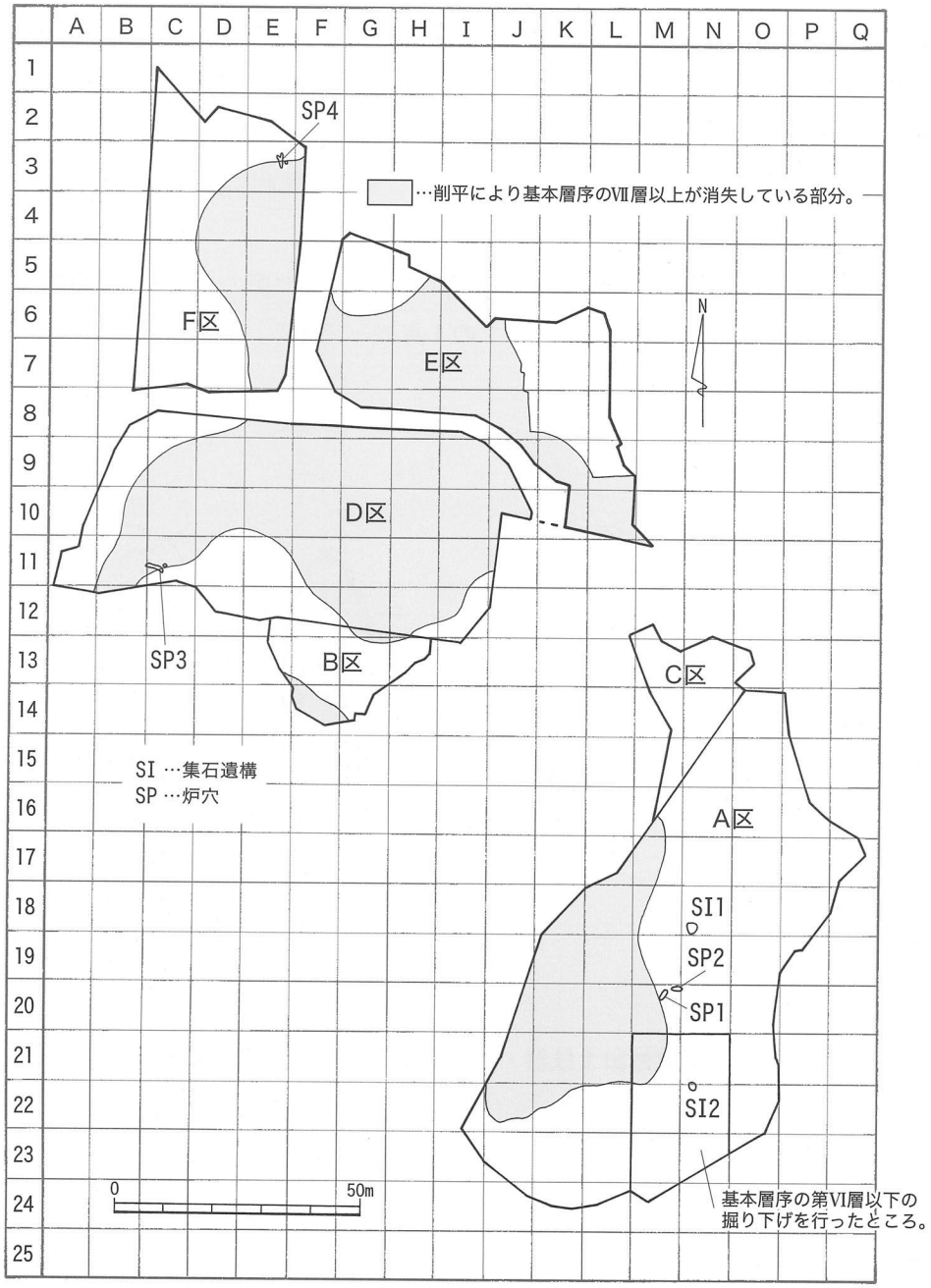
1145は石製の勾玉である。下那珂遺跡では勾玉が合計３点出土したが，うち２点は土製勾玉（ＳＡ11-422・ＳＡ56-609）で，出土している石製勾玉はこの１点のみである。石材は緑色滑石で，１カ所に径２mmの穿孔が施してある。



第173図　遺構外出土鉄器・石製勾玉図（１／１・２／１）

第６節　旧石器時代～縄文時代の調査

前節で述べたが，下那珂遺跡は弥生時代後期～終末期主体の遺跡である。しかし，部分的な調査や表採資料によって弥生時代以前の存在が確認された。確認された遺構・遺物は，集石遺構２基・炉穴状遺構４基・石器類・縄文土器類である。以下簡単であるが，個別の説明を行う。



第174図　縄文時代遺構配置図（１／1,500）

（１）遺構

■集石遺構（第175図）

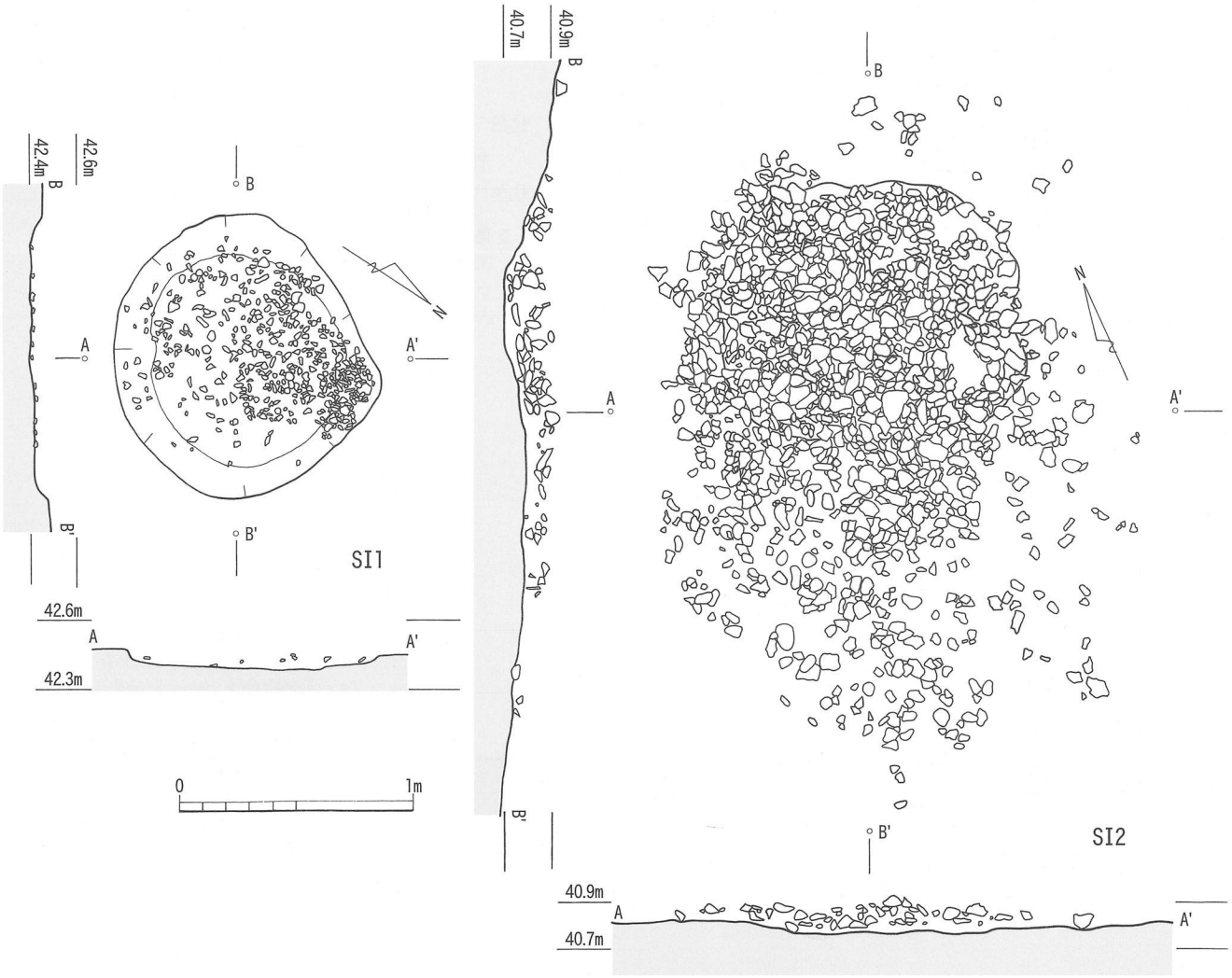
Ａ区調査において，基本層序の第Ⅰ層～第Ⅲ層を除去し弥生時代中心包含層（基本層序の第Ⅳ層）検出した時，丘陵頂部が削平され第Ⅴ層以下が検出されたことは前項で述べたが，その折に完全な検出状況ではないが２基の集石遺構が検出された。

１号集石遺構（第175図左）

Ｎ18グリッド南西側で検出された。長軸約120cm・短軸約115cm・深さ約６cmの円形プランの浅い土坑をもつ。構成礫は小形で３～８cm程度の砂岩製亜円礫を主体とする。礫密集状況は，北側に密集部分があるが，他は疎らである。

２号集石遺構（第175図右）

Ｎ21とＮ22の境界上で検出された。長軸約125cm・短軸約110cm・深さ７～17cmの円形プランの１号集石遺構とほぼ同形・同規模の土坑をもつ。構成礫は５～10cmの砂岩製亜円礫が主体であるが，土坑底面付近では約10～15cmのやや大きめの砂岩製礫を用いている。礫密集状況は，１号集石遺構と異なり土坑内に密集しており，さらに南側の土坑外にも疎らに存在する。



第175図　１号・２号集石遺構（ＳＩ１・２）（１／30）図

■**炉穴状遺構**（第176図～第177図）

Ａ区で２基・Ｄ区で１基・Ｆ区で１基の炉穴状遺構が検出された。

１号炉穴（第176図－１）

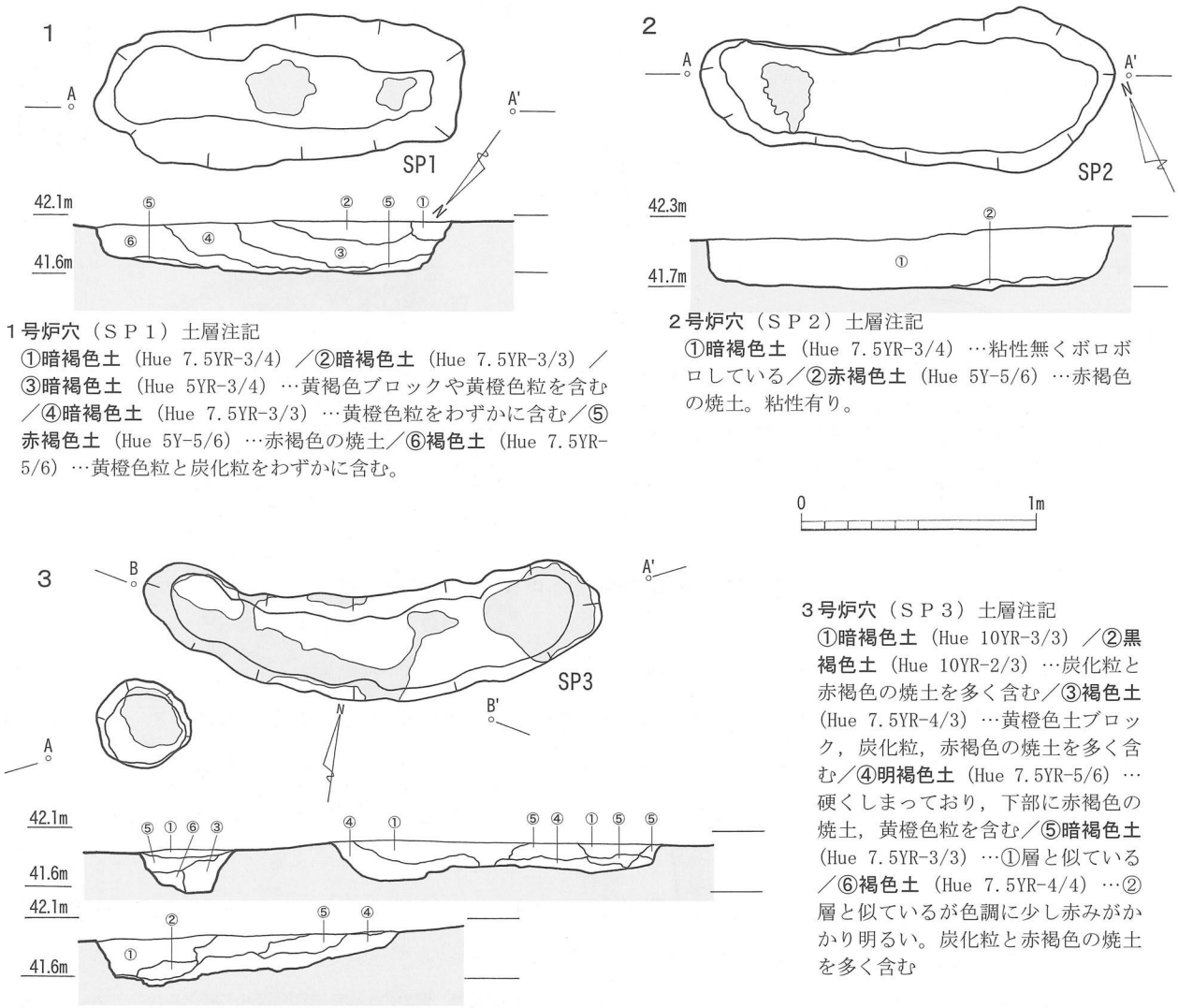
Ａ区Ｎ20グリッド北東側で検出された。長軸176cm・短軸41～70cmの瓢箪形を呈する。深さは約25cm，埋土は粘性のない暗褐色土の単層であるが，径の大きい方の端部の底部には粘性のある柔らかな土，もう片方の底部には赤化した焼土が確認された。

２号炉穴（第176図－２）

Ａ区Ｎ20グリッド北東側で検出された。長軸155cm・短軸51cmの隅丸方形を呈する。深さは約22cm，埋土は中央部の底部と片方の底部中央部には赤化した焼土が確認された。

３号炉穴（第176図－３）

Ｄ区Ｃ11グリッドで検出された。長軸194cm・短軸44cmのバナナのように反った長楕円形と径38cmの円形の２つから成る。深さは13～21cmで，床面の大部分と壁面の一部に焼土が確認された。



１号炉穴（ＳＰ１）土層注記
①暗褐色土（Hue 7.5YR-3/4）／**②暗褐色土**（Hue 7.5YR-3/3）／**③暗褐色土**（Hue 5YR-3/4）…黄褐色ブロックや黄橙色粒を含む／**④暗褐色土**（Hue 7.5YR-3/3）…黄橙色粒をわずかに含む／**⑤赤褐色土**（Hue 5Y-5/6）…赤褐色の焼土／**⑥褐色土**（Hue 7.5YR-5/6）…黄橙色粒と炭化粒をわずかに含む。

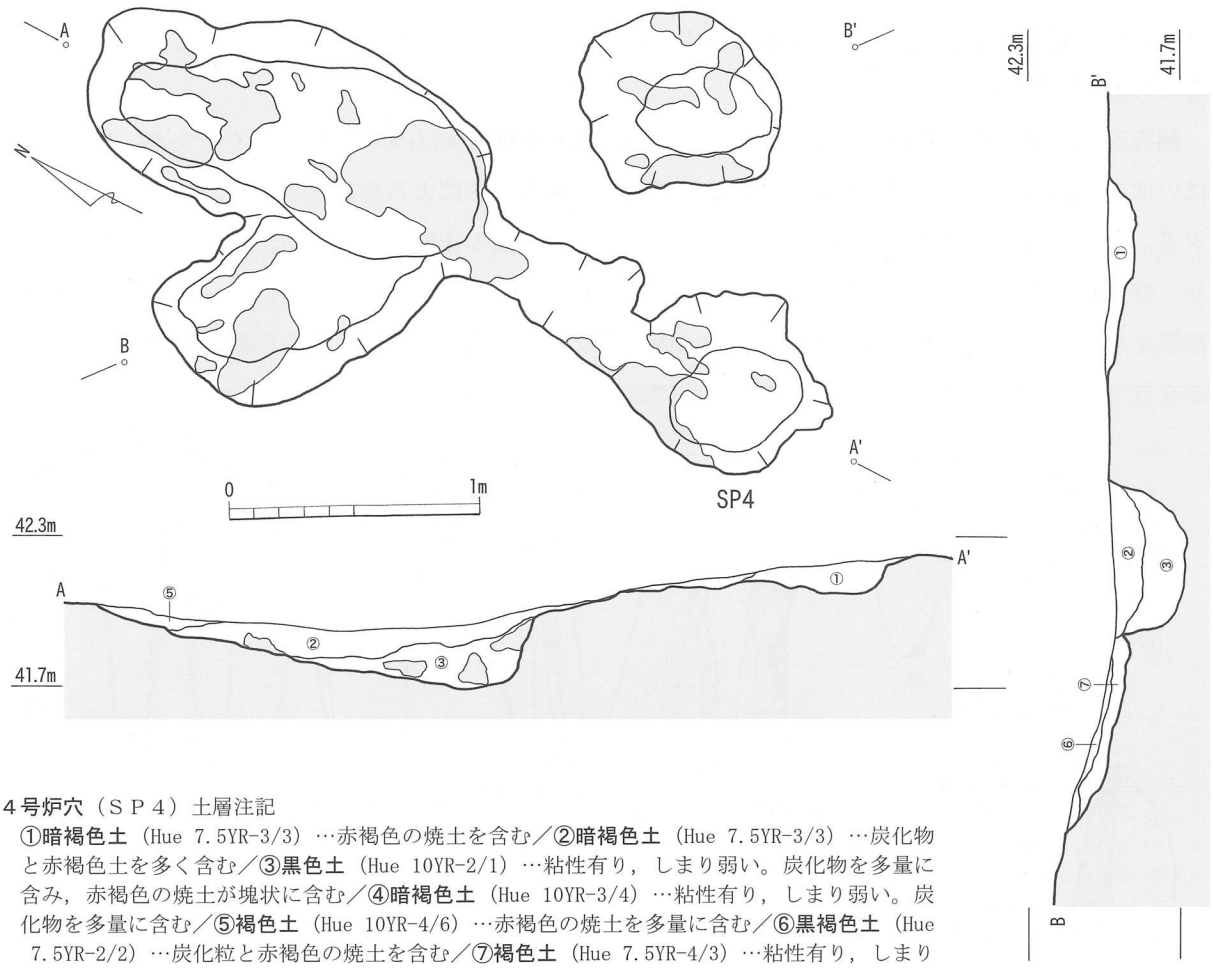
２号炉穴（ＳＰ２）土層注記
①暗褐色土（Hue 7.5YR-3/4）…粘性無くボロボロしている／**②赤褐色土**（Hue 5Y-5/6）…赤褐色の焼土。粘性有り。

３号炉穴（ＳＰ３）土層注記
①暗褐色土（Hue 10YR-3/3）／**②黒褐色土**（Hue 10YR-2/3）…炭化粒と赤褐色の焼土を多く含む／**③褐色土**（Hue 7.5YR-4/3）…黄橙色土ブロック，炭化粒，赤褐色の焼土を多く含む／**④明褐色土**（Hue 7.5YR-5/6）…硬くしまっており，下部に赤褐色の焼土，黄橙色粒を含む／**⑤暗褐色土**（Hue 7.5YR-3/3）…①層と似ている／**⑥褐色土**（Hue 7.5YR-4/4）…②層と似ているが色調に少し赤みがかかり明るい。炭化粒と赤褐色の焼土を多く含む

第176図　１号・２号・３号炉穴（ＳＰ１・２・３）図（１／30）

４号炉穴（第177図）

Ｆ区Ｅ２グリッドで検出された。長軸328cm・短軸31～78cmの長楕円形，その長楕円形から分化した長軸78cm・短軸71cmの隅丸方形の組合せのＹ字状土坑と径77cmの円形土坑から成る。床面の各端部と中央部に焼土が確認できる。２基以上の炉穴が切り合ってできたものだと考えられる。



４号炉穴（ＳＰ４）土層注記
①暗褐色土（Hue 7.5YR-3/3）…赤褐色の焼土を含む／**②暗褐色土**（Hue 7.5YR-3/3）…炭化物と赤褐色土を多く含む／**③黒色土**（Hue 10YR-2/1）…粘性有り，しまり弱い。炭化物を多量に含み，赤褐色の焼土が塊状に含む／**④暗褐色土**（Hue 10YR-3/4）…粘性有り，しまり弱い。炭化物を多量に含む／**⑤褐色土**（Hue 10YR-4/6）…赤褐色の焼土を多量に含む／**⑥黒褐色土**（Hue 7.5YR-2/2）…炭化粒と赤褐色の焼土を含む／**⑦褐色土**（Hue 7.5YR-4/3）…粘性有り，しまり弱い。黄褐色土粒を含む

第177図　４号炉穴（ＳＰ４）（１／30）図

（２）遺物（第178図～第181図・1147～1161）

■**石器**…包含層及び基本層序の第Ⅵ層以下から旧石器～縄文時代早期に属すると考えられる石器類が出土した。出土した石器はナイフ形石器・尖頭器・削器細石刃核・剥片石器・打製石鏃である。

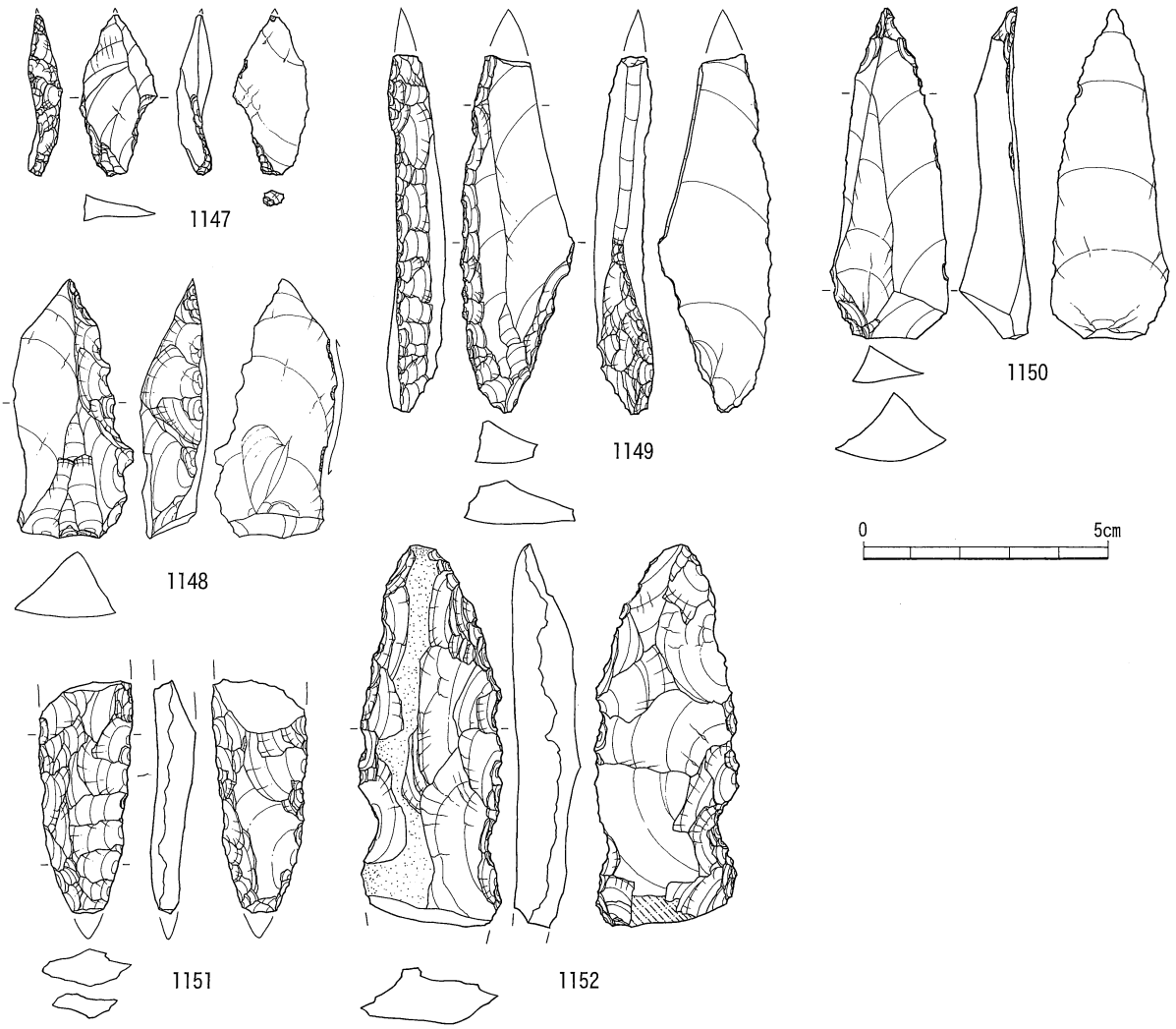
ナイフ形石器（第178図－1147～1150）…1147はチャート製である。素材剥片のバルブ側を先端に用いる。背面と左右側縁いずれのブランティングにも対向調整が観察される。刃部には不規則な刃こぼれ状の微細剥離痕が考えられる。1148は頁岩製である。縦長の剥片を素材とし，剥片末端部を先端に用いる。二次調整は通常のブランティングより大ぶりで，鋸歯状を呈する調整の後に，通常のブランティングが施される。また，腹面の刃縁には刃こぼれ状の微細剥離痕が確認できる。1149はホルンフェルス製である。縦長剥片を素材とし，剥片末端部を先端に用いる。1150は頁岩製である。縦長剥片を素材とし，剥片末端部にブランティングを施す。背面右側にも二次調整が施されるが，通常のブランティングより

若干甘い加工である。背面右側縁には刃こぼれ状の微細剥離痕が確認できる。

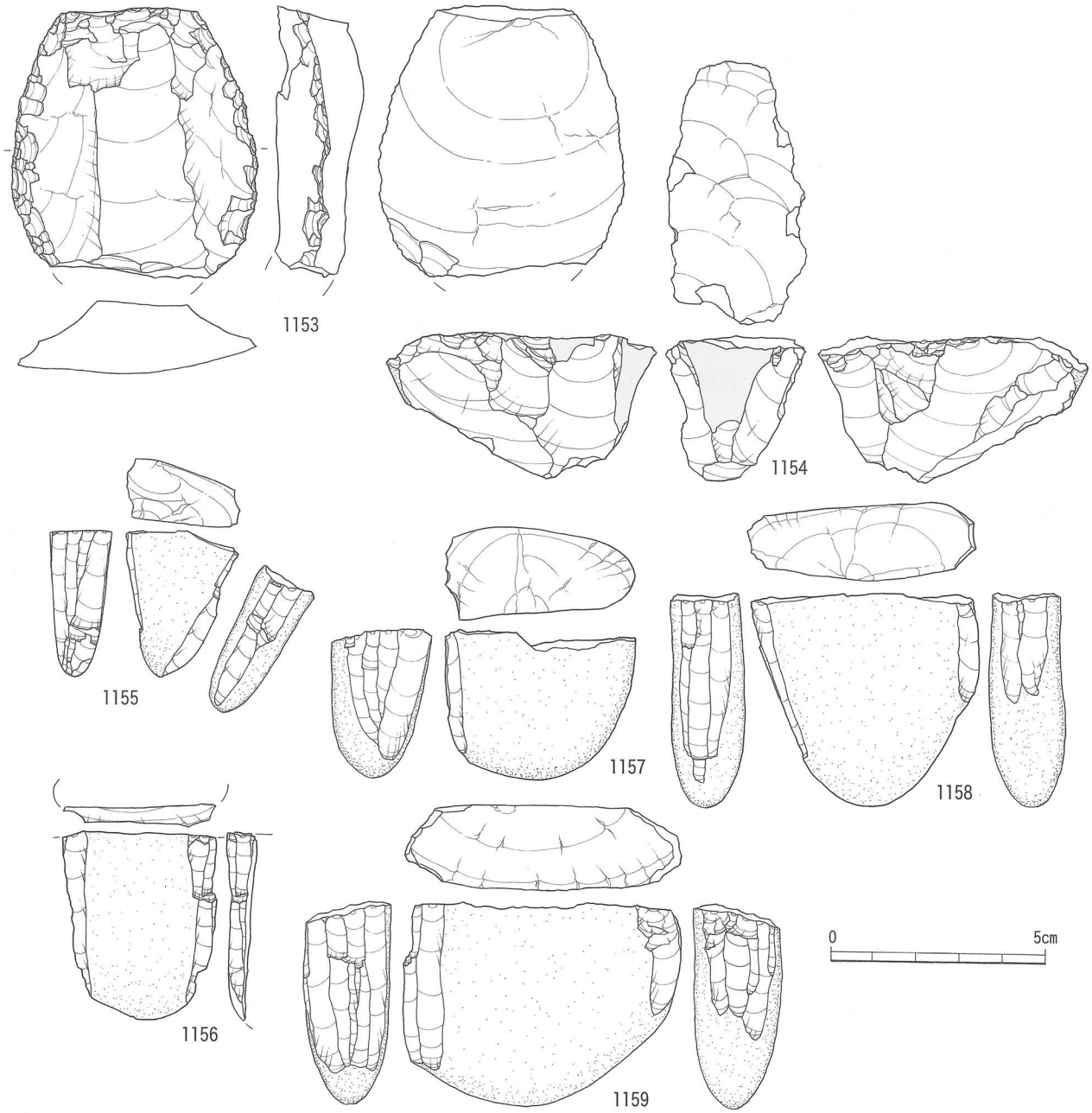
尖頭器（第178図－1151～1152）…1151は珪質岩製である。調整は両面に及ぶ。調整剥離は概して粗く，側面の調整はジグザグしている。1152はホルンフェルス製である。平面形は左右対称であるが，調整は左右非対称である。

削器（第179図－1153）…1153は頁岩製である。大形の幅の広い剥片を素材とし，両側縁にスクレイパーエッジを形成する。剥片末端部を欠損するが，この部分にも刃部が形成されていたとすれば掻器である可能性もある。

細石刃核（第179図－1154～1159）…1154は流紋岩製の船野型細石刃核のブランクである。1155～1159はいずれも畦原型細石刃核である。1155は頁岩製で，両極打法による分割礫を用い，２面の作業面を有する。1156は砂岩製で，節理面によって破損している。２面の作業面を有する。表面が光沢をもっており，弥生時代に砥石として再利用された可能性がある（246）。1157は砂岩製であり，両極打法による分割礫を用い，１面の作業面を有する。1158は砂岩製であり，両極打法による分割礫を用い，２面の作業面を有する。1159は砂岩製であり，両極打法ではない分割礫を用い，２面の作業面を有する。



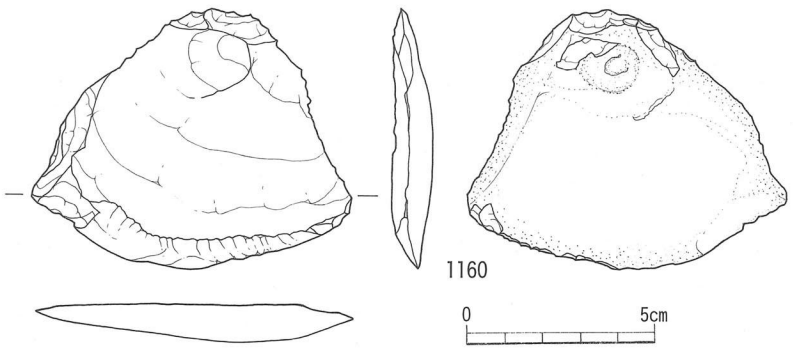
第178図　旧石器時代～縄文時代石器図①（２／３）



第179図　旧石器時代～縄文時代石器図②（２／３）図

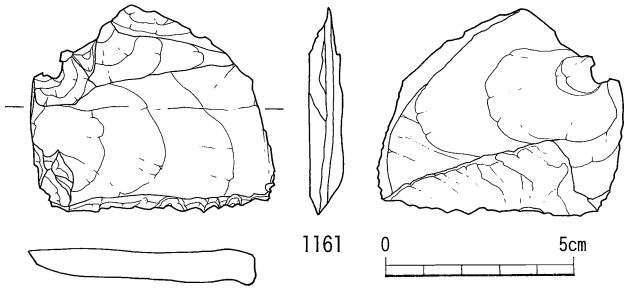
剥片石器（第180・181図1160～1161）

1160～1161は第Ⅵ層中から出土した。先項（第Ⅱ章－第４節）で述べた蛤形剥片石器との共通点も多いが，縄文時代早期以前に属する石器であり，別に剥片石器として扱う。ただし，先項でも述べているが，先項で蛤形剥片石器の範疇



第180図　旧石器時代～縄文時代石器図③（１／２）図

にいれたものの中に縄文時代以前の剥片石器の可能性があるものが多くに含まれていることを予め断っておきたい。1160は砂岩製である。背面に自然面を残し，幅の広い端部と左側縁の一部とバルブ側に剥離を施し，刃部を形成する。1161は剥片の上下両側縁に剥離を施し，刃部を形成する。特に下方縁には丁寧な剥離を施し，鋸歯状に仕上げている。1160・1161とも削器的な利用が想定できる。



第181図　旧石器時代～縄文時代石器図④（１／２）図

■**土器**…細片が多数出土した。ほとんどが基本層序の第Ⅳ層（主に弥生時代の包含層）上から出土した。風化著しく不明なものが多い。主体は口縁部断面が舌状を呈しする厚手（1.0～1.3cm前後）で，胎土には１mm以下の乳白色と淡黄色粒を多く含むものが多い。外面施文は無文が多いが，横と斜方向の貝殻腹縁による条痕文を施すものも多い。また，楕円形・山形の押型文もわずかに含む。いずれも縄文時代早期に属するものだと考えられる。

（1）竪穴住居跡

住居番号	検出区	検出グリッド	方位	平面形	主柱穴	規模（cm） 長さ	×	幅	×	深さ	面積（㎡）
SA1	A区	N19	N-27-E	不正方形	有?	233	×	256	×	18	5.6
SA2	A区	O20	N-11-E	不正方形	有?	280	×	331	×	15	8.3
SA3	A区	N20	N-30-E	不明	有?	140	×	327	×	11	4.6
SA4	A区	L22	N-34-E	長方形	無	142	×	299	×	13	4.3
SA5	A区	K22	N-35-E	不正方形	無	395	×	523	×	12	18.5
SA6	A区	L23	N-26-W	不明	無	315	×	(185)	×	—	7.0
SA7	A区	K23	N-30-W	不明	無	419	×	(203)	×	—	12.4
SA8	A区	K24	N-42-W	不明	無	(189)	×	(138)	×	—	1.5
SA9	A区	O21	N-20-E	方形	有?	434	×	412	×	19	17.0
SA10	A区	O20	N-22-E	不明	有2?	364	×	(207)	×	11	7.6
SA11	A区	O20	N-9-W	不正形	有2?	360	×	421	×	13	12.9
SA12	A区	O19	N-19-E	方形	有1?	393	×	348	×	9	12.0
SA13	A区	O19	N-13-E	不明	有1?	428	×	(333)	×	19	12.1
SA14	A区	O22	N-43-W	方形	無	218	×	351	×	22	9.6
SA15	A区	O22	N-53-E	不明	無	(296)	×	347	×	15	9.7
SA16	A区	O22	N-34-W	不明	無	(193)	×	(115)	×	17	2.3
SA17	A区	N23	N-55-E	不明	無	480	×	(437)	×	11	16.6
SA18	A区	N22	N-45-E	方形	無	(227)	×	250	×	7	5.4
SA19	A区	N22	N-41-E	方形	無	252	×	(228)	×	20	5.4
SA20	A区	N22	N-34-E	不明	無	257	×	(131)	×	12	3.0
SA21	A区	O17	N-29-E	長方形	無	399	×	499	×	10	18.9
SA22	A区	J21	N-36-W	不明	無	不明	×	不明	×	19	13.5
SA23	A区	J21	N-43-E	不明	無	(298)	×	(222)	×	24	3.9
SA24	A区	J21	N-32-E	不明	無	(270)	×	410	×	24	11.6
SA25	A区	N22	N-34-W	隅丸方形	無	211	×	248	×	26	4.5
SA26	A区	N23	N-1-W	長楕円形	無	343	×	238	×	22	7.0
SA27	A区	M19	N-35-E	長方形	無	428	×	328	×	12	13.6
SA28	A区	L22	N-35-E	方形	無	329	×	369	×	20	11.5
SA29	A区	M22	N-34-E	長方形	無	(275)	×	356	×	15	9.4
SA30	A区	L23	N-43-E	方形	無	249	×	257	×	—	5.8
SA31	A区	L23	N-49-E	不明	無	(186)	×	(196)	×	—	3.3
SA32	A区	L23	N-40-E	方形	無	276	×	269	×	—	7.6
SA33	A区	L23	N-37-E	不明	無	(257)	×	不明	×	—	7.7
SA34	A区	P18	N-53-W	不明	無	(293)	×	(386)	×	9	11.1
SA35	A区	P17	N-55-W	不明	無	(361)	×	(164)	×	18	17.9
SA36	A区	Q17	N-49-W	不明	無	448	×	128	×	30	10.9
SA37	A区	Q17	N-45-W	不明	無	(427)	×	(358)	×	35	13.4
SA38	A区	Q17	N-133-W	不明	無	(178)	×	(217)	×	不明	2.9
SA39	A区	Q17	N-47-W	不明	無	(385)	×	(250)	×	14	12.3
SA40	A区	Q17	N-53-E	不明	無	(242)	×	(373)	×	24	6.9
SA41	A区	P16	N-8-E	不明	無	(571)	×	(350)	×	13	18.6
SA42	A区	P16	N-22-E	不明	無	300	×	不明	×	15	7.8
SA43	A区	P15	N-9-W	不明	無	267	×	(240)	×	21	6.0
SA44	A区	P15	N-12-W	不明	無	400	×	(432)	×	18	17.6
SA45	A区	P14	N-21-E	不明	無	不明	×	(262)	×	31	6.3
SA46	A区	K23	N-24-W	不明	無	474	×	(323)	×	—	23.7
SA47	A区	K23	N-36-W	不正形	無	384	×	476	×	—	15.3
SA48	A区	K23	N-37-W	不正形	無	(341)	×	434	×	—	15.3
SA49	A区	K23	N-34-W	不明	無	(228)	×	382	×	—	7.1
SA50	A区	L24	N-16-W	不明	無	(189)	×	(175)	×	—	3.9
SA51	A区	J23	N-51-E	不明	無	278	×	(180)	×	—	3.2
SA52	A区	J23	N-8-W	不明	無	(296)	×	322	×	—	10.5
SA53	A区	J23	N-38-E	不明	無	(138)	×	290	×	—	4.8

第１表　下那珂遺跡検出竪穴住居跡及び土坑計測表（1）

（1）竪穴住居跡

住居番号	検出区	検出グリッド	方位	平面形	主柱穴	規模（cm） 長さ	×	幅	×	深さ	面積（㎡）
SA54	A区	J23	N-47-E	不明	無	(284)	×	434	×	—	8.5
SA55	A区	K23	N-36-E	方形	有2?	(439)	×	469	×	—	19.2
SA56	A区	J23	N-46-E	不明	無	(81)	×	(294)	×	—	1.0
SA57	A区	I22	N-77-E	不明	無	(111)	×	(85)	×	16	1.1
SA58	A区	J22	N-63-E	方形	有1?	254	×	296	×	24	8.6
SA59	A区	K22	N-56-E	不正形	無	(124)	×	(327)	×	—	2.6
SA60	A区	K23	N-18-W	不明	無	352	×	336	×	—	5.1
SA61	A区	K23	N-23-W	長方形	無	228	×	(347)	×	—	5.8
SA62	A区	K23	N-29-W	方形	無	442	×	490	×	—	21.7
SA63	A区	P17	N-33-E	方形	無	233	×	222	×	17	5.1
SA64	A区	P17	N-30-W	方形	無	312	×	341	×	19	9.8
SA65	A区	P18	N-45-W	方形	無	(204)	×	253	×	30	5.2
SA66	A区	O21	N-15-E	不明	無	(271)	×	(256)	×	15	6.8
SA67	A区	O21	N-2-E	不明	無	(414)	×	(183)	×	30	6.7
SA68	A区	O21	N-5-E	不明	有2?	(243)	×	(273)	×	27	7.1
SA69	A区	O20	N-4-E	不明	無	(76)	×	(280)	×	34	2.3
SA70	A区	O20	N-18-E	不明	無	(151)	×	不明	×	12	6.5
SA71	A区	O21	N-25-E	不明	無	不明	×	不明	×	20	4.9
SA72	A区	O21	N-37-E	不明	無	不明	×	不明	×	20	0.5
SA73	A区	O21	N-20-E	長方形	無	334	×	277	×	22	8.4
SA74	A区	O22	N-32-E	方形	無	253	×	265	×	36	6.8
SA75	A区	O22	N-32-E	不明	無	395	×	(162)	×	19	7.5
SA76	A区	O21	N-18-E	不明	無	307	×	(248)	×	35	8.8
SA77	A区	O22	N-33-E	不明	無	317	×	(168)	×	16	4.9
SA78	A区	O21	N-25-E	方形	無	(263)	×	240	×	25	7.2
SA79	A区	N21	N-36-E	方形	無	259	×	333	×	19	9.2
SA80	A区	N22	N-35-W	方形	無	(237)	×	267	×	13	6.0
SA81	A区	N21	N-20-W	不明	不明	(122)	×	(33)	×	11	0.3
SA82	A区	O22	N-37-E	方形	無	244	×	218	×	29	5.4
SA83	A区	O21	N-10-E	不明	無	257	×	(125)	×	32	3.5
SA84	A区	O19	N-33-E	方形	有4	398	×	355	×	20	13.5
SA85	A区	P19	N-34-E	不明	無	284	×	(186)	×	不明	4.3
SA86	A区	O19	N-21-W	不明	無	不明	×	不明	×	15	2.6
SA87	A区	I23	N-55-E	不明	無	(87)	×	343	×		2.5
SA88	A区	P18	N-39-E	不明	無	不明	×	不明	×	10	8.3
SA89	A区	P19	N-25-E	不明	無	不明	×	不明	×	21	6.6
SA90	C区	M13	N-6-E	長方形	無	(317)	×	276	×	17	8.3
SA91	B区	G13	N-25-W	不明	無	(290)	×	551	×	30	14.2
SA92	B区	G13	N-52-E	方形	無	489	×	444	×	16	22.8
SA93	B区	F13	N-43-E	方形	無	351	×	408	×	26	14.5
SA94	B区	F13	N-41-E	不明	無	(170)	×	(80)	×	15	1.6
SA95	B区	F12	N-47-E	長方形	無	226	×	309	×	35	7.0
SA96	B区	F12	N-47-E	方形	無	248	×	265	×	54	6.4
SA97	B区	G14	N-10-E	方形	有1?	357	×	414	×	43	14.2
SA98	B区	G14	N-10-E	楕円形	無	(190)	×	(298)	×	16	5.7
SA99	B区	I14	不明	不正形	無	—	×	—	×	—	—
SA100	B区	H13	不明	楕円形	無	—	×	—	×	—	—
SA101	B区	G12	不明	方形	無	—	×	—	×	—	—
SA102	B区	F12	不明	方形	無	—	×	—	×	—	—
SA103	D区	F12	N-24-E	方形	無	312	×	352	×	25	12.0
SA104	D区	E12	N-48-E	方形	無	348	×	380	×	26	14.0
SA105	D区	E12	N-42-E	方形	無	421	×	355	×	26	6.3
SA106	D区	E11	N-32-E	方形	無	410	×	(269)	×	26	10.1
SA107	D区	F11	N-35-E	不明	無	(203)	×	(313)	×	33	8.7
SA108	D区	E12	N-18-E	不明	無	(139)	×	(263)	×	18	2.8

第２表　下那珂遺跡検出竪穴住居跡及び土坑計測表（2）

（1）竪穴住居跡

住居番号	検出区	検出グリッド	方位	平面形	主柱穴	規模（cm） 長さ × 幅 × 深さ	面積（㎡）
SA109	D区	E12	N-38-E	不明	無	(294) × (392) × 56	7.4
SA110	D区	E12	N-30-E	不明	無	(153) × (109) × 36	1.4
SA111	D区	E12	N-31-E	不明	無	(278) × (312) × 23	7.1
SA112	D区	D12	N-24-E	方形	無	362 × 406 × 35	8.9
SA113	D区	D11	N-7-E	不明	有1?	(284) × 413 × 24	2.5
SA114	D区	D11	N-6-E	不明	無	(152) × 262 × 17	10.6
SA115	D区	D12	N-23-E	不明	無	(297) × 404 × 42	11.2
SA116	F区	C07	N-2-E	方形	無	347 × (344) × 36	11.5
SA117	F区	C06	N-3-W	不正形	無	349 × (262) × 19	7.8
SA118	F区	C07	N-2-W	不明	無	(282) × (139) × 23	4.0
SA119	F区	C05	N-10-E	不明	無	(275) × (454) × 25	10.9
SA120	F区	D04	N-48-E	方形	無	357 × 363 × 7	12.4

（2）土坑

住居番号	検出区	検出グリッド	方位	平面形	主柱穴	規模（cm） 長さ × 幅 × 深さ	面積（㎡）
SC1	A区	I22	N-65-W	隅丸方形	—	190 × 108 × 55	2.0
SC2	A区	J23	N-63-W	隅丸方形	—	205 × 135 × —	2.4
SC3	A区	K23	N-38-E	不明	—	(157) × (145) × —	2.3
SC4	A区	M22	N-2-W	不正方形	—	121 × 110 × —	1.1
SC5	A区	—	—	—	—	— × — × —	—
SC6	A区	—	—	—	—	— × — × —	—
SC7	A区	—	—	—	—	— × — × —	—
SC8	A区	J21	N-56-E	正方形	—	325 × (96) × 25	6.5
SC9	A区	J23	N-50-E	不明	—	(51) × (225) × 50	1.9
SC10	A区	L22	W-17-S	不定形	—	250 × 93 × 50	1.0
SC11	A区	Q17	N-58-W	隅丸方形	—	125 × 82 × 20	1.0
SC12	A区	I22	N-44-W	隅丸方形	—	168 × 139 × 80	2.1
SC13	A区	K23	N-87-E	不正形	—	191 × 168 × —	2.6
SC14	A区	N22	N-50-E	長方形	—	228 × 163 × 33	3.5
SC15	A区	P17	N-18-W	方形	—	77 × 76 × 28	0.6
SC16	A区	N22	N-30-E	隅丸方形	—	115 × 98 × —	0.8
SC17	A区	J23	N-45-E	長方形	—	155 × 135 × 20	2.1
SC18	A区	J23	N-53-E	方形	—	257 × 245 × —	5.8
SC19	A区	J23	N-38-E	不明	—	(15) × 124 × 55	0.3
SC20	A区	J21	N-35-E	楕円形	—	233 × 100 × —	1.7
SC21	A区	P17	N-26-W	隅丸方形	—	88 × 47 × 15	0.4
SC22	B区	G13	N-87-E	楕円形	—	118 × 82 × 20	0.8
SC23	B区	G13	N-30-E	長楕円形	—	180 × 80 × 30	0.8
SC24	B区	H13	N-34-E	長楕円形	—	130 × 70 × 30	1.2
SC25	D区	E11	N-23-W	不定形	—	380 × 240 × 20	6.4
SC26	F区	5D	N-50-W	円形	—	80 × 65 × 10	1.6
SC27	F区	5D	N-5-E	三角形	—	110 × 80 × 10	0.5
SC28	F区	5D	N-2-W	方形	—	180 × 180 × 10	3.3
SC29	F区	5D	N-7-E	長方形	—	220 × (115) × 15	2.0
SC30	F区	2C	不定	不定形	—	400 × 250 × 10	不明

SC5～SC7は欠番

第３表　下那珂遺跡検出竪穴住居跡及び土坑計測表（3）

番号	器　　種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
1	磨製石鏃	A	包含層	19	頁　岩	1.4	1.6	0.2	0.7
2	磨製石鏃	D	包含層	S4-4436	頁　岩	2.8	1.6	0.3	1.6
3	磨製石鏃	A	包含層	S1-1385	頁　岩	3.0	1.8	0.2	1.3
4	磨製石鏃	A	包含層	H12	頁　岩	2.2	1.9	0.2	1.6
5	磨製石鏃	B	包含層	1094	頁　岩	2.9	2.0	0.3	2.0
6	磨製石鏃	A	包含層	SI-1563	頁　岩	3.0	2.0	0.2	2.2
7	磨製石鏃	A	包含層	F12	頁　岩	3.0	2.0	0.3	2.6
8	磨製石鏃	A	包含層	D14 3層	頁　岩	2.9	1.8	0.3	2.2
9	磨製石鏃	A	包含層	K8	頁　岩	3.1	1.9	0.4	2.0
10	磨製石鏃	F	包含層	S6-245	頁　岩	3.4	1.8	0.3	2.0
11	磨製石鏃	D	包含層	S5-4100	ホルンフェルス	3.3	2.2	0.4	2.2
12	磨製石鏃	A	包含層	F14	頁　岩	3.6	2.0	0.3	2.8
13	磨製石鏃	A	包含層	S2-4区	頁　岩	2.0	2.1	0.2	1.6
14	磨製石鏃	D	包含層	S3西	頁　岩	3.5	2.1	0.3	2.4
15	磨製石鏃	A	包含層	H10	頁　岩	3.2	2.0	0.2	1.5
16	磨製石鏃	A	包含層	12ﾄﾚ	頁　岩	3.9	1.9	0.2	1.6
17	磨製石鏃	A	包含層	SI-1263	頁　岩	3.3	1.6	0.3	1.9
18	磨製石鏃	A	包含層	S7一括	頁　岩	1.9	2.0	0.2	1.1
19	磨製石鏃	A	包含層	J8	頁　岩	4.0	2.3	0.3	2.3
20	磨製石鏃	A	包含層	I10	頁　岩	3.7	2.3	0.3	3.4
21	磨製石鏃	F	包含層	S6-385	頁　岩	3.6	2.3	0.3	2.9
22	磨製石鏃	A	包含層	E13	頁　岩	2.9	3.0	0.2	2.3
23	磨製石鏃	A	包含層	H9	頁　岩	2.9	2.9	0.4	3.0
24	磨製石鏃	F	包含層	S6-854	頁　岩	3.9	1.2	0.3	2.7
25	磨製石鏃	D	包含層	S003西ｶｸﾗﾝ	頁　岩	3.8	2.0	0.2	2.4
26	磨製石鏃	F	包含層	S6-998	頁　岩	4.7	2.5	0.4	5.5
27	磨製石鏃	A	包含層	K8	頁　岩	4.5	2.7	0.4	5.6
28	磨製石鏃	B	包含層		頁　岩	4.7	2.3	0.4	6.8
29	磨製石鏃	A	包含層	G13	頁　岩	2.5	2.2	0.3	2.6
30	磨製石鏃	F	包含層	SC6	頁　岩	2.9	2.5	0.3	2.7
31	磨製石鏃	A	包含層	F14	頁　岩	4.2	2.4	0.3	4.6
32	磨製石鏃	F	包含層	12ﾄﾚ	ホルンフェルス	5.3	2.3	0.4	6.0
33	磨製石鏃	A	包含層	H13	頁　岩	3.5	2.1	0.4	3.8
34	磨製石鏃	A	包含層	I9	頁　岩	3.9	1.0	0.4	1.8
35	磨製石鏃	D	包含層	S003西ｶｸﾗﾝ	頁　岩	3.2	1.5	0.3	1.3
36	磨製石鏃	A	包含層	29トレ	頁　岩	5.8	3.4	0.3	7.6
37	磨製石鏃	F	包含層	S6-1325	頁　岩	5.9	2.8	0.4	10.8
38	磨製石鏃	A	包含層	J8	頁　岩	4.0	1.5	0.3	2.0
39	磨製石鏃	A	包含層	I10	頁　岩	2.8	1.7	0.3	2.1
40	磨製石鏃	A	包含層	I9	頁　岩	3.7	1.0	0.4	1.8
41	磨製石鏃	A	包含層	SI-475	頁　岩	3.5	1.0	0.3	1.5
42	磨製石鏃	D	包含層	S003西ｶｸﾗﾝ	頁　岩	3.9	1.6	0.2	1.8
43	磨製石鏃	F	包含層	S6-1095	頁　岩	4.2	3.1	0.6	8.8
44	磨製石鏃	A	包含層	I11	頁　岩	3.1	2.7	0.2	3.0
45	磨製石鏃	A	包含層	I10	頁　岩	1.8	1.8	0.3	1.2
46	磨製石鏃	A	包含層	D12	頁　岩	2.0	2.1	0.3	1.5
47	磨製石鏃	A	包含層	F13	頁　岩	3.1	1.1	0.3	1.2
48	石鏃未製品	A	包含層	14ﾄﾚ	頁　岩	4.7	1.9	0.5	5.0
49	石鏃未製品	A	包含層	-	頁　岩	3.6	2.7	0.6	6.4
50	石鏃未製品	F	包含層	南	頁　岩	4.5	3.1	1.1	12.2
51	石鏃未製品	A	包含層	H9	頁　岩	5.5	3.3	0.8	15.3
52	石鏃未製品	B	包含層	-	頁　岩	8.8	3.8	0.7	23.4
53	石 庖 丁	D	包含層	Ⅲ層中	流紋岩	10.4	4.0	0.6	34.2
54	石 庖 丁	-	包含層	-	ホルンフェルス	9.8	4.8	0.9	50.7
55	石 庖 丁	D	包含層	S003西ｶｸﾗﾝ	ホルンフェルス	7.1	4.6	0.4	27.9
56	石 庖 丁	A	包含層	G9	頁　岩	9.5	4.1	0.5	28.3
57	石 庖 丁	A	包含層	G10	頁　岩	9.3	5.1	0.7	46.0
58	石 庖 丁	D	包含層	ｶｸﾗﾝ	頁　岩	5.0	4.6	0.5	18.7
59	石 庖 丁	A	包含層	J8	頁　岩	10.9	5.0	0.9	88.6

第４表　下那珂遺跡出土石器計測表（1）

番号	器　種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
60	石 庖 丁	D	包含層	S003西ｶｸﾗﾝ	流紋岩	9.4	4.1	0.8	39.7
61	石 庖 丁	A	包含層	S2 3区	ホルンフェルス	8.1	5.1	0.9	59.5
62	石 庖 丁	F	包含層	S6-250	ホルンフェルス	9.1	5.0	0.7	38.9
63	石 庖 丁	D	包含層	S5-4244	頁　岩	10.5	4.3	0.6	42.9
64	石 庖 丁	A	包含層	H5	頁　岩	8.8	4.3	0.6	37.5
65	石 庖 丁	A	包含層	G12	頁　岩	6.4	5.9	1.0	51.0
66	石 庖 丁	A	包含層	I9	頁　岩	8.0	4.0	0.5	25.6
67	石 庖 丁	A	包含層	25ﾄﾚ	頁　岩	4.6	3.7	0.8	20.4
68	石 庖 丁	D	包含層	S4-4695	頁　岩	6.6	3.3	0.3	10.2
69	石 庖 丁	F	包含層	1ﾄﾚ	頁　岩	4.7	4.0	0.5	12.4
70	石 庖 丁	D	包含層	S003西ｶｸﾗﾝ	頁　岩	3.8	3.9	0.4	8.5
71	石 庖 丁	F	包含層	S6-2055	頁　岩	3.9	2.0	0.6	10.2
72	石 庖 丁	A	包含層	G10	頁　岩	10.0	4.9	1.1	86.4
73	石 庖 丁	A	包含層	J8	頁　岩	10.2	4.2	0.6	38.7
74	石 庖 丁	C	包含層	ｶｸﾗﾝ	頁　岩	10.2	4.9	1.0	76.2
75	石 庖 丁	A	包含層	F13	頁　岩	8.9	5.1	0.6	38.1
76	石 庖 丁	A	包含層	I5	ホルンフェルス	9.3	4.8	1.1	64.8
77	石 庖 丁	A	包含層	H13	ホルンフェルス	8.1	4.4	1.2	57.8
78	石 庖 丁	A	包含層	S4-249	頁　岩	8.6	3.7	0.6	30.4
79	石 庖 丁	A	包含層	E13	頁　岩	4.1	4.2	0.6	13.0
80	石 庖 丁	A	包含層	H10	頁　岩	4.5	3.4	0.7	15.7
81	石 庖 丁	A	包含層	I7	頁　岩	4.9	4.7	0.8	21.5
82	石 庖 丁	A	包含層	I12	頁　岩	5.9	4.7	0.4	13.6
83	石 庖 丁	A	包含層	G14	頁　岩	5.8	2.8	0.4	10.1
84	石 庖 丁	G	包含層	I-69	ホルンフェルス	8.3	5.1	0.9	62.0
85	石 庖 丁	A	包含層	I7	頁　岩	7.8	4.4	0.9	38.9
86	石 庖 丁	A	包含層	J8	頁　岩	6.9	3.7	0.7	22.6
87	石 庖 丁	A	包含層	G14	頁　岩	4.0	4.7	0.8	20.4
88	石 庖 丁	A	包含層	I5	頁　岩	4.2	4.0	0.8	19.4
89	石 庖 丁	A	包含層	G13	ホルンフェルス	8.7	4.4	1.1	58.7
90	石 庖 丁	A	包含層	F13	ホルンフェルス	8.3	4.8	1.0	55.3
91	石 庖 丁	D	包含層	S5	ホルンフェルス	8.5	4.3	0.8	48.7
92	石 庖 丁	A	包含層	J8	ホルンフェルス	8.6	4.9	0.5	26.7
93	石 庖 丁	A	包含層	S1-184	頁　岩	7.7	4.6	1.0	45.0
94	石 庖 丁	A	包含層	S1-1191	頁　岩	9.0	4.7	0.6	45.0
95	石 庖 丁	A	包含層	H13	ホルンフェルス	8.6	4.9	0.7	48.3
96	石 庖 丁	G	包含層	SE1一括	頁　岩	6.7	4.7	0.4	29.5
97	石 庖 丁	A	包含層	H9	頁　岩	8.8	5.0	1.3	76.3
98	石 庖 丁	A	包含層	H14	頁　岩	6.0	4.1	0.7	27.1
99	石 庖 丁	G	包含層	I-28	頁　岩	7.1	4.3	1.3	52.8
100	石 庖 丁	A	包含層	F11+9ﾄﾚ	頁　岩	7.5	3.9	0.6	25.1
101	石 庖 丁	G	包含層	I-53	頁　岩	8.5	4.9	0.9	50.0
102	石 庖 丁	F	包含層	S6-42	頁　岩	7.9	4.6	0.9	43.3
103	石 庖 丁	D	包含層	S2-6	頁　岩	7.0	4.1	0.9	40.9
104	石 庖 丁	A	包含層	E13	頁　岩	7.1	3.9	0.9	35.8
105	石 庖 丁	F	包含層	S6-1020	珪質岩	9.1	3.6	0.7	29.2
106	石 庖 丁	A	包含層	S2-816	頁　岩	9.1	4.5	0.7	50.3
107	石 庖 丁	A	包含層	D13	頁　岩	7.7	4.2	0.6	35.4
108	石 庖 丁	A	包含層	H11	頁　岩	8.2	5.0	1.0	54.0
109	石 庖 丁	F	包含層	S6-2054	頁　岩	7.6	5.0	1.0	46.7
110	石 庖 丁	A	包含層	S4-240+-233	頁　岩	8.9	4.5	0.8	46.1
111	石 庖 丁	A	包含層	表採	頁　岩	8.0	4.4	0.8	31.1
112	石 庖 丁	A	包含層	H10	頁　岩	7.6	4.7	0.8	38.4
113	石 庖 丁	F	包含層	S6-519	頁　岩	8.3	4.8	0.8	43.2
114	石 庖 丁	A	包含層	F14	頁　岩	8.1	4.8	0.8	49.9
115	石 庖 丁	D	包含層	S003西ｶｸﾗﾝ	頁　岩	7.5	5.0	0.8	50.3
116	石 庖 丁	D	包含層	S2-171	頁　岩	9.4	4.1	0.9	55.4
117	石 庖 丁	A	包含層	SA2-165	頁　岩	9.4	4.0	0.7	46.1
118	石 庖 丁	A	包含層	S2-362	ホルンフェルス	10.7	4.5	0.7	65.3

第５表　下那珂遺跡出土石器計測表（2）

番号	器　　種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
119	石 庖 丁	F	包含層	S6-181	頁　岩	10.2	5.5	0.8	77.3
120	石 庖 丁	F	包含層	7ﾄﾚ＋S6	頁　岩	9.6	4.3	0.7	51.2
121	石 庖 丁	A	包含層	S1-1720	頁　岩	9.5	5.2	1.5	85.7
122	石 庖 丁	A	包含層	G14	頁　岩	8.7	3.6	0.7	30.6
123	石 庖 丁	A	包含層	S3-166	頁　岩	8.7	4.2	0.7	36.2
124	石 庖 丁	D	包含層	S003ｶｸﾗﾝ	ホルンフェルス	5.1	5.7	0.4	25.4
125	石 庖 丁	A	包含層	H13	頁　岩	4.7	4.4	0.7	24.5
126	石 庖 丁	A	包含層	I8	頁　岩	8.6	5.5	0.5	36.0
127	石 庖 丁	A	包含層	I12	頁　岩	9.0	5.0	1.2	66.3
128	石 庖 丁	A	包含層	I9	頁　岩	8.9	5.2	0.6	44.9
129	石 庖 丁	G	包含層	上層一括	ホルンフェルス	8.6	5.0	0.4	43.2
130	石 庖 丁	A	包含層	S1-720	頁　岩	10.0	5.9	1.4	103.4
131	石 庖 丁	A	包含層	S1-1192	頁　岩	9.6	5.2	9.6	53.0
132	石 庖 丁	A	包含層	S2-398	頁　岩	7.0	5.2	0.7	46.2
133	石 庖 丁	A	包含層	S5-20	頁　岩	10.0	4.8	1.0	78.7
134	石 庖 丁	A	包含層	F14	頁　岩	8.2	3.6	0.6	32.0
135	石 庖 丁	D	包含層	S3 西	頁　岩	7.4	4.2	0.7	33.3
136	石 庖 丁	A	包含層	H10	頁　岩	7.4	3.2	0.6	22.2
137	石 庖 丁	A	包含層	J8	頁　岩	7.5	5.1	0.6	37.4
138	石 庖 丁	A	包含層	G13	頁　岩	6.2	4.2	0.7	21.3
139	石 庖 丁	A	包含層	F13	ホルンフェルス	7.3	4.5	0.8	32.1
140	石 庖 丁	A	包含層	F13	頁　岩	10.1	4.7	1.2	76.1
141	石 庖 丁	D	包含層	表採	頁　岩	8.5	4.3	0.4	41.9
142	石 庖 丁	A	包含層	F10	頁　岩	7.4	4.9	1.3	42.4
143	石 庖 丁	F	包含層	上層	頁　岩	4.5	5.5	0.7	21.6
144	石 庖 丁	B	包含層	1152	頁　岩	7.3	3.8	0.9	24.6
145	石 庖 丁	A	包含層	S1-1408	頁　岩	7.4	4.1	0.6	26.6
146	石 庖 丁	A	包含層	S1-1429	頁　岩	8.5	4.1	1.8	68.7
147	石 庖 丁	A	包含層	F14	頁　岩	9.0	3.9	0.8	44.6
148	石 庖 丁	A	包含層	F11	頁　岩	9.3	4.1	0.9	33.0
149	石 庖 丁	A	包含層	G14	頁　岩	7.3	4.5	0.7	30.2
150	石 庖 丁	D	包含層	S003北ｶｸﾗﾝ	頁　岩	8.5	4.5	1.2	59.4
151	石 庖 丁	A	包含層	S4	頁　岩	9.8	6.1	1.1	76.2
152	石 庖 丁	F	包含層	S6-850	頁　岩	8.8	5.0	0.9	46.4
153	石 庖 丁	A	包含層	K9	頁　岩	8.3	3.6	1.0	34.4
154	石 庖 丁	F	包含層	-	頁　岩	5.3	5.4	1.0	27.1
155	石 庖 丁	A	包含層	J7	砂　岩	5.1	5.0	0.7	20.8
156	石 庖 丁	A	包含層	H13	頁　岩	5.5	4.1	0.4	9.9
157	石 庖 丁	A	包含層	D14 3層	頁　岩	4.2	4.3	0.4	10.1
158	石 庖 丁	A	包含層	F14	頁　岩	4.5	3.1	0.5	10.9
159	石 庖 丁	A	包含層	S4-231	頁　岩	2.7	2.9	0.3	2.5
160	石 庖 丁	A	包含層	F13	頁　岩	3.6	1.9	0.6	2.6
161	石 庖 丁	A	包含層	H10	頁　岩	2.9	2.3	0.5	2.8
162	石 庖 丁	A	包含層	H13	頁　岩	3.4	2.5	0.6	6.5
163	石 庖 丁	A	包含層	G14	頁　岩	4.8	2.5	0.4	5.1
164	石 庖 丁	A	包含層	G10	ホルンフェルス	5.6	3.9	0.7	16.2
165	石 庖 丁	A	包含層	F14	頁　岩	3.9	3.2	0.6	7.8
166	石 庖 丁	F	包含層	S6-2075	頁　岩	5.3	4.3	0.5	14.8
167	石 庖 丁	D	包含層	S1-20	頁　岩	4.1	3.6	0.5	8.4
168	石 庖 丁	A	包含層	F12	頁　岩	4.0	2.8	0.5	5.7
169	石 庖 丁	A	包含層	F14	頁　岩	4.2	2.6	0.4	4.7
170	石 庖 丁	A	包含層	H13	頁　岩	4.5	2.4	0.4	3.9
171	石 庖 丁	A	包含層	I11	頁　岩	3.8	5.2	1.3	23.1
172	石 庖 丁	A	包含層	-	頁　岩	3.1	3.9	0.4	6.7
173	砥　　石	A	包含層	H13	頁　岩	5.0	1.2	1.1	12.9
174	砥　　石	A	包含層	S2-2101	頁　岩	5.8	2.5	1.3	25.6
175	砥　　石	A	包含層	F14	頁　岩	7.3	2.2	2.0	36.4
176	砥　　石	D	包含層	S3 西	頁　岩	10.5	2.1	1.6	67.6
177	砥　　石	D	包含層	S4-2016	頁　岩	10.4	1.9	1.9	43.3

第６表　下那珂遺跡出土石器計測表（3）

番号	器　種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
178	砥　石	A	包含層	G14	砂　岩	10.6	4.1	3.4	197.6
179	砥　石	A	包含層	S1-1313	頁　岩	11.9	2.9	1.9	83.6
180	砥　石	A	包含層	I12	頁　岩	9.0	2.2	1.6	49.0
181	砥　石	A	包含層	H10	頁　岩	5.7	2.4	0.9	14.6
182	砥　石	D	包含層	S4-14243	頁　岩	9.8	3.4	1.6	50.5
183	砥　石	B	包含層	-1113	砂　岩	7.7	3.9	4.0	155.8
184	砥　石	A	包含層	G12	砂　岩	7.7	3.2	1.3	58.4
185	砥　石	A	包含層	F14	頁　岩	15.6	3.2	1.2	52.1
186	砥　石	A	包含層	表採	頁　岩	12.3	3.1	2.1	91.3
187	砥　石	A	包含層	H10	頁　岩	9.8	3.9	2.2	58.8
188	砥　石	C	包含層	ｶｸﾗﾝ	頁　岩	12.6	3.4	1.1	58.4
189	砥　石	A	包含層	I7	頁　岩	11.5	4.0	0.9	56.6
190	砥　石	A	包含層	I10	頁　岩	5.7	2.9	1.1	22.2
191	砥　石	A	包含層	E14	頁　岩	2.4	2.4	0.6	6.2
192	砥　石	A	包含層	S2 S区	頁　岩	4.7	4.2	1.5	37.1
193	砥　石	F	包含層	18ﾄﾚ	頁　岩	3.6	1.6	0.4	4.0
194	砥　石	A	包含層	G13	頁　岩	5.4	3.8	0.9	22.7
195	砥　石	A	包含層	下層-201	頁　岩	4.8	2.6	0.4	7.9
196	砥　石	F	包含層	北	頁　岩	5.5	2.4	0.7	13.4
197	砥　石	A	包含層	6ﾄﾚ	頁　岩	5.5	3.0	0.6	12.4
198	砥　石	A	包含層	F-14	頁　岩	8.1	4.1	0.7	34.6
199	砥　石	A	包含層	J8	頁　岩	5.0	4.0	1.1	17.3
200	砥　石	D	包含層	S4-2023	頁　岩	4.2	3.9	1.1	24.8
201	砥　石	A	包含層	E14 3層	頁　岩	6.5	4.6	1.0	32.1
202	砥　石	F	包含層	北	頁　岩	6.9	3.8	1.0	40.6
203	砥　石	D	包含層	S3 西	頁　岩	5.3	3.4	0.6	11.2
204	砥　石	A	包含層	D13	頁　岩	5.3	4.2	0.8	25.8
205	砥　石	A	包含層	I12	頁　岩	5.7	3.6	0.9	23.7
206	砥　石	A	包含層	S7-0139	堆積岩系	4.1	4.6	1.7	47.3
207	砥　石	A	包含層	G14+F14 3層	頁　岩	10.4	5.2	1.3	89.2
208	砥　石	A	包含層	G14	砂　岩	8.5	4.8	1.4	91.5
209	砥　石	D	包含層	S2-4区	砂　岩	7.1	7.0	1.1	84.8
210	砥　石	A	包含層	S1-1514	頁　岩	8.1	7.1	2.4	147.0
211	砥　石	A	包含層	F11	頁　岩	5.2	4.5	1.6	38.2
212	砥　石	A	包含層	G14	頁　岩	12.0	7.8	1.9	165.7
213	砥　石	A	包含層	I12	頁　岩	11.8	6.2	1.3	124.3
214	砥　石	D	包含層	S3	頁　岩	7.2	5.7	0.3	17.1
215	砥　石	F	包含層	北	頁　岩	6.1	4.9	1.0	24.6
216	砥　石	A	包含層	F12	頁　岩	6.3	2.6	1.2	20.2
217	砥　石	F	包含層	北	頁　岩	5.4	3.2	0.7	9.7
218	砥　石	A	包含層	F14	頁　岩	4.6	3.5	0.8	11.4
219	砥　石	A	包含層	F14 3層	頁　岩	3.7	3.0	0.7	8.5
220	砥　石	※	包含層		頁　岩	4.0	4.2	1.1	18.2
221	砥　石	D	包含層	SA4-14253	頁　岩	5.2	2.5	1.1	14.4
222	砥　石	A	包含層	S5	頁　岩	5.7	3.5	0.8	13.5
223	砥　石	A	包含層	H13	頁　岩	5.6	4.1	1.0	19.8
224	砥　石	A	包含層	E14 3層	頁　岩	5.2	3.2	0.8	14.4
225	砥　石	F	包含層	15ﾄﾚ	頁　岩	5.2	2.3	0.8	12.2
226	砥　石	A	包含層	S1 18ﾄﾚ	頁　岩	4.1	2.9	0.6	7.1
227	砥　石	F	包含層	上層	頁　岩	4.7	2.7	0.4	6.5
228	砥　石	A	包含層	S2	頁　岩	4.1	3.3	1.0	12.3
229	砥　石	A	包含層	J8	頁　岩	4.5	2.2	1.3	7.7
230	砥　石	A	包含層	2ﾄﾚ	頁　岩	4.6	5.4	0.7	23.8
231	砥　石	A	包含層	J8	頁　岩	6.4	4.5	1.0	28.7
232	砥　石	A	包含層	F14	頁　岩	7.2	7.8	0.7	52.8
233	砥　石	F	包含層	S6-1504	頁　岩	6.7	5.7	1.6	46.8
234	砥　石	A	包含層	S2 10区	頁　岩	1.6	3.6	0.4	2.9
235	砥　石	A	包含層	S1-408	頁　岩	7.5	5.5	0.7	22.3
236	砥　石	B	包含層	B-1122	頁　岩	8.2	5.7	1.1	75.2

第７表　下那珂遺跡出土石器計測表（4）

番号	器　種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
237	砥　石	A	包含層	E15 3層	頁　岩	7.0	3.5	1.1	34.0
238	砥　石	A	包含層	H12	頁　岩	6.9	2.4	0.5	11.3
239	砥　石	C	包含層	H5	頁　岩	9.2	6.4	0.8	59.9
240	砥　石	A	包含層	S1-425	頁　岩	8.2	5.2	1.3	36.1
241	砥　石	A	包含層	S1-676	頁　岩	11.1	3.0	1.0	45.5
242	砥　石	F	包含層	S6-1281	頁　岩	10.8	4.4	1.3	54.4
243	砥　石	A	包含層	S3-153	頁　岩	4.6	5.9	1.3	40.3
244	砥　石	A	包含層	H10	頁　岩	4.7	5.7	1.4	38.0
245	砥　石	F	包含層	19ﾄﾚ	頁　岩	3.5	4.0	0.6	12.2
246	砥　石	A	包含層	F13	頁　岩	4.4	3.6	0.5	10.2
247	砥　石	F	包含層	S6-204	頁　岩	9.9	5.3	2.2	111.0
248	砥　石	A	包含層	K9	頁　岩	11.6	4.6	3.6	125.7
249	砥　石	A	包含層	G14	頁　岩	11.6	8.1	2.7	270.9
250	砥　石	A	包含層	S1-391	頁　岩	15.0	5.1	2.3	130.2
251	砥　石	A	包含層	下 H12	頁　岩	9.1	5.7	2.5	196.1
252	砥　石	A	包含層	S1-680	頁　岩	11.5	4.8	1.9	130.1
253	砥　石	A	包含層	F11	頁　岩	13.9	4.8	1.9	157.5
254	砥　石	D	包含層	S3 西	凝灰岩	11.6	4.8	2.1	165.7
255	砥　石	A	包含層	I12	砂　岩	8.3	4.3	1.6	69.2
256	砥　石	A	包含層	S2-242	頁　岩	8.7	8.1	3.1	404.4
257	砥　石	B	包含層	B-1339	凝灰岩	6.7	7.4	3.4	241.2
258	砥　石	A	包含層	S1-817	凝灰岩	11.5	6.3	3.6	482.7
259	砥　石	A	包含層	H13	頁　岩	10.2	2.6	4.1	157.4
260	砥　石	A	包含層	SA40	砂　岩	7.7	8.5	3.3	278.0
261	砥　石	A	包含層	S2-125	砂　岩	12.1	6.9	5.8	438.5
262	砥　石	A	包含層	S1-546	砂　岩	9.7	9.8	4.9	613.0
263	砥　石	A	包含層	S1-1743	凝灰岩	26.4	16.1	5.1	2971.0
264	砥　石	A	包含層	S3-西	砂　岩	17.3	9.3	4.0	1042.0
265	砥　石	D	包含層	S4-4778	砂　岩	37.5	14.9	5.7	4200.0
266	削　器	F	包含層	北　上層	頁　岩	10.0	4.7	2.1	80.6
267	削　器	A	包含層	I11	凝灰岩	9.3	4.2	1.6	58.5
268	削　器	A	包含層	S21010	頁　岩	9.4	3.9	1.3	53.6
269	削　器	A	包含層	I5	頁　岩	10.2	4.9	1.3	65.2
270	削　器	A	包含層	E13	頁　岩	8.9	5.3	1.0	55.7
271	削　器	A	包含層	13ﾄﾚ	凝灰岩	10.3	3.0	1.4	56.5
272	蛤形剥片石器	D	包含層	6層	砂　岩	5.0	6.4	1.7	59.0
273	蛤形剥片石器	D	包含層	S4-24187	砂　岩	4.2	5.7	0.9	25.1
274	蛤形剥片石器	A	包含層	S2	砂　岩	5.5	7.5	1.5	61.2
275	蛤形剥片石器	A	包含層	S4-247	頁　岩	4.8	5.8	0.8	18.2
276	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-1120	砂　岩	4.4	4.9	1.2	28.1
277	蛤形剥片石器	D	包含層	S3 北	頁　岩	4.5	6.1	1.1	40.4
278	蛤形剥片石器	A	包含層	H9	頁　岩	3.5	5.6	0.9	19.3
279	蛤形剥片石器	A	包含層	G10	砂　岩	4.2	6.0	1.2	34.8
280	蛤形剥片石器	D	包含層	ﾚｷｸﾞﾝ-12	砂　岩	3.9	5.0	1.2	20.5
281	蛤形剥片石器	A	包含層	S4-227	砂　岩	5.6	8.3	1.5	82.0
282	蛤形剥片石器	A	包含層	H11	頁　岩	6.1	8.7	1.1	69.9
283	蛤形剥片石器	A	包含層	I7	頁　岩	5.8	8.1	1.4	71.1
284	蛤形剥片石器	A	包含層	I9	凝灰岩	5.5	7.7	1.5	62.7
285	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-2075	流紋岩	8.9	8.6	2.2	151.0
286	蛤形剥片石器	A	包含層	SZ1 3B	砂　岩	7.7	8.4	1.5	104.0
287	蛤形剥片石器	A	包含層	G11	凝灰岩	10.1	11.9	2.7	389.3
288	蛤形剥片石器	A	包含層	H10	頁　岩	5.9	8.9	7.4	85.6
289	蛤形剥片石器	A	包含層	J8	凝灰岩	5.2	7.5	1.2	59.1
290	蛤形剥片石器	A	包含層	I10	頁　岩	5.5	7.9	1.3	68.1
291	蛤形剥片石器	D	包含層	S3 北	凝灰岩	3.6	4.2	0.9	12.4
292	蛤形剥片石器	A	包含層	SZ1	凝灰岩	3.9	5.5	1.0	20.3
293	蛤形剥片石器	A	包含層	H10	頁　岩	4.1	4.9	1.1	24.5
294	蛤形剥片石器	A	包含層	S5	頁　岩	4.2	4.5	0.9	23.1
295	蛤形剥片石器	A	包含層	J8	頁　岩	9.2	6.6	1.2	100.0

第８表　下那珂遺跡出土石器計測表（5）

番号	器　種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
296	蛤形剥片石器	A	包含層	I9	堆積岩系	8.6	11.4	1.6	135.8
297	蛤形剥片石器	A	包含層	26トレ	堆積岩系	5.9	8.2	1.2	62.0
298	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-2095	堆積岩系	6.4	7.0	1.4	64.0
299	蛤形剥片石器	B	包含層	-1019	凝灰岩	6.6	6.7	1.9	79.8
300	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-1633	頁　岩	4.5	4.2	1.2	22.7
301	蛤形剥片石器	F	包含層	S6-410	凝灰岩	5.6	4.4	1.3	31.2
302	蛤形剥片石器	B	包含層	-1340	堆積岩系	5.5	4.0	1.1	19.0
303	礫　器	A	包含層	J10	凝灰岩	8.8	8.0	3.0	240.7
304	礫　器	D	包含層	S3 西	砂　岩	10.1	8.6	3.0	305.8
305	礫　器	A	包含層	S2-534	安山岩	13.2	13.2	5.0	1008.5
306	礫　器	A	包含層	H10	頁　岩	11.3	9.2	3.2	369.3
307	礫　器	B	包含層	―	泥　岩	10.0	8.4	4.7	460.0
308	磨製石斧	A	包含層	S1-1383	頁　岩	14.2	6.3	4.6	692.1
309	磨製石斧	A	包含層	I12	頁　岩	7.8	4.1	2.0	76.4
310	磨製石斧	F	包含層	S6-1600	頁　岩	10.2	4.3	1.8	112.0
311	磨製石斧	A	包含層	S2-2431	頁　岩	11.1	3.2	4.4	308.3
312	打製石斧	A	包含層	表採	頁　岩	11.6	5.9	2.7	275.6
313	打製石斧	G	包含層	一括	凝灰岩	12.9	5.3	2.4	182.0
314	打製石斧	D	包含層	S4-4867	凝灰岩	11.5	5.6	2.2	149.0
315	打製石斧	B	包含層	―	砂　岩	13.0	8.4	2.9	336.1
316	打製石斧	A	包含層	I12	堆積岩系	8.2	3.9	1.3	52.0
317	打製石斧	C	包含層	H6	堆積岩系	9.0	4.5	1.6	89.0
318	打製石斧	C	包含層		堆積岩系	10.0	6.3	2.4	160.0
319	打製石斧	A	包含層	下 H13	凝灰岩	7.6	5.3	2.1	109.0
320	打製石斧	A	包含層	S2	泥　岩	8.9	5.2	2.6	152.2
321	打製石斧	C	包含層	HS	頁　岩	9.9	5.2	1.6	108.0
322	打製石斧	F	包含層	7トレ	頁　岩	9.1	4.3	1.6	85.0
323	打製石斧	A	包含層	下層　G13	泥　岩	8.2	5.2	3.1	177.9
324	敲　石	A	包含層	S2	堆積岩系	4.9	1.5	1.3	13.7
325	敲　石	D	包含層	ﾚｷｸﾞﾝ-31	砂　岩	6.5	4.7	3.8	181.1
326	敲　石	A	包含層	S4-242	砂　岩	12.7	5.4	5.1	465.7
327	敲　石	A	包含層	S2-233	凝灰岩	11.3	5.4	5.1	489.5
328	敲　石	D	包含層	ﾚｷｸﾞﾝ	凝灰岩	10.1	5.6	4.6	365.9
329	敲　石	A	包含層	10ﾄﾚ	砂　岩	13.3	7.5	5.9	853.7
330	敲　石	A	包含層	H11	砂　岩	10.5	6.0	5.0	415.0
331	敲　石	A	包含層	S1-1460	流紋岩	9.8	5.6	4.9	412.9
332	凹　石	A	包含層	S1-753	砂　岩	20.9	6.8	3.2	693.0
333	凹　石	F	包含層	S6-1601	砂　岩	11.1	7.9	7.1	870.0
334	凹　石	D	包含層	S3 西	砂　岩	12.4	5.4	4.0	365.9
335	凹　石	A	包含層	G11	砂　岩	21.4	21.1	5.3	3287.0
336	磨　石	A	包含層	F	凝灰岩	7.5	7.2	3.6	284.0
337	磨　石	A	包含層	I9	凝灰岩	9.7	9.5	4.6	622.0
338	石　皿	A	包含層	S4-349	砂　岩	23.4	15.0	6.6	2852.0
339	剥片石器	A	包含層	S2-66	ホルンフェルス	6.5	11.3	1.3	96.0
340	剥片石器	A	包含層	S6-695	頁　岩	14.4	6.2	1.3	159.0
341	削　器	A	包含層	I9	珪質岩	5.7	7.0	1.5	60.0
342	礫　器	A	包含層	I9	ホルンフェルス	8.1	5.7	2.4	128.0
347	石 庖 丁	A	SA45	SA45-14	頁　岩	8.8	4.9	0.7	51.2
348	石 庖 丁	A	SA45	SA45-1	ホルンフェルス	9.2	5.7	1.0	86.0
349	石 庖 丁	A	SA45	SA45-63	ホルンフェルス	8.6	3.6	0.7	42.2
363	石 庖 丁	A	SA44	SA44-89	ホルンフェルス	9.2	5.2	1.0	70.3
364	石鏃未製品	A	SA44	SA44	頁　岩	6.0	3.2	1.6	22.3
386	砥　石	A	SA21	SA21-132	頁　岩	4.4	2.9	0.6	10.4
387	石 庖 丁	A	SA21	SA21-116	頁　岩	7.9	4.3	0.7	35.5
389	砥　石	A	SA35	SA35	頁　岩	5.5	5.3	0.7	16.8
390	蛤形剥片石器	A	SA35	SA35	ホルンフェルス	4.4	6.1	0.7	18.1
397	敲　石	A	SA37	SA37-5	凝灰岩	9.6	5.6	4.1	327.6
398	敲　石	A	SA37	SA37-130	砂　岩	16.7	7.2	6.5	1067.0
399	台　石	A	SA37	SA37-183	砂　岩	17.1	32.2	6.3	5629.0

第９表　下那珂遺跡出土石器計測表（6）

番号	器　種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
408	蛤形剥片石器	A	SA39	SA39-194	ホルンフェルス	6.7	6.4	1.6	82.0
409	礫　器	A	SA39	SA39-279	ホルンフェルス	8.6	7.8	3.3	225.3
410	砥　石	A	SA39	SA39-171	頁　岩	22.9	4.5	3.5	454.2
413	磨製石鏃	A	SA42	SA42一括	頁　岩	3.3	2.2	0.4	3.2
414	砥　石	A	SA63	SA63-67+71	頁　岩	10.6	3.2	2.3	75.0
423	石 庖 丁	A	SA11	SA11・12　SH	ホルンフェルス	8.5	5.1	0.6	42.2
424	砥　石	A	SA11	SA11・12-129	頁　岩	9.4	2.3	2.2	41.0
425	蛤形剥片石器	A	SA11	SA11・12-167	ホルンフェルス	8.3	4.7	2.1	95.0
428	磨製石鏃	A	SA12	SA11・12-224	頁　岩	2.1	1.9	0.3	1.1
431	石 庖 丁	A	SA13	SA13	頁　岩	9.4	4.3	0.7	41.4
436	砥　石	A	SA2	SA2-63	頁　岩	8.4	2.8	1.1	32.7
437	蛤形剥片石器	A	SA9	SA9-48	ホルンフェルス	6.7	6.6	1.1	63.0
444	石 庖 丁	A	SC14	SC14-6	頁　岩	9.0	5.6	1.1	89.6
453	敲　石	A	SA15	SA15-84	砂　岩	7.7	4.6	3.8	204.6
454	砥　石	A	SA15	SA15-5	砂　岩	10.2	3.7	3.3	86.4
468	砥　石	A	SA28	SA28	頁　岩	8.0	1.9	1.9	44.2
476	石 庖 丁	A	SA29	SA29-68	頁　岩	5.4	5.0	0.6	20.7
477	石 庖 丁	A	SA29	SA29 南	ホルンフェルス	7.8	6.2	0.5	33.5
478	石 庖 丁	A	SA29	SA28・29	ホルンフェルス	4.6	3.0	0.7	11.6
479	砥　石	A	SA29	SA28・29一括	頁　岩	12.8	3.8	2.3	117.2
495	砥　石	A	SA5	SA5-134	頁　岩	4.9	2.8	0.7	11.3
496	砥　石	A	SA30	SA30	頁　岩	12.7	3.7	1.6	109.0
500	磨製石鏃	A	SA32	SA32	頁　岩	3.9	2.1	0.3	2.5
501	磨製石鏃	A	SA32	SA32	頁　岩	2.7	3.0	0.3	1.9
506	磨製石鏃	A	SA33	SA33-1930	頁　岩	2.8	1.4	0.3	1.3
514	敲　石	A	SA46	SA46-1838	砂　岩	8.7	5.4	3.5	244.6
526	砥　石	A	SA47	SA47-1746	頁　岩	7.1	3.5	0.8	19.2
527	敲　石	A	SA47	SA47-1642	砂　岩	12.8	6.4	4.5	612.0
528	敲　石	A	SA47	SA47-1642	砂　岩	15.0	13.3	9.6	2662.0
537	砥　石	A	SA7	SA7	頁　岩	4.1	2.4	1.0	12.6
559	磨製石鏃	A	SC13	SC13	頁　岩	3.0	2.5	0.3	2.5
560	砥　石	A	SC13	SC13-25	頁　岩	3.3	3.5	0.9	8.4
601	磨製石鏃	A	SA54	SA54・55-441	頁　岩	2.6	2.1	0.3	2.3
602	台　石	A	SA54	SA54-350-12	凝灰岩	9.9	7.2	4.7	455.0
610	砥　石	A	SC9	SC9-5	頁　岩	18.9	6.0	1.8	371.2
611	磨製石鏃	A	SC9	SC9-49	頁　岩	3.4	2.0	0.2	2.4
613	石 庖 丁	A	SA57	SA57-6	ホルンフェルス	10.4	5.0	0.7	54.5
619	磨製石鏃	A	SA58	SA58-40	頁　岩	2.0	1.3	0.4	1.4
620	敲　石	A	SA58	SA58-1839	凝灰岩	9.6	7.2	4.5	561.0
628	敲　石	A	SA22	SA22・23-15	砂　岩	7.2	5.5	2.1	102.9
629	砥　石	A	SA22	SA22	頁　岩	7.0	2.7	1.1	18.9
630	石 庖 丁	A	SA22	SA22	ホルンフェルス	7.9	4.6	0.8	38.8
647	砥　石	A	SA27	SA27-5	砂　岩	10.1	5.1	4.1	293.2
657	磨製石鏃	B	SA91	SA91南一括	頁　岩	3.9	1.8	0.2	2.1
658	敲　石	B	SA91	SA91-60	砂　岩	8.9	5.2	3.8	244.7
659	敲　石	B	SA91	SA91-20	砂　岩	12.7	5.0	3.6	331.6
660	石　錘	B	SA91	SA91-8	砂　岩	5.8	8.7	2.4	184.0
667	砥　石	B	SA93	SA93	頁　岩	6.4	3.8	1.3	31.0
668	石 庖 丁	B	SA93	SA93-81	頁　岩	5.6	4.2	0.5	11.7
669	台　石	B	SA93	SA93C	砂　岩	27.6	11.4	9.9	3466.0
681	砥　石	B	SA95	SA95-35	砂　岩	5.0	6.3	3.1	176.0
682	磨製石鏃	B	SA95	SA95南一括	頁　岩	3.1	2.2	0.3	2.5
683	石 庖 丁	B	SA95	SA95-28	ホルンフェルス	9.2	5.5	1.0	68.2
687	石 庖 丁	B	SA96	SA96-52	頁　岩	8.2	4.8	0.7	45.1
699	石 庖 丁	B	SA97	SA97 2区上	ホルンフェルス	9.0	5.3	1.0	60.5
782	敲　石	D	SA103	SA201-1	凝灰岩	8.4	5.2	5.7	363.0
783	敲　石	D	SA103	SA201-408	頁　岩	9.8	5.4	2.1	133.0
808	敲　石	D	SA104	SA209-188	砂　岩	8.3	5.6	4.4	266.0
809	蛤形剥片石器	D	SA104	SA209-125	砂　岩	10.8	9.9	2.2	219.0

第10表　下那珂遺跡出土石器計測表（7）

番号	器　種	出土区	出土位置	注記番号	石 材	最大長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)
810	石 庖 丁	D	SA104	SA209-25	堆積岩系	8.3	4.6	0.6	39.5
811	砥　石	D	SA104	SA209-24	頁　岩	11.9	3.9	1.9	154.5
824	敲　石	D	SA105	SA208-65	砂　岩	7.9	5.5	2.4	144.0
836	打製石斧	D	SA106	SA207-6	ホルンフェルス	8.4	6.0	3.0	205.0
837	石 庖 丁	D	SA106	SA207-63	頁　岩	9.4	3.8	0.8	46.3
850	砥　石	D	SA107	SA202-157	頁　岩	5.7	5.0	0.9	21.0
861	石 庖 丁	D	SA109	SA213-67	頁　岩	8.6	5.2	1.1	63.2
862	磨製石鏃	D	SA109	SA213-163	頁　岩	3.5	2.3	0.3	3.3
900	砥　石	D	SA114	SA203-411	砂　岩	9.9	4.0	2.0	86.9
901	磨製石鏃	D	SA114	SA203-407	頁　岩	5.6	2.1	0.6	8.0
902	敲　石	D	SA114	SA203-187	砂　岩	11.1	6.3	3.3	297.0
903	磨　石	D	SA114	SA203-102	砂　岩	5.5	1.3	2.1	22.0
905	石 庖 丁	D	SA114	SA203-336	頁　岩	10.5	4.9	0.9	72.5
915	石 庖 丁	D	SA115	SA205-29	ホルンフェルス	9.4	5.6	0.5	55.6
916	砥　石	D	SA115	SA205-271	頁　岩	7.8	3.4	2.0	48.0
917	敲　石	D	SA115	SA205-176	砂　岩	10.3	6.8	4.3	284.0
918	石　皿	D	SA115	SA205-211	砂　岩	28.5	21.5	9.5	5721.0
1023	砥　石	F	SA116	SA215-129	頁　岩	5.4	2.8	0.8	9.0
1024	磨製石鏃	F	SA116	SA215	頁　岩	2.4	2.1	0.2	1.9
1057	石 庖 丁	D	SA119	SA216-36	頁　岩	7.6	3.8	0.8	29.1
1141	磨製石鏃	C	SA90	SA90-③	頁　岩	2.9	1.4	0.3	1.3
1147	ナイフ形石器	A	包含層	表採	チャート	2.2	1.6	0.5	2.5
1148	ナイフ形石器	A	包含層	表採	頁　岩	5.4	2.4	1.3	13.7
1149	ナイフ形石器	A	包含層	SA13-53	ホルンフェルス	7.4	2.2	0.9	17.3
1150	ナイフ形石器	A	包含層	F9	頁　岩	6.8	2.5	1.5	15.1
1151	尖 頭 器	E	包含層	I-83	ホルンフェルス	4.8	1.7	0.6	7.7
1152	尖 頭 器	A	包含層	I7	珪質岩	7.8	3.0	1.2	32.0
1153	削　器	A	包含層	表採	頁　岩	6.3	5.7	1.7	38.7
1154	細 石 核	A	包含層	F11	頁　岩	3.4	6.3	3.2	59.3
1155	細 石 核	A	包含層	D14	頁　岩	3.4	2.7	1.4	14.5
1156	細 石 核	A	包含層	F13	砂　岩	4.5	3.6	0.7	10.4
1157	細 石 核	B	包含層	ｶｸﾗﾝ	砂　岩	3.4	4.3	2.1	44.1
1158	細 石 核	A	包含層	表採	砂　岩	5.0	5.3	1.7	65.6
1159	細 石 核	A	包含層	表採	砂　岩	4.6	6.5	2.1	91.4
1160	粗製剥片石器	A	包含層	下層-283	頁　岩	7.0	8.7	1.1	65.2
1161	粗製剥片石器	A	包含層	下層-242	ホルンフェルス	5.5	6.6	1.0	36.0

第11表　下那珂遺跡出土石器計測表（8）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
343	高坏	口縁部	A	SA45	26.9			風化著しく 調整不明	風化著しいが，ミガキ痕が確認できる	明黄褐	明黄褐	2mm以下の灰・褐色粒を含む	
344	高坏	脚部	A	SA45				横走する凹線と羽状連続刺突文，縦方向のミガキ	ナデ	にぶい黄橙	橙	2mm以下の灰・黄灰・黒・褐色粒を含む	
345	高坏	脚部	A	SA45				裾部は凹線文，ミガキ，羽状連続刺突文	横方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
346	器台	柱部	A	SA45				横走する9条の凹線文，縦方向のミガキ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	
350	甕	口縁部～底部	A	SA44	20.2			ナデ，工具ナデ	ナデ	橙	橙	1～3mmの灰・褐色粒を含む	
351	甕	口縁部～胴部	A	SA44	16.3			口縁部は斜方向のハケ目の後に横方向のナデ，胴部は斜方向のハケ目	口縁部はハケ目の後にナデ，胴部は横と斜方向の工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の褐・灰色石粒，1mm以下の赤褐色粒を含む	
352	小型甕	口縁部～胴部	A	SA44	11.6			縦方向の工具ナデ	斜と縦方向の工具ナデ	橙	橙	6mm以下の褐色粒を含む	
353	壺	口縁部	A	SA44	12.1			縦方向のハケ目	斜と横方向の工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐，1mm以下の無色透明・黒色透明粒を含む	
354	小型壺	口縁部～底部	A	SA44	5.0	3.6	10.8	口縁部は指ナデ，頸部はミガキ，胴部は縦方向の工具ナデ	工具ナデの後にナデ後に指ナデ	にぶい黄橙	黄灰	2mm以下の赤褐・褐灰・黄褐色粒を含む	
355	壺	胴部～底部	A	SA44		4.3		風化著しく 不明であるが，おそらく ナデ	ナデ，底部付近は指押さえ	橙	灰黄	2mm以下の褐・乳白色粒を含む	
356	壺	胴部～底部	A	SA44		3.6		縦方向の工具ナデ	斜方向の工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐・灰色粒を含む	
357	鉢	口縁部～底部	A	SA44	26.8	4.6	10.0	風化著しいが縦方向のミガキが残る	風化著しいが縦方向のミガキが残る	橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色光沢・無色光沢粒・褐・白色色粒を含む	
358	鉢	口縁部～胴部	A	SA44	12.7			斜方向ミガキ，縦方向ハケ目	斜方向の工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の赤褐・褐色粒を含む	
359	高坏	脚部	A	SA44				風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明	橙	橙	1mm以下の褐・黒・無色透明粒を含む	
360	高坏	坏部～脚部	A	SA44				坏部は斜方向のハケ目，脚部は縦方向のミガキ	坏部は放射状のミガキ，脚部はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐・黒色粒を含む	
361	鉢	口縁部～底部付近	A	SA44	21.8			口唇部は横方向のナデ，胴部は風化著しく 調整不明	風化しているが放射状のミガキが残る	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒色光沢・褐・無色光沢粒を含む	
362	高坏	脚部	A	SA44		17.4		風化著しいがわずかにミガキが残る	円周方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の褐色粒を含む	
365	壺	頸部	A	SA43				櫛描波状文，線刻あり，ハケ目	指ナデ	橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐色粒を含む	
366	鉢	胴部～底部	A	SA43		6.7		縦方向の工具ナデ，底部付近は指ナデと横方向のナデ	不定方向のミガキ	橙	橙	1mm以下の黒色，2mm程の褐・灰・灰白色粒を含む	
367	高坏	口縁部	A	SA43				上半は縦方向のミガキ，下半横方向のミガキ	縦方向のミガキ	橙	橙	3mm以下の褐色，1mm程の灰・黒・無色透明粒を含む	
368	高坏	坏部と脚部の連結部	A	SA43				工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰	2mm以下の褐・灰色，1～4mm赤褐色粒を含む	
369	鉢	口縁部～底部	A	SA43	19.5	2.9	6.2	横方向のナデの後縦方向のミガキ	横方向のナデ，ナデ	橙	にぶい橙	1mm程の褐・灰色粒を含む	
370	甕	口縁部～胴部	A	SA21	15.3			口縁部は横方向のナデ，胴部は縦と斜方向のハケ目	不定方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	1mm程の褐色，3～5mmの褐・灰・灰白・黒色粒を含む	
371	甕	口縁部～胴部	A	SA21	16.1			口縁部は横方向のナデ，胴部は縦と斜方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ，胴部は縦と斜方向の工具ナデの後にナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の明赤褐色，2mm以下の褐灰・灰褐色粒を含む	
372	甕	口縁部～胴部	A	SA21	20.1			口縁部はナデ，胴部は縦と斜方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ，胴部は縦と斜方向の工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の褐・灰色，2mm以下の黒色粒を含む	
373	甕	口縁部～胴部	A	SA21	16.7			口縁部は横方向のナデ，胴部は縦と斜方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ，胴部は縦と斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙	橙	3mm以下の黒・灰・褐色，2mm以下の黒・透明光沢粒を含む	
374	壺	口縁部	A	SA21				二次口縁部に楔状の連続刺突文	ナデ	橙	橙	3mm以下の赤褐色，1mm以下の透明光沢粒を含む	
375	壺	口縁部～底部	A	SA21	11.6	5.7	19.0	縦と斜方向に工具ナデ	口縁部と頸部は指ナデ，胴部は斜方向の工具ナデ	橙	にぶい黄橙	3mm以下の赤褐・灰・黒・黄橙色粒を含む	

第12表　下那珂遺跡出土土器観察表（1）

番号	種別	器種 部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
376	壺	頸部～胴部	A	SA21				縦方向の工具ナデ	頸部は指ナデ，胴部は斜方向の工具ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	1mm程の黒色，2mm程の褐色粒を含む	
377	壺	口縁部～頸部	A	SA21	13.0			口縁部は横方向のナデ，頸部は縦方向のミガキ	横方向の工具ナデ	橙	にぶい橙	2～3mmの褐・黒色粒を含む	
378	甕	底部	A	SA21		4.2		風化著しく 不明であるがおそらく 縦方向の工具ナデ	風化著しく 不明であるがおそらく 縦方向の工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の褐・褐灰色を含む	
379	壺	胴部～底部	A	SA21		5.3		縦方向の工具ナデ	胴部は斜方向の工具ナデ，底部付近は指ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	1mm程の黒色，2mm程の褐色粒を含む	
380	高坏	脚部	A	SA21				縦と斜方向のミガキ	ナデ	にぶい橙	橙	4mm以下の赤褐・灰褐色，1mm以下の透明光沢粒を含む	
381	高坏	坏部	A	SA21	27.5			縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	橙	橙	2mm以下の赤褐・黒・無色透明粒を含む	
382	鉢	口縁部～胴部	A	SA21	26.3			縦方向のミガキ	縦と斜方向のミガキ	橙	橙	3mm以下の灰白・にぶい黄褐・褐灰・無色透明粒を含む	
383	高坏	坏部	A	SA21				風化著しく 不明であるが，おそらく 縦方向のミガキ	黒変，縦と斜方向のミガキ	浅黄橙	黒褐	3mm以下の赤褐色，1mm以下の透明光沢粒を含む	
384	鉢	口縁部	A	SA21				主に縦方向のミガキ	主に縦方向のミガキ	にぶい赤褐	橙	1mm以下の透明光沢粒，3mm以下の赤褐色粒を含む	
385	壺	底部	A	SA21		2.0		縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	にぶい黄橙	橙	3mm以下の赤褐色，1mm以下の透明光沢粒を含む	
388	鉢	口縁部～底部	A	SA34	7.2	6.3	2.5	口縁部は横方向の，胴部は縦と斜方向の工具ナデ	口縁部は横方向の，胴部は縦と斜方向のナデ	橙	橙	1～3mmの赤褐・褐色石粒，2mm以下の褐灰色石粒を含む	
391	甕	頸部～胴部	A	SA37				横と斜方向のタタキ	斜と縦方向のナデ	にぶい橙	橙	2mm以下の赤褐，1mm程の乳白色粒を含む	
392	甕	胴部～底部	A	SA37		6.1		横と斜方向のタタキ，底部付近は指ナデ	縦と斜方向のナデ，底部付近は指ナデ	橙	にぶい橙	5mm以下の灰白・灰褐・にぶい褐色石粒を含む	
393	壺	頸部～胴部	A	SA37				縦方向のハケ目	頸部附近は指ナデ，胴部はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄褐	1mm以下の黒・灰白粒をわずかに含む	
394	壺	口縁部	A	SA37	12.2			二次口縁部に櫛描波状文，口縁部は指ナデと縦方向のハケ目	二次口縁部は横方向の指ナデ，口縁部は横方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の透明光沢粒を含む	
395	壺	口縁部	A	SA37				二次口縁部に凹線文と円形浮文，口縁部はナデ	ナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の褐色石粒，1mm以下の透明光沢粒を含む	
396	壺	口縁部	A	SA37				二尾口縁部に櫛描波状文，口縁部はナデとハケ目	ナデ	橙	橙	1mm以下の褐色粒を含む	
400	鉢	口縁部～底部	A	SA38	10.0	2.4	7.9	風化著しいがハケ目がわずかに残る	縦方向の工具ナデの後にナデ	橙	橙	3mm以下の褐灰色石粒，1mm以下の透明粒を含む	
401	壺	口縁部～頸部	A	SA38	8.3			口縁部は横方向の工具ナデ，頸部は風化著しいが縦方向のミガキ	風化著しいが縦方向のミガキがわずかに残る	明赤褐	明赤褐	1mm以下の透明光沢，褐灰，乳白色石粒を含む	
402	壺	口縁部～底部	A	SA39	13.3	5.0	25.1	二次口縁部は櫛描波状文，胴部は斜方向のハケ目	ナデ，指ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	2mm以下の灰黄褐・褐・透明光沢粒を含む	
403	壺	口縁部～底部	A	SA39	11.4	0.8	24.2	縦と斜方向の工具ナデ	頸部は指ナデ，胴部は横と斜方向の工具ナデ	にぶい橙	褐灰	4mm以下の褐灰，1mm以下の褐・黒・透明光沢粒を含む	
404	壺	頸部～底部付近	A	SA39				斜と縦方向のハケ目	頸部は指ナデ，胴部は風化著しいが斜方向のハケ目	にぶい橙	橙	3mm以下の褐灰・灰色粒を含む	
405	甕	胴部～底部	A	SA39		6.4		風化著しいが，おそらく ナデか工具ナデ，底部付近は指ナデ	風化著しいが，おそらく ナデか工具ナデ	橙	灰褐	4mm以下の褐灰・灰白・透明光沢・橙色粒を含む	
406	甕	胴部～底部	A	SA39		5.0		風化著しいが，おそらく ナデ	風化著しいが，おそらく ナデ	橙	橙	2mm以下の褐灰・灰白・透明光沢・赤褐色粒を含む	
407	甕	底部	A	SA39		6.2		指ナデ	指ナデ	橙	灰	5mm以下の褐灰・灰白・黒色粒を含む	
411	甕	底部	A	SA40		5.4		単位不明だが，縦方向のハケ目が残る	ナデ，底部付近は指ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の灰・黄橙・褐・黒色粒を含む	
412	鉢	口縁部～底部	A	SA41	22.6	6.1	10.5	風化著しいが，斜と縦方向のハケ目が認められる	ナデ，一部横方向のハケ目らしき痕跡が残る	橙	橙	4mm以下の褐灰・黒色粒を含む	

第13表　下那珂遺跡出土土器観察表（2）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
417	壺	口縁部	A	SA65	8.7			二次口縁部は櫛描波状文	横方向のナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐・灰色粒を含む	
418	壺	胴部～底部	A	SA65		3.6		ナデ	ナデ	橙	橙	3mm以下の灰・黒色，8mm以下の高師小僧を含む	
419	鉢	口縁部～底部	A	SA86	11.3	5.4	14.3	胴部は縦方向のハケ目，底部付近は指ナデ	口縁部は横方向のナデ，胴部は工具ナデの後にナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の赤褐色，2mm以下の褐灰色石粒を含む	
420	壺	底部	A	SA11		5.9		ナデ，工具ナデ	不定方向のハケ目	にぶい橙	黒灰	1mm以下の灰白・褐・無色透明粒を含む	
421	高坏	脚部	A	SA11				縦方向のミガキ，円形透かし	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	2mm以下の褐・白・黒色粒を含む	
422	勾玉		A	SA11						橙	橙	1～2mm程の黒色粒を含む	
426	高坏	脚部	A	SA12				裾部に凹線文，縦方向のナデ	斜と横方向の工具ナデ	にぶい黄橙	浅黄	1mm程の褐色粒を含む	
427	壺	底部	A	SA12		4.1		工具によるナデの後にミガキ	主に縦方向のミガキ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・無色透明光沢粒を含む	
429	壺	口縁部	A	SA13	12.5			横方向のナデで一部工具痕が残る	横方向のナデ	橙	橙	3mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	
430	壺	胴部	A	SA13				台状の貼付突帯，楔状の連続刺突文，縦方向のミガキ	縦と斜方向のナデ	にぶい橙	灰	1mm以下の褐色粒を含む	
432	壺	口縁部	A	SA2	12.6			口唇部は横方向のナデ，口縁部は斜方向のハケ目	横方向のナデ，ナデ	橙	橙	1mm以下の無色透明粒を含む	
433	壺	胴部	A	SA2				線刻絵画文の一部あり	ナデ	橙	橙	1mm以下の褐灰・灰白・金色光沢粒を含む	
434	高坏	坏部	A	SA2				横方向の工具ナデ後にミガキ	不定方向のミガキ	にぶい橙	にぶい橙	4mm程のにぶい褐色石粒，1mm以下の明赤褐・褐灰色石粒を含む	
435	器台	裾部	A	SA2				裾部に凹線文，縦方向のハケ目の後ナデ	縦方向のミガキ	にぶい橙	にぶい黄橙	5mm以下の灰黄褐・赤褐色石粒，3mm以下の灰白石粒を含む	
438	甕	口縁部～胴部	A	SA18	19.3			頸部に斜位の刻文，縦と斜方向のハケ目	主に斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄褐	1mm程の褐色粒を含む	
439	高坏	坏部	A	SC14	26.9			上半は横方向のナデ，下半はミガキ	風化著しいが横方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の赤褐・褐灰・乳白色粒を含む	
440	高坏	坏部	A	SC14				屈曲部はナデ，他は縦方向のミガキ	屈曲部付近に指ナデ，他はミガキ	橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐灰・赤褐色粒を含む	
441	甕	胴部	A	SC14				縦と斜方向の工具ナデ	縦と斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒褐・褐灰・灰白色粒を含む	
442	器台	柱部	A	SC14				中央部に10条の凹線，縦方向のミガキとハケ目，穿孔	ナデ	橙	橙	2mm以下の赤褐・褐灰・黒褐色粒を含む	
443	器台	裾部	A	SC14		30.5		縦方向のハケ目，裾端部は横方向のハケ目	斜方向のミガキ	橙	橙	3mm以下の白・褐・黒・赤褐色粒を含む	
444	甕	底部	A	SC14		5.2		縦方向のハケ目，底部付近は指ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰	1～3mmの灰白・黄橙色粒を含む	
445	壺	口縁部	A	SC14				二次口縁部に円形浮文	風化著しいがおそらくナデ	橙	橙	2mm以下の乳白・黒褐・褐灰色粒を含む	
447	甕	底部	A	SA14		6.9		ナデ，底部付近は指ナデ	指ナデ	にぶい黄橙	黄灰	4mm以下の灰褐・赤褐・褐色石粒を含む	
448	器台	裾部	A	SA14		22.6		縦方向のミガキ	縦と斜方向のハケ目	橙	橙	1mm以下の赤褐・褐色・透明光沢粒を含む	
449	壺	口縁部～胴部	A	SA15	18.7			二次口縁部に櫛描波状文，胴部は工具による丁寧なナデ	工具ナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の灰・黒・褐色粒を含む	
450	壺	口縁部	A	SA15	11.8			口縁部付近は横方向，頸部附近は縦方向のハケ目	口縁部付近は横方向，頸部附近は縦方向のハケ目	橙	橙	2mm以下の灰褐・赤褐・無色透明粒を含む	
451	手捏土器	口縁部～底部	A	SA15	5.3	1.1	4.3	斜方向の指ナデ	横と斜方向の工具ナデ	橙	橙	2mm以下の黒・灰・褐色粒粒を含む	
452	甕	口縁部～胴部	A	SA15				口縁部付近は斜，胴部は縦方向のハケ目	斜方向のハケ目	橙	橙	5mm以下のにぶい橙・灰褐・赤褐色粒を含む	

第14表　下那珂遺跡出土土器観察表（3）

番号	種別	器種 部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
456	甕	口縁部～胴部	A	SA19	14.0			口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向の工具ナデの後にナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの黒・褐色粒を含む	
457	壺	口縁部～胴部	A	SA19	10.3			縦方向のハケ目	口縁部は工具ナデ，胴部はナデと指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤色粒を含む	
458	壺	口縁部～胴部	A	SA19	9.0			斜方向のハケ目	口縁部はナデ，頸部は指ナデ，胴部はナデ	にぶい橙	灰黄	3mm以下の褐灰・白・赤褐・褐色粒を含む	
459	壺	底部	A	SA19		3.3		風化著しいがおそらく工具ナデ	ナデ	橙	灰黄	2mm以下の赤褐色粒，10mm以下の高師小僧を含む	
460	甕	口縁部～底部	A	SA25	28.3			口縁部はナデ，胴部は斜方向のハケ目	ナデ，頸部附近は指ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・褐灰色石粒を含む	
461	甕	胴部～底部	A	SA25		4.9		ナデの後，不定方向のハケ目，底部付近は指ナデ	縦方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい橙	2mm以下の褐・灰白色粒を含む	
462	鉢	底部	A	SA25		3.1		風化著しく調整不明だがおそらくナデ	ナデ	にぶい黄橙	黄橙	4mm以下の黄橙・灰色，2mm以下の赤褐・黒・無色透明粒を含む	
463	壺	底部	A	SA25	9.2			ナデ，底部付近は指ナデ	斜方向の工具ナデ	褐灰	にぶい黄橙	1mm以下の褐・褐灰・金色光沢粒を含む	
464	壺	頸部～底部	A	SA25	2.9			風化著しく調整不明だが，おそらくナデ	風化著しく調整不明だが，おそらくナデ	橙	にぶい黄	2mm以下の明赤褐・褐灰・灰白色粒を含む	
465	鉢	口縁部	A	SA25				風化著しく調整不明だが，おそらくミガキ	風化著しく調整不明だが，おそらくミガキ	浅黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰白色粒を含む	
466	甕	胴部～底部	A	SA26		4.9		縦方向のハケ目の後にナデ	縦方向のハケ目	浅黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰白色粒を含む	
467	甕	底部	A	SA28		6.6		ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐色粒を含む	
469	壺	口縁部～胴部	A	SA29				頸部は横方向のナデ，胴部は平行タタキ	ナデ，指ナデ	にぶい橙	黄灰	2mm以下の褐色粒を含む	
470	壺	肩部	A	SA29				三角状の貼付突帯文の上に斜位の連続刻文，縦方向の工具ナデ	ナデ，頸部附近は指ナデ斜方向の工具ナデ	にぶい橙	橙	2mm以下の褐・灰白色粒を含む	
471	鉢	口縁部～底部	A	SA29	7.7	2.3	7.7	ナデ，底部付近は指ナデ	ナデ	にぶい黄橙	灰黄褐	4mm以下の灰・黄橙・褐・黒色粒を含む	
472	鉢	口縁部～底部	A	SA29	9.7	3.5	7.5	口唇部は横方向のナデ，胴部はナデ，底部付近は指ナデ	口縁部は横方向のナデ，胴部は斜方向のハケ目	灰白	灰黄	3mm以下の褐・黒褐色粒を含む	
473	鉢	口縁部～底部	A	SA29	7.9	4.6	7.0	ナデ，底部付近は指ナデ	ナデ	灰黄	暗灰黄	4mm以下の黄橙・灰・黒色粒を含む	
474	高坏	脚部	A	SA29				縦方向のミガキ，円形透かし	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の白・無色透明粒を含む	
475	高坏	脚部	A	SA29				縦方向のミガキ，円形透かし	ナデ	橙	橙	1～2mm以下の灰・白・褐・黒色粒を含む	
480	壺	口縁部	A	SA4				二次口縁部に凹線文，横方向のハケ目	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰褐・明褐灰・黒色粒を含む	
481	高坏	脚部	A	SA4				縦方向にハケ目，ミガキ，ナデ，円形透かしあり	横回転の工具ナデの後にナデ	橙	橙	3～5mmの赤褐・褐灰・灰白粒を含む	
482	甕	口縁部～底部	A	SA5	19.0	5.0	16.5	口縁部は横方向のナデ，胴部は斜方向の工具ナデ，底部付近は指ナデ	口縁部は横方向のナデ，胴部は斜方向の工具ナデ後にナデ	灰黄	にぶい黄橙	3mm以下の明赤褐，1mm以下の褐灰・黒色粒を含む	
483	壺	口縁部～胴部	A	SA5	13.0			口縁部は縦方向のナデ，胴部は不定方向の工具ナデ	不定方向の工具ナデ，頸部附近は指ナデ	橙	にぶい橙	5mm程の黄橙色，3mm以下の褐・褐灰・黒色粒を含む	
484	壺	底部	A	SA5		5.6		縦と斜方向のハケ目	縦と斜方向のハケ目	明黄褐	明黄褐	3mm以下の赤褐・灰白・透明光沢粒を含む	
485	壺	胴部	A	SA5				胴部屈曲部に羽状刻文の突帯，竹管文・幾何学文，刺突文を施す	斜方向のハケ目，ナデ	橙	灰	2mm以下の褐・無色透明粒を含む	
486	壺	胴部	A	SA5				斜方向のハケ目の後に縦と横方向に沈線文	横方向のハケ目	にぶい黄橙	褐灰	1mm以下の褐色粒を含む	
487	壺	底部	A	SA5		4.4		縦と斜方向のミガキ，底部付近はナデ	横と斜方向のハケ目	にぶい黄橙	褐灰	3mm以下の赤褐・灰褐・浅橙色を含む	

第15表　下那珂遺跡出土土器観察表（4）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
488	小型坏	口縁部～底部	A	SA5	7.1	2.2	4.8	指ナデ	指ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒色, 2～3mmの褐・灰色粒を含む	
489	高坏	坏部	A	SA5	24.0			上半は横方向のハケ目, 下半は不定方向の工具ナデ	上半は横方向のハケ目, 下半は不定方向の工具ナデ	橙	にぶい橙	1mm以下の灰白・無色透明粒を含む	
490	高坏	坏部	A	SA5	25.8			縦と斜方向のミガキ	縦と斜方向のミガキ	明黄橙	浅黄橙	2mm以下の赤褐・無色透明粒を含む	
491	高坏	脚部	A	SA5		13.6		斜方向のハケ目の後ミガキ	裾部は横方向のハケ目, その他はナデ	橙	黒褐	1mm以下の黒色粒を含む	
492	高坏	脚部	A	SA5		13.6		風化著しく 調整不明, 円形透かしあり	上半は指ナデ, 下半はナデ	橙	橙	2～3mmの褐・灰色石粒を含む	
493	器台	受部	A	SA5	31.4			6条の凹線文, 横と斜方向のハケ目	横方向のナデ, 縦と斜方向のハケ目	橙	浅黄橙	2mm以下の灰白・褐・黒・赤褐・透明光沢粒を含む	
494	器台	受部～脚部	A	SA5	21.3	19.5	19.4	口縁部には凹線文, 上下2方所に円形透かし, 全体に縦と斜方向のミガキ	上部は横方向のミガキ, 下部は横方向のハケ目, 他はナデ	灰褐	橙	2mm以下の褐・黒・無色透明粒を含む	
497	甕	口縁部～胴部	A	SA30				風化著しいが, おそらく 斜方向のハケ目	口縁部は横方向のナデの後に指ナデ	橙	橙	1mm程の褐・黒色粒を含む	
498	壺	口縁部	A	SA30	8.6			横方向のナデ, 一部工具ナデが認められる	口縁部は横方向のナデ	にぶい橙	橙	2mm以下の褐・黒色粒を含む	
499	鉢	口縁部	A	SA30				不定方向のハケ目	不定方向のハケ目	橙	黒褐	1mm以下の黒色粒を含む	
502	小型甕	口縁部	A	SA33	16.3			縦方向のハケ目	横と斜方向のハケ目	橙	橙	1mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
503	甕	胴部～底部	A	SA33		2.7		縦方向のハケ目	縦方向の工具ナデ	明黄褐	明黄褐	1mm以下の灰・黒・褐色粒を含む	
504	鉢	口縁部～底部	A	SA33	15.2	6.9	8.9	上半は縦方向の丁寧なナデ, 下半は縦方向のナデ	風化著しく 調整不明	褐灰	褐灰	2mm以下の赤褐・灰白石粒, 1mm以下の透明光沢粒を含む	
507	甕	口縁部～胴部	A	SA46	19.0			口縁部は横方向のナデ, 胴部は縦方向のハケ目	ナデ, 部分的に工具ナデが認められる	にぶい黄橙	灰白	4mm以下の灰褐色粒を含む	
508	甕	口縁部～胴部	A	SA46	16.8			口縁部は横方向のナデ, 胴部は縦方向のハケ目	ナデ, 部分的に工具ナデが認められる	褐灰	黒褐	4mm以下の褐色石粒を含む	
509	甕	底部	A	SA46		5.6		風化著しく 調整不明	底部付近では指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	5mm以下の赤褐・灰褐・透明光沢色粒えお含む	
510	壺	胴部～底部	A	SA46		5.2		縦と斜方向にミガキ	指ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	3mm以下の灰・黒。褐色粒を含む	
511	甕	底部	A	SA46		5.8		胴部は縦と斜方向のハケ目, 底部付近指ナデ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	3mm以下の灰褐・赤褐色を含む	
512	鉢	胴部～底部	A	SA46		4.8		縦方向のハケ目		にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰・黒。褐色粒を含む	
513	器台	脚柱部	A	SA46				縦方向のミガキ	ナデ	橙	橙	1mm程の褐色粒を含む	
515	甕	口縁部～底部	A	SA47	12.4	4.2	18.9	風化著しいが, 口縁部は横方向のハケ目, 胴部はおそらくハケ目	風化著しいが, 口縁部は横方向のハケ目, 胴部はおそらくナデ	橙	橙	3mm以下の灰・黄灰・黒・褐色粒を含む	
516	甕	口縁部	A	SA47				口唇部は横方向のハケ目, 口縁部は縦方向・胴部が横方向の工具ナデ	斜方向の工具ナデ	橙	橙	4mm以下の赤褐, 2mm以下の灰褐・透明粒を含む	
517	壺	口縁部	A	SA47	13.6			二次口縁部は櫛描波状文, 縦方向のハケ目	口縁部は指ナデ, 頸部は斜方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒色石粒を含む	
518	壺	口縁部	A	SA47	10.9			斜方向のハケ目の後に横方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目, 頸部は斜方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の透明砂粒を含む	
519	壺	肩部	A	SA47				沈線文状の施文, 縦方向のハケ目	指ナデ, 横方向のハケ目	橙	橙	2mm以下の赤褐石粒, 1mm以下の黒色石粒を含む	
520	甕	頸部～胴部	A	SA47				斜位の刻文をもつ貼付突帯, 縦方向のハケ目	ハケ目の後にナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰褐石粒, 1mm以下の灰白粒を含む	
521	高坏	口縁部	A	SA47	17.4			風化著しいが, 縦方向の工具ナデの後に縦方向のミガキ	風化著しく 不明であるが, おそらく 斜方向のミガキ	橙	橙	3mm以下の赤褐・褐灰・橙・灰白色粒を含む	
522	鉢	口縁部～底部	A	SA47	6.9		8.1	風化著しいが, おそらく ナデ, 底部付近は指ナデ	指ナデ	橙	橙	2mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	

第16表　下那珂遺跡出土土器観察表（5）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
523	高坏	脚部	A	SA47		12.4		ナデ	横方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の橙・褐・灰・黒色粒を含む	
524	壺	頸部～胴部	A	SA47				頸部にU字状のヘラ描き文, 斜方向の工具ナデ	横方向のハケ目, 指ナデ	橙	橙	1mm以下の明赤褐・褐灰・黒色粒を含む	
525	器台	裾部	A	SA47		23.9		裾部は横方向のナデ, 脚部は縦方向の工具ナデの後にミガキ	横方向の工具ナデ, 横方向のハケ目	橙	橙	4mm以下の灰・黒・褐色粒を含む	
529	壺	底部	A	SA48		3.6		ナデ	放射状の工具ナデ	にぶい黄橙	褐灰	2～3mm程の褐色石粒を含む	
530	甕	胴部～底部	A	SA48		4.6		縦と斜方向のハケ目, 底部付近は指ナデ	斜方向の工具ナデ	橙	褐灰	4mm以下の白・灰・褐・乳白・黒色粒を含む	
531	壺	胴部～底部	A	SA48		3.3		斜方向のハケ目, 底部付近は指ナデ	放射状の指ナデ	橙	橙	3mm以下の褐・灰・黒色石粒を含む	
532	高坏	脚部	A	SA48		21.3		円形透かし, 縦方向のミガキ	裾部は横と斜方向のハケ目, 脚柱部はナデと指ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰・乳白・褐色粒を含む	
533	高坏	脚部	A	SA48		18.9		円形透かし, 風化気味だが縦方向のミガキ	裾部は横と斜方向のハケ目, 脚柱部はナデ	にぶい橙	橙	1mm程の黒・褐・灰色粒を含む	
535	鉢	口縁部～胴部	A	SA7				口縁部は横方向のナデ, 胴部は縦と斜方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ, 胴部は縦と斜方向のハケ目	浅黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰色石粒, 1mm以下の透明粒, 5mm程の高師小僧を含む	
536	鉢	口縁部～底部付近	A	SA7	10.5		7.0	工具によるナデの後にナデ	縦方向のハケ目	褐灰	褐灰	1mm以下の透明光沢粒・灰白粒を含む	
538	甕	口縁部	A	SA55	35.8			口縁部は斜方向のナデ, 斜位の刻目文をもつ1条の貼付突帯をもつ	風化著しく 不明であるがおそらく ナデ	橙	橙	2mm以下の白・乳白・褐灰色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
539	甕	口縁部～底部	A	SA55				風化著しいが, 斜方向の工具ナデ	口縁部はナデ, 胴部は横方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰褐・褐灰色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
540	壺	口縁部	A	SA55	7.5			風化著しく 不明	風化著しいが指ナデが残る	橙	橙	1mm以下の赤褐・灰褐・黒褐色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
541	壺	口縁部	A	SA55				口唇部に凹線状沈線, 口縁部はナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の黒褐・灰白・褐灰色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
542	壺	口縁部～頸部	A	SA55				風化著しいが斜方向のハケ目が残る	風化著しいが斜方向のハケ目が残る	明黄褐	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・赤褐・黒褐色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
543	円盤状土製品		A	SA55				ナデ	ミガキ	明褐	にぶい橙	1mm以下の黒褐・灰白色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
544	鉢	口縁部～底部	A	SA55	15.5	4.1	8.1	斜方向の工具ナデ	風化著しく 不明	明黄褐	橙	3mm以下の赤褐・灰褐・赤褐色石粒を含む	実測図なし, 写真のみ
545	壺	口縁部	A	SC3	20.8			二次口縁部は櫛描波状文, 頸部はハケ目	横方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の褐・黒褐・灰褐・透明粒を含む	
546	壺	底部	A	SC3		6.8		縦方向のハケ目, ナデ	不定方向のナデ	橙	橙	3mm以下の赤褐色粒を含む	
547	甕	底部	A	SC3		4.7		縦方向のハケ目	工具ナデ, 指ナデ	橙	橙	3mm以下の褐・灰褐色粒を含む	
548	壺	胴部	A	SC3				不定方向のハケ目	頸部は指ナデ, 横方向の工具ナデ	橙	橙	3mm以下の褐灰, 1mm以下の黒色光沢粒を含む	
549	甕	口縁部	A	SC3	21.0			縦と斜方向のハケ目	斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒・褐・乳白色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
550	甕	口縁部	A	SC3				口縁部は横方向のナデ, 胴部は方向のハケ目	口縁部は横方向, 胴部は縦方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の透明光沢粒・灰白粒を含む黒褐色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
551	壺	口縁部～胴部	A	SC3	10.3			口縁部は横方向, 胴部は縦方向の工具ナデ	横方向のハケ目, 指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒褐・赤褐色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
552	甕	口縁部	A	SC3	18.6			口縁部は横方向, 胴部は斜方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目, 胴部はナデ	橙	橙	1mm以下の白色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
553	鉢	胴部	A	SC3				ナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の白色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
554	高坏	脚部	A	SC3				縦方向のミガキ	横方向のハケ目, ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒褐・赤褐色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
555	器台	受部	A	SC3	27.1			放射状のミガキ	横方向のミガキ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の赤褐色, 1mm以下の黒褐・乳白色粒を含む	実測図なし, 写真のみ
556	壺	胴部	A	SC3				縦方向のミガキ	不定方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒褐, 赤褐色粒を含む	実測図なし, 写真のみ

第17表　下那珂遺跡出土土器観察表（6）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
557	高坏	脚部	A	SC3				風化著しいが，おそらくナデ	不定方向のハケ目，ナデ	黄橙	橙	5mm以下の赤褐色，3mm以下の黒褐・乳白色粒を含む	実測図なし，写真のみ
558	壺	頸部～底部	A	SC3		4.3		横と斜方向の工具ナデ	風化著しいが縦方向のミガキが残る	にぶい黄橙	黄灰	1mm以下の灰白色粒を含む	実測図なし，写真のみ
561	甕	口縁部～胴部	A	SA51	25.9			風化著しいが縦と斜方向のハケ目が残る	風化著しいが不定方向のハケ目が残る	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の赤褐・橙・灰褐・灰白色粒を含む	
562	甕	口縁部～胴部	A	SA51	31.6			斜位の刻目文をもつ貼付突帯，ハケ目	口縁部付近は指ナデ，不定方向の工具ナデ	橙	橙	1mm以下の褐・黒色粒を含む	
563	高坏	坏部	A	SA51	36.6			口唇部は横方向のミガキ，坏部は縦方向のミガキ	放射状のミガキ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の黒・透明光沢粒，4mmほどの高師小僧を含む	
564	甕	胴部～底部	A	SA51		6.3		縦方向のハケ目	風化著しいが不定方向のハケ目が残る	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰褐・灰白色粒を含む	
565	甕	口縁部	A	SA51				平行タタキ	ナデ	橙	橙	2mm程の灰白・褐色粒を含む	
566	壺	口縁部	A	SA51	5.1			口縁部は縦方向のナデ，頸部は縦方向のハケ目	指ナデ	橙	橙	3mm以下の灰褐色石粒，2mm以下の黒・透明光沢粒を含む	
567	高坏	脚部	A	SA51		14.8		縦方向のミガキ，裾部は凹線状の工具ナデ	横方向のナデ	橙	橙	2mm以下の赤褐・黒・灰白・透明光沢粒を含む	
568	甕	口縁部～底部	A	SA52	12.4	4.8	26.4	口縁部は横方向，胴部は斜方向のハケ目	ナデ，指ナデ	橙	橙	5mm以下の黒・灰・乳白・褐色粒を含む	
569	甕	口縁部～胴部	A	SA52	17.6			口縁部は横方向，胴部は縦方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目，胴部は斜方向のハケ目か工具ナデ	橙	橙	3mm以下の褐・灰褐・褐灰・黒褐色粒を含む	
570	甕	胴部～底部	A	SA52		5.6		胴部は横方向のハケ目，底部付近は指ナデ	胴部はナデ，底部付近は指ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐・黄橙・灰・黒色粒を含む	
571	鉢	胴部～底部	A	SA52		5.0		風化著しいがおそらくハケ目，底部付近は指ナデ	ナデ，底部付近は指ナデ	橙	橙	4mm以下の褐・黄橙・灰・黒色粒を含む	
572	甕	胴部～底部	A	SA52		5.1		胴部は斜方向のハケ目，底部付近は指ナデ	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下のにぶい橙・褐・黄橙・灰・黒色粒を含む	
573	壺	口縁部～胴部	A	SA52				風化著しいがおそらくナデ	風化著しく不明であるが指ナデが確認できる	橙	灰黄褐	2mm以下の灰褐・乳白・黒褐色粒を含む	実測図なし，写真のみ
574	壺	口縁部～胴部	A	SA52				口縁部は横方向の，胴部は斜方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目，胴部は斜方向の工具ナデと指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰褐・乳白色粒を含む	実測図なし，写真のみ
575	壺	口縁部	A	SA52				口唇部は凹線文，頸部に斜位の刻目文をもつ1条の貼付突帯	口縁部は横方向の，頸部は斜方向の工具ナデ	黄橙	黄橙	2mm以下の灰褐・赤褐色石粒を含む	実測図なし，写真のみ
576	壺	口縁部	A	SA52				口唇部に凹線文，横方向の工具ナデ	横方向の工具ナデ	淡黄橙	淡黄橙	1mm以下の乳白・灰色粒を含む	実測図なし，写真のみ
577	壺	口縁部～胴部	A	SA52				風化著しいがおそらくナデ	口縁部は横方向の工具ナデ，胴部はナデと指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の乳白・褐色粒を含む	実測図なし，写真のみ
578	手捏土器	口縁部～底部	A	SA52				指ナデ	指ナデ	浅黄	灰黄	3mm以下の黒褐，1mm以下の白色粒を含む	実測図なし，写真のみ
579	手捏土器	口縁部～底部	A	SA52				指ナデ	横方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の橙・乳白色粒を含む	実測図なし，写真のみ
580	鉢	口縁部～底部	A	SA52				風化著しいが，一部縦方向の工具ナデが確認できる	主に横方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の乳白色，2mm以下の黒褐・灰色粒を含む	実測図なし，写真のみ
581	鉢	口縁部～底部	A	SA52				ナデ	口縁部は指ナデ，胴部はナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の黒色，3mm以下の乳白色粒を含む	実測図なし，写真のみ
582	高坏	坏部	A	SA52				縦方向のミガキ	横方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤褐・黒褐色粒を含む	実測図なし，写真のみ
583	壺	胴部～底部	A	SA52				風化著しいがおそらくナデ	不定方向の工具ナデ	にぶい黄橙	黄灰	2mm以下の灰褐・乳白色粒を含む	実測図なし，写真のみ
584	壺	底部	A	SA52				縦方向の工具ナデ，指ナデ	剥離・風化著しく不明	黄灰	褐灰	2mm以下の黄灰・橙色粒を含む	実測図なし，写真のみ
585	壺	肩部～胴部	A	SA53				頸部は不定方向の工具ナデ，胴部は縦方向のミガキ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤褐・黒褐・灰褐色粒を含む	実測図なし，写真のみ

第18表　下那珂遺跡出土土器観察表（7）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
586	甕	口縁部	A	SA53				口縁部は横方向の，胴部は縦と斜方向のハケ目	口縁部は横方向の，胴部は縦と斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤褐・黒褐色石粒を含む	実測図なし，写真のみ
587	壺	底部	A	SA53		7.0		風化著しく 不明であるが，底部付近は指ナデ	不定方向のハケ目，指ナデ	にぶい黄橙	黒褐	1mm以下の乳白・黒色粒を含む	実測図なし，写真のみ
588	小型甕	口縁部～底部	A	SA53	5.0	1.2	5.4	口縁部は横方向，胴部は縦方向のミガキ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の乳白色粒を含む	実測図なし，写真のみ
589	甕？	胴部	A	SA53				横と斜方向のハケ目，3本の液だれ状の痕跡が確認できる	不定方向工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒褐・灰褐・赤褐色石粒を含む	実測図なし，写真のみ
590	甕	口縁部～胴部	A	SA54	31.4			口唇部は横方向のナデ，胴部は斜方向のハケ目	斜方向のハケ目，底部と頸部は指ナデ	橙	橙	4mm以下の褐灰色粒を含む	
591	甕	口縁部～胴部	A	SA54	24.0			口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向の工具ナデ	橙	橙	3mm以下の灰褐・灰白・褐色石粒を含む	
592	甕	口縁部～胴部	A	SA54	11.3			風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明だがおそらく ナデ	橙	橙	3mm以下の灰白・灰褐・褐・黒褐色粒を含む	
593	甕	口縁部	A	SA54	19.8			斜位の刻文をもつ1条の貼付突帯。胴部は斜方向の工具ナデ	口縁部は斜方向に工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の赤褐・褐・黒褐色粒を含む	
594	甕	底部	A	SA54		5.9		風化著しいが，おそらく ナデ，底部は指ナデ	ナデ，指ナデ	にぶい黄橙	黄褐	3mm以下の黒・褐・赤褐色石粒，2mm以下の透明粒	
595	甕	頸部	A	SA54				台形状の貼付突帯文，横方向のハケ目	横方向の工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の灰褐・灰白・褐色石粒を含む	
596	壺	肩部	A	SA54				三角状の貼付突帯，突帯の上下に連続刺突文	ミガキ，ナデ	明黄褐	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰褐色粒を含む	
597	鉢	口縁部～胴部	A	SA54	12.6			口唇部は横方向のナデ，胴部は斜方向のミガキ	口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向の工具ミガキ	赤褐	橙	2mm以下の黒褐・褐色粒を含む	
598	鉢	胴部～底部	A	SA54		4.8		胴部は斜方向のハケ目，底部付近はミガキ	斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒褐・淡黄色粒を含む	
599	甕	胴部～底部	A	SA54		7.1		風化著しいが，おそらく ナデ	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙	橙	2mm以下の灰白色粒を含む	
600	鉢	口縁部～胴部	A	SA54	32.8			横方向のミガキ	斜方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい橙	3mm以下の褐・黒褐・乳白色粒を含む	
603	鉢	口縁部～胴部	A	SA56	14.8			口縁部は横方向のナデ，縦方向のミガキ	横と斜方向のハケ目	橙	橙	3mm以下の褐・黒褐色粒を含む	
604	壺	口縁部	A	SA56	10.2			口縁部は横方向のナデ，頸部は指ナデと工具ナデ	ナデ，工具ナデ	明黄褐	明黄褐	3mm以下の褐・赤褐色粒を含む	
605	壺	底部	A	SA56		6.4		縦方向の工具ナデ，指ナデ	工具ナデ	橙	明黄褐	2mm以下の灰白・褐灰粒を含む	
606	器台	受部～裾部	A	SA54				柱部に2段の円形透かし，縦方向のミガキ	ナデ，一部工具ナデの痕跡が確認される	橙	橙	3mm以下の灰褐・灰白・赤褐色粒を含む	
607	鉢	口縁部～底部	A	SA54	23.1	10.1	4.9	口唇部は横方向のナデ，頸部は縦方向のハケ目，胴部はミガキ	ナデ，縦方向のミガキ	橙	橙	2mm以下の黒褐・赤褐・灰白色粒を含む	
612	甕	底部	A	SA57		5.6		平行タタキ	不定方向のナデ	にぶい橙	褐灰	4mm以下の褐・灰褐色粒を含む	
614	鉢	口縁部～底部	A	SA57	26.0	3.4	8.9	縦方向のミガキ，縦方向の工具ナデ	不定方向のハケ目，ミガキ	赤褐	赤褐	2mm以下の黒・褐・乳白色粒を含む	
615	甕	底部	A	SA57		7.3		横方向の工具ナデ，指ナデ	ナデ，指ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	1～2mmの黒褐・褐・灰白粒を含む	
616	壺	底部	A	SA57		9.9		縦方向のハケ目	不定方向のハケ目	橙	橙	3mm以下の灰白・灰褐・褐色粒を含む	
617	壺	底部	A	SA57		8.4		風化著しく 不明，斜方向の工具痕	斜方向の工具痕，ナデ	橙	にぶい黄橙	4mm以下の黒褐・にぶい赤褐色粒を含む	
618	壺	底部	A	SA57		4.9		風化著しいが斜方向のハケ目	風化著しく 不明	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の褐色，3mm程の赤褐色粒を含む	
621	甕	口縁部～胴部	A	SA22	16.1			風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰・黒・褐色粒を含む	
622	壺	口縁部	A	SA22	21.1			風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明	橙	にぶい橙	5mm以下の灰・褐・黄灰色粒を含む	
623	壺	胴部～底部	A	SA22		3.5		斜方向のハケ目	ナデ	橙	にぶい橙	4mm以下の灰・褐・黄灰色石粒を含む	

第19表　下那珂遺跡出土土器観察表（8）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
624	高坏	脚部	A	SA22		15.0		脚柱部は縦方向の工具ナデ，円形透かしあり。裾部はナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の黄灰・灰・黒・褐色粒を含む	
625	手捏土器	口縁部～底部	A	SA22	4.7			横と斜方向のミガキ	口縁部付近は指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の赤褐色粒，5mm程の高師小僧を含む	
626	鉢	口縁部～底部	A	SA22	12.4	10.6	9.8	縦方向のハケ目，底部付近は指ナデ	口縁部付近は斜方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	1～2mmの褐・黒色粒を含む	
627	鉢	口縁部～底部	A	SA22	10.3	4.3	5.5	風化著しく調整不明だがおそらくナデ	ナデ，部分的に横方向のハケ目が残る	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐灰石粒，2mm以下の透明光沢粒を含む	
631	壺	胴部～底部	A	SA23		4.4		底部付近は縦方向の工具ナデ	胴部は斜方向のハケ目，底部付近は指ナデ	橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤褐・灰白・無色透明光沢粒を含む	
632	甕	口縁部	A	SA24	19.2			横方向のナデ，斜方向のハケ目	ナデ	にぶい黄橙	橙	5mm程の褐色粒，2mm以下の灰・黒・褐色粒を含む	
633	甕	口縁部	A	SA24	17.0			横方向のナデ，斜方向のハケ目	ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	2mm以下の灰・褐色粒を含む	
634	壺	口縁部	A	SA24	13.8			二次口縁部は櫛描波状文，頸部は縦と斜方向の工具ナデ	口縁部は横方向のナデ，頸部は横方向の工具ナデ	橙	橙	4mm以下の赤褐・灰・黒色粒を含む	
635	鉢	口縁部～胴部	A	SA24				口縁部は横方向のナデ，胴部はナデ	ハケ目の後にナデ	浅黄橙	橙	2mm以下の灰・灰褐・無色光沢粒を含む	
636	壺	胴部～底部	A	SA24		5.5		頸部付近は縦方向のハケ目，底部付近は縦方向の工具ナデ	頸部付近は指ナデ，胴部はナデと工具ナデ	橙	橙	1mm以下の黒・灰白・褐色粒を含む	
637	壺	頸部～胴部	A	SA24				風化著しいが，一部斜方向の工具ナデが残る	頸部付近は指ナデ，胴部は斜方向のハケ目	にぶい橙	浅黄橙	1～2mm程の褐色粒を含む	
638	高坏	口縁部	A	SA24	25.5			口唇部は横方向の丁寧なナデ，坏部は縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	橙	橙	2mm以下の黒・灰白・褐色粒を含む	
639	高坏	脚部	A	SA24				2段の円形透かし，縦方向のミガキ	ナデ，裾部は斜方向のハケ目	橙	にぶい橙	2mm以下の黒・灰白・褐色石粒を含む	
640	高坏	脚部	A	SA24		10.6		円形透かしあり，調整は風化著しく不明	風化著しいがわずかにハケ目が残る	橙	橙	1mm以下の黒色粒を含む	
641	壺	底部	A	SA24		8.8		縦方向の工具ナデ	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・黒・褐色粒を含む	
642	器台	裾部	A	SA24		16.6		放射状のミガキ，裾端部は横方向のナデ，円形透かしあり	指ナデ，裾部は横方向のナデ	橙	橙	1mm以下の黒色粒を含む	
643	器台	裾部	A	SA24		27.4		斜方向のミガキの後に放射状のミガキ	横方向のハケ目の後に斜方向の工具ナデ	橙	橙	3mm以下の赤褐・灰・透明光沢粒を含む	
644	甕	口縁部～胴部	A	SA27	15.5			口縁部はナデ，胴部は縦と斜方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ，胴部は斜方向のハケ目，一部指頭痕あり	にぶい橙	にぶい黄褐	4mm以下の灰黄褐色石粒，2mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	
645	甕	口縁部～胴部	A	SA27				1条の貼付突帯，口縁部は横方向の・胴部は不定方向のハケ目	口縁部は横方向のナデの後にナデ，横と斜方向のハケ目	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の赤褐・褐灰・灰黄褐色石粒を含む	
646	甕	底部	A	SA27		8.0		縦方向の工具ナデ，底部付近は指ナデ	縦方向の工具ナデ，底部付近は指ナデ	橙	黒褐	1～2mmの灰白・黒・褐色粒を含む	
648	甕	口縁部～底部	B	SA91	13.5	4.7	22.7	ナデ，斜方向のハケ目	ナデ，斜方向のハケ目	橙	橙	1～4mmの褐粒・赤褐・灰色石粒を含む	
649	甕	口縁部～底部	B	SA91		4.0		風化著しいがおそらくナデ	全体はナデ，底部付近は指ナデ	橙	橙	6mm以下の灰・黄灰・褐色石粒を含む	
650	甕	口縁部～底部	B	SA91	15.5	4.7	18.1	口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向のミガキ	全体的にナデ，頸部付近は指ナデ	黄橙	橙	1mm程の褐・灰白色粒，2～3mmの褐色粒を含む	
651	壺	頸部～底部	B	SA91		4.7		ナデ	ナデ(指ナデの可能性)	橙	橙	2～3mmの褐・黒・灰色石粒を含む	
652	甕	底部	B	SA91		6.4		縦方向のハケ目	ナデ，指おさえ	にぶい黄橙	灰黄褐	5mm以下の灰・黄灰・褐・乳白色石粒を含む	
653	高坏	坏部	B	SA91	29.3			上部は斜方向のミガキ，下部は螺旋状のミガキ	ミガキ，丁寧なナデ	橙	橙	2～9mmの赤褐色，1～2mmの灰・褐色粒を含む	
654	高坏	脚部	B	SA91				穿孔あり，縦方向のミガキ	ナデ	橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐，1mm以下の黒・灰白・透明光沢色粒を含む	
655	高坏	口縁部～裾部	B	SA91	12.2	9.7	14.3	口縁部は丁寧なナデ，脚部は縦方向のミガキ	横方向の丁寧なナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の赤褐色・1mm以下の黒・透明色粒を含む	

第20表　下那珂遺跡出土土器観察表（9）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
656	鉢	口縁部～底部	B	SA91	24.6	6.9	16.3	口縁部付近は横方向のナデ，胴部は斜方向のハケ目	螺旋状のハケ目	橙	橙	3mm以下の褐・灰白・黒色粒を含む	
661	甕	口縁部～胴部	B	SA93	20.3			風化著しいがおそらくナデ	風化著しいがおそらくナデ	橙	橙	2mm程の灰白，4mm程の褐色石粒を含む	
662	甕	胴部～底部	B	SA93		6.7		ナデ，一部幅の広い工具痕が残る，底部付近は指ナデ	斜方向の工具ナデ，底部付近は指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
663	甕	胴部	B	SA93				風化著しいがおそらくナデ	風化著しいがおそらくナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2～3mmの褐・灰色石粒を含む	
664	高坏	坏部	B	SA93	30.2			風化著しいがミガキが残る	放射状のミガキ	にぶい黄橙	にぶい橙	2mm以下の黒・褐色粒，3～5mmの褐色粒を含む	
665	鉢	口縁部～底部	B	SA93	15.2	3.9	11.5	縦方向のミガキ，ナデ	風化著しいがおそらくナデ	橙	橙	2mm以下の灰・灰白・透明光沢石粒を含む	
666	小型鉢	口縁部～底部	B	SA93	8.5			ナデ	指ナデ	灰黄	にぶい黄橙	3mm以下の灰・黒・黄灰・乳白，4mm程の高師小僧を含む	
670	甕	口縁部	B	SA95				縦位の刻文をもつ2条の貼付突帯文	丁寧なナデ，一部指ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	1～4mmの褐色石粒を含む	
671	甕	口縁部	B	SA95				縦位の刻文をもつ2条の貼付突帯文	丁寧なナデ，一部指ナデ	暗灰黄	にぶい褐	1mm程の褐色粒を含む	
672	壺	口縁部～胴部	B	SA95	18.5			不定方向のハケ目，ナデ	ナデ，指ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の灰褐・灰色石粒，1mm以下の黒・透明光沢粒を含む	
673	鉢	口縁部～胴部	B	SA95	25.1			不定方向のハケ目	主に横方向の工具ナデ	橙	橙	1～6mmの赤褐・褐・灰色粒を含む	
674	皿	口縁部～底部	B	SA95	12.3		2.4	風化著しいがミガキの可能性がある	工具によるナデの後にミガキ	橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐・赤褐・乳白・黒・無色透明粒を含む	
675	甕	口縁部～胴部	B	SA95	20.3			斜方向のハケ目	横と斜方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の赤褐・灰白石粒，1mm以下の黒色石粒を含むj	
676	鉢	口縁部～胴部	B	SA95	22.7			口縁部は横方向のナデ，胴部は不定方向のハケ目とナデ	口縁部は横方向のナデ，胴部は不定方向のハケ目とナデ	浅黄橙	黄橙	2mm以下の赤褐・灰白・黒・透明光沢石粒，4mm程の高師小僧を含む	
677	小型壺	口縁部～胴部	B	SA95	9.0			ナデ	ナデ，頸部は指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰・黒・褐色，1mm以下の透明光沢粒を含む	
678	高坏	坏部	B	SA95	32.3			工具による横方向のナデ，下部はその後放射状のミガキ	工具による横方向のナデ，下部はその後不定方向ののミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒・灰・褐色，1mm以下の透明光沢粒を含む	
679	器台	裾部	B	SA95				穿孔あり，縦方向のハケ目の後に斜方向のミガキ	ナデ，一部横方向のハケ目	浅黄橙	灰黄褐	2mm以下の乳白色粒を含む	
680	器台	裾部	B	SA95				縦方向のハケ目の後にヘラ状工具による横方向の凹線	ナデ，横と斜方向の工具ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の乳白色粒，4mm以下の高師小僧を含む	
685	甕	口縁部	B	SA96				縦位の刻文をもつ2条の貼付突帯，ナデ	風化著しいがおそらくナデ	にぶい橙	橙	2mm以下の赤褐・褐・透明色石粒を含む	
686	壺	肩部	B	SA96				斜方向のミガキ，縦位の刻文をもつ1条の貼付突帯	丁寧なナデ，一部指頭痕が残る	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐色石粒，1mm以下の浅黄・褐・透明色石粒を含む	
688	甕	胴部～底部	B	SA97		6.1		口縁部は縦方向のハケ目，胴部は斜方向のハケ目	横方向のハケ目	橙	にぶい黄橙	4mm以下の褐・褐灰・浅黄橙色粒，1mm以下の黒・白色粒を含む	
689	甕	口縁部～底部	B	SA97	25.6	6.5	29.1	口縁部～胴部は斜方向のハケ目，底部付近は指押さえ	口縁部は斜方向の工具ナデ，胴部はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐・灰褐・浅黄石粒を多く含む	
690	甕	口縁部	B	SA97				口縁部は横方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目，斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	2mm以下の赤褐・褐・透明色石粒を含む	
691	壺	口縁部	B	SA97				櫛描波状文	ナデ，指ナデ	橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒・灰・褐色粒を含む	
692	小型壺	口縁部～胴部	B	SA97	7.9			口縁部は横方向のハケ目，胴部はナデと主に横方向のハケ目	ナデ，頸部は指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の褐・乳白・灰・黒色粒を含む	
693	小型壺	口縁部～胴部	B	SA97	7.2	1.6	10.7	口縁部は横方向のハケ目，胴部は横と縦方向のハケ目	ナデ，頸部は指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	6mm以下の褐・灰・黄灰・黒色石粒を含む	
694	鉢	口縁部～底部付近	B	SA97	29.6	8.8	18.7	口縁部は斜方向の工具ナデ，斜と縦方向の工具ナデ	縦方向工具ナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の暗褐・褐灰・黒色石粒を含む	

第21表　下那珂遺跡出土土器観察表（10）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
695	壺	底部	B	SA97		1.7		風化著しいが縦方向のハケ目痕が残る	風化著しいが放射状のハケ目痕が残る	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の赤褐・黒色粒を含む	
696	器台？	裾部	B	SA97		23.5		風化著しいがおそらくナデ	風化著しいがおそらくナデ，裾端に横方向のハケ目	橙	橙	1～4mm程の褐・赤褐・乳灰白色粒を含む	
697	鉢	口縁部～底部	B	SA97	9.8	4.8	13.7	ナデ，口縁部下2cm程下に凹線状のくぼみあり	ナデ	橙	橙	2mm以下の灰褐・黒・透明色粒を含む	
698	鉢	口縁部～底部	B	SA97	28.7	5.9	7.5	風化著しいがミガキが残る	風化著しいがおそらくミガキ	明赤褐	橙	1～2mm程の赤褐色粒を含む	
700	甕	口縁部～胴部	B	SA98	20.2			口縁部は斜方向のハケ目，胴部は平行タタキ	口縁部は横方向のハケ目，胴部は斜方向のハケ目	橙	橙	1～4mm程の褐・灰白色粒を含む	
701	壺	胴部～底部	B	SA97		4.4		平行タタキ	ナデ	にぶい黄橙	橙	1mm程の灰・乳白色，8mm以下の赤褐色粒を含む	
702	高坏	口縁部～裾部	B	SA98	13.3	11.7	17.0	風化著しいがおそらくナデ	風化著しいがおそらくナデ	橙	橙	1～3mm程の褐・黒色粒を含む	
703	高坏	坏部	B	SA98	28.9			上部は工具による横方向のナデの後に縦位の刻線文，下部はミガキ	ナデ，上部はナデの後にミガキ	橙	橙	2mm以下の灰・黒・透明光沢粒を含む	
704	甕	口縁部～底部	B	SA98	22.7	2.9	25.9	口縁部は横方向のハケ目，胴部は一部工具痕が残るが主にナデ	ナデ，底部付近は指ナデ	黄橙	黄橙	4mm以下の灰・黄灰・黒・褐色石粒を含む	
705	甕	口縁部	B	SA99	25.1			平行タタキ	横方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	2mm程の褐色，1mm以下の褐灰・浅黄橙色粒を含む	
707	壺	口縁部～胴部	B	SA99	11.3			風化著しいがおそらくナデ，口縁部に押引気味の文様が確認できる	風化著しいがおそらくナデ，頸部は指ナデ	橙	にぶい橙	5mm以下の褐・赤褐・乳白・黒・無色透明粒を含む	
708	壺	胴部～底部	B	SA99		3.6		風化著しいがおそらくナデ	風化著しいがおそらくナデ，底部付近は指ナデ	橙	にぶい黄橙	8mm以下の褐・灰・黄灰・黒色石粒を含む	
709	高坏	坏部	B	SA99	23.9			風化著しいがおそらく斜方向のハケ目の後にナデ	風化著しいがおそらくナデ	にぶい黄橙	橙	4mm以下の褐・灰・白色，7mm以下の赤褐色石粒を含む	
710	壺	頸部～胴部	B	SA100		5.2		頸部附近は斜方向のミガキ，胴部はナデと平行タタキ	ナデ，斜方向の工具ナデ	橙	橙	2～3mmの褐・黒色粒を含む	
711	壺	底部	B	SA100		5.0		風化著しいがおそらくナデ	風化著しいがおそらくナデ	にぶい黄橙	橙	2mm程の灰・黒・褐色石粒を含む	
712	小型甕	口縁部～底部	B	SA100	9.6	5.4	11.5	胴部は斜方向のハケ目，口縁部と底部は指押さえ	ナデ	にぶい黄橙	橙	2mm以下の褐・灰・黄橙色粒を含む	
713	小型壺	胴部～底部	B	SA100		1.6		縦方向のハケ目	風化著しいがおそらくナデ	にぶい黄橙	橙	2mm以下の褐・灰・浅黄色粒を含む	
714	甕	口縁部～底部付近	B	SA101	20.4			口縁部は横方向のナデ，胴部は平行タタキ	口縁部は横方向のナデ，胴部は斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰色，1～5mmの赤褐色粒を含む	
715	甕	口縁部～胴部	B	SA101	23.6			平行タタキ(横方向と斜方向)	口縁部はナデ，胴部は斜方向のハケ目	灰黄	灰黄	3mm以下の高師小僧，1mm以下の褐・灰白色粒を含む	
716	甕	口縁部～頸部	B	SA101	22.0			風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明であるが，ハケ目らしき痕跡が確認できる	にぶい橙	にぶい黄橙	4mm以下の褐・灰・赤褐色石粒を含む	
717	甕	胴部	B	SA101				平行タタキ(横方向と斜方向)	ナデ，一部ハケ目が確認できる	にぶい黄橙	にぶい橙	2mm以下の褐・浅黄色，2mm程の灰・赤褐色粒を含む	
718	甕	口縁部～頸部	B	SA101	28.3			水平と斜方向の平行タタキ，頸部に格子状の刻みをもつ貼付突帯	ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の褐・灰・黒色，1mm以下の黒・透明光沢粒を含む	
719	壺	底部	B	SA101		3.1		風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明	にぶい橙	にぶい黄橙	4mm以下の褐・灰色石粒，2mm以下の赤褐色・灰白色粒を含む	
720	壺	底部	B	SA101		3.0		ナデ	ナデ，一部ハケ目が確認できる	浅黄	にぶい橙	5mm程の高師小僧，1mm以下の褐・灰褐・浅黄・無色透明粒を含む	
721	注口土器		B	SA102				ナデ，指ナデ	ナデ，指ナデ	灰白	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・浅黄色粒を含む	
722	壺	胴部～底部	B	SC22		7.1		斜方向の工具ナデ	ナデ，横方向の工具ナデ	にぶい橙	にぶい橙	8mm以下の褐色，3mm以下の灰・白・黄灰色粒を含む	

第22表　下那珂遺跡出土土器観察表（11）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
723	高坏	坏部	B	SC23	22.0			横方向の工具ナデ	横方向の工具ナデ	灰黄橙	灰黄橙	1～3mmの赤褐色，1mm程の白・黒色粒を含む	
724	高坏	脚部	B	SC23				縦方向のミガキ	丁寧なナデ	灰黄橙	灰黄橙	1～3mmの赤褐色，1mm程の白・黒色粒を含む	
725	高坏	脚部	B	SC23		20.0		縦方向のミガキ	丁寧なナデ	灰黄橙	灰黄橙	1～3mmの赤褐色，1mm程の白・黒色粒を含む	
726	高坏	脚部	B	SC23		22.2		縦方向のミガキ，赤彩の可能性あり	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰白・乳白色粒を含む	
727	壺	口縁部	B	SC23	14.3			ヨコナデ，ナデ	ヨコナデ，ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の浅灰・褐色粒を含む	
728	手捏土器	口縁部～底部	B	SC23	4.4	1.4		ナデ	ナデ	灰白	浅黄	1mm以下の赤褐・灰褐色粒を含む	
729	甕	口縁部～胴部	B	包含層	22.3			斜方向の平行タタキ	口縁部は主に横方向のナデ，胴部上半は斜方向の工具ナデ，下半は指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の褐・灰・黒色，1mm以下の黒色光沢粒を含む	
730	甕	口縁部～胴部	B	包含層	23.3			口縁部は横方向・胴部は斜方向の平行タタキ	口縁部はナデ，胴部は斜方向の工具ナデ	明黄褐	明黄褐	1mm以下の褐・黒・灰色，2～3mmの褐・灰色粒を含む	
731	壺	頸部～底部	B	包含層		2.2		縦方向のミガキ，ナデ	頸部は指おさえ，上半はハケ目，下半はナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の褐・黒色石粒，2mm以下の灰白・透明光沢粒を含む	
732	壺	胴部～底部	B	包含層		1.2		風化著しいが斜方向の工具ナデ痕跡が残る	風化著しいが斜方向のハケ目が残る	橙	橙	7mm程の褐色粒，2～3mm程の褐色粒を含む	
733	壺	胴部～底部	B	包含層				風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明だが，ナデの可能性	橙	橙	1～5mm程の褐・赤褐色石粒，2～3mm程の灰白石粒を含む	
734	壺	口縁部～底部	B	包含層	7.6	2.9	13.3	胴部は縦方向のミガキ，底部はナデ	口縁部は横方向のハケ目，胴部下半は斜方向のハケ目，底部はナデ	橙	橙	1～2mmの褐・灰色粒を含む	
735	甕	頸部～底部	B	包含層		2.9		頸部は斜方向のハケ目，胴部はハケ目とナデ	上半は斜方向のハケ目，下半はナデ	にぶい橙	橙	3mm以下の褐・黒色石粒，2mm以下の灰白・透明光沢粒を含む	
736	壺	口縁部～底部付近	B	包含層	14.7			口縁部は横方向のハケ目，胴部は斜方向のハケ目，下半はミガキ	口縁部は横方向のハケ目，斜方向のハケ目	橙	にぶい黄橙	1～3mmの灰・褐・白色粒を含む	
737	壺	口縁部～頸部	B	包含層	15.9			風化著しいが，一部横方向の工具ナデ痕跡が残る。	風化著しいが，一部横方向の工具ナデ痕跡が残る。	橙	橙	4mm以下の灰・赤褐・透明光沢石粒を含む	
738	壺	胴部～底部	B	包含層		4.3		風化著しいが，一部横方向の工具ナデ痕跡が残る。	風化著しいが，一部横方向の工具ナデ痕跡が残る。	橙	橙	4mm以下の灰・赤褐・透明光沢石粒を含む	
739	壺	口縁部～胴部	B	包含層	12.2			風化著しく 調整不明	風化著しいが，一部横方向の工具ナデ痕跡が残る。	橙	橙	5mm以下の灰・黒・白・褐・透明光沢石粒を含む	
740	壺	胴部～底部	B	包含層		5.4		風化著しく 調整不明	風化著しいが斜方向のハケ目が残る，底部付近は指押さえ	橙	橙	5mm以下の灰・黒・白・赤褐・透明光沢石粒を含む	
741	壺	胴部～底部	B	包含層		5.5		上半はナデとハケ目，下半は平行タタキ	斜方向の工具ナデ，底部付近は指ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰・黒・乳白・褐色粒を含む	
742	器台	受部	B	包含層	28.7			指ナデ・指押さえの後に斜方向のミガキ	縦と斜方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰・黒・褐色，1mm以下の透明光沢粒を含む	
743	器台	受部	B	包含層				口唇部に櫛描き波状文・縦方向のミガキ	風化著しいが，縦方向のミガキ痕跡がある	橙	橙	2mm以下の赤褐・透明光沢粒を含む	
744	器台	受部	B	包含層				口唇部に櫛描き波状文・横方向のミガキ	風化著しいが，縦方向のミガキ痕跡がある	橙	橙	2mm以下の赤褐・黒色光沢粒を含む	
745	壺	口縁部	B	包含層				口唇部に櫛描き波状文・横方向のナデ	横方向のナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の赤褐・褐・灰白色粒を含む	
746	紡錘車		B	包含層				ナデ，中心部に径8mmの穿孔		にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黄灰・黒・透明光沢粒を含む	
747	壺	頸部～底部	B	包含層		3.6		風化著しいが，一部縦方向のミガキ痕跡が残る。赤彩？	ナデ，斜方向のハケ目	橙	褐灰	1～3mmの灰白・褐・黒色粒を含む	
748	壺	底部	B	包含層		4.1		ナデ，工具ナデ	放射状の工具ナデ	橙	橙	1～3mmの灰白・褐色粒を含む	

第23表　下那珂遺跡出土土器観察表（12）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
749	小型甕	口縁部～胴部	B	包含層	13.2			風化著しいが縦方向のミガキ痕跡が残る	縦方向のミガキ	橙	橙	1mm程の褐・灰色粒を含む	
750	小型壺	胴部～底部	B	包含層		2.3		風化著しく 調整不明, おそらく ナデ, 底部に未完通の穿孔	ナデ	橙	橙	2mm以下の褐・灰・赤褐色粒を含む	
751	小型鉢	口縁部	B	包含層				口唇部に3条の凹線文, 縦方向のミガキ	ナデ	橙	橙	1mm以下の黒色粒を含む	
752	小型壺	胴部～底部	B	包含層		6.1		胴部はナデ, 脚部に幾何学文	胴部・底部ともにナデ	橙	橙	1mm以下の黒・赤褐・透明光沢粒を含む	
753	杓子状土器	柄部	B	包含層				棒状工具によるナデ	中空	橙	橙	1mm程の黒色粒を含む	
754	杓子状土器	柄部	B	包含層				棒状工具によるナデ	中空	橙	にぶい黄橙	1mm程の黒色粒を含む	
755	甕	口縁部～胴部	D	SA103	19.0			斜方向の工具によるナデ・ナデ	斜方向の工具によるナデ・ナデ	にぶい黄	にぶい黄	3mm程の灰白・褐・灰色粒, 2mm以下の灰白・褐・黄褐色粒を含む	
756	甕	口縁部～胴部	D	SA103				ナデ, 縦方向のハケ目	横・斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm程の褐色を含む	
757	甕	口縁部～頸部	D	SA103				斜方向のハケ目	斜方向のハケ目	浅黄橙	浅黄橙	1～5mmの褐・赤褐・灰褐色粒を含む	
758	甕	口縁部	D	SA103				口唇部は横方向のナデ, 口縁部は縦方向のハケ目	丁寧なナデ, 縦方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐色, 1mm程の黒色石粒を含む	
759	甕	胴部～底部	D	SA103		7.1		縦・斜方向のハケ目, 指おさえ	ナデ	橙	にぶい黄橙	1～3mmの赤褐・褐・透明色粒を含む	
760	壺	底部	D	SA103		4.9		ナデ	風化により不明瞭ではあるが, ハケ目らしき痕跡がある	橙	にぶい橙	3mm以下の赤褐色, 2mm以下の黒・乳白色粒を含む	
761	甕	底部	D	SA103		6.0		平行タタキ	ナデ	にぶい黄橙	黄灰	2～3mmの白・褐色粒を含む	
762	甕	底部	D	SA103		7.6		ナデ	斜方向のハケ目, ナデ	橙	橙	1～4mmの褐・乳白色, 1mm以下の透明粒を含む	
763	壺	口縁部～頸部	D	SA103				風化により調整不明瞭	風化により調整不明瞭・口唇部付近に円形竹管文	橙	橙	1mm以下の白色粒, 4mm以下の褐色石粒を含む	
764	壺	口縁部	D	SA103	16.2			口唇部に2個1組の円形刺突文, 横方向のナデ	横方向のナデ, ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～4mmの褐色・赤褐色を含む	
765	壺	頸部	D	SA103				縦方向のハケ目, 斜位の刺突文, 円形竹管による刺突文	ナデ, 一部指ナデか	浅黄橙	淡黄	2mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	
766	甕	底部	D	SA103		8.5		縦・斜方向のハケ目	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの乳白・褐・黒・透明粒を含む	
767	壺	底部	D	SA103		6.8		縦と斜方向のミガキ	ナデ, 斜方向のミガキ	橙	橙	1mm以下の透明・灰・黒色粒を含む	
768	高坏	口縁部	D	SA103				風化により調整不明瞭, ナデ?	風化により調整不明瞭, ナデ?	浅黄橙	浅黄橙	2mm程の褐・灰・黒色角閃石を含む	
769	高坏	脚部	D	SA103		12.4		縦方向のミガキ・穿孔あり	ナデ・指ナデ	橙	橙	1mm以下の灰白・黒・透明光沢粒, 2mm程の褐・灰色粒を含む	
770	高坏?	脚部?	D	SA103		25.9		斜と縦方向のミガキ	横・斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の透明・黒色角閃石・褐色粒を含む	
771	鉢	口縁部～底部	D	SA103	19.7	4.5	5.9	一部ミガキが残る。あとは風化により調整不明瞭	一部ミガキが残る。あとは風化により調整不明瞭	橙	橙	1mm程の褐色石粒を含む	
772	鉢	口縁部～胴部	D	SA103				斜。縦方向のミガキ	丁寧なナデ	橙	橙	1mm以下の褐・褐灰・灰黄色粒を含む	
773	鉢	口縁部	D	SA103				横方向のナデ・斜方向のナデ	斜・横方向のミガキ, 丁寧なナデ	にぶい橙	橙	1mm以下の褐色粒を含む	
774	小型甕	口縁部～底部	D	SA103	11.1	4.2	9.3	斜方向のナデ, ナデ	横・斜方向の工具ナデ, ナデ, 底部付近は指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3mm褐・灰・黒・乳白色粒, 1mm以下の透明光沢粒を含む	
775	ミニチュア土器	底部	D	SA103		3.9		丁寧な指ナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の褐・黒・乳白色粒を含む	
776	小型甕	底部	D	SA103		5.2		ナデ		橙	—	1～4mmの褐・赤褐・乳白色粒を含む	

第24表　下那珂遺跡出土土器観察表（13）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
777	小型鉢	胴部～底部	D	SA103		4.4		縦方向のハケ目，ナデ	ナデ	橙	橙	1～3mmの褐・灰白色粒を含む	
778	ミニチュア土器	胴部～底部	D	SA103		3.0		丁寧な指ナデ	丁寧な指ナデ，指おさえ	にぶい黄橙	褐灰	1mm以下の灰白。にぶい赤褐・灰褐色粒を含む	
779	小型壺	口縁部～胴部	D	SA103				一部ミガキらしき痕跡が残るが，風化により調整不明瞭	ナデ，指おさえ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐色粒を含む	
780	小型壺	口縁部～頸部	D	SA103	5.0			8～9条の櫛描き文，横方向のナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm程の灰・褐色粒を含む	
781	小型壺	口縁部～底部	D	SA103	4.3	3.5	9.7	縦と斜方向のミガキ	縦と斜方向のミガキ，ナデ	橙	橙	2mm以下の黒色角閃石・褐色・灰・黒色粒を含む	
784	甕	口縁部～胴部	D	SA104	21.4	4.4	28.9	風化著しいが，おそらく縦方向のハケ目とナデ	口縁部と頸部は指ナデ，胴部は風化著しいが，おそらくナデ	浅黄橙	にぶい橙	3mm以下の褐・灰白・褐灰石粒を含む	
785	甕	頸部～胴部	D	SA104				頸部は横方向のナデ，胴部は斜方向のハケ目	斜方向のハケ目の後，縦方向の工具ナデ	にぶい橙	橙	4mm以下の灰・黒・乳白・褐色石粒を含む	
786	小型甕	口縁部～胴部	D	SA104				口唇部は横方向のハケ目，口縁部は上部が縦方向・下部が横方向のハケ目	上部は斜方向のハケ目，下部はナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の褐・黒・灰色粒を含む	
787	壺	口縁部	D	SA104	16.3			口唇部は横方向のナデ，口縁部は上部が横方向・下部が縦方向のナデ	ナデ	橙	にぶい橙	3mm程の褐色石粒，1mm以下の灰白・褐灰・乳白色粒を含む	
788	壺	口縁部	D	SA104				口唇部は横方向のナデ，口縁部は斜方向のハケ目と横方向のナデ	横方向のナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・白色光沢粒を含む	
789	甕	底部	D	SA104		6.8		縦方向の工具ナデ，底面はナデ	丁寧なナデ	にぶい黄橙	橙	2mm以下の赤褐・褐・灰・乳白色粒を含む	
790	甕	底部	D	SA104		6.4		縦方向のナデ	指ナデ，ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の灰・褐・黒・橙色石粒を含む	
791	鉢	胴部～底部	D	SA104		5.3		ナデ，縦方向のナデ，横方向のナデ，指ナデ	ナデ	橙	橙	2～4mmの褐・灰白色石粒を含む	
792	甕	底部	D	SA104		6.1		斜方向の工具ナデ，底部付近は工具ナデの後に指ナデ	ナデ，指ナデ	明褐灰	褐灰	2mm以下の浅黄・灰白・透明粒を含む	
793	鉢	胴部～底部	D	SA104		4.5		指ナデ，縦方向のハケ目	ナデ	灰黄	浅黄橙	1mm以下の浅黄・赤褐・灰白色粒を含む	
794	壺	口縁部～胴部	D	SA104	15.3			風化により不明瞭，おそらくナデ	ナデ，指押さえ	橙	橙	3mm以下の灰・黄灰・褐・橙色石粒を含む	
795	壺	胴部～底部	D	SA104		5.8		ナデ，縦方向の工具ナデ	ナデ，指押さえ	橙	橙	3mm以下の灰・黄灰・褐・橙色石粒を含む	
795	鉢	口縁部～胴部	D	SA104				上部は横方向のナデ，下部は縦方向のハケ目	横方向のナデ	橙	橙	2mm以下の褐色石粒を含む	
796	壺	口縁部～頸部	D	SA104	8.3			上部は横方向，下部は縦方向のハケ目	横方向のハケ目，頸部は指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰・乳白色粒を含む	
798	小型壺	底部	D	SA104		3.7		ナデ	ナデ，一部ハケ目が残る	橙	橙	5mm以下の褐・灰白色石粒を含む	
799	壺	胴部～底部	D	SA104		6.3		ナデ，工具によるナデ	工具によるナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の灰白石粒，2mm以下の灰褐・赤褐色粒を含む	
800	鉢	口縁部～胴部	D	SA104	11.2			風化により不明瞭，おそらくナデ	風化により不明瞭，おそらくナデ	橙	黄橙	2mm以下の灰・乳白・透明石粒を含む	
801	小型鉢	口縁部～底部	D	SA104	9.9	2.7	8.2	口唇部は横方向のナデ，胴部はナデ・指ナデ	横と斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい橙	1～3mmの褐色粒を含む	
802	壺	胴部～底部	D	SA104		4.1		ナデ	ナデ	灰白	暗灰	2mm以下の灰白・褐灰色石粒を含む	
803	高坏	坏部	D	SA104				上部は横方向のミガキ，下部は縦方向のミガキ	放射状のミガキ	橙	橙	1mm以下の褐色粒を含む	
804	小型鉢	胴部～底部	D	SA104		2.1		斜方向のハケ目，下部は指ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの赤褐色，1mm以下の無色透明粒を含む	
805	小型鉢	胴部～底部	D	SA104		2.4		ナデ，工具ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の赤褐・無色透明粒を含む	
806	鉢	坏部	D	SA104	29.8			放射状のミガキ	放射状のミガキ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の褐・褐灰・黒色粒を含む	

第25表　下那珂遺跡出土土器観察表（14）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
807	高坏	脚部	D	SA104				縦と横方向のミガキ, 横走する櫛描文, 穿孔	ナデ, 斜方向に工具痕	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の浅黄・灰・無色透明粒を含む	
812	甕	口縁部～胴部	D	SA105	18.2			斜方向のハケ目, 斜方向のミガキ	斜方向のハケ目, 斜方向のミガキ	にぶい黄橙	黒褐	2mm以下の赤褐, 灰褐, 透明粒を含む	
813	甕	口縁部	D	SA105				縦位の刻文をもつ2条の突帯, 縦方向のハケ目	横方向のナデ	橙	にぶい橙	1～3mmの黒褐, 褐色粒を含む	
814	甕	胴部～底部	D	SA105		4.6		縦方向のハケ目	風化により不明瞭,おそらく ナデ	橙	黄橙	4mm以下の灰・黒・乳白・褐色石粒を含む	
815	壺	口縁部	D	SA105				横走凹線文, 縦方向のミガキ	ナデ	橙	橙	1mm以下の白色粒を含む	
816	壺	口縁部	D	SA105				櫛描波状文, 横方向のナデの後ミガキ	横方向のナデの後にミガキ	橙	橙	1mm以下の褐, 白色粒を含む	
817	壺	肩部	D	SA105				ナデ, ハケ目の後ナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の灰白・褐灰・褐色粒を含む	
818	鉢	胴部～底部	D	SA105		8.1		縦方向のハケ目, ナデ	工具ナデ, 指頭痕	浅黄橙	浅黄橙	2～5mmの褐色石粒, 2mm以下の褐・黒・灰褐色粒を含む	
819	壺	胴部～底部	D	SA105		3.8		ナデ, 指頭痕あり	工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm程の赤褐・褐色石粒を含む	
820	小型壺	口縁部～底部	D	SA105				風化により不明瞭,おそらく ナデ	風化により不明瞭,おそらく ナデ, 指頭痕あり	橙	橙	1mm程の乳白・灰白・褐灰色石粒を含む	
821	小型壺	口縁部～胴部	D	SA105	9.2			縦と斜方向のミガキ	口縁部は横方向のミガキ, ナデ	橙	橙	2mm以下の灰・褐色の粒を含む	
822	高坏	坏部	D	SA105	28.3			口唇部は横方向のナデ, 坏部は斜方向のミガキ	斜方向のミガキ, 丁寧なナデ	浅黄橙	にぶい橙	1～7mmの赤褐色, 1mm以下の透明粒を含む	
823	高坏	坏部	D	SA105				縦方向のミガキ	ミガキ	橙	橙	2mm以下の褐・赤褐・乳白色粒を含む	
825	甕	口縁部～胴部	D	SA106	17.8			斜方向のハケ目	斜方向のハケ目, 指ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐, 灰褐, 灰白色粒を含む	
826	甕	底部	D	SA106		6.9		横方向のナデ, ナデ	ハケ目の後にナデ	にぶい橙	灰	1～5mmの灰白・褐, 乳白色石粒を含む	
827	甕	底部	D	SA106		6.1		ナデ, 不定方向のハケ目, 指頭痕あり	ナデ, 指ナデ, 指頭痕あり	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰, 乳白, 褐色石粒を含む	
828	壺	口縁部～胴部	D	SA106	19.5			風化により不明瞭,おそらく ナデ	風化により不明瞭,おそらく ナデ	橙	橙	1～3mmの灰・赤褐・透明色, 黒色角閃石を含む	
829	壺	口唇部	D	SA106				4条の凹線文, 斜位の押圧刻文, ヨコナデ	ヨコナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の浅黄・灰・無色透明粒を含む	
830	壺	底部	D	SA106		5.2		風化により不明瞭,おそらく 縦方向のハケ目とナデ	指頭痕あり, 縦方向のハケ目, ナデ	にぶい橙	浅黄橙	5mm以下の灰, 褐色石粒を含む	
831	壺	底部	D	SA106		7.2		斜方向のハケ目, 底部はナデ	指ナデの後に棒状工具ナデ	橙	暗灰黄	1mm以下の乳白色の石粒を含む	
832	壺	胴部	D	SA106				風化により不明瞭,おそらく ナデ	風化により不明瞭,おそらく ナデ	橙	灰	1～2mmの褐, 乳白色粒を含む	
833	鉢	口縁部～底部	D	SA106	27.7	6.8	13.0	ナデ, 底部付近は指ナデ	ナデ	黄橙	黄橙	1mm程の黒・赤褐色石粒を含む	
834	鉢	口縁部～底部	D	SA106	10.7	4.5	4.8	縦と横方向のハケ目の後にナデ	ナデの後にハケ目	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の赤褐, 灰色粒を含む	
835	高坏	坏部	D	SA106				縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の赤褐・黒色石粒を含む	
838	甕	口縁部	D	SA107				縦方向の工具ナデ	横方向のナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	1～3mmの褐・赤褐・透明色, 1mm以下の黒色角閃石を含む	
839	甕	口縁部	D	SA107				横・斜方向のハケ目	ナデ, 工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm程の褐・灰・乳白色粒を含む	
840	甕	口縁部	D	SA107				口唇部に縦位の刻目文, ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の淡黄色粒を含む	
841	壺	口縁部～頸部	D	SA107				上部は縦位・下部は横位の工具ナデ	工具によるナデ, もしくはハケ目	橙	橙	1mm以下の灰白・黒色粒を含む	
842	甕	胴部～底部	D	SA107		7.0		ナデ, 縦方向のハケ目, 指ナデ	ナデ, 斜方向のハケ目	にぶい橙	灰	1～5mmの白・灰褐色, 1mm以下の黒色角閃石を含む	
843	甕	底部	D	SA107				斜方向のタタキ, 指ナデ	風化により不明瞭	淡黄	黒褐	2mm以下の灰白。灰褐色を含む	
844	甕	胴部～底部	D	SA107		6.9		縦・斜方向のナデ, 底部は横方向のナデ	ナデ	浅黄	灰	2～5mmの褐・赤褐色粒を含む	

第26表　下那珂遺跡出土土器観察表（15）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
845	器台	受部	D	SA107	33.2			上方はナデ，下方は縦方向のミガキ	風化により不明瞭	橙	橙	2mm程の褐・灰白色，1mm以下の黒色角閃石・透明粒を含む	
846	高坏	坏部	D	SA107				斜方向のハケ目もしくは工具ナデ	ミガキ	淡黄橙	にぶい褐	1～7mmの赤褐，灰色粒を「含む	
847	高坏	脚部	D	SA107		16.4		円形透かし，縦方向のミガキ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の赤褐，黒色粒を含む	
848	坏	口縁部～底部	D	SA107	8.5	4.6	11.8	ハケ目，指投げ	ナデ，指ナデ	にぶい橙	橙	1～3mmの浅黄 灰色粒を含む	
849	器台	柱部～裾部	D	SA107				縦方向のミガキ，柱部は縦方向のミガキの後に横位の櫛描文	柱部はナデ，裾部は縦と斜方向のミガキ	橙	橙	2mm以下の灰，黄灰，乳白，黒色粒を含む	
851	甕	口縁部	D	SA109	15.0			頸部に1条の突帯，横方向のミガキ	横方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰褐・浅黄色粒を含む	
852	甕	口縁部	D	SA109				斜方向の平行タタキ	上部は横方向・下部は斜方向の工具ナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の褐・橙色石粒を含む	
853	甕	口縁部	D	SA109				口唇部と口縁部に縦位の刻文をもつ2条の貼付突帯	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の赤褐・褐・乳白色粒を含む	
854	壺	底部	D	SA109		11.4		ナデ，一部工具ナデが残る	ナデ，一部ハケ目が残る	橙	にぶい橙	1mm以下の黒・灰・褐色粒を含む	
855	壺	口縁部～肩部	D	SA109	10.4			口縁部は横方向の工具ナデ，頸部は縦方向の工具ナデ	ナデ，頸部は指ナデ	橙	橙	3mm以下の黒・灰・褐色粒を含む	
856	壺	口縁部～底部付近	D	SA109	11.6			口唇部に1条の凹線，口縁部に山形の櫛描文，胴部はミガキ	上部は横方向のミガキ，下部は放射状のミガキ	橙	橙	2mm以下の黒・褐色粒を含む	
857	壺	胴部	D	SA109				沈線文	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の褐・赤褐色粒を含む	
858	器台	受部～裾部	D	SA109	25.3	18.3	17.3	上下に穿孔あり，縦方向のミガキ	柱部は指ナデ，受部は放射状のミガキ，裾部はハケ目	橙	橙	1～3mmの褐色粒を含む	
859	高坏	坏部	D	SA109				上部は縦方向・下部は横方向の工具ナデの後ミガキ	上部は縦方向・下部は横方向の工具ナデの後ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒・灰・褐・透明色粒を含む	
860	高坏	脚部	D	SA109		18.3		斜方向のハケ目	斜方向のハケ目	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の黒・灰・褐色粒を含む	甕の口縁の可能性
864	甕	胴部	D	SA109				ナデ，篦描きによる幾何学文	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm程の灰褐色，2mm以下の赤褐・乳白色粒を含む	
865	壺	底部	D	SA111		9.5		部分的にミガキが残る，底面もミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・透明色粒を含む	
866	甕	底部	D	SA111		7.1		平行タタキ，ナデ	不定方向のハケ目	橙	橙	4mm以下の乳白・灰・黒・褐色粒を含む	
867	壺	口縁部	D	SA111				突帯を挟み2条の櫛描波状文	横方向のナデ	橙	橙	1mm以下の透明・黒・灰・褐色粒を含む	
868	高坏	坏部	D	SA111				口唇部は横方向のナデ，口縁部は縦方向のミガキ	ナデ	橙	橙	1～2mmの赤褐・灰白・透明粒を含む	
869	甕	底部	D	SA111		5.7		指ナデ（指紋らしき痕跡が残る）	指ナデ（爪痕らしき痕跡が残る）	にぶい黄橙	褐灰	2mm以下の灰白・浅黄・透明粒を含む	
870	高坏	脚部	D	SA111				穿孔あり，縦方向のミガキ	ナデ，工具ナデ	橙	橙	1～2mmの赤褐・灰白・透明粒を含む	器台の可能性
871	甕	胴部～底部	D	SA112		5.7		胴部は縦方向のハケ目，底面はナデ	胴部はナデ，底部は指押さえ	にぶい黄橙	橙	1～4mmの褐・灰・白・黒色粒を含む	
872	甕	底部	D	SA112		6.4		胴部は縦方向のハケ目，底面はナデ	放射線状のハケ目，ナデ	橙	暗灰	9mm以下の灰・白・褐・透明色粒を含む	
873	壺	口縁部	D	SA112				ナデ	上段は斜方向のハケ目，下段は横方向のナデ	橙	橙	1mm以下の褐・黒色粒を含む	
874	甕	口縁部～底部	D	SA114				口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ，胴部はナデ	橙	橙	3mm以下の褐・黒褐・乳白色の石粒を含む	
875	甕	口縁部～胴部	D	SA114				口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向のハケ目	口縁部は横方向のナデ，頸部は指押さえ，胴部はナデ	橙	橙	1～4mmの褐・黒褐色石粒を含む	
876	甕	口縁部	D	SA114				縦位の刻文をもつ2条の貼付突帯，縦方向のハケ目	斜方向のハケ目	橙	橙	2mm以下の黒・灰・灰白・褐色粒を含む	
877	甕	胴部	D	SA114				縦位の刻文をもつ貼付突帯，縦方向のハケ目	横方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の透明・黄灰・黒・乳白色粒を含む	

第27表　下那珂遺跡出土土器観察表（16）

番号	種別	器種 部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
878	甕	胴部～底部	D	SA114		5.9		胴部は工具ナデ，底部はナデ	放射状のナデ	浅黄橙	黒	1～4mmの透明・灰白・褐色石粒を含む	
879	甕	口縁部～胴部	D	SA114	18.2			風化により不明瞭,おそらくナデ	上部は指ナデ，下部はナデ	橙	橙	2mm以下の黒・褐・灰白色石粒を含む	
880	甕	口縁部～胴部	D	SA114	16.4			横方向のナデ，斜方向のナデ	口縁部は横方向のナデ，胴部は斜方向のナデと指ナデ	橙	橙	4mm以下の褐・黒色の石粒を含む	
881	甕	口縁部～胴部	D	SA114				横方向のナデ，斜方向のナデ	口縁部は横方向のナデ，胴部は斜方向のナデと指ナデ	橙	橙	4mm以下の褐・黒色の石粒を含む	
882	器台？壺？	口縁部？受部？	D	SA114	17.6			口唇部は1条の凹線，口縁部は風化著しいがおそらくナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・乳白色粒を含む	
883	器台？壺？	口縁部？受部？	D	SA114	18.7			口唇部は2条の凹線，口縁部は縦方向のミガキ	ナデ	橙	橙	1mm以下の褐色の石粒を含む	
884	壺	口縁部～頸部	D	SA114	19.0			口唇部はナデ，頸部は縦方向の工具ナデ，櫛描波状文	横方向のナデ，縦方向のハケ目	橙	浅黄橙	7mm以下の褐・黄・黄灰・黒色石粒を含む	
885	壺	受部	D	SA114	28.1			口唇部はヨコナデ，口縁部～胴部は縦方向のミガキ	風化により不明瞭,おそらくミガキ	橙	橙	5mm以下の褐・灰・黄灰色粒を，2mm以下の黒色透明粒を含む	
886	壺	頸部～底部	D	SA114				頸部は横方向のナデ，胴部は縦方向のハケ目	頸部は横方向のナデと縦方向のハケ目，胴部は指ナデ	橙	橙	1～4mmの赤褐・褐・灰色粒を含む	
887	壺	口縁部	D	SA114				径2cmの円形浮文，櫛描波状文，口唇部はナデ	縦と斜方向のミガキ	橙	橙	3mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
888	壺	頸部	D	SA114				ヘラ状工具による斜位の刻文，縦方向のハケ目	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・褐・黄灰色粒を含む	
889	甕	頸部～胴部	D	SA114				ヘラ状工具による斜位の刻文，ナデの後工具ナデ	ナデ，一部指頭痕あり	橙	橙	3mm以下の灰・褐・黒色の石粒を含む	
890	甕	胴部～底部	D	SA114		7.5		胴部は斜方向のハケ目，底部はナデ	放射状の工具ナデと指ナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の褐灰・灰白・褐色の石粒を含む	
891	甕	胴部～底部	D	SA114		5.6		胴部は斜方向のハケ目，指押さえ，底部はナデ	ナデ，指ナデ	にぶい橙	灰黄褐	2mm以下の黒・灰白・透明石粒を含む	
892	壺	胴部～底部	D	SA114		5.1		胴部は工具ナデ，底部はナデ	放射状の工具ナデと指ナデ	浅黄橙	黒	1～2mmの褐色石粒を含む	
893	小型鉢	口縁部～底部	D	SA114	9.9	4.8	7.2	風化により不明瞭,おそらくナデ	ナデ，口縁部付近に一部指ナデ	にぶい橙	暗灰	2mm以下の褐・灰褐色石粒を含む	
894	小型鉢	胴部～底部	D	SA114		4.2		縦方向のミガキ	胴部はナデ，底部付近は指ナデ	にぶい黄橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐・灰・黒色石粒を含む	
895	鉢	口縁部～胴部	D	SA114				口唇部はヨコナデ，口縁部～胴部は縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	黒褐色	にぶい黄橙	1mm以下の灰褐色石粒，1～2mmの褐色砂粒をわずかに含む	
896	高坏	口縁部～胴部	D	SA114	32.3			口縁部はヨコナデ，胴部は不定方向のハケ目	口縁部はヨコナデ，胴部は放射線状のナデ	橙	橙	2mm以下の灰白・透明光沢粒を含む	
897	高坏	脚部	D	SA114		11.1		縦方向の工具ナデの後に一部指ナデ	ナデ	にぶい橙	灰黄褐	3mm以下の褐・赤褐・浅黄・褐灰色石粒を含む	
898	壺	頸部～底部	D	SA114				縦と斜方向のミガキ	頸部は指ナデ，胴部は斜方向の工具ナデ，ナデ	橙	褐灰	3mm以下の褐色，1mm以下の褐・黒・灰色粒を含む	
899	壺	頸部～底部	D	SA114		6.4		縦方向のミガキ	横と斜方向のハケ目，ナデ	橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰褐・赤褐，1mm程乳白石粒を含む	
906	甕	口縁部	D	SA115				口縁部は指ナデと横方向のナデ，胴部は斜方向のハケ目	口縁部は指ナデと横方向のナデ，胴部は斜方向のハケ目	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐色石粒，3mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	
907	甕	口縁部～胴部	D	SA115				口縁部端に縦位の刻文をもつ1条の突帯	ナデ，一部指頭痕あり	橙	橙	2mm以下の透明・黒・灰・褐・黄灰色粒を含む	
908	壺	口縁部	D	SA115				櫛描波状文	ミガキ	橙	橙	1mm以下の褐・黒・灰白色粒を含む	
909	壺	肩部	D	SA115				縦方向のミガキ，縦位の刻文	ミガキ	橙	橙	1mm以下の褐・灰白粒を含む	
910	甕	口縁部～胴部	D	SA115	12.4			口縁部付近に1条の沈線と山形状の櫛描波状文，横方向の工具ナデ	横と斜方向のミガキ	にぶい黄橙	灰黄褐	1mm以下の透明・黒色粒，3mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
911	壺	口縁部	D	SA115				口唇部に櫛描波状文，口縁部は縦方向のミガキ	縦方向のミガキ	浅黄橙	橙	1mm以下の褐・黒色・灰白色粒を含む	

第28表　下那珂遺跡出土土器観察表（17）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
912	壺	底部	D	SA115		3.4		指ナデの後に斜方向の工具ナデ(タタキの可能性もある)	ナデ, 工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の透明・黒・灰・褐・乳白色粒を含む	
913	甕	底部	D	SA115		6.6		ナデ, 指ナデ, 底面はナデ	ナデ	にぶい黄橙	褐灰	2mm以下の透明・黒・灰・褐・黄灰色粒を含む	
914	高坏	脚部	D	SA115				ナデ, 縦方向のミガキ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の褐・灰褐黒色石粒を含む	
919	甕	口縁部～底部	D	SC25	20.8	2.6	28.0	上半分は平行タタキ, 下半分は斜方向のハケ目	斜方向のハケ目	にぶい黄橙	明黄褐	3mm程の灰白・褐・灰色粒, 2mm以下の灰・褐・透明粒を含む	
920	甕	口縁部～底部付近	D	SC25	18.5			口縁部付近はナデ, 胴部は一部工具痕が残るがナデ, 底部付近は工具によるケズリ	一部工具痕が残るがナデ	橙	明黄褐	3mm以下の灰・乳白・褐色粒, 1mm以下の透明・黒色光沢粒を含む	
921	甕	口縁部～底部付近	D	SC25	21.1			口縁部付近は横方向のハケ目, 胴部は斜方向のハケ目	斜方向のハケ目, ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	7mm以下の褐・灰色粒, 1mm以下の透明・黒色光沢粒を含む	
922	甕	胴部～底部	D	SC25		3.2		ナデ(風化により不明瞭)	ハケ目(風化により不明瞭)	橙	にぶい黄橙	2mm以下の黒色角閃石・褐色・灰・黒色粒を含む	
923	甕	胴部～底部	D	SC25		3.2		平行タタキ, 一部黒変	斜方向のハケ目, 黒変	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～4mmの褐色・赤褐色, 1mm以下の黒色角閃石を含む	
924	壺	口縁部～胴部	D	SC25	10.8			縦方向のハケ目, 平行タタキ	ナデ, 部分的にハケ目が残る。	橙	橙	1mm以下の黒色角閃石をわずかに含む。	
925	甕	口縁部～底部付近	D	SC25				縦と斜方向のハケ目	縦と斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～5mmの褐・赤褐・灰・白色粒を含む	
926	壺	胴部～底部	D	SC25				縦と斜方向のハケ目	ナデ	にぶい橙	黄橙	1mm以下の褐色粒を多く, 4mm程の橙色粒をわずかに含む	
927	甕	胴部～底部	D	SC25		3.1		縦と斜方向のハケ目, 底部付近はケズリ	斜方向のハケ目, 指ナデ	にぶい橙	褐灰	4mm以下の褐色粒, 1mm以下の乳白色・黒色角閃石粒を含む	
928	鉢	口縁部～底部	D	SC25	23.8	1.7	11.5	ナデ(風化のため調整不明瞭)・一部赤化	ナデ(風化のため調整不明瞭)	橙	橙	4mm程の黄灰・灰白・灰褐色土粒, 2mm以下の透明・黒色光沢粒を含む	
929	小型甕	口縁部～底部	D	SC25	18.9	4.8	17.9	斜方向のナデ, ナデ, 縦方向のケズリ	工具によるナデ・指ナデ	橙	橙	5mm以下の褐色土粒, 1mm程の灰色・乳白色粒を含む	
930	鉢	口縁部～底部	D	SC25	11.8	3.2	7.4	ナデ・工具によるナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐色粒・1mm以下の透明・黒色光沢粒を含む	
931	壺	口縁部～底部	D	SC25	9.4	0.6	5.8	横方向のナデの後ナデ, 不定方向のナデ	横と斜方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程の褐色, 透明粒を含む	
932	壺	口縁部～底部	D	SC25	10.5			口縁部は櫛描波状文, 胴部は斜方向のハケ目	不定方向のハケ目, 指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐色・黒褐色粒, 2mm程の褐色粒を含む	
934	甕	口縁部～胴部	D	包含層	24.9			口唇部はナデ, 口縁部は工具ナデ, 胴部は斜方向の工具ナデ	口縁部は斜方向の工具ナデ, 胴部はナデと指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の褐灰・灰白・褐色の石粒を含む	
935	甕	口縁部～胴部	D	包含層	23.0			口縁部は横方向のハケ目, 斜方向のハケ目とナデ	口縁部は横方向のハケ目, 斜方向のハケ目とナデと指ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm程の暗黄褐・褐・灰白色粒を含む	
936	甕	口縁部	D	包含層				斜位の刻文, 横方向の粗いハケ目	口縁部は横方向のハケ目, 胴部は斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの褐色粒を含む	
937	甕	口縁部	D	包含層				縦位に刻文をもつ2条の貼付突帯, 縦方向のハケ目	指ナデ, ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	3mm程の褐色石粒, 1mm以下の乳白・褐色粒を含む	
938	甕	口縁部	D	包含層				斜方向のハケ目, 口唇部は僅かに肥厚させ縦位の刻文をもつ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の赤褐・褐・透明粒を含む	
939	甕	口縁部～胴部	D	包含層	18.4			縦と斜方向のハケ目	横と斜方向のハケ目の後ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1～4mmの褐・灰・黒色粒を含む	
940	甕	口縁部～胴部	D	包含層	14.2			風化著しいが, おそらくナデ	風化著しいが, おそらくナデ	橙	橙	1～4mmの灰・褐・白・黒色石粒を含む	
941	甕	口縁部	D	包含層	14.9			口唇部は横方向のナデ, 下部は縦方向のハケ目	横方向のハケ目, 横方向のミガキ	橙	橙	1mm以下の褐・透明色粒を含む	
942	甕	胴部～底部	D	包含層		5.9		縦方向のハケ目, 底部付近は指押さえ	不定方向のハケ目, ナデ	橙	黒褐	2mm以下の褐・灰白色粒を含む	

第29表　下那珂遺跡出土土器観察表（18）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm)			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
943	甕	胴部～底部	D	包含層		4.5		風化著しいがおそらくナデ, 底部付近は指押さえ	風化著しいがおそらくナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	1mm以下の淡黄・白色粒を含む	
944	甕	胴部～底部	D	包含層		4.7		風化著しいが, おそらくナデ	風化著しいが, おそらくナデ	橙	橙	3mm以下の褐灰・灰白・赤褐色粒を含む	
945	甕	胴部～底部	D	包含層		5.9		縦方向の工具ナデ, ナデ	ナデと指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐灰・灰白・褐色の石粒を含む	
946	甕	胴部～底部	D	包含層		5.1		平行タタキ, 下部は縦方向の工具ナデ, 底部付近は指紋が残る	ナデ	明赤褐	橙	3mm以下の赤褐・灰白・灰褐色粒を含む	
947	甕	底部	D	包含層		5.0		風化著しいがおそらくナデ, 底部付近は指押さえ	風化著しいがおそらくナデ	にぶい橙	浅黄橙	2mm以下の褐・灰・黄灰色粒を含む	
948	壺	口縁部	D	包含層				横方向のハケ目, 口唇部と口縁部に円形浮文	横方向のナデ	明褐	明褐	2～3mmの乳白・灰白色粒を含む	
949	壺	口縁部	D	包含層				ヘラ描きの三角形文, 竹管文	横方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤褐・透明粒を含む	
950	壺	口縁部	D	包含層				櫛歯状工具による横引き文	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐・黒色粒を含む	
951	壺	口縁部	D	包含層	14.6			二次口縁は横方向のナデの後に櫛描波状文, 頸部は工具ナデ	口縁部は丁寧なナデ, 頸部は斜方向の工具ナデ	橙	橙	1mm以下の褐・透明色粒を含む	
952	壺	口縁部～頸部	D	包含層	11.2			口縁部に押引のような櫛描波状文, 頸部は風化著しいが縦方向のハケ目	風化著しいがおそらくナデ	橙	橙	1mm以下の透明, 金色光沢粒を含む	
953	壺	口縁部～胴部	D	包含層	11.1			縦方向の粗いハケ目	口縁部は横方向のナデ, 頸部は指ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の赤褐・灰褐色粒を含む	
954	壺	口縁部～胴部	D	包含層	13.0			斜方向の粗いナデの後に縦方向のミガキ	斜方向の粗いナデの後に縦方向のミガキ, ヘラ状工具によるナデ	灰黄褐	にぶい橙	2mm程の赤褐・黒・無色粒を含む	
955	壺	口縁部	D	包含層				ナデの後に線刻か工具痕が確認できる, 1～2条の貼付突帯をもつ	上部は横方向のハケ目, 下部はナデ	にぶい橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	
956	壺	底部	D	包含層		9.9		ナデ, 底部に径21mmの穿孔あり	風化著しいがおそらくナデ	にぶい黄橙	橙	4mm以下の褐・黒・黄灰色石粒, 1mm以下の透明粒を含む	
958	甕	胴部～底部	D	包含層				風化著しいが, ハケ目かミガキらしき痕跡が残る	風化著しいが, ハケ目か工具痕らしき痕跡が残る	にぶい橙	にぶい橙	1～3mmの褐・灰色石粒を含む	
958	甕	底部	D	包含層		7.6		縦方向のハケ目, 底面はナデ	ナデ, 指ナデ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の灰・黒・乳白・褐色石粒を含む	
959	甕	胴部～底部	D	包含層		5.3		胴部はナデ, 底部付近は指ナデ, 底面はナデ	放射状のハケ目	にぶい黄橙	灰黄	1mm以下の灰白・褐・黒色粒を含む	
960	甕	胴部～底部	D	包含層		6.2		縦方向のハケ目	丁寧なナデ, 一部指ナデ	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰・灰白色粒を含む	
961	鉢	胴部～底部	D	包含層		4.4		胴部は螺旋状のミガキ, 底部は横方向のミガキ	不定方向のミガキ	橙	橙	2mm以下の褐色粒を含む	
962	甕	底部	D	包含層		7.0		胴部は平行タタキ, 底部付近は指押さえ, 指紋痕が残る	ナデ, 指ナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の透明光沢粒, 4mm以下の灰・乳白・褐色石粒を含む	
963	鉢	口縁部～胴部	D	包含層				ヨコナデ, ナデ	ヨコナデ	橙	橙	1mm以下の黒・白色粒を含む	
964	鉢	口縁部	D	包含層				ナデ, 放射状のハケ目	風化著しいがおそらくナデ	橙	橙	1mm以下の白・褐・透明粒を含む	
965	高坏	坏部	D	包含層				斜位の刻文をもつ2条の貼付突帯, 縦方向のミガキ	風化著しいがおそらくナデ	橙	橙	2mm以下の赤褐・透明粒を含む	
966	高坏	脚部	D	包含層				穿孔あり, 縦方向のミガキ	横方向のナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の透明・黒・褐色粒を含む	
967	小型鉢	口縁部～底部	D	包含層	9.3	2.2	10.8	ナデ, 工具ナデ	丁寧なナデ	灰	灰	2mm以下の赤褐・黒・透明粒を含む	
968	小型甕	口縁部～底部	D	包含層	9.8	3.6	10.3	風化著しいがおそらくナデ	風化著しいがおそらくナデ	橙	橙	2mm以下の浅黄・褐灰色粒を含む	
969	小型甕	口縁部～底部	D	包含層	9.8	4.2	9.7	縦方向のハケ目の後ナデ	縦方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	3mm以下の褐・赤褐色粒を含む	
970	小型甕	胴部～底部	D	包含層		3.2		縦方向の工具ナデ	ナデ, 一部横方向の工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の褐・黒・灰色粒を含む	

第30表　下那珂遺跡出土土器観察表（19）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
971	小型鉢	口縁部～底部	D	包含層	9.6	1.9	5.0	ナデ，底部付近は指ナデ，部分的に指押さえ	ナデ，指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の浅黄色粒を含む	
972	小型坏	口縁部～底部付近	D	包含層	5.6			縦方向のハケ目の後ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・乳白色粒を含む	
973	鉢	口縁部～底部	D	包含層	31.1		9.2	風化著しいがミガキが残る	風化著しいがミガキが残る	橙	淡橙	5mm以下の灰・黒・褐石色粒を含む	
974	甕	口縁部～底部	D	包含層	17.4	6.0	14.9	口縁部は横方向のハケ目，胴部は斜方向のハケ目	斜方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・黒・白色粒を含む	
975	器台	受部～裾部	D	包含層	25.9	26.1		穿孔あり，縦方向のミガキ	受部はミガキ，柱部は指ナデ，裾部はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の透明・黒・灰白色粒を含む	
976	器台	柱部～裾部	D	包含層				穿孔あり，縦方向のミガキ	不定方向のナデ，工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの赤褐色粒，1mm以下の褐色粒を含む	
977	器台	受部～柱部	D	包含層				穿孔あり，縦方向のミガキ	受部はハケ目の後に斜方向のミガキ，柱部は指ナデ	橙	橙	3mm以下の褐・黒・透明色粒を含む	
978	蓋	蓋部	D	包含層				粗いナデ，不定方向の工具ナデ	不定方向の粗い工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm程の赤褐・褐色粒を含む	
979	小型甕	口縁部	D	包含層				横方向のナデの後に縦方向のミガキ	丁寧なナデ，口縁端部は凹線	橙	にぶい橙	1mm以下の褐色粒を含む	
980	甕	底部	D	包含層		5.4		工具ナデ	ナデ	橙	橙	3mm以下の赤褐・浅黄・透明粒を含む	
981	小型鉢	胴部～底部	D	包含層		5.0		胴部は縦方向のハケ目，底部付近は横方向のナデ	ナデ	にぶい橙	浅黄橙	1mm以下の赤褐・黒・透明粒を含む	
982	ミニチュア土器	胴部～底部	D	包含層		2.2		工具ナデ	不定方向の工具ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の赤褐色粒を含む	
983	ミニチュア土器	胴部～底部	D	包含層		2.0		タタキの後ナデ	工具ナデ	にぶい黄橙	橙	2mm以下の黒・灰・褐色粒を含む	
984	小型鉢	胴部～底部	D	包含層				風化著しいがミガキが残る	斜方向のハケ目	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の灰・黒・褐色粒を含む	
985	小型鉢	底部	D	包含層		5.0		横方向のナデの後に縦方向にミガキ	底面は横方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・透明粒を含む	
986	壺	胴部～底部	D	包含層		4.8		指ナデ，縦方向のハケ目，底部に径5mmの穿孔あり	縦方向のハケ目，指押さえ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐色粒を含む	
987	杓子状土器	柄部	D	包含層				工具ナデ		橙	灰黄褐	1～2mmの赤褐・灰白粒を含む	
988	杓子状土器	柄部	D	包含層				ナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の灰白・黄灰褐・黒色粒を含む	
989	壺	口縁部	D	包含層	7.1			口縁部に幅1.7cmの口縁帯をもつ	ナデ，一部指頭痕あり	橙	橙	1mm以下の赤褐色粒を含む	
990	壺	口縁部	D	包含層	20.3			口唇部に2条の凹線文，横方向のナデ	風化のため調整不明	浅黄橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐色，1mm以下の黒・透明色粒を含む	
991	鉢	胴部～底部	D	包含層		5.8		風化著しいがおそらくナデ	螺旋状のハケ目	浅黄橙	浅黄橙	5mm以下の黒・灰・褐色粒を含む	
992	高坏	脚部	D	包含層		13.3		風化著しいがミガキが残る	螺旋状の工具ナデ，ナデ	浅黄橙	浅黄橙	3～4mmの赤褐色，2mm以下の黒・灰・透明色粒を含む	
993	高坏	脚部	D	包含層				縦方向のハケ目の後にナデ	指ナデ	浅黄橙	浅黄橙	4mm以下の暗褐，1mm以下の黒・透明粒を含む	
994	壺	胴部～底部	D	包含層		3.6		縦方向のハケ目，底部付近は縦方向の工具ナデ	主に横方向のハケ目	にぶい橙	にぶい黄橙	5mm以下の褐・黒・灰色粒を含む	
995	小型鉢	口縁部～底部	D	包含層	9.7	4.5	9.8	縦方向のハケ目	指ナデ，横方向のハケ目	橙	橙	3mm以下の灰・黄灰・褐色石粒を含む	
996	杓子状土器	柄部	D	包含層				径2.7cm，縦方向のナデ		にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐色粒を含む	
997	壺	口縁部～頸部	D	包含層	22.2			ヘラ描き鋸歯文，横方向のナデ，頸部は縦方向のミガキ	口縁部は横方向・頸部は縦方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤褐・黒・透明色粒を含む	
998	甕	口縁部	D	包含層				横方向のミガキ	横方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の淡黄色粒を含む	
999	鉢	胴部	D	包含層				丁寧なナデ，沈線と列点文	ナデ	明赤褐	明赤褐	1mm以下の灰白・淡黄・金色粒を含む	
1000	甕	底部	D	包含層		7.1		横方向のナデ，指押さえ（指紋痕が残る）底面は工具ナデ	指ナデ	にぶい黄橙	暗灰	2mm以下の褐・灰白色石粒・1cm程の高師小僧を含む	

第31表　下那珂遺跡出土土器観察表（20）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1001	高坏	坏部	D	包含層				口唇部に1条の凹線，口縁部に縦方向のミガキ	ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・赤褐色粒を含む	
1002	蓋	蓋部	D	包含層		9.8		縦と斜方向のミガキ	主に横方向のハケ目	橙	橙	1mm以下の黒・灰白・暗褐色粒を含む	
1003	甕	口縁部	F	SA116	24.3			風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明	にぶい橙	橙	1mm以下の赤褐・乳白色粒を含む	
1004	壺	肩部	F	SA116				ミガキ，沈線による幾何学文	指ナデ	橙	橙	2mm以下の褐・透明粒，4mm程の黒色粒を含む	
1005	甕	口縁部	F	SA116				口縁下に一条の貼付突帯，ナデ	ナデ	浅黄	浅黄	2mm以下の褐・灰白，4mm以下の褐色粒を含む	
1006	壺	口縁部	F	SA116	9.3			縦方向のミガキ，2カ所の穿孔	横方向のミガキ	黄橙	黄橙	1mm以下の灰色粒を含む	
1007	壺	口縁部	F	SA116				ナデ	ナデ，一部指ナデ	橙	橙	1mm以下の灰白・褐灰・透明光沢粒を含む	
1008	壺	口縁部	F	SA116	20.4			二次口縁部に凹線文，風化しているが不定方向のハケ目	風化著しいが一部に横方向のハケ目	橙	橙	1～2mmの褐・灰白・黒色粒，4mm程の褐色粒を含む	
1009	壺	口縁部	F	SA116				ナデ，縦方向のハケ目	ナデ	橙	橙	2mm以下の黒・褐・灰白色石粒を含む	
1010	壺	口縁部～頸部	F	SA116				縦方向のミガキ	ナデ	橙	橙	2mm以下の灰・黒・乳白色粒を含む	
1011	壺	口縁部～底部	F	SA116	11.1			不定方向の工具ナデ	口縁部は横方向のハケ目，頸部は指押さえ，胴部は不定方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の黒色粒をわずかに含む	
1012	壺	肩部～胴部	F	SA116				不定方向の工具痕	頸部附近は指ナデ，胴部は斜方向のハケ目	にぶい橙	浅黄橙	3mm以下の灰褐色粒を含む	
1013	壺	胴部～底部	F	SA116				縦方向のハケ目，底部は指ナデ	不定方向のハケ目	灰白	浅黄橙	3mm以下の灰・黒・乳白・褐色粒を含む	
1014	甕	口縁部	F	SA116				口縁下に縦位の刻文をもつ一条の貼付突帯，ナデ	ナデ	橙	橙	1mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
1015	小型壺	底部	F	SA116		2.8		縦方向の工具ナデ	ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の灰・黄灰・褐・透明光沢粒を含む	
1016	小型甕	底部	F	SA116		4.7		縦方向の工具ナデ	ナデ，指ナデ	橙	橙	1mm以下の灰・褐・透明光沢粒を含む	
1017	小型甕	底部	F	SA116		4.5		縦方向の工具ナデ	縦方向のハケ目	浅黄橙	暗灰黄	2mm以下の灰・黄灰・灰白・褐色粒を含む	
1018	高坏	坏部	F	SA116				縦方向のミガキ	風化著しいがおそらくナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	1～2mm程の褐・黒・灰色粒を含む	
1019	高坏	坏部	F	SA116				縦方向のミガキ	主に縦方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐色粒を含む	
1020	高坏	坏部	F	SA116				風化著しく 不明であるがおそらくナデ	風化著しく 不明であるがおそらくナデ	浅黄橙	浅黄橙	1mm以下の褐・黄灰色粒を含む	
1021	鉢	口縁部～底部	F	SA116	19.7	5.8	12.5	口縁部は斜方向，胴部は縦方向のハケ目	口縁部は斜方向のハケ目，胴部はナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	3mm以下の灰・黒・赤褐・白色粒を含む	
1022	鉢	口縁部～底部	F	SA116	18.8	5.5	13.3	主に斜方向の工具ナデ	主に斜方向の工具ナデ	橙	橙	2mm以下の褐・灰白色粒を含む	蓋の可能性
1025	甕	口縁部～底部	F	SA117	14.6		22.8	風化著しいが，下半に縦方向のハケ目	風化著しいが，おそらくナデ	橙	橙	1～3mmの黒・褐・灰色石粒，7mm程の高師小僧を含む	
1026	甕	口縁部～底部	F	SA117				風化著しいがおそらくナデ，下半に縦方向のハケ目	風化著しいが，おそらくナデ	にぶい橙	橙	3mm以下の褐・浅黄色石粒，3mm程の高師小僧を含む	
1027	甕	口縁部	F	SA117				縦方向の工具ナデ	口縁部は横方向・胴部は斜方向のハケ目	にぶい橙	にぶい黄橙	1～2mmの黒・灰・褐色粒，3mm程の黒色粒を含む	
1028	甕	口縁部	F	SA117				横方向のハケ目	横方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の赤褐・褐・白色粒を含む	
1029	甕	口縁部	F	SA117				口縁部は横方向のハケ目	ナデ	橙	橙	1～2mmの褐・灰白色粒を含む	
1031	甕	底部	F	SA117		6.3		縦方向の工具ナデ	ナデ	橙	にぶい橙	1～3mmの褐色，5mm程の黒色粒を含む	
1032	甕	胴部～底部	F	SA117		4.9		胴部は縦方向のハケ目，底部付近は指ナデ	胴部上半は斜方向のハケ目，下半はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの褐・灰・黒色石粒を含む	
1033	壺	口縁部	F	SA117				横方向のナデの後に櫛描き波状文	横方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰・黒色粒を含む	

第32表　下那珂遺跡出土土器観察表（21）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1034	壺	口縁部	F	SA117				櫛描き波状文	横方向のナデ	にぶい橙	にぶい赤褐	1mm以下の褐色粒を含む	
1035	壺	口縁部～頸部	F	SA117				風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明	橙	橙	含有物なし	
1036	壺	口縁部・頸部～底部	F	SA117	13.7			縦方向のハケ目	螺旋状の工具ナデ，ナデ	にぶい橙	橙	6mm以下の褐・灰・黄灰・黒色石粒を含む	
1037	壺	底部	F	SA117		2.4		丁寧なナデ，ミガキの可能性もあり	不定方向のハケ目	にぶい黄橙	灰	1mm以下の浅黄・乳白色粒を含む	
1038	壺	口縁部～胴部	F	SA117	17.3			櫛描波状文をもつ二重口縁部，胴部は主に斜方向のハケ目	主に横方向のハケ目	にぶい黄橙	褐灰	3mm以下の浅黄・灰褐色石粒を含む	
1039	壺	口縁部～底部	F	SA117	13.2	3.6	26.9	ナデ，斜方向のハケ目	頸部は指ナデ，胴部は斜方向のハケ目	明黄褐	にぶい橙	3mm以下の黒・灰・褐・乳白色粒，6mm程の高師小僧を含む	
1040	壺	口縁部～頸部	F	SA117				口縁部は横方向のハケ目，頸部は縦方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目，頸部は指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰・黒色粒を含む	
1041	壺	頸部	F	SA117				風化著しく 調整不明，頸部に貼付突帯の痕跡がある	風化著しく 調整不明	橙	浅黄橙	2mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
1042	壺	頸部	F	SA117				ナデ，斜位の刻目をもつ貼付突帯	ナデ	橙	橙	1mm程の褐色粒を含む	
1043	高坏	坏部	F	SA117				縦方向のミガキ	横方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の浅黄粒を含む	
1044	壺	口縁部	F	SA117				口唇部に凹線文，縦方向にハケ目	横方向の工具ナデ	橙	橙	2mm以下の褐・灰白・黒色粒を含む	
1046	壺	胴部～底部	F	SA117		6.5		胴部は斜方向のハケ目，底部付近は縦方向のミガキ	風化著しく 調整不明	にぶい黄橙	黒	2mm以下の浅黄・褐・灰褐色石粒を含む	
1047	高坏	脚部	F	SA117				縦方向のハケ目	横方向のナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・灰色粒を含む	
1048	小型甕	口縁部～底部	F	SA117	13.9	3.2	11.8	風化著しいが一部縦方向のミガキが残る	縦方向のミガキ	橙	明黄褐	4mm以下の灰・黒・乳白色粒，2mm以下の黒・透明光沢粒を含む	
1049	鉢	口縁部～底部	F	SA117	9.8	0.6	10.2	風化著しいが，一部不定方向のハケ目	風化著しいが，一部横と斜方向のハケ目	橙	橙	5mm以下の褐・灰・透明光沢石粒を含む	
1050	鉢	口縁部～底部	F	SA117	13.0			横と斜方向のハケ目，ナデ	横と斜方向のハケ目	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の赤褐・灰・透明光沢石粒を含む	
1051	鉢	口縁部	F	SA117				風化のため調整不明	縦方向のミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の赤褐色粒を含む	
1051	鉢	口縁部～底部	F	SA217	10.8	3.1	5.9	風化著しいが，一部不定方向のハケ目	風化著しいが，一部横方向のハケ目	にぶい橙	橙	2～3mmの灰白色石粒を含む	
1053	壺	口縁部～底部	F	SA119	6.3	3.7	18.2	縦方向のミガキ	頸部は横方向のハケ目と指ナデ，胴部はナデ，底部は指押さえ	橙	灰黄褐	1～2mmの黒・褐・灰色粒を含む	
1054	壺	口縁部～底部	F	SA119	5.3	3.1	14.6	口縁部に櫛描き波状文，頸部は縦方向のミガキ，胴部はナデ	口縁部は横方向のハケ目，頸部は指ナデ，胴部は横と縦方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の赤褐・褐・透明光沢粒を含む	
1055	壺	口縁部	F	SA119				二次口縁部に櫛描き波状文，ナデ	ナデ	橙	橙	2mm以下の灰・黒・白色粒を含む	
1056	高坏	脚部	F	SA119				縦方向のミガキ	ナデ	橙	橙	3mm以下の灰・黄灰・黒色粒を含む	
1058	甕	口縁部～底部付近	F	SA119	22.9			口縁部は横方向のハケ目，胴部はナデ	口縁部は横方向・胴部上半は横方向・下半は斜方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の褐・灰色石粒を含む	
1059	壺	口縁部～底部	F	SA119	14.8	3.7	35.3	風化著しく 調整不明，おそらく ナデ，底部付近にミガキ	ナデ，工具ナデ	橙	橙	3mm以下の灰白・褐灰・暗赤褐色粒を含む	
1060	壺	胴部～底部	F	SA119		4.4		風化著しいがおそらく ナデ	底部付近は放射状のハケ目，胴部はナデ	橙	橙	1mm程の灰白粒，3mm程の褐色粒を含む	
1061	壺	胴部～底部	F	SA119				風化著しいが部分的に縦方向のハケ目	風化著しく 調整不明	にぶい黄橙	にぶい橙	3mm程の灰褐粒，2mm以下の褐灰・黒・赤褐色粒を含む	
1062	甕	頸部～底部	F	SA119		10.8	22.5	胴部は斜方向の工具ナデ，底部付近は縦方向のハケ目	斜方向の工具ナデ	橙	橙	1mm以下の黒・灰白・褐色粒，5mm程の褐色粒を含む	

第33表　下那珂遺跡出土土器観察表（22）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1063	甕	口縁部～底部	F	SC26	22.0	3.7	27.4	頸部に指ナデ，胴部はナデ	口縁部は横方向のナデ，胴部は斜方向の工具ナデの後にナデ	橙	にぶい黄橙	5mm以下の黒・褐色石粒を含む	
1064	鉢	口縁部～胴部	F	SC27	15.0			ナデ	ナデ	橙	橙	3mm以下の褐色粒を含む	
1065	甕	胴部～底部	F	SC28		5.4		縦方向のハケ目	縦方向の工具ナデ	にぶい橙	橙	5mm以下の赤褐，3mm以下の灰・白色粒を含む	
1066	壺	口縁部～頸部	F	SC29	10.6			口唇部に横方向のナデか櫛描文，頸部は縦方向のミガキ	横方向のナデ，一部指ナデ	橙	橙	1mm程の灰白・褐色粒を含む	
1067	鉢	口縁部～底部	F	SC29	9.8	5.1	9.1	縦方向のミガキ	主に横方向のハケ目	浅黄橙	にぶい橙	2mm以下の赤褐色粒を含む	
1068	甕	口縁部～胴部	F	SC29	11.3			横方向の工具ナデ	口縁部は横方向の工具ナデ，頸部は指ナデ，胴部はナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1～3mm程の褐色粒を含む	
1069	壺	頸部～底部	F	SC29		2.8		主に斜方向の工具ナデ	頸部は指ナデ，胴部は斜方向のハケ目	にぶい橙	黄灰	2mm以下の赤褐・浅黄・透明光沢粒を含む	
1070	壺	肩部	F	SC29				風化しているがおそらくミガキ，重弧文	ナデ，一部指ナデ	橙	黒褐	1mm程の灰・褐色粒を含む	
1071	甕	口縁部～胴部	F	SC30	19.8			縦と斜方向のハケ目	横方向のハケ目，底部付近は指ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1～3mm程の褐・灰白粒を含む	
1072	甕	口縁部～胴部	F	SC30	23.4			口縁部付近は風化著しく 不明，平行タタキ	風化著しく 調整不明	橙	橙	1～3mm程の灰・黒色石粒を含む	
1073	鉢	口縁部～底部	F	SC30	13.5	3.6	9.1	ナデ，底部付近に指ナデ	ナデ，底部付近は縦方向の工具ナデ	浅黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の赤褐・灰・透明光沢粒を含む	
1074	壺	口縁部～頸部	F	SC30	16.6			風化著しく 調整不明，口縁部に櫛描き波状文	風化著しく 調整不明だがおそらく ナデ	橙	橙	3mm以下の灰・赤褐色粒を含む	
1075	甕	口縁部～胴部	F	SC30	19.6			口縁部は縦方向の工具ナデの後にナデ，胴部は平行タタキ	口縁部は斜方向の工具ナデの後にナデ，胴部はナデ	橙	橙	5mm以下の灰・褐・赤褐色粒を含む	
1076	壺	頸部～底部	F	SC30		1.3		風化著しく 調整不明	ナデ	浅黄橙	浅黄橙	2mm以下の赤褐・灰・褐色粒を含む	
1077	壺	底部	F	SC30		5.1		風化著しく 調整不明	風化著しく 調整不明	橙	橙	1～3mmの褐・灰色石粒を含む	
1078	甕	胴部～底部	F	SC30		5.3		平行タタキ	ナデ	橙	橙	1～3mm程の灰・褐・黒色石粒を含む	
1079	甕	口縁部～胴部	F	包含層	21.6			口唇部は凹面状に窪み，頸部は縦方向のハケ目・胴部は斜方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目，胴部は斜と縦方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の褐・灰・赤褐色石粒，3mm以下の透明光沢粒を含む	
1080	甕	口縁部～胴部	F	包含層	19.7			不定方向のハケ目	口縁部は横方向・胴部は斜方向のハケ目	橙	橙	2mm程の褐・白色粒を含む	
1081	甕	口縁部～胴部	F	包含層	18.7			口縁部は縦方向・胴部は斜方向のハケ目	主に横方向の工具ナデ	橙	橙	2～3mmの褐・灰・黒色粒を含む	
1082	甕	口縁部～底部	F	包含層	19.9	5.5	23.1	ナデ，頸部は横方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目，ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐色石粒を含む	
1083	甕	口縁部～底部	F	包含層	21.3			頸部は縦方向のハケ目，底部に縦方向の工具ナデ	口縁部は指ナデ，胴部は不定方向のハケ目	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の褐・灰褐色石粒を含む	
1084	甕	口縁部～胴部	F	包含層	20.4			口縁部はナデ，胴部は平行タタキ	風化著しく 調整不明だがおそらく ナデ	橙	灰黄褐	4mm以下の褐・灰・黒色石粒を含む	
1085	甕	口縁部～胴部	F	包含層	21.0			風化著しく 調整不明だが一部横方向のナデ	口縁部は横方向・胴部は横と斜方向のハケ目	橙	橙	6mm以下の赤褐，3mm以下の灰・白・透明粒を含む	
1086	甕	口縁部～胴部	F	包含層				口縁部から頸部は縦方向の工具ナデ，胴部は斜方向のハケ目	口縁部は斜方向の工具ナデの後に指ナデ，不定方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	2～3mmの褐・灰・黒色石粒を含む	
1087	壺	口縁部	F	包含層				横方向のナデ，櫛描きの半円重弧文と縦位の刻文	横方向のナデ	橙	にぶい黄橙	1mm程の灰色粒を含む	
1088	甕	頸部	F	包含層				頸部に1条の貼付突帯，横方向のナデ	風化著しく 調整不明だがおそらく ナデ	橙	橙	1mm程の褐・灰白色粒を含む	
1089	小型甕	口縁部～底部	F	包含層	11.9	2.4	16.5	風化著しく 調整不明，底部付近のみ縦方向のナデ痕跡	斜方向の工具ナデ	橙	橙	4mm以下の赤褐，2mm以下の黒・灰・灰白・無色光沢粒を含む	

第34表　下那珂遺跡出土土器観察表（23）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
1090	甕	底部(脚部)	F	包含層		9.6		横方向の平行タタキ	指ナデ, ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm程の赤褐・褐色, 1mm以下の黒・灰色粒を含む	
1091	甕	胴部～底部	F	包含層		7.4		胴部は平行タタキ, 底部付近は縦方向のミガキとハケ目	縦と斜方向の工具ナデ, 縦方向の指ナデ	橙	にぶい黄橙	2mm程の褐・灰・黒色石粒を含む	
1092	甕	胴部～底部	F	包含層		5.3		風化著しく調整不明だが, 部分的に縦方向のハケ目が残る	風化著しく調整不明だが, 部分的に縦と斜方向のハケ目が残る	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の褐・灰褐色石粒を含む	
1093	壺	口縁部～底部	F	包含層	13.2	5.9	32.9	口縁部は横方向のハケ目, 胴部は不定方向のハケ目	縦と斜方向のハケ目, 指ナデあり	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐・灰白・褐灰色粒を含む	
1094	壺	口縁部	F	包含層	23.0			櫛描波状文をもつ二重口縁部, 円形浮文をもつ	斜方向のハケ目	橙	橙	2mm以下の灰・透明光沢粒を含む	
1095	壺	口縁部	F	包含層	13.0			櫛描波状文, 貼付文, 口縁部は縦方向のハケ目	横方向のハケ目	橙	橙	1mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
1096	壺	口縁部	F	包含層				凹線文, 斜方向のハケ目	横方向のナデ, ミガキ	にぶい橙	にぶい橙	1mm程の褐色粒を含む	
1097	壺	口縁部	F	包含層				凹線文, 斜方向のハケ目	横方向のナデ, ミガキ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm程の褐・灰色粒を含む	
1098	壺	口縁部	F	包含層	9.2			風化著しく調整不明だが, 部分的に縦方向のハケ目が残る	風化著しく調整不明だが, 部分的に縦方向のハケ目が残る	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の赤褐・褐・灰褐色石粒を含む	
1099	壺	口縁部	F	包含層	9.0			上半は縦方向のハケ目, 下半はハケ目の後に縦方向のミガキ	縦方向の工具ナデ, 指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の黒・褐・灰色粒を含む	
1100	壺	肩部	F	包含層				斜位の刻文を持つ貼付突帯, 横走する沈線文, 鋸歯状の幾何学文	指ナデ, 工具による斜方向のナデ	橙	灰黄褐	1mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
1101	壺	胴部	F	包含層				斜方向のハケ目, 線刻あり	ナデ	明赤褐	にぶい赤褐	3mm以下の赤褐・灰白・浅黄色粒を含む	
1102	壺	頸部～底部	F	包含層		4.4		風化著しく調整不明だが, 部分的に斜方向の工具ナデが残る	指ナデ, ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	1mm以下の砂粒を含む	
1103	壺	胴部～底部	F	包含層		3.6		風化著しく調整不明であるが, 斜方向のハケ目が残る	棒部は風化著しいがナデと横方向の工具ナデ, 底部は指ナデ	橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰・黒色石粒, 6mm程の褐色石粒を含む	
1104	壺	胴部	F	包含層		3.0		風化著しく調整不明	風化著しく調整不明	橙	にぶい黄褐	2～3mmの褐・灰・灰白色粒を含む	
1105	高坏	口縁部～脚部	F	包含層	33.4	16.7		坏部は工具ナデと放射状のミガキ, 脚部はミガキ, 3方の透かしあり	坏部はナデと放射状のミガキ, 脚部は横方向のハケ目と指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰白・透明色粒を含む	
1106	高坏	坏部	F	包含層	29.5			上半は縦方向のミガキの後に横方向のナデ, 下半は放射方向のハケ目	上半は縦方向のミガキの後に横方向のナデ, 下半は放射方向のハケ目	橙	橙	2mm以下の灰白色粒を含む	
1107	高坏	坏部	F	包含層	29.7			上半は縦方向のミガキ, 下半は斜方向のハケ目	ハケ目の後にナデ後に縦と放射状のミガキ	にぶい橙	にぶい橙	3mm以下の赤褐色粒を含む	
1108	高坏	坏部～脚部	F	包含層	20.3	13.4		坏部は縦方向のミガキ, 脚部も縦方向のミガキ	坏部は風化著しく調整不明, 脚部はナデ	にぶい橙	橙	3mm以下の赤褐色, 1mm以下の黒色粒を含む	
1109	高坏	坏部	F	包含層	29.2			上半は縦方向, 下半は横と斜方向のミガキ	上半は斜方向のミガキ, 下半はミガキ	橙	橙	1mm以下の赤褐色粒を含む	
1110	高坏	坏部	F	包含層				横方向のナデ, 横方向と放射方向のミガキ	主に放射方向のミガキ	にぶい黄橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐・灰白色粒を含む	
1111	高坏	坏部～脚部	F	包含層	20.3	13.4		坏部は縦方向のミガキ, 脚部も縦方向のミガキ	坏部は風化著しく調整不明, 脚部はナデ	にぶい橙	橙	3mm以下の赤褐色, 1mm以下の黒色粒を含む	
1112	高坏	坏部～脚部	F	包含層		12.5		縦方向のミガキ, 縦方向のハケ目, 円形透かし	坏部はナデ, 脚部はナデ, 横方向のナデ	橙	浅黄橙	3mm以下の赤褐・灰・白色粒を含む	
1113	高坏	脚部	F	包含層		13.2		縦方向のミガキ	裾部は横方向のナデ, 脚部はナデ	橙	橙	3mm以下の褐・灰・黒色粒を含む	

第35表　下那珂遺跡出土土器観察表（24）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量(cm) 口径	底径	器高	手法・調整・文様ほか 外面	内面	色調 外面	内面	胎土の特徴	備考
1114	高坏	脚部	F	包含層				縦方向のミガキ, 円形透かし	ナデ, 裾部は横方向のハケ目	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の褐色粒を含む	
1115	高坏	坏部～脚部	F	包含層		20.7		坏部は放射状のミガキ, 脚部は縦方向のミガキ, 円形透かしあり	坏部は放射状のミガキ, 脚部は縦方向のナデ, 裾部は床方向のナデ	橙	にぶい橙	2mm以下の赤褐・灰色粒を含む	
1116	高坏	脚部	F	包含層				縦方向の工具ナデとミガキ	ナデ, 指ナデ	橙	橙	1～2mm程の褐・灰色粒を含む	
1117	高坏	脚部	F	包含層				風化著しいが, 一部縦方向のナデ痕跡が認められる	風化著しいが, おそらく ナデ	橙	橙	1mm程の黒色, 3mm以下の赤褐色粒を含む	
1118	鉢	口縁部～底部付近	F	包含層	23.4			風化著しく 調整不明	上半は縦方向のミガキ, 下半は風化著しく 不明	にぶい橙	にぶい黄橙	2mm以下の褐・灰褐・灰白色石粒を含む	
1119	鉢	口縁部～底部	F	包含層	18.3	4.1	8.6	不定方向工具ナデの後にナデ	不定方向工具ナデの後にナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の灰褐・赤褐色石粒を含む	
1120	鉢	口縁部～底部	F	包含層	9.0	2.9	8.9	口唇部は横方向のナデ, 胴部は一部縦方向のハケ目, 底部付近は指ナデ	口縁部は横方向のナデ, 胴部は縦方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい橙	2mm以下の灰褐・灰白色石粒を含む	
1121	鉢	口縁部～底部	F	包含層	9.4	4.6	8.8	斜方向の工具ナデ	口縁部付近は斜方向のハケ目, 胴部はナデ	浅黄橙	橙	1mm以下の灰・褐・黒色粒を含む	
1122	鉢	口縁部～底部	F	包含層	10.9	6.5	10.3	ナデ	風化著しく 調整不明	橙	橙	3mm以下の褐・灰白色石粒を含む	
1123	鉢	口縁部～底部	F	包含層	11.6	4.1	10.7	ナデ, 底部付近は指押さえ	横と斜方向のハケ目	橙	橙	3mm以下の灰・褐・白色, 1mm程の透明光沢粒を含む	
1124	鉢	口縁部付近～底部	F	包含層		5.2		風化著しく 調整不明だが, 部分的に縦方向の工具ナデが残る	風化著しく 調整不明だがおそらく ナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の灰・褐・透明光沢粒を含む	
1125	鉢	口縁部付近～底部	F	包含層		3.4		胴部はナデ, 底部付近は指ナデ	不定方向工具ナデの後にナデ, 一部指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	1mm以下の灰白・黒色光沢色粒を含む	
1126	小型鉢	口縁部～底部	F	包含層	9.6	3.1	5.3	風化著しく 調整不明, おそらく ナデ	風化著しく 調整不明, おそらく ナデ	橙	橙	2mm以下の赤褐・褐・灰色石粒を含む	
1127	小型鉢	胴部～底部	F	包含層		3.0		ナデ, 斜方向の工具ナデ	ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	4mm以下の灰黄・灰白色粒を含む	
1128	小型鉢	胴部～底部	F	包含層		2.2		ナデ, 底部付近は指ナデ	ナデ, 一部指ナデ	橙	橙	4mm以下の灰黄・赤褐色粒を含む	
1129	小型鉢	口縁部～底部	F	包含層		2.5	4.9	不定方向に工具ナデの後にナデ	不定方向に工具ナデの後にナデ	にぶい橙	にぶい橙	2mm以下の赤褐・褐灰・にぶい黄褐色粒を含む	
1130	手捏土器	口縁部～底部	F	包含層	4.4			指ナデ	指ナデ	橙	橙	2mm以下の褐・赤褐色粒を含む	
1131	手捏土器	胴部～底部	F	包含層		1.9		ナデ	指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	3mm以下の褐灰・灰白色粒を含む	
1132	小型鉢	口縁部～底部	F	包含層	9.7		6.7	指ナデ, ナデ	ナデ, 口縁部付近は指ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm程の灰・褐色粒を含む	
1133	小型鉢	口縁部～底部付近	F	包含層	7.9			縦方向に工具ナデの後にナデ, 底部付近は指ナデ	ナデ, 一部指ナデ	橙	橙	3mm以下の灰黄・黒色, 1mm程の透明光沢粒を含む	
1134	手捏土器	口縁部～底部	F	包含層		3.5	5.7	縦方向のハケ目	口唇部は指ナデ, ナデ	にぶい橙	にぶい橙	1mm以下の無色透明・灰白色粒を含む	
1135	手捏土器	頸部～底部	F	包含層				ナデ	指ナデ	にぶい橙	橙	2mm以下の赤褐・褐・灰色石粒を含む	
1136	手捏土器	口縁部～底部	F	包含層		1.2	3.1	ナデ	指ナデ	橙	橙	2mm以下の褐・灰褐・無色透明粒を含む	
1137	小型鉢	胴部～底部	F	包含層		2.4		ナデ, 指ナデ	指ナデ	にぶい褐	にぶい褐	2mm以下の浅黄・灰白色粒を含む	
1138	小型鉢	底部	F	包含層		2.5		ナデ, 黒変	ナデ, 黒変	黒褐	にぶい橙	1mm以下の赤褐・透明光沢粒を含む	
1139	小型鉢	底部	F	包含層		1.9		胴部は縦方向のミガキ, 底部はナデ	工具ナデの後にナデ	にぶい橙	にぶい橙	4mm以下の赤褐色粒, 1mm以下の透明光沢粒を含む	
1140	杓子状土器	柄部	F	包含層				工具ナデ		黄橙	にぶい黄橙	1～3mmの黒・褐色粒を含む	

第36表　下那珂遺跡出土土器観察表（25）

番号	種別	器種部位	出土区	出土地点	法量（cm）			手法・調整・文様ほか		色調		胎土の特徴	備考
					口径	底径	器高	外面	内面	外面	内面		
1163	甕	口縁部	A	SA18	21.0			口縁部は横方向のナデ，胴部は縦と斜方向のハケ目，頸部に斜位の連続刻文	斜方向の工具ナデ	にぶい黄橙	にぶい黄橙	2mm以下の灰褐，褐灰・明赤褐・橙色粒を含む	
1164	甕	口縁部	A	SA18	17.5			口縁部は横方向の工具ナデ，胴部は縦と斜方向のハケ目	ナデ	橙	橙	3mm以下の橙・浅黄橙・灰白・暗褐・無色透明粒を含む	
1165	甕	口縁部～胴部	A	SA18	19.1			縦方向の丁寧なナデ	ナデ	橙	橙	3mm以下の灰・黄灰・褐色石粒を含む	
1166	鉢	口縁部～底部	A	SA18	15.9	4.8	10.1	口縁部は横方向のナデ，胴部は縦方向の工具ナデ	口縁部は横方向のナデ，胴部は横方向のハケ目	明黄褐	明黄褐	5mm以下の赤褐，3mm以下の灰白・灰褐色石粒を含む	
1167	壺	口縁部～頸部	A	SA18	10.2			縦方向のミガキ	口縁部は横方向のナデ，頸部は縦方向のナデ	橙	橙	1mm以下の赤褐・灰褐・無色透明粒を含む	
1168	壺	口縁部	A	SA18				口縁部は横方向のハケ目，頸部付近は縦方向のハケ目	口縁部は横方向のハケ目，頸部付近は縦方向のハケ目	にぶい黄橙	橙	1mm程の褐色粒を含む	
1169	高坏	口縁部	A	SA18				横方向のナデ	風化著しいがおそらく横方向のナデ	橙	橙	1～3mm程の褐色粒を含む	
1170	壺	胴部	A	SA18				斜方向の工具ナデ，線刻絵画文あり	ハケ目	黄橙	にぶい黄	2mm以下の灰・黄灰・乳白・褐色粒を含む	
1171	手捏土器	口縁部～底部	A	SA18	7.6	5.0	2.6	指ナデ	指ナデ	橙	橙	2mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	
1172	小型壺	口縁部～底部	A	SA18	3.6	4.5	10.4	口縁部～胴部はナデと工具ナデ，底部は指ナデ	口縁部は指ナデ，胴部はナデとハケ目，底部は指ナデ	橙	橙	2mm以下の灰・黄灰・褐色粒を含む	

第37表　下那珂遺跡出土土器観察表（26）

第Ⅲ章　まとめ

調査では，旧石器時代～弥生時代にかけて多くの遺構・遺物が出土した。各遺構・遺物についてはすでに述べたが，ここでは特徴的な遺構・遺物を抽出し，得られた調査成果や残された課題について若干の整理をすることでまとめとしたい。

１．出土遺構について

（１）竪穴住居跡

下那珂遺跡は標高45mの石崎川左岸の丘陵上にあり，周辺の低地面との比高差は約35mである。北方は眼前に佐土原丘陵（90m）が控え眺望はきかない。しかし，南方は日向灘と宮崎平野が広がり，遠くは５km先が見通せる程広い眺望視野をもつ。

下那珂遺跡では多少疑いのあるものも含めて120軒検出された。全てが完全な形で検出された訳ではなく，部分的な検出がほとんどであった。部分的な検出とは，竪穴住居跡のほとんどが緩斜面に立地しており，傾斜上面だけ掘削の痕跡を残し，傾斜下面は流出している状況である。これは傾斜上面を掘削造成し，傾斜下面に造成土を盛って床面を作出した構築方法の結果と考えられる。検出状況はさながら傾斜面に築かれた団地を思わせるものであり，宮崎県下において，そうした丘陵上斜面に階段状で築かれる例は確認されていない。視点を拡げてみると，時期や構造，規模などに若干の差違があるが，岡山県山陽町の用木山遺跡（文献①）・大阪府高槻市古曽部・芝谷遺跡（文献②）などの高地性集落に類似例が確認される。

完全な形態を残す数軒を除いて，部分的な検出状況から判断して平面形態を推測しているが，120軒の内，復元想定も不可能な８軒を除き，６軒（ＳＡ25・26・56・98・100・117）が楕円形・円形基調（５％）で，残り106軒（95％）は方形・長方形基調だと考えられる。また，方形基調のうち６軒（ＳＡ１・２・５・47・59・67）は，一部１～２ｍ×0.5～１ｍの長方形が入り込む不整形を呈する。本遺跡の竪穴住居跡群は平面形態が方形主体の住居跡群と言える。周辺地域の該期の竪穴住居跡の特徴の一つとして，方形または円形の平面形態に突出壁による間仕切りをもつ「花弁状間仕切り住居」の存在が挙げられる。本遺跡の立地する場所は，この「花弁状間仕切り住居」の分布域内にあるといえる。しかしながら，本遺跡では，そうした住居タイプに類するような間仕切りの突出壁をもつ住居跡は検出されなかった。本遺跡周辺の石崎川流域付近，現在の行政区域でいう佐土原町・宮崎市北部では，現在のところ「花弁状間仕切り住居」の確認例が無い空白地域である。本遺跡においても確認されず，この空白例が増加することとなった。

住居の規模は復元推定も含め，およそ一辺2.5m～５ｍ・床面積は７～25㎡を測るものが多い。平均すると一辺約3.5m・面積約12.5㎡となり，比較的小型のものが多い。一辺が最大の住居跡はＳＡ41の5.7mであり，その他一辺５ｍ超の住居跡はＳＡ５（一辺：5.2m）・ＳＡ21（一辺：5.0m）・ＳＡ91（一辺：5.5m）と大型の住居跡が少ない。周辺の同時期遺跡をみると，やはり３～５ｍ級のものが主流となる傾向がある。下那珂遺跡もそうした傾向に沿うものであるが，2.5～３ｍの小型が多いことと，５ｍ以上の大型住居が少ないことが特徴として挙げられる。

構造的な特徴の一つとして，柱穴のない住居跡が多いことが挙げられる。住居跡床面は基本層序の第

Ⅴ層（黄褐色土層）に掘り込んであり，検出状況は黄褐色となる。これに対して埋土は基本層序の第Ⅳ層（暗褐色土）であり，埋土と遺構面の土色のコントラストは強く，ピットなどの掘り込みの検出は比較的容易に行える。そうした状況下で柱穴が確認出来なかったということは，「見つけられなかった」というよりは「無かった」と考えられる。住居跡周辺にも柱穴らしきピットは確認できなかった。柱穴が無かったと考えると，どのような上屋構造であったかが問題となる。遺跡の立地する緩斜面は，南方が開けており，調査時でも南からの強風に煽られるほどの場所である。海岸付近の強風に晒される場所で柱を埋めず上屋を維持することは困難であり，一体どのような構造であったか疑問が残る。

（２）土坑

土坑は，遺跡から30基検出された。性格については不明なものが多いが，ＳＣ15は土坑内に甕が据えられた形で検出され貯蔵土坑の可能性が，ＳＣ23は色違いの高坏が検出され墓の可能性を含んだ祭祀土坑の可能性がある。高地性集落内で多く確認されるような炭化物や焼土を含む焼土坑は，本遺跡で確認されなかった。また，時期については，遺構の土層断面図などから，多くが竪穴住居跡と併行，もしくは廃絶後に掘削されたと考えられる。

２．出土土器について

（１）遺構・包含層出土土器

弥生土器は，本遺跡出土遺物の大部分を占め，コンテナ数400箱を超える出土量となった。整理の都合上，全ての土器を整理し，個体数の把握等を行う事が出来なかったが，約720点以上の図化を行った。内訳は，甕202点（約28％）・壺215点（約30％）・高坏90点（約12％）・鉢81点（約11％）・器台28点（約4％）・その他約15％である。作図のため，ある程度作為的に抽出したものであり，甕が若干低い比率となっていると考えられるが，本遺跡の器種構成は概ねこの比率に近いと推察される。

下那珂遺跡の弥生土器については，『下那珂貝塚』（文献③）においてⅠ～Ⅳ期の編年が提示されている（以後「下那珂編年」と呼称する）。今回の調査はその編年から大きく外れることのない結果であった。石川悦雄氏が行っている宮崎平野の弥生土器編年において（文献④），大方Ⅴ期（弥生時代後期後半）を中心とするⅣ～Ⅵ期の弥生時代後期中葉～終末期に入るものと考えられる。以下，器種別に概観を行う。　**甕**…本遺跡分類の甕Ⅰ～Ⅲ類の大きく３つにグルーピングできる。

甕Ⅰ類は下那珂編年のⅠ～Ⅱ期に多い形態である。口唇部は端部が角張った凹面状（口唇部形態Ａ類）か平面状（口唇部形態Ｂ類）で，口縁部は短く明瞭に「く」字状に屈曲する（口縁部形態Ａ類）。胴部最大は球胴形で，胴部最大径は上位（胴部形態Ａ類）または中位（胴部形態Ｂ類）にあり，口縁部径が最大のものが多い。底部は口縁部から連続して確認された例がないので明確には言えないが，類例の新富町銀代ヶ迫遺跡（文献⑤）のものなどを参考にすると，平底やわずかな上底と推察できる。器面調整は口縁部・胴部ともに細かいハケ目を施している。口径は小さく，16～20㎝前後が多い。Ｂ・Ｄ・Ｆ区出土（690・841・1079）もあるが，Ａ区竪穴住居跡出土（508・538・565・569・593・633・644・645）が多い。

甕Ⅱ類は下那珂編年のⅡ～Ⅲ期に多い形態である。ヴァリエイションがあり，さらに細分できる余地が大きくある。口唇部はやや平坦状であるが（口唇部形態Ｂ類），丸みを帯びているものが多い。口縁

部は，Ⅰ類に比べて長く，頸部で緩やかに屈曲する（口縁部形態Ｂ類）。上方にある胴部最大径は口縁部径とほぼ等しく，胴部は底部にかけて急激に窄む（胴部形態Ｃ類）ものが多い。底部は指ナデによって張り出しをもつ上底（底部形態Ｂ類）が多い。器面調整は縦方向のハケ目が主流であるが，一部工具ナデ・ハケ目原体条痕＋ナデを施すものもある。Ａ区出土（370・371・452・460・507・515），Ｂ区出土（688・689・700・755・756・757），Ｄ区出土（838・839・874・875・921・934・935・939），Ｆ区出土（1058・1071・1072・1080・1081）と全区から出土している。

甕Ⅲ類は下那珂編年のⅣ期もしくはそれ以降に多い形態である。甕口唇部は尖舌状をなし（口唇部形態Ｃ類），口縁部は薄く長く延び，頸部には明瞭な屈曲点はない（口縁部形態Ｃ類）。口径はⅠ・Ⅱ類に比して大きく，20～25cmのものがほとんどであり，平均口径22.5cmと定型化の傾向がある。胴部は上方に最大径をもち（胴部形態Ｃ類），平行タタキもしくはナデ＋工具ナデ・ハケ目原体条痕を施す。底部形態は丸底に近い形態で，張り出しのない平底（底部形態Ｅ類）である。器形のわかるものはＢ・Ｄ・Ｆ区の土坑（919～921：ＳＣ25・1063：ＳＣ26・1072・1075：ＳＣ30）及び竪穴住居跡（704：ＳＡ98・714・715・718：ＳＡ101），包含層からの出土が多い。下那珂貝塚調査時には確認されなかった形態であり，高鍋町大戸ノ口第２遺跡（文献⑥）などで確認されている。宮崎平野部の弥生時代後期～古墳時代中期の編年作業を行っている松永幸寿氏はこのタタキをもつ型式を従来の下那珂遺跡編年に後続するものとして扱っている（文献⑦）。大まかな編年観は甕Ⅰ類→甕Ⅱ類→甕Ⅲ類の流れになると考えられる。

壺…Ⅰ類（複合口縁壺）・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ類（単口縁壺類）・Ⅴ類（長頸壺）・Ⅵ類（単頸壺）とヴァリエイションに富んだ内容であり，細かな型式粗列を導き出すことは困難である。しかしながら，共伴する甕や高坏から考えると，不明瞭ではあるが変化が看取できる。全般的な傾向として，①底部：平底→レンズ状，②内面器面調整：指ナデ・もしくは指ナデ＋工具ナデ→ハケ目，の２点が挙げられる。また，個別の特徴もいくつかある。Ⅰ類（複合口縁壺）は二次口縁部が内傾し先細りするものから，直立気味の端部平面状のものへと変化する。口縁部全体も大きく外側に開くものから，上方には延びるが大きく開かないものへと変化する。長形胴部（胴部形態Ａ類）をもつⅡ・Ⅲ・Ⅳ類（単口縁壺）は，最大径が上位か中位から中位中心へと，頸部はしまったものから緩やかなものへと変化する。

高坏…本遺跡分類のⅡ類とⅢ類が主流を占める。特にⅡ類が多く，明瞭な屈曲をもつ坏部と厚く外反しながら立ち上がる口縁部をもつタイプ（ⅡＡ類…343・367・381・434・490・521・638・768・1106・1107）とＢ類とＣ類の中間形態であまい屈曲をもつ坏部と薄く延びた口縁部をもつタイプ（ⅡＢ類…563・653・678・723・896・1018・1105・1108）に細分される。これを出土区で考えた場合，Ａ区にⅡＡ類が，Ｂ・Ｄ・Ｆ区にⅡＢ類とⅢ類が多い傾向がある。坏部の口縁部から脚部までが連続して残存しているのは455・723～725（同一個体）・1105の３点である。455と1105は脚裾部内湾形の脚部形態Ｃ類に坏部形態Ｃ類のⅢ類であり，723～725はⅡＢ類である。455と723～725は竪穴住居跡廃絶後の土坑出土である。ⅡＢ類・Ⅲ類は，高鍋町大戸ノ口第２遺跡（文献⑥）ＳＡ13出土などと類似しており，Ⅰ類・ⅡＡ類に比べて相対的に若干時期が下ると推察される。

（２）瀬戸内・畿内系土器

宮崎平野部では，弥生時代中期後半から後期後半にかけての壺・器台口唇部の凹線文や高坏脚部の矢羽根透かしに代表される瀬戸内系土器と弥生時代後期～終末期の甕胴部のタタキ技法に代表される畿内

系土器の伝播例が確認されてきた（文献⑧）。

凹線文は，弥生時代後期後半にかけて分布の中心である瀬戸内地方において衰退していく文様であるが，下那珂遺跡では多く確認された。ただし，施文場所に若干の多様性があり，（A）器台や壺の口縁部を屈曲させて厚手の二次的な口縁部に凹線を施すもの（480・493・1008・1096・1097）・（B）壺や器台の拡張した口唇部に凹線を施すもの（395・494・541・576・815・829・882・883・990）・（C）器台や高坏の裾部を拡張して凹線を施すもの（426・435・567）・（D）器台の柱部に器面調整の後に10条前後の凹線を施すもの（346・442・680・849）に分類できる。さらに凹線の種類もいくつかあり，粗雑な凹線も多く，搬入品と見るよりも模倣品と見る方が妥当なものもある。また，D類の器台の柱部に凹線を施すタイプは，宮崎県下において宮崎市檍遺跡（文献⑨）や宮崎市下郷遺跡（文献⑩）などで確認されており，瀬戸内地方でも旧国の備前や讃岐といった備讃瀬戸地方に類例が求められる。

タタキ技法は前項出土土器の甕の項で述べたとおり，本遺跡分類の甕Ⅲ類のほとんどの器面調整に見られ，甕に限らず壺の器面調整にもタタキを施している例（469・710・741・912・924）が確認される。甕Ⅲ類は，本遺跡出土の甕の中でも比較的後出の型式と考えられ，量的にも多く，主流の一型式と言っても過言ではない。器形の違いなどから畿内からの直接的な搬入品とは考えられないが，畿内的な技法の伝播が行われ，それが本遺跡をはじめとする該期遺跡で連綿と続く在地的な土器型式の器面調整に採用されることによって成立したと考えられる。これは宮崎平野部において「畿内系土器が在地に対する浸透・拡大指向をもっている（文献⑧）」ことを示す一例となるのではなかろうか。

（３）絵画文・記号文土器

下那珂遺跡が弥生時代の遺跡として周知された理由の一つとして，『飛鳥（もしくは抽象化した竜）』線刻の壺の存在が挙げられる（文献⑪）。さらに，後の工事時において水生昆虫と考えられる線刻画が描かれた壺形土器が発見されている（文献⑫）。今回の調査では，これら２例のような完形に近い土器に描かれた明確な絵画文は確認されなかったが，線刻が描かれた土器片が数多く出土した。

ＳＡ43出土の365は壺の肩片であるが，上方に向けて２本の線刻が確認される。ＳＡ21出土の375は壺の肩部に「○」のような記号状の線刻が施されている。Ｆ区包含層出土の1101は，壺の胴部片だと考えられ，斜方向のハケ目の上から「×」のような記号状の線刻が施されている。Ｂ区包含層出土の752は鉢の底部であり，脚台状の底部全周に線刻の幾何学文を施している。ＳＡ18出土の1170は壺の胴部であるが，斜方向の工具ナデの上から線刻を施している。複雑に入り組んだ形状であり，記号文ではないと考えられるが，何を意図しているのか不明である。ＳＡ２出土の433は壺の胴部と考えられ，２連の鰭状線刻が確認される。この鰭状線刻は，前例のように鳥の翼や鶏冠などの一部とも考えられるが，崩れた竜の鰭状の突起とも考えられる。また，図化は行っていないが，Ａ区包含層から壺の胴部片に描かれた絵画文がある（写真図版43－③）。これは細片状態で出土したものを接合したものであって，接合面が摩耗しており全体の把握が困難であるが，器面一面に細線による絵画的な線刻が確認できる。絵画のモチーフはわからないが，髭状のものが確認され，竜を描いたものだと推察される。

絵画文・記号文は弥生時代後期に主に西日本で盛行し終末期になると消滅するものと考えられている。記号文・絵画文は宮崎県下において，宮崎平野部を中心に多くの遺跡で確認されている（文献⑧・⑪）。また，佐原真氏（文献⑬）や春成秀爾氏（文献⑭）は，具象的な絵画文から抽象的な記号文への変遷を

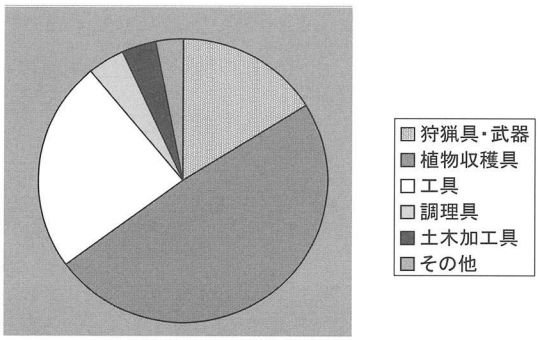
想定している。今回の調査では絵画文と記号文の両方が確認された。下那珂遺跡が営まれた弥生時代後期から終末期は，まさに絵画から記号へと移行，そして消滅していく時代であり，今後研究をすすめる上で貴重な資料となりそうである。

3．出土石器について

（1）石器組成

下那珂遺跡で出土した石器は出来る限りピックアップして図化に努めた。問題は，包含層出土のものが多く，旧石器時代や縄文時代に帰属する遺物と弥生時代に帰属する遺物が混同していることである。出土した石器のうち，弥生時代石器の可能性があるものは，他時代の可能性があるものや破片も含めて，合計368点であり，内訳は磨製石鏃60点・石庖丁149点・砥石87点・削器６点・蛤形剥片石器31点・礫器４点・磨製石斧５点・打製石斧12点・敲石８点・凹石３点・磨石２点・石皿１点である。

これを機能別に分類すると，①武器・狩猟具（磨製石鏃），②植物収穫具（石庖丁・蛤形剥片石器），③工具（砥石），④調理具（敲石・凹石・磨石・石皿），⑤土木加工具（磨製石斧・打製石斧），⑥その他（礫器・削器）に大きく分けることができる。この機能別分類を百分率で示すと，①狩猟具・武器（16%），②植物収穫具（49%），③工具（24%），④調理具（４%），⑤土木加工具（４%），⑥その他（３%）となる（右図）。本遺跡で突出しているのは石庖丁を中心とする植物性収穫具であり，全体の約半分を占める。植物性食物にある程度依存していた集団であることは理解できるが，比して他の生活に不可欠な道具類が若干少ないことには疑問が残る。



下那珂遺跡の石器組成図

（2）石庖丁

本遺跡において，注目すべき遺物のひとつに149点出土（破片も含む）の石庖丁が挙げられる。今現在，宮崎県下において一遺跡出土数としては群を抜く量の多さである。

本遺跡出土の石庖丁は，打製（本遺跡分類の第Ⅴ類）の８点を除き，全体の約95%の141点が磨製または刃部磨製である。大きく分類して，紐掛け用だと考えられる穿孔を２箇所にあける本遺跡分類のⅠ類「穿孔型」と，穿孔をもたずに紐掛け用の両端抉りを短軸にもつ本遺跡分類のⅡ類「抉入型」に分けられる。両タイプの割合は，形態のわかる138例中，「穿孔型」が24例（約17%），「抉入型」が114例（約83%）である。「打製」「磨製」の調整方法と「穿孔型」「抉入型」の平面形態を併せて考えると，106例，全体の約77%と圧倒的に「磨製抉入型」が多く，本遺跡出土石庖丁の特徴と言える。「磨製抉入型（本遺跡分類のⅡ類）」は，宮崎県下において多く出土例があり，都農町新別府下原遺跡（文献⑮）・川南町上ノ原遺跡（文献⑯）・高鍋町大戸ノ口第２遺跡（文献⑥）・高鍋町牛牧遺跡（文献⑰）・宮崎市下郷遺跡（文献⑩）・宮崎市熊野原遺跡Ｃ地区（文献⑱）など，宮崎平野部周辺の弥生時代後期から終末期にかけての遺跡で多く確認されている。

「抉入型」石庖丁は，弥生時代を通して全国的に信州地方・瀬戸内地方，そして宮崎平野部周辺で確

認されている。宮崎平野部周辺は，この特徴的な分布域を形成する一翼を担っており，本遺跡もまたその一端を担っている。宮崎平野部周辺に「抉入型」が多く確認される理由としては，凹線文土器や矢羽根透かしをもつ高坏などの土器の流入と同じく瀬戸内地方からの流入が考えられている（文献⑲）。瀬戸内地方では，弥生時代前期から後期にかけて，主石材がサヌカイト製の打製タイプが主流である。本遺跡出土の石庖丁は，弥生時代後期から終末期にかけて，主石材が頁岩での抉りをもつ磨製タイプが主流である。瀬戸内と比べて，抉りをもつという点では共通しているものの，時期の違い・磨製と打製の違い・石材の違いなど，多くの相違点が挙げられる。こうした相違点が顕れる理由としては，池畑耕一氏が指摘（文献⑲）するように，瀬戸内から流入した石庖丁型式が，宮崎という遠隔地において流布する間に独自の形態へと変化していったため，もしくは流入した時点で変化していたためだと考えられる。現に下那珂遺跡で石庖丁を用いられていたと考えられる弥生時代後期から終末期は，瀬戸内の石庖丁が廃れつつある時期である。更に，磨製に適している石材（頁岩）を打製に適した形態（抉入型）を用いることは，本来の型式を失いつつある証拠であろう。

石庖丁の用途は，一般的に収穫具とされている。多数の竪穴住居と多量の石庖丁が出土したということは，ある程度の規模をもった農業生産活動が営まれていたことが想定される。その農業生産活動場所がどこであったかという問題が出てくる。下那珂遺跡は竪穴住居跡群の中央部が削平され空白地帯となっており可能性もあるが，丘陵頂部のために生産場所として考えにくい。やはり，南方に開ける石崎川周辺の平野部に生産場所を求めるのが妥当であろう。他地域に見られる高地性集落のように，平野部の生産区域と丘陵部の居住区域の住み分けが行われていた可能性が考えられる。

（３）砥石

砥石は破片も含めて87点出土した。本遺跡では大きくⅠ類：定形砥石・Ⅱ類：不定形砥石・Ⅲ類：自然礫砥石と３類に分類した。

注目すべきはⅠ類「定形砥石」の存在である。完形は少なく不明な点が多いが，定形化されたものはいくつかのパターンがあり，①長さ10～15cm・幅と厚さ１～２cmの「柱状砥石」（本遺跡分類ⅠＡ類）。②長さ５～15cm・幅３～４cm・厚さ１cm前後の「板状砥石」（本遺跡分類ⅠＢ類）などがある。どちらも平面形態は似ているが厚さが異なる。さらに砥面形態は，柱状砥石が平面状か凹面状，板状砥石が平面状になっている。研磨痕はいずれも光沢状のｃ種研磨痕と擦傷状のｂ種研磨痕が主流である。砥面形態と研磨痕を併せて考えると，砥石を固定し，加工対象物を主に往復運動することによって作業をしていたと推察される。砥面形態が異なるのは，研磨作業の頻度が大きく左右するものではあるが，研磨作業工程の相違もあると考えられる。平面状砥面は，主に平滑面を製作する工程，例えば石庖丁や磨製石鏃の表裏面を製作する工程に用いられていた可能性がある。それに対して，凹面状砥面は，主に先端部を製作する工程，例えば石庖丁や磨製石鏃の刃部を製作する工程に用いられていた可能性がある。ただし，砥石形態と砥面形態が必ずしも一致しないように，厳密に使い分けていたというわけでなく，使い勝手が傾向として顕れたにすぎないものと考えられる。

また，小型の板状砥石（194・197・202・203・205など）や不定形砥石（本遺跡分類のⅡ類：222・227・228・231・235など），棒礫状砥石（本遺跡分類のⅢＡ類：241・247・251・252・254・255など）の砥面には凸面状のものがある。おそらくこれは，砥石を固定して加工対象物を往復運動していたのではなく，

加工対象物を固定し，砥石を往復運動することによって作業していたと考えられる。

砥石が石庖丁や磨製石鏃などと同じく定形化されているということは，作業上偶発的に使用されるのではなく，生活の一部に砥石が存在する必然性があることを示す。生活の一部とは，加工対象物の製作場面なのか，加工対象物の研ぎ直しなどのメンテナンス的行為の場面なのか，はたまた別の場面に必要なのかは不明である。半ば必要不可欠な流通製品として成立していた可能性もある。利用する際に便利な形状への追求の結果が定形化に繋がった可能性もある。

弥生時代，砥石は鉄器や石器を研ぐ道具であったと推定されている。砥面形態や研磨面などから，本遺跡では磨製石器が加工対象物の一つであると捉えている。実際，竪穴住居跡に磨製石器と砥石がセットで伴う遺跡がいくつかあり，下那珂遺跡ではＳＡ２・21・22・28・93・95・104・114・116の９軒の出土例がある。そのうちＳＡ116の１軒だけが磨製石鏃との共伴であり，残り８軒は石庖丁との共伴である。宮崎県下に目を広げると，東郷町樋田遺跡ＳＡ10（磨製石鏃）（文献⑳）・都農町新別府下原遺跡ＳＡ１（磨製石庖丁）（文献⑮）・川南町中ノ迫Ａ遺跡ＳＡ１（磨製石庖丁）（文献㉒）・高鍋町牛牧遺跡ＳＡ１（磨製石庖丁・磨製石斧）（文献⑰）・新富町八幡上遺跡ＳＡ２（磨製石鏃・磨製石斧）（文献⑤）・都城市丸谷第１遺跡ＳＡ１（磨製石庖丁）（文献㉒）など多くの遺跡内遺構で砥石と石器製品との共伴例が確認されている。

磨製石器と砥石の関係を裏付けるような調査例がある一方，明確な線状痕（本遺跡分類：ａ種研磨痕）が認められる砥石（176・179・194・206・207・208・212など）の存在がある。このａ種研磨痕は，石同士の研磨ではおよそ付着するとは考えにくく，砥石よりも硬度が高く鋭利なものを研磨対象とした結果付着したものだと考えられる。そうした対象物は当時の遺物の中では鉄器が挙げられる。本遺跡では５点の鉄鏃と１点の刀子が出土しており，鉄器が対象であったことは大いに考えられる。

４．出土虺龍文鏡について

（１）年代について

下那珂遺跡出土の銅鏡片は，前漢鏡の一種，虺龍文鏡である。前漢鏡の分類及び編年の研究をおこなっている岡村秀典氏によれば（文献㉓・㉔・㉕），虺龍文鏡は細線動物文鏡の１種であり，漢鏡４期（前漢末～王莽代・紀元前１世紀後葉～１世紀初頭）に比定される。虺龍文鏡は，中国大陸・朝鮮半島・日本列島から幅広く出土する。日本列島では，東は石川県・千葉県から西は宮崎県まで弥生時代後期～古墳時代の幅広い時代の30例近くの遺跡で確認されている。

鏡を副葬していた96号竪穴住居跡（ＳＡ96）の遺構年代は，土器の観点から弥生時代後期後半～終末期頃に比定され，出土した銅鏡と200年近くの年代差が生じることとなる。こうした年代差は，弥生時代後期頃～古墳時代出土漢鏡と出土した遺構との間によくみられる現象であり，鏡の「伝世」と「踏み返し」の２つの可能性を示唆する。しかし，弥生時代終末期，大分県石井入口遺跡82号竪穴住居跡内から廃棄された状態で出土した小型仿製鏡と前１世紀の慶尚北道漁隠洞遺跡で確認された小型仿製鏡が約200年の年代差をもって「同笵」関係にあることが確認された例がある（文献㉓・㉖・㉗）。共伴する遺物の所属年代に差がある２つの銅鏡が「同型」ではなく「同笵」関係にあるということは，銅鏡の伝世が行われていた可能性を強く示唆するものである。本遺跡出土鏡は，一概に「伝世」か「踏み返し」のどちらは断定できないが，石井入口遺跡の例などから考えると，伝世品である可能性が高い。

（２）破鏡の可能性について

下那珂遺跡出土の虺龍文鏡は，完形の1/3程度の破片で出土した。遺物記述項（p119）でも記したが，明確な研磨痕跡や穿孔は確認できないが，割面と表面の櫛歯文箇所に若干の磨滅が確認でき，「破鏡」の類と考えられる。「破鏡」は弥生後期後半～古墳時代初期頃，主として前漢鏡～後漢鏡の舶載鏡を故意に分割することによってより多くの従属首長層に分配する行為である。出土地域は，北部九州を取り巻く周辺の九州地方で多く散見できるが，神奈川・長野・石川まで及ぶ広い範囲に分布している。出土数は，藤丸詔八郎氏の集成（文献㉘）によれば1991年当時146例確認されており，現在もう少し多いとみられる。宮崎県域の確認例は，新富町銀代ヶ迫遺跡の９号竪穴住居跡（弥生時代後期・文献⑤）・高千穂町神殿遺跡Ａ地区の10号竪穴住居跡（弥生時代終末期・文献㉙）出土，そして今回の下那珂遺跡の96号竪穴住居跡（弥生時代後期～終末期）と少ない。出土状況は，弥生時代後期頃の墓から副葬品として出土する北部九州地域，弥生時代後期～終末期頃の竪穴住居跡から廃棄された伝世宝器として出土する北部九州以外地域の２つに大別できる。下那珂遺跡の例は，後者であり，竪穴住居跡に廃棄された形で出土した。前項で述べた時期の問題と併せて考えると，伝世した破鏡の一種と考えられる。

５．集落として下那珂遺跡の位置付け

下那珂遺跡において展開された集落は，何度も述べているが弥生時代後期～終末期の遺跡である。今回の発掘調査区域内では環濠らしき痕跡は確認できなかったが，近辺でＶ字溝が確認されたという記述もある（文献㉚）ことから，外環濠をもつ環濠集落の可能性もある。さらに遺跡は，海岸線を遠くにのぞむ，周辺との比高差約35～40ｍの丘陵上に立地し，定義の問題もあるが高地性集落の様相をもつ。

こうした集落は，一般的に石器の衰退及び鉄器流通をめぐる社会的緊張を反映させた時代の集落再編を示唆するものと考えられている。本遺跡で確認された集落立地・階段状の集落構造・抉入型石庖丁・絵画文土器・凹線文系土器・タタキ技法をもつ土器・破鏡などは，直接的であれ，間接的であれ，畿内・瀬戸内地方及び北部九州との関連を強く想起させるものである。一方で，集落の盛期と多量の石器を伴う時期が重なるという特有の遺跡構造をも有している。

これらのことを踏まえて総合的に考えると，下那珂遺跡は，畿内・瀬戸内や北部九州を円心とする円の外周にあるという地理的要因もあり，一部の型式やモノそのものの伝播や模倣はあったものの，それら他地域と若干様相が異なる独自の集落を展開していったと考えられる。しかし，下郷遺跡（宮崎市：文献⑩）や石ノ迫第２遺跡（宮崎市：文献㉛），塚原遺跡（宮崎市：文献㉜）のように周辺の丘陵上で環濠をもつ遺跡が複数例確認されたことなどから単なる伝播や模倣だけだとも考えにくい。程度の差こそあれ，列島弧における社会的緊張や集団再編といった波に連動した社会的変質が宮崎平野部においてもあったことが考えられ，下那珂遺跡もそうした影響下に成立し，展開していった遺跡であるといえよう。

【引用参考文献】

文献①：山陽町教育委員会1977『用木山遺跡発掘調査報告』

文献②：高槻市教育委員会1996「古曽部・芝谷遺跡」『高槻市文化財調査報告書第20冊』

文献③：宮崎県総合博物館1988「下那珂貝塚」『埋蔵文化財調査研究報告Ⅱ』

文献④：石川悦雄1984「宮崎平野における弥生土器編年試案－素描（Mk. Ⅱ）」『宮崎考古』第９号

文献⑤：新富町教育委員会1992「七又木地区遺跡 八幡上遺跡 七又木遺跡 銀代ヶ迫遺跡」『新富町文化財調査報告書』第13集

文献⑥：高鍋町教育委員会1991「大戸ノ口第２遺跡」『高鍋町文化財調査報告書』第５集

文献⑦：松永幸寿2001「宮崎平野部における弥生時代後期中葉～古墳時代中期の土器編年」『宮崎考古』第17号

文献⑧：石川悦雄1983「日向における外来系の土器の伝播とその地域性(1)－瀬戸内・畿内系土器の流入とその展開－」『研究紀要』№.９ 宮崎県総合博物館

文献⑨：宮崎県総合博物館1983『宮崎県総合博物館収蔵資料目録 考古・歴史資料編』

文献⑩：宮崎市教育委員会1999「下郷遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第41集

文献⑪：石川恒太郎・栗原文蔵1968「宮崎市外佐土原町下那珂弥生遺跡」『九州考古学』第33・34号

文献⑫：田中茂1975「宮崎県下出土の弥生式土器絵画」『宮崎考古』第１号

文献⑬：佐原真1980「弥生土器の絵画」『考古学雑誌』第66巻第１号

文献⑭：春成秀爾1991「絵画から記号へ－弥生時代における農耕儀礼の盛衰－」『国立歴史民俗博物館研究報告』第35集

文献⑮：都農町教育委員会1990「新別府下原遺跡」『都農町文化財調査報告書』第３集

文献⑯：川南町教育委員会1986「上ノ原遺跡」『川南町文化財調査報告書』第４集

文献⑰：宮崎県教育委員会1972 「高鍋町牛牧弥生期住居跡調査報告」『宮崎県文化財調査報告書』第16集

文献⑱：宮崎県教育委員会1985「浦田遺跡・入料遺跡・堂地西遺跡・平畑遺跡・堂地東遺跡・熊原遺跡」『宮崎学園都市遺跡発掘調査報告書』第２集

文献⑲：池畑耕一1988「瀬戸内系遺物の出土とその背景－１世紀前半の南九州－」『鎌木義昌先生古稀記念論集 考古学と関連科学』

文献⑳：東郷町教育委員会1991「樋田遺跡」『県営圃場整備事業（坪谷川地区）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』

文献㉑：宮崎県教育委員会1985 「中ノ迫Ａ遺跡」『宮崎県文化財調査報告書』第28集

文献㉒：宮崎県教育委員会1979「丸谷第１遺跡」『九州縦貫自動車道埋蔵文化財発掘調査報告書(3)』

文献㉓：岡村秀典 1984「前漢鏡の編年と様式」『史林』67-5号

文献㉔：岡村秀典 1997「中国の鏡」『弥生文化の研究』第６巻 雄山閣

文献㉕：岡村秀典 1999 『三角縁神獣鏡の時代』吉川弘文館

文献㉖：竹田市教育委員会1992「菅生台地と周辺の遺跡ＸＶ」『大分県竹田地区遺跡群発掘調査報告』

文献㉗：藤丸詔八郎 1996 「鉛同位体比の測定対象となった北九州市近郊から出土した弥生～古墳時代の青銅製遺物について」『研究紀要』vol.3 北九州市立考古博物館

文献㉘：藤丸詔八郎 1991「高津尾遺跡４」北九州市教育文化事業団埋蔵文化財調査室 北九州市埋蔵文化財調査報告書第102集

文献㉙：宮崎県埋蔵文化財センター 1997「広木野遺跡 神殿遺跡Ａ地区」『宮崎県埋蔵文化財センター発掘調査報告書』第７集

文献㉚：宮崎県1989「下那珂遺跡」『宮崎県史』資料編 考古１

文献㉛：宮崎市教育委員会1999「石ノ迫第２遺跡」『宮崎市文化財調査報告書』第40集

文献㉜：国富町教育委員会1995「塚原遺跡東原Ａ・Ｂ・Ｃ・Ｄ地点」『塚原工業団地開発事業に伴う埋蔵文化財調査報告書』

下那珂遺跡近景（南方宮崎市街地方向をのぞむ）

下那珂遺跡全景（Ａ～Ｃ地区：一次調査分）

①Ａ区全景

②Ｂ区全景